



購入者ガイド

AWS Marketplace



AWS Marketplace: 購入者ガイド

Copyright © 2025 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

とは AWS Marketplace	1
購入者 AWS Marketplace としての の使用	2
AWS Marketplace と Amazon DevPay の違い	3
のソフトウェアとサービス AWS Marketplace	4
で販売される製品の契約 AWS Marketplace	5
EULA の更新	6
AWS Marketplaceの標準契約	8
サポート対象の リージョン	8
サポートされている言語	10
翻訳された標準契約のダウンロード	12
購入者としての開始方法	13
製品の購入	13
ソフトウェアの起動	14
チュートリアル: AMI ベースのソフトウェア製品の購入	15
ステップ 1: を作成する AWS アカウント	15
ステップ 2: ソフトウェアを選択する	15
ステップ 3: ソフトウェアを設定する	17
ステップ 4: Amazon EC2 でソフトウェアを起動する	18
ステップ 5: ソフトウェアを管理する	19
ステップ 6: インスタンスを終了する	20
詳細情報	20
製品カテゴリ	21
インフラストラクチャソフトウェア	21
DevOps	22
ビジネスアプリケーション	23
機械学習	24
IoT	25
プロフェッショナルサービス	26
デスクトップアプリケーション	26
データ製品	27
業界	28
製品のタイプ	29
AMI ベースの製品	29
AWS CloudFormation テンプレート	30

AMI サブスクリプション	31
契約料金による AMI 製品	34
AMI 製品のコスト配分タグ	39
AMI エイリアスを使用する	42
の EC2 Image Builder コンポーネント製品 AWS Marketplace	44
コンテナ製品	45
有料コンテナ製品の料金モデル	45
コンテナ製品向けのサポート対象のサービス	46
コンテナと Kubernetes の概要	47
コンテナ製品を検索する	48
コンテナ製品の配信方法	49
AWS Marketplace で製品をサブスクライブする	50
契約料金によるコンテナ製品	50
コンテナソフトウェアの起動	55
機械学習製品	60
Amazon SageMaker AI モデルパッケージ	60
Amazon SageMaker AI アルゴリズム	61
検索とデプロイのプロセスの概要	62
機械学習製品の検索	63
機械学習製品をサブスクライブする	64
機械学習製品をデプロイする	64
プロフェッショナルサービス製品	64
SaaS 製品	65
SaaS 使用量ベースのサブスクリプションをサブスクライブする	66
SaaS 事前コミットメントをサブスクライブする	67
SaaS 無料トライアルをサブスクライブする	68
既存のパブリック契約の変更	69
SaaS およびコンテナ製品でのクイック起動の使用	70
クイック起動による SaaS 製品の起動	71
クイック起動を使用したコンテナ製品の起動	72
製品への支払い	74
発注書	75
AWS Marketplace のトランザクションに発注書を使用する	75
トランザクション中の PO の追加	76
購入後の PO の更新	76
一括使用発注書の使用	77

発注書に関するトラブルシューティング	77
製品サブスクリプションをキャンセルする	80
AMI サブスクリプションをキャンセルする	81
コンテナサブスクリプションをキャンセルする	82
機械学習サブスクリプションをキャンセルする	82
SaaS サブスクリプションをキャンセルする	83
支払い方法	83
支払いエラー	84
サポートされている通貨	84
指定通貨の変更	86
支払い方法と支払い時期	86
プライベートオファターのサブスクリプション	86
パブリックサブスクリプション (セルフサービス購入)	87
送金手順の更新	87
Refunds	88
プライベートマーケットプレイス	90
管理者向けの Private Marketplace	90
前提条件	91
入門	92
Private Marketplace の概念	94
Private Marketplace の設定	98
Private Marketplace の管理	101
Private Marketplace のモニタリング	108
ベストプラクティス	114
ユーザー向けの Private Marketplace	115
Private Marketplace エクスペリエンス	116
承認済み製品の表示	116
製品のサブスクライブ	117
プライベート製品のサブスクライブ	117
調達のための製品のリクエスト	118
Private Marketplace の通知	118
E メール通知設定を作成する	119
のプライベートマーケットプレイス AWS Marketplace (レガシーバージョン)	120
製品の詳細ページの表示	121
通知の設定	121
ユーザー向け	123

管理者向け	124
プライベートオファー	134
プライベートオファーに適した製品のタイプ	135
プライベートオファーの受け入れ準備	138
AWS Billing and Cost Management 設定の確認	139
支払い方法の確認	139
課税設定の確認	139
プライベートオファーの表示とサブスクライブ	139
プライベートオファーの表示	140
プライベートオファーのサブスクライブ	141
プライベートオファーを受け入れるビデオチュートリアル	144
プライベートオファーページ	144
プライベートオファーページについて理解する	144
プライベートオファーページの閲覧に必要なアクセス許可	145
外部通貨でのプライベートオファーの支払い	145
米ドル以外の通貨での米ドルのプライベートオファーの支払い	145
米ドル以外のプライベートオファーの支払い	146
消費ベースの料金の支払い	146
プライベートオファーの変更またはサブスクライブ解除	146
パブリックオファーからプライベートオファーへの料金設定の変更	147
SaaS 契約の変更 - アップグレードと更新	147
SaaS サブスクリプションから SaaS 契約に変更する	147
AMI 契約から新しい契約に変更する	148
時間単位の AMI から年単位の AMI に変更する	148
年単位の AMI から時間単位の AMI に変更する	148
将来の日付の契約とプライベートオファー	149
将来の日付の契約の作成	150
将来の日付の契約での Flexible Payment Scheduler の使用	150
将来の日付の契約の修正	150
将来の日付の契約の通知を受け取る	151
プライベートオファーのトラブルシューティング	151
プライベートオファーを表示するために [オファー ID] をクリックすると、[ページが見つかりません] (404) エラーが表示されます。	151
どの提案でも機能しない場合	152
ライセンスの管理	153
製品サブスクリプションを共有する	153

ライセンスの表示	154
ライセンスの共有	155
ライセンス共有の前提条件	155
ライセンスの使用状況の追跡	156
ライセンスの切り替え	156
利点	156
前提条件	157
ライセンスの切り替え	157
請求の変更	157
考慮事項と制限事項	158
トラブルシューティング	158
のコスト管理	159
コストレポートを表示する	159
調達インサイトの有効化	160
ダッシュボードの使用	164
委任管理者を使用する	167
ダッシュボードへのプログラムによるアクセス	168
コスト配分タグを使用する	168
ベンダー計測タグ	169
関連トピック	42
通知	171
E メール通知	171
Amazon EventBridge 通知	172
Discovery API イベント	172
プライベートマーケットプレイスイベント	173
調達システムの統合	178
Coupa 統合の設定	181
ステップ 1. IAM 許可をセットアップする	181
ステップ 2. Coupa と統合するように AWS Marketplace を設定する	181
ステップ 3. Coupa を設定する	182
SAP Ariba と統合 AWS Marketplace するための の設定	183
IAM アクセス許可のセットアップ	183
ステップ 2. SAP Ariba と統合 AWS Marketplace するように を設定する	183
AWS Marketplaceが使用する UNSPSC コード	185
調達システムの統合の無効化	185
購入者 AWS として で購入を使用する	186

サポートされている製品	187
製品の検出と購入	187
販売者のウェブサイトで製品を表示およびサブスクライブする	187
販売者のウェブサイトからプライベートオファーをリクエストする	188
販売者のウェブサイトからデモをリクエストする	188
無料トライアル	189
ソフトウェアとインフラストラクチャの料金	189
AMI ベースの製品の無料トライアル	189
コンテナベースの製品の無料トライアル	190
機械学習製品の無料トライアル	190
SaaS 製品の無料トライアル	191
AWS Service Catalog への AWS Marketplace サブスクリプションの追加	192
製品レビュー	193
AWS Marketplace レビューとは	193
レビューのタイプ	193
製品ページからレビューを送信する	194
ガイドライン	196
制限事項	197
プロセスとタイミングを確認する	198
検証と承認プロセス	198
言語サポート	198
連絡先とサポート	199
サポート情報	200
カスタマーサポートの AWS アカウント番号の検索	200
AWS Marketplace Vendor Insights	201
購入者としての開始方法	202
製品を検索する	202
評価データへのアクセスをリクエストする	203
評価データのサブスクリプションを解除する	203
製品のセキュリティプロファイルを表示する	204
AWS Marketplace Vendor Insights のダッシュボード	204
SaaS 製品のセキュリティプロファイルを表示する	204
コントロールカテゴリを理解する	205
のスナップショットをエクスポートする	251
アクセスの制御	252
AWS Marketplace Vendor Insights 購入者のアクセス許可	253

GetProfileAccessTerms	253
ListEntitledSecurityProfiles	253
ListEntitledSecurityProfileSnapshots	253
GetEntitledSecurityProfileSnapshot	254
セキュリティ	255
販売者と共有されるサブスクライバー情報	255
IAM ポリシーを IPv6 にアップグレードする	255
IPv4 から IPv6 に移行する際、影響を受けるお客様	256
IPv6 とは	256
IPv6 用の IAM ポリシーを更新する	256
IPv4 から IPv6 に更新した後のネットワークのテスト	258
AWS Marketplace サブスクリプションへのアクセスのコントロール	260
AWS Marketplace アクセスの IAM ロールの作成	260
AWS の マネージドポリシー AWS Marketplace	261
License Manager で使用するアクセス許可	262
追加リソース	262
AWS マネージドポリシー	262
AWSMarketplaceDeploymentServiceRolePolicy	264
AWSMarketplaceFullAccess	264
AWSMarketplaceImageBuildFullAccess (廃止)	264
AWSMarketplaceLicenseManagementServiceRolePolicy	265
AWSMarketplaceManageSubscriptions	265
AWSMarketplaceProcurementSystemAdminFullAccess	265
AWSMarketplaceRead-only	265
AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess	266
AWSPrivateMarketplaceRequests	267
AWS 管理ポリシー: AWSServiceRoleForPrivateMarketplaceAdminPolicy	267
AWSVendorInsightsAssessorFullAccess	267
AWSVendorInsightsAssessorReadOnly	268
AWS 管理ポリシー: AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy	268
AWS マネージドポリシーに関するAWS Marketplace の更新	269
サービスリンクロールの使用	272
のサービスにリンクされたロールの作成 AWS Marketplace	273
AWS Marketplace のサービスにリンクされたロールの編集	274
AWS Marketplace のサービスリンクロールの削除	274
AWS Marketplace のサービスにリンクされたロールをサポートするリージョン	274

エンタイトルメントを共有するサービスにリンクされたロール	275
製品を構成および起動するサービスにリンクされたロール	276
プライベートマーケットプレイスを構成するサービスにリンクされたロール	278
調達データを共有するサービスにリンクされたロール	280
プライベートマーケットプレイスの管理者の作成	281
プライベートマーケットプレイス管理者向けのポリシー例	282
ドキュメント履歴	286
.....	CCC

とは AWS Marketplace

AWS Marketplace は、ソリューションを構築してビジネスを実行するために必要なサードパーティのソフトウェア、データ、サービスを検索、購入、デプロイ、管理するために使用できる厳選されたデジタルカタログです。には、セキュリティ、ネットワーキング、ストレージ、機械学習、IoT、ビジネスインテリジェンス、データベース、DevOps などの一般的なカテゴリからの数千のソフトウェアリスト AWS Marketplace が含まれています。AWS Marketplace また、は、柔軟な料金オプションと複数のデプロイ方法を使用して、ソフトウェアのライセンスと調達を簡素化します。さらに、AWS Data Exchange から利用可能なデータ製品 AWS Marketplace も含まれます。

数回クリックするだけで事前設定されたソフトウェアをすばやく起動し、ソフトウェアソリューションを Amazon マシンイメージ (AMI) 形式、SaaS (Software-as-a-Service) 形式、その他の形式で選択できます。さらに、データ製品を参照してサブスクライブすることもできます。柔軟な料金オプションには、無料トライアル、時間単位、月単位、年単位、複数年、Bring-Your-Own-License (BYOL) モデルなどがあります。これらの料金オプションはすべて 1 つの source. AWS handles から請求され、料金は AWS 請求書に表示されます。

購入者 (サブスクライバー) AWS Marketplace、販売者 (プロバイダー)、またはその両方として使用できます。を持つユーザーは誰でも AWS アカウント をコンシューマー AWS Marketplace として使用でき、を登録して販売者になることができます。販売者は、独立系ソフトウェアベンダー (ISV)、付加価値リセラー、または AWS 製品やサービスと連携する何かを提供する個人です。

Note

データ製品プロバイダーは、AWS Data Exchange の資格要件を満たす必要があります。詳細については、「AWS Data Exchange ユーザーガイド」の「[AWS Data Exchange でのデータ製品の提供](#)」を参照してください。

のすべてのソフトウェア製品はキュレーションプロセスを経て AWS Marketplace います。製品ページで、製品に対して 1 つ以上のサービスがあります。販売者が で製品を送信すると AWS Marketplace、製品の価格と利用規約が定義されます。購入者は、価格設定およびオファーに設定された利用規約に同意します。

では AWS Marketplace、製品は無料で使用でき、関連する料金が発生する可能性があります。料金は AWS 請求書の一部となり、支払い後に が販売者に AWS Marketplace 支払います。

Note

米国以外の販売者から購入した場合は、販売者から税金請求書も送信される場合があります。詳細については、[Amazon Web Service Tax Help](#) の [AWS Marketplace 「Sellers」](#) を参照してください。

製品はたくさんの形式を持つことができます。例えば、製品は、AWS アカウントを使用してインスタンス化された Amazon マシンイメージ (AMI) として提供できます。製品は、コンシューマーへの配信に AWS CloudFormation テンプレートを使用するように設定することもできます。製品は、ISV の SaaS (Software-as-a-Service) サービス、ウェブ ACL、ルールセット、または AWS WAF の条件である場合もあります。

ソフトウェア製品は、ISV の標準エンドユーザー使用許諾契約 (EULA) に基づく出品料金で購入したり、カスタムの料金と EULA に基づくプライベートオファーで購入したりできます。また、期間や使用の範囲が指定された [標準契約](#) に基づいて製品を購入することもできます。

製品サブスクリプションを設定したら、AWS Service Catalog を使用して製品をコピーし、組織内で製品にアクセスして使用方法を管理できます。詳細については、「Service Catalog 管理者ガイド」の「[ポートフォリオへの AWS Marketplace 製品の追加](#)」を参照してください。

購入者 AWS Marketplace としての の使用

購入者は、[AWS Marketplace](#) に移動して、Amazon Web Services で実行される製品を検索、フィルタリング、および参照します。

ソフトウェア製品を選択すると、製品のページに移動します。ページには、製品に関する情報、料金、使用状況、サポート、および製品レビューがあります。ソフトウェア製品をサブスクライブするには、にサインイン AWS アカウントし、EULA、利用規約、サブスクリプションのカスタマイズに使用できるオプションを含むサブスクリプションページに移動します。

AWS Marketplace 欧州、中東、アフリカ (トルコと南アフリカを除く) を拠点とする アカウントが EMEA 対象販売者から行った の購入は、Amazon Web Services EMEA SARL によって促進されます。

特定の国のお客様の場合、Amazon Web Services EMEA SARL は AWS Marketplace 、購入に対して現地の付加価値税 (VAT) を請求します。税金の詳細については、[AWS Marketplace 「購入者税のヘルプページ」](#) を参照してください。

Amazon Web Services EMEA SARL の詳細については、「[Amazon Web Services EMEA SARL FAQs](#)」を参照してください。

EMEA の対象となる販売者と取引を行うお客様には、Amazon Web Services EMEA SARL から請求書が届きます。他のすべてのトランザクションは、AWS Inc. を通過し続けます。詳細については、「[製品の支払い](#)」を参照してください。

サブスクリプションが処理されたら、フルフィルメントオプション、ソフトウェアバージョン、製品を使用する AWS リージョン 場所を設定し、ソフトウェア製品を起動できます。製品を検索または起動するには、AWS Marketplace ウェブサイトの [Marketplace ソフトウェア](#) にアクセスするか、AWS Marketplace または Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) コンソールから、または Service Catalog からアクセスします。

で利用可能な製品カテゴリの詳細については AWS Marketplace、「」を参照してください [の製品カテゴリ AWS Marketplace](#)。

でのソフトウェア製品の配信方法の詳細については AWS Marketplace、以下を参照してください。

- [の AMI ベースの製品 AWS Marketplace](#)
- [のコンテナ製品 AWS Marketplace](#)
- [の機械学習製品 AWS Marketplace](#)
- [AWS Marketplace でプロフェッショナルサービス製品を購入する](#)
- [による SaaS 製品 AWS Marketplace](#)
- データ製品 - AWS Data Exchange ユーザーガイドで「[AWS Data Exchange とは](#)」を参照してください。

AWS Marketplace と Amazon DevPay の違い

AWS Marketplace と Amazon DevPay には大きな違いがあります。どちらも、で実行されるソフトウェアの購入に役立ちますが AWS、Amazon DevPay よりも包括的なエクスペリエンス AWS Marketplace を提供します。ソフトウェア購入者の主な違いは次のとおりです。

- AWS Marketplace は、Amazon.com のようなショッピングエクスペリエンスを提供し、利用可能なソフトウェアの検出を簡素化します。
- AWS Marketplace 製品は、Virtual Private Cloud (VPC) などの他の AWS 機能と連携し、オンデマンドインスタンスに加えて、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) リザーブドインスタンスとスポットインスタンスで実行できます。

- AWS Marketplace は、Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS) がサポートするソフトウェアをサポートしていますが、Amazon DevPay はサポートしていません。

さらに、ソフトウェア販売者は、AWS Marketplace が提供するマーケティングアウトリーチと検出のしやすさからメリットを得られます。

のソフトウェアとサービス AWS Marketplace

AWS Marketplace には、データベース、アプリケーションサーバー、テストツール、モニタリングツール、コンテンツ管理、ビジネスインテリジェンスなど、多くのソフトウェアカテゴリがあります。よく知られている販売者が提供する商用ソフトウェアとともに、多くの広く使用されているオープンソースソフトウェアを選択できます。必要な製品が見つかったら、1-Click でそのソフトウェアを購入し、独自の Amazon EC2 インスタンスにデプロイできます。AWS CloudFormation を使用して製品のトポロジをデプロイすることもできます。

どの AWS お客様もショッピングができます AWS Marketplace。ソフトウェア価格とインフラストラクチャの見積もり価格はウェブサイトに表示されます。すでに登録されている支払い方法を使用して、ほとんどのソフトウェアをすぐに購入できます AWS。ソフトウェア料金は AWS インフラストラクチャ料金と同じ月次請求書に表示されます。

メモ

- Software as a Service (SaaS) とサーバーベースの製品の両方を含む AWS Marketplace、多くのビジネス製品が利用できます。サーバーベースの製品には、技術知識やセットアップと管理の IT サポートが必要な場合があります。
- 「[チュートリアル: Amazon EC2 Linux インスタンスの開始方法](#)」の情報とチュートリアルは、Amazon EC2 の基本について学習するのに役立ちます。
- を通じて AWS Marketplace 製品の複雑なトポロジを起動する予定がある場合は AWS CloudFormation、[の使用を開始すると AWS CloudFormation](#)、役立つ AWS CloudFormation 基本を学ぶのに役立ちます。

AWS Marketplace には、次のカテゴリのソフトウェアが含まれています。

- インフラストラクチャソフトウェア
- デベロッパーツール

- ビジネスソフトウェア
- 機械学習
- IoT
- プロフェッショナルサービス
- デスクトップアプリケーション
- データ製品

詳細については、「[の製品カテゴリ AWS Marketplace](#)」を参照してください。

主要なソフトウェアカテゴリのそれぞれに、より具体的なサブカテゴリがあります。例えば、インフラストラクチャソフトウェアのカテゴリには、[アプリケーション開発]、[データベースとキャッシュ]、[オペレーティングシステム]などのサブカテゴリがあります。ソフトウェアは、Amazon マシンイメージ (AMI) や Software as a Service (SaaS) など、7 種類の製品タイプから選べます。各種ソフトウェアについては、「[製品のタイプ](#)」を参照してください。

必要なソフトウェアの選択に役立つように、は次の情報 AWS Marketplace を提供します。

- 販売者の詳細
- ソフトウェアのバージョン
- ソフトウェアのタイプ (AMI または SaaS)、および AMI に関する情報 (該当する場合)
- 購入者の評価
- 価格
- 製品情報

で販売される製品の契約 AWS Marketplace

で販売されるソフトウェア、サービス、およびデータ製品の使用は、購入者と販売者の間の契約によって管理 AWS Marketplace されます。AWS は、これらの契約の当事者ではありません。

購入者としての の使用 AWS Marketplace には、[AWS サービス条件](#)、[AWS カスタマーアグリーメント](#)、および [プライバシー通知](#)が適用されます。

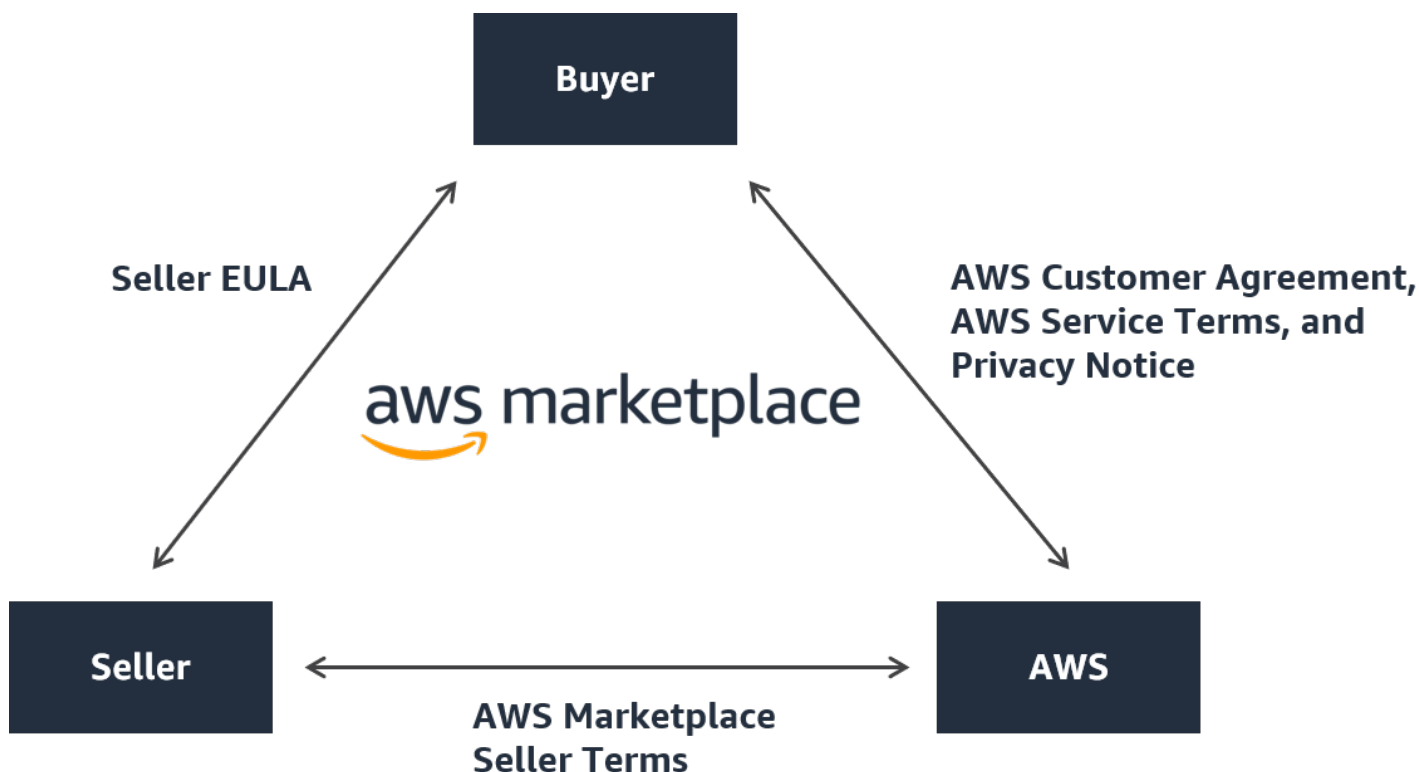
販売者契約には以下が含まれます。

- 販売者の EULA は、AWS Marketplaceに公開されているソフトウェアリストの製品リストページに記載されています。多くの販売者は、[AWS Marketplace 標準契約 \(SCMP\)](#) をデフォルトの

EULA として使用しています。SCMP をプライベートオファターの交渉のベースとして使用したり、修正テンプレートを使用して SCMP を変更したりすることもできます。プライベートオファターには、当事者間で交渉したカスタム契約条件を含めることもできます。

- [AWS Marketplaceでの販売者のアクティビティ](#)には、[AWS Marketplace 販売者規約](#)が適用されます。

次の図は、 の契約構造を示しています AWS Marketplace。



EULA の更新

販売者には、各製品の EULA を更新するオプションがあります。更新の発効日は、EULA、オファertype、および料金モデルによって異なります。

次の表は、新しい EULA がいつ適用されるかについての情報を示しています。

Note

お客様と販売者がカスタム契約を結んでいる場合、以下が適用されない場合があります。

オファ어의タイプ	料金モデル	更新時に EULA が有効になります
Public	使用方法	サブスクリプションをキャンセルし、再サブスクライブを行います。
Public	契約	現在の契約は終了し、新しいパブリックオファー契約に更新されます。
Public	消費量での契約	現在の契約は終了し、新しいパブリックオファー契約に更新されます。
プライベート	使用方法	現在のプライベートオファーは期限切れになり、新しいパブリックオファー契約に自動更新されます。プライベートオファーの更新は、特定のプライベートオファーによって異なります。
プライベート	契約	現在のプライベートオファーの有効期限が切れ、パブリックオファーまたは新しいプライベートオファーに再サブスクライブします。プライベートオファーの更新は、特定のプライベートオファーによって異なります。
プライベート	消費量での契約	現在のプライベートオファーの有効期限が切れ、パブリックオファーまたは新しいプライベートオファーに再サブスクライブします。プライベートオファーの更新は、特定の

オファ어의タイプ	料金モデル	更新時に EULA が有効になります
		プライベートオファーによって異なります。

AWS Marketplaceの標準契約

製品を購入する準備をするときは、関連する EULA または標準化された契約を確認してください。多くの販売者は、出品に対して同じ標準化された契約である[AWS Marketplace 「\(SCMP\) 標準契約」](#)を提供しています。は、購入者および販売者のコミュニティと協力して SCMP AWS Marketplace を開発し、デジタルソリューションの使用を管理し、購入者および販売者の義務を定義しました。デジタルソリューションの例としては、サーバーソフトウェア、Software as a Service (SaaS)、人工知能と機械学習 (AI/ML) アルゴリズムなどがあります。

購入ごとにカスタム EULA を確認する代わりに、SCMP を一度確認するだけで済みます。[契約条件](#)は、SCMP を使用するすべての製品に共通です。

販売者は、SCMP に付随する以下の補遺を使用することもできます。

- [セキュリティ強化補遺](#) - データセキュリティ要件が厳しい取引をサポートします。
- [HIPAA ビジネスアソシエイト補遺](#) - HIPAA (Health Insurance Portability and Accountability Act of 1996: 医療保険の携行性と責任に関する法律) に準拠している取引をサポートします。
- [Federal Addendum](#) - 米国政府が関与するソフトウェア購入のカスタマイズされた条件による取引をサポートします。

標準化されたライセンス条項を提供している出品を検索するには、製品の検索時に [標準契約] フィルターを使用します。プライベートオファーの場合は、販売者に EULA を SCMP に置き換えて、トランザクション固有の要件をサポートするために必要に応じて合意された修正を適用できるかどうかを尋ねます。

詳細については、「[の標準化された契約 AWS Marketplace](#)」を参照してください。

AWS リージョン でサポート AWS Marketplace

ソフトウェア製品の場合、販売者はソフトウェアを使用可能 AWS リージョン にするとインスタンスタイプを選択します。利用可能なすべてのリージョンおよび有効なすべてのインスタンスタイプで

製品を利用可能にすることをお勧めします。AWS Marketplace ウェブサイトは世界中で利用でき、以下のリージョンをサポートしています。

- 北米
 - 米国東部(オハイオ)
 - 米国東部 (バージニア北部)
 - 米国西部 (北カリフォルニア)
 - 米国西部 (オレゴン)
 - AWS GovCloud (米国東部)
 - AWS GovCloud (米国西部)
 - AWS シークレット
 - カナダ (中部)
 - カナダ西部 (カルガリー)
 - メキシコ (中部)
- アフリカ
 - アフリカ (ケープタウン)
- 南米
 - 南米 (サンパウロ)
- ヨーロッパ、中東、およびアフリカ
 - 欧州 (フランクフルト)
 - 欧州 (アイルランド)
 - 欧州 (ロンドン)
 - 欧州 (ミラノ)
 - 欧州 (パリ)
 - 欧州 (スペイン)
 - 欧州 (ストックホルム)
 - 欧州 (チューリッヒ)

- アジアパシフィック
 - アジアパシフィック (香港)
 - アジアパシフィック (ハイデラバード)
 - アジアパシフィック (ジャカルタ)
 - アジアパシフィック (マレーシア)
 - アジアパシフィック (メルボルン)
 - アジアパシフィック (ムンバイ)
 - アジアパシフィック (大阪)
 - アジアパシフィック (ソウル)
 - アジアパシフィック (シンガポール)
 - アジアパシフィック (シドニー)
 - アジアパシフィック (台北)
 - アジアパシフィック (タイ)
 - アジアパシフィック (東京)
- 中東
 - 中東 (バーレーン)
 - イスラエル (テルアビブ)
 - 中東 (アラブ首長国連邦)

データ製品についてサポートされているリージョンの詳細は、「AWS 全般のリファレンス」の「[AWS Data Exchange エンドポイントとクォータ](#)」を参照してください。

サポートされている言語

デフォルトでは、AWS Marketplace ウェブサイトは米国英語を使用します。ただし、はキーワークフローのテキストを次の言語に AWS Marketplace 翻訳します。

- フランス語 (fr-FR)
- 日本語 (ja-JP)
- 韓国語 (ko-KR)

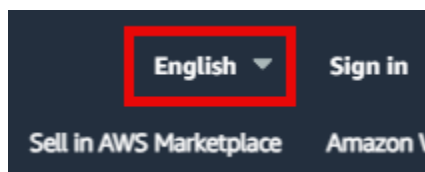
Note

AWS Marketplace は、英語を「情報源」言語として使用します。翻訳についてご質問がある場合は、英語のテキストを参照してください。

言語は 1 回だけ選択できます。Cookie は、今後の訪問のために言語の選択を保存します。言語はいつでも切り替えることができます。

次の手順では、言語を切り替える方法について説明します。

1. [AWS Marketplace ウェブサイト](#) に移動します。
2. ヘッダーで、言語リストを開きます。このリストには、このイメージに示すように、デフォルトで英語が表示されます。

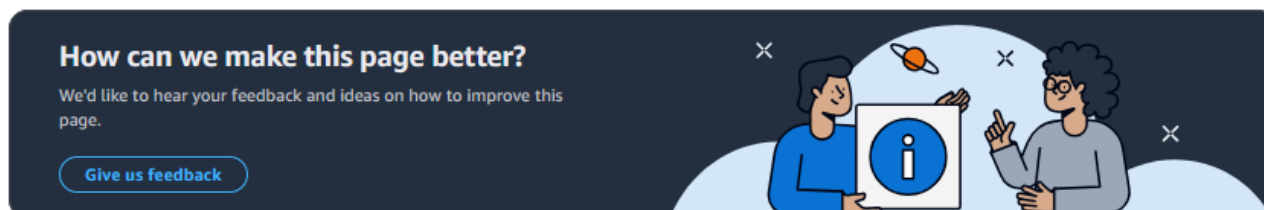


3. 目的の言語を選択します。

[AWS Marketplace ウェブサイト](#) と AWS コンソールのテキストが、選択した言語に変わります。

Note

- 一部のページは英語のままです。
- 翻訳に関するフィードバックを提供するには、製品詳細ページのフィードバックボタンを選択します。サポートされている任意の言語でフィードバックを提供できます。



- AWS Marketplace 販売者はコンテンツの翻訳をオプトアウトできるため、英語とローカル言語のテキストが表示される場合があります。販売者がオプトアウトする方法については、AWS Marketplace 「販売者ガイド」の「[翻訳と言語](#)」を参照してください。

翻訳された標準契約のダウンロード

AWS Marketplace は、サポートされている言語での標準契約の例を提供します。契約には法的拘束力はありません。これらのリンクのいずれかを選択して、選択した言語で zip 契約をダウンロードします。

- [フランス語](#)
- [日本語](#)
- [韓国語](#)
- [スペイン語](#)

を使用して購入者として開始する AWS Marketplace

次のトピックでは、AWS Marketplace 購入者としてソフトウェア製品の使用を開始するプロセスの概要を示します。

トピック

- [での製品の購入 AWS Marketplace](#)
- [AWS Marketplace でソフトウェアを起動する](#)
- [チュートリアル: AMI ベースのソフトウェア製品の購入](#)
- [詳細情報](#)

データ製品の使用開始方法の詳細については、「AWS Data Exchange ユーザーガイド」の「[AWS Data Exchange でのデータ製品のサブスクリプション](#)」を参照してください。

での製品の購入 AWS Marketplace

で製品を購入すると AWS Marketplace、製品詳細ページに示されている製品の条件に同意したことになります。これには、料金条件と販売者のエンドユーザーライセンス契約 (EULA) が含まれ、お客様は[AWS](#)、[カスタマーアグリーメント](#)に従って当該製品を使用することに同意します。AWS アカウント オファーが承諾された に関連付けられた E メールアドレスに E メール通知が送信されます AWS Marketplace。

Note

AWS では、 の特定の製品のガイド付きデモンストレーション AWS Marketplace を無料でリクエストできます。ガイド付きデモが利用可能な場合、[製品詳細] ページに [デモをリクエスト] ボタンが表示されます。デモをリクエストするには、ボタンを選択し、リクエストの詳細を指定します。リクエストをまとめた確認 E メールが届き、AWS 担当者から連絡をします。

月額料金がある製品や、サブスクリプション契約で購入した製品は、サブスクリプション時に料金が発生します。サブスクリプションは、当月の残り期間に応じて日割り計算されます。次のアクションの 1 つを実行するまで、その他の請求は発生しません。

- Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスを Amazon マシンイメージ (AMI) で起動する。
- AWS CloudFormation テンプレートを使用して製品をデプロイします。
- 販売者のウェブサイト製品に登録する。

製品に年間サブスクリプションのオプションがある場合、サブスクリプションの年間料金がすべて課金されます。この料金は、製品の使用状況ベースで適用され、当初のサブスクリプションを行った日の1年後にサブスクリプションが更新されます。年間サブスクリプション期間の終了時にサブスクリプションを更新しない場合、サブスクリプションは最新の時間単位に基づいた時間別のサブスクリプションに切り替わります。

データ製品のサブスクリプションの詳細については、「AWS Data Exchange ユーザーガイド」の「[AWS Data Exchange でのデータ製品のサブスクリプション](#)」を参照してください。

AWS Marketplace でソフトウェアを起動する

ソフトウェア購入後は、AWS Marketplace の [1-Click で起動] ビューを使用して、そのソフトウェアを含む Amazon マシンイメージ (AMI) を起動できます。また、AWS Management Console、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) コンソール、Amazon EC2 API、または AWS CloudFormation コンソールなど、他の Amazon Web Services (AWS) 管理ツールを使用して起動できます。

[1-Click で起動] ビューを使用すると、ソフトウェア販売者が推奨する設定で、ソフトウェアの単一インスタンスをすばやく確認、変更、起動できます。[EC2 コンソールで起動] ビューを使用すると、AWS Management Console、Amazon EC2 API、または他の管理ツールを使用して AMI を起動するために必要な、AMI 識別番号や他の関連情報を簡単に見つけることができます。また、[EC2 コンソールで起動] ビューには、インスタンスのタグ付けなど、AWS Management Console から起動するよりも多くの設定オプションが用意されています。

Note

インスタンスタイプまたは AWS リージョン にアクセスできない場合は、プライベートオファーが送信された時点でサポートされていない可能性があります。詳細については、契約の詳細を確認してください。インスタンスまたはリージョンにアクセスするには、販売者に連絡して、更新されたプライベートオファーをリクエストします。新しいオファーを承諾すると、新しく追加されたインスタンスまたはリージョンにアクセスできます。

トポロジが複雑な AWS Marketplace の製品の場合は、[カスタム起動] ビューを使用すると、適切な AWS CloudFormation テンプレートを使用して AWS CloudFormation コンソールでその製品をロードする [CloudFormation コンソールで起動] オプションを使用できます。その後に、AWS CloudFormation コンソールのウィザードのステップに従って、その製品の AMI および関連する AWS リソースのクラスターを作成します。

チュートリアル: AMI ベースのソフトウェア製品の購入

次のチュートリアルでは、AWS Marketplace で Amazon マシンイメージ (AMI) 製品を購入する方法について説明します。

ステップ

- [ステップ 1: を作成する AWS アカウント](#)
- [ステップ 2: ソフトウェアを選択する](#)
- [ステップ 3: ソフトウェアを設定する](#)
- [ステップ 4: Amazon EC2 でソフトウェアを起動する](#)
- [ステップ 5: ソフトウェアを管理する](#)
- [ステップ 6: インスタンスを終了する](#)

ステップ 1: を作成する AWS アカウント

にサインインしなくても、AWS Marketplace ウェブサイト (<https://aws.amazon.com/marketplace>) を参照できます AWS アカウント。ただし、製品のサブスクリプションや起動には、サインインする必要があります。

AWS Marketplace コンソールにアクセスするには AWS アカウント、にサインインしている必要があります。の作成方法については AWS アカウント、AWS アカウント管理 リファレンスガイドの「[の作成 AWS アカウント](#)」を参照してください。

ステップ 2: ソフトウェアを選択する

ソフトウェアを選択するには

1. [AWS Marketplace ウェブサイト](#) に移動します。

 Note

新しいインスタンスは、パブリック AWS Marketplace ウェブサイト、<https://aws.amazon.com/marketplace>、または AWS Marketplace の から購入、サブスクライブ AWS Management Console、起動できます <https://console.aws.amazon.com/marketplace/home#/subscriptions>。

この 2 つの場所でのエクスペリエンスは似ています。この手順では AWS Marketplace ウェブサイトを使用しますが、コンソールを使用する場合の主な相違点を説明します。

2. [Shop All Categories (すべてのカテゴリ)] ペインに、選択できるカテゴリの一覧が表示されています。中央のペインで紹介されているソフトウェアを選択することもできます。このチュートリアルでは、[すべてのカテゴリ] ペインで [コンテンツ管理] を選択します。
3. [コンテンツ管理] 一覧で、[Bitnami と Automattic の認定を受けた WordPress] を選択します。
4. 製品の詳細ページで製品情報を確認します。製品詳細ページには以下のような追加情報も記載されています。
 - 購入者の評価
 - サポート
 - [ハイライト]
 - 製品の詳細な説明
 - 各 のインスタンスタイプの料金詳細 AWS リージョン (AMIs の場合)
 - 使用開始に役立つその他のリソース
5. [サブスクリプションを続行する] を選択します。
6. AWS Marketplaceにまだサインインしていない場合は、サインインするように求められます。が既にある場合は AWS アカウント、そのアカウントを使用してサインインできます。をまだお持ちでない場合は AWS アカウント、「」を参照してください [ステップ 1: を作成する AWS アカウント](#)。
7. Bitnami の提供条件を読み、[契約に同意する] を選択してサブスクリプションの提供に同意します。
8. サブスクリプションアクションが完了するまでに時間がかかることがあります。完了すると、サブスクリプション条件に関する E メールメッセージが届き、続行できます。[設定に進む] を選択して、ソフトウェアを設定して起動します。

製品をサブスクライブすると、その製品の利用規約に同意したことになります。その製品に月額料金がある場合は、サブスクリプション時に料金が請求され、契約月の残り期間に応じて日割り計算されます。選択した AMI で Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスを起動するまで、その他の料金は発生しません。

 Note

製品のサブスクライバーは、サブスクライブしているソフトウェアの新しいバージョンが公開されると、アカウントに E メールメッセージが届きます。

ステップ 3: ソフトウェアを設定する

ソフトウェアを AMI として選択したため、次のステップでは、配信方法、バージョン、ソフトウェアを使用する AWS リージョン 場所の選択など、ソフトウェアを設定します。

ソフトウェアを設定するには

1. [このソフトウェアを設定する] ページで、[配信方法] に [64 ビット (x86) Amazon マシンイメージ (AMI)] を選択します。
2. [ソフトウェアのバージョン] には、使用可能な最新バージョンを選択してください。
3. 製品を起動する [リージョン] (例えば 米国東部 (バージニア北部) など) を選択します。

 Note

設定を変更すると、画面下部の [Ami ID] が更新されたことに気付くかもしれません。AMI ID は `ami-<identifier>` の形式で、例えば `ami-123example456` などです。AMI は、リージョン、製品、製品バージョンによって異なります。この AMI ID により、製品の起動時に使用する正しい AMI を指定できます。AMI エイリアスは似たような ID で、自動化ではより簡単に使用できます。
AMI エイリアスの詳細については、「[での AMI エイリアスの使用 AWS Marketplace](#)」を参照してください。

4. [続行して起動する] を選択します。

ステップ 4: Amazon EC2 でソフトウェアを起動する

Amazon EC2 インスタンスを起動する前に、1-Click 起動を使用して起動するかどうか、または Amazon EC2 コンソールを使用して起動するかどうかを決めておく必要があります。1-Click 起動を使用すると、セキュリティグループやインスタンスタイプなどの推奨されるデフォルトのオプションを使用してすばやく起動できます。1-Click 起動を使用すると、推定月額料金を確認することもできます。Amazon Virtual Private Cloud (Amazon VPC) 内での起動やスポットインスタンスの使用など、他のオプションを使用する場合は、Amazon EC2 コンソールを使用して起動する必要があります。以下では、製品をサブスクライブし、1-Click 起動または Amazon EC2 コンソールを使用して EC2 インスタンスを起動する手順について説明します。

1-Click 起動を使用して Amazon EC2 で起動する

1-Click 起動を使用して Amazon EC2 で起動するには

1. [このソフトウェアを起動] ページで、[アクションを選択] ドロップダウンから [ウェブサイトから起動] を選択し、デフォルト設定を確認します。設定を変更するには以下を実行します。
 - [EC2 インスタンスタイプ] ドロップダウンリストから、インスタンスタイプを選択します。
 - [VPC の設定] と [サブネットの設定] ドロップダウンリストで、使用するネットワーク設定を選択します。
 - [セキュリティグループの設定] で、既存のセキュリティグループを選択するか、[販売者の設定に基づいて新規クリックする] を選択してデフォルト設定を受け入れます。セキュリティグループの詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「[Amazon EC2 セキュリティグループ](#)」を参照してください。
 - [キーペア] を展開し、キーペアがある場合は既存のキーペアを選択します。キーペアがない場合は、キーペアを作成するように求められます。Amazon EC2 のキーペアの詳細については、「[Amazon EC2 のキーペア](#)」を参照してください。
2. 設定が完了したら、[起動] を選択します。

新しいインスタンスは、Bitnami と Automattic の認定を受けた WordPress ソフトウェアが実行されている状態で起動します。ここから、インスタンスの詳細の表示、別のインスタンスの作成、ソフトウェアのすべてのインスタンスの表示を行うことができます。

EC2 コンソールによる起動を使用して Amazon EC2 で起動する

EC2 コンソールによる起動を使用して Amazon EC2 で起動するには

1. [EC2 で起動] ページで、[EC2 コンソールで起動] ビューを選択し、[バージョンを選択] の一覧から AMI バージョンを選択します。
2. [Firewall Settings (ファイアウォールの設定)]、[Installation Instructions (インストール手順)]、および [Release Notes (リリースノート)] の内容を確認してから、[Launch with EC2 Console (EC2 コンソールによる起動)] を選択します。
3. EC2 コンソールで、リクエストインスタンスウィザードを使用して AMI を起動します。
「[Amazon EC2 の開始手順](#)」の手順に従って、ウィザードを操作します。

ステップ 5: ソフトウェアを管理する

[AWS Marketplace コンソール](#)のサブスクリプションの管理ページ AWS Marketplace を使用して、いつでもソフトウェアサブスクリプションを管理できます。

ソフトウェアを管理するには

1. [AWS Marketplace コンソール](#)に移動し、[サブスクリプションの管理] を選択します。
2. [サブスクリプションの管理] ページでは、以下の内容を確認できます。
 - 製品別のインスタンスのステータスの確認
 - 当月の月額料金の確認
 - 新しいインスタンスの実行
 - インスタンスの販売者のプロフィールの確認
 - インスタンスの管理
 - ソフトウェアを設定するための Amazon EC2 インスタンスへの直接リンク

Note

現在のサブスクリプションのみがサブスクリプションの管理ページ AWS アカウントに表示されます。アカウントが [AWS Organization](#) の管理アカウントである場合、メンバーアカウントのサブスクリプションは表示されません。

ステップ 6: インスタンスを終了する

インスタンスがなくなったら、そのインスタンスを終了できます。

Note

終了したインスタンスを再起動することはできません。ただし、同じ AMI から別のインスタンスを起動できます。

インスタンスを終了するには

1. [AWS Marketplace コンソール](#)に移動し、[サブスクリプションの管理] を選択します。
2. [サブスクリプションの管理] ページで、インスタンスを終了するソフトウェアのサブスクリプションを選択し、[管理] を選択します。
3. 特定のサブスクリプションページで、[アクション] ドロップダウンリストから [インスタンスの表示] を選択します。
4. 終了するインスタンスがある [リージョン] を選択します。これにより Amazon EC2 コンソールが開き、そのリージョンのインスタンスが新しいタブに表示されます。必要に応じて、このタブに戻って、終了するインスタンスのインスタンス ID を確認できます。
5. Amazon EC2 コンソールで、[インスタンス ID] を選択し、[インスタンスの詳細ページ] を開きます。
6. [インスタンスの状態] ドロップダウンリストから [インスタンスを終了] を選択します。
7. 確認を求めるメッセージが表示されたら、[Terminate (終了)] を選択してください。

終了するまでに数分かかります。

詳細情報

製品カテゴリとタイプの詳細については、「[製品カテゴリ](#)」および「[製品のタイプ](#)」を参照してください。

Amazon EC2 の詳細については、[Amazon Elastic Compute Cloud ドキュメント](#)でサービスのドキュメントを参照してください。

詳細については AWS、<https://aws.amazon.com/> を参照してください。

の製品カテゴリ AWS Marketplace

[AWS Marketplace](#) ウェブサイトは、それぞれにサブカテゴリを持つ主要なカテゴリで構成されています。このカテゴリとサブカテゴリに基づいて、検索とフィルタリングを行えます。

トピック

- [インフラストラクチャソフトウェア](#)
- [DevOps](#)
- [ビジネスアプリケーション](#)
- [機械学習](#)
- [IoT](#)
- [プロフェッショナルサービス](#)
- [デスクトップアプリケーション](#)
- [データ製品](#)
- [業界](#)

インフラストラクチャソフトウェア

このカテゴリの製品は、インフラストラクチャ関連のソリューションを提供します。

バックアップおよび復旧

ストレージおよびバックアップソリューションに使用する製品。

データ分析

データ分析に使用される製品。

ハイパフォーマンスコンピューティング

ハイパフォーマンスコンピューティング製品。

移行

移行プロジェクトに使用する製品。

ネットワークインフラストラクチャ

ネットワークソリューションの作成に使用する製品。

オペレーティングシステム

パッケージ化された Linux および Windows オペレーティングシステム。

セキュリティ

インフラストラクチャのセキュリティ製品。

ストレージ

ストレージに関わるジョブロールに重点を置いたアプリケーション。

DevOps

このカテゴリの製品は、開発者および開発者チーム向けのツールを提供します。

アジャイルなライフサイクル管理

アジャイルな SDLM に使用される製品。

アプリケーション開発

アプリケーション開発に使用する製品。

アプリケーションサーバー

アプリケーション開発に使用するサーバー。

アプリケーションスタック

アプリケーション開発に使用するスタック。

継続的インテグレーションと継続的デリバリー

CI/CD に使用される製品。

Infrastructure as Code

インフラストラクチャに使用される製品。

問題およびバグの記録

開発者チームがソフトウェアのバグの追跡と管理に使用する製品。

モニタリング

オペレーティングソフトウェアの監視に使用する製品。

ログ分析

ログの記録と分析に使用する製品。

ソースコントロール

ソースコントロールの管理と維持に使用する製品。

テスト

ソフトウェア製品の自動テストに使用する製品。

ビジネスアプリケーション

このカテゴリの製品はビジネスの運用に役立ちます。

ブロックチェーン

ブロックチェーンに使用される製品。

コラボレーションおよび生産性

ビジネスにおけるコラボレーションを実現するために使用する製品。

コンタクトセンター

組織内のコンタクトセンターを有効活用するために使用される製品。

コンテンツ管理

コンテンツ管理に重点を置いた製品。

CRM

顧客関係管理に重点を置いたツール。

e コマース

e コマースソリューションを提供する製品。

e ラーニング

e ラーニングソリューションを提供する製品。

人事

組織内の人事部門を有効活用するために使用される製品。

IT ビジネスマネジメント

組織の IT ビジネスマネジメントを有効活用できるようにするために使用する製品。

ビジネスインテリジェンス

組織のビジネスインテリジェンスを有効活用できるようにするために使用する製品。

プロジェクト管理

プロジェクト管理用のツール。

機械学習

このカテゴリの製品は、Amazon SageMaker AI と連携する機械学習アルゴリズムとモデルパッケージを提供します。

ML ソリューション

機械学習ソリューション。

データラベリングサービス

データラベリング機能を提供する製品。

コンピュータビジョン

コンピュータビジョン機能を使用できるようにする製品。

自然言語処理

自然言語処理機能を使用できるようにする製品。

音声認識

音声認識機能を使用できるようにする製品。

[テキスト]

テキスト学習機能を使用できるようにする製品。分類、クラスタリング、編集/処理、組み込み、生成、文法/解析、識別、名前とエンティティの認識、センチメント分析、要約、テキスト読み上げ、翻訳などが含まれます。

イメージ

画像分析機能を使用できるようにする製品。3D、キャプション、分類、編集/処理、組み込み/機能抽出、生成、文法/解析、手書き文字認識、人/顔、物体検出、セグメント化/ピクセルラベリング、テキスト/OCR などが含まれます。

動画

ビデオ分析機能を使用できるようにする製品。分類、物体検出、編集/処理、異常検出、話者識別、モーション、再識別、要約、テキスト/キャプション、トラッキングなどが含まれます。

Audio

音声分析機能を使用できるようにする製品。話者識別、テキスト読み上げ、分類、歌識別、セグメント化などが含まれます。

構造化

構造化分析機能を使用できるようにする製品。分類、クラスタリング、次元削減、因数分解モデル、機能エンジニアリング、ランク付け、回帰、時系列予測などが含まれます。

IoT

IoT 関連ソリューションの作成に使用する製品。

分析

IoT ソリューション用の分析製品。

アプリケーション

IoT ソリューションスペース用のアプリケーション製品。

デバイスの接続

デバイスの接続の管理に使用する製品。

デバイスの管理

デバイスの管理に使用する製品。

デバイスのセキュリティ

IoT デバイスのセキュリティの管理に使用する製品。

産業における IoT

産業関連の IoT ソリューションの提供に重点を置いた製品。

スマートホームおよびスマートシティ

スマートホームおよびスマートシティソリューションを有効活用できるようにするために使用する製品。

プロフェッショナルサービス

このカテゴリの製品は、AWS Marketplace 製品に関連するコンサルティングサービスを提供します。

評価

組織に最適なソリューションを見つけるために、現在の運用環境を評価します。

実装

サードパーティー製ソフトウェアの設定、セットアップ、デプロイを支援します。

マネージドサービス

お客様に代わって、エンドツーエンドで環境を管理します。

Premium Support

お客様のニーズに合わせて設計された、エキスパートによるガイダンスやサポートを受けることができます。

トレーニング

従業員がベストプラクティスを学ぶのに役立つ、エキスパートによるカスタマイズされたワークショップ、プログラム、教育ツールを提供します。

デスクトップアプリケーション

このカテゴリの製品は、インフラストラクチャ関連のソリューションを提供します。

デスクトップアプリケーション

全般的な生産性を向上させたり特定のジョブロールを有効にしたりするためのデスクトップアプリケーションおよびユーティリティ。

AP および請求

アカウントの支払いと請求に重点を置いたジョブロールで使用するアプリケーション。

アプリケーションとウェブ

汎用およびウェブ環境アプリケーション。

開発

開発に使用するアプリケーション。

ビジネスインテリジェンス

ビジネスインテリジェンスの管理に重点を置いたジョブロールで使用するアプリケーション。

CAD および CAM

コンピュータ支援設計および製造に重点を置いたジョブロールで使用するアプリケーション。

GIS とマッピング

GIS とマッピングに重点を置いたジョブロールで使用するアプリケーション。

イラストレーションおよびデザイン

イラストレーションとデザインに重点を置いたジョブロールで使用するアプリケーション。

メディアおよびエンコード

メディアとエンコードに関わるジョブロールで使用するアプリケーション。

生産性およびコラボレーション

生産性の向上とコラボレーションの実現に重点を置いたアプリケーション。

プロジェクト管理

プロジェクトマネージャーのジョブロールで使用するアプリケーション。

セキュリティ、ストレージ、およびアーカイブ

セキュリティ、ストレージ、およびデータアーカイブに関わるジョブロールに重点を置いたアプリケーション。

ユーティリティ

さまざまなジョブロールで使用するユーティリティに重点を置いたアプリケーション。

データ製品

このカテゴリの製品は、ファイルベースのデータのセットです。詳細については、「[AWS Data Exchange ユーザーガイド](#)」を参照してください。

業界

教育および研究

教育および研究ソリューションを提供することを目的とする製品。

金融サービス

組織で金融サービスを利用できるようにする製品。

ヘルスケアおよびライフサイエンス

ヘルスケアおよびライフサイエンス業界で使用する製品。

メディアおよびエンターテインメント

メディア関連の製品とソリューション。

工業用

工業関連の製品およびソリューション。

エネルギー

エネルギー関連の製品およびソリューション。

で利用可能な製品タイプ AWS Marketplace

AWS Marketplace には、一般的なオープンソースおよび商用ソフトウェアに加えて、無料および有料のデータ製品が含まれています。これらの製品は、個別の Amazon マシンイメージ (AMIs AWS CloudFormation テンプレートを通じてデプロイされた AMIs のクラスター、Software as a Service (SaaS)、プロフェッショナルサービス、AWS Data Exchange データ製品など、さまざまな方法で利用できます。

これらの製品タイプの詳細については、次のトピックを参照してください。

- [AMI ベースの製品](#) (AMI とプライベートイメージ製品を含む)
- [のコンテナ製品 AWS Marketplace](#)
- [の EC2 Image Builder コンポーネント製品 AWS Marketplace](#)
- [の機械学習製品 AWS Marketplace](#)
- [AWS Marketplace でプロフェッショナルサービス製品を購入する](#)
- [による SaaS 製品 AWS Marketplace](#)

AWS Marketplace を使用して、AWS Data Exchange で利用可能なデータ製品を検索してサブスクライブすることもできます。詳細については、「AWS Data Exchange ユーザーガイド」の「[AWS Data Exchange でのデータ製品のサブスクライブ](#)」を参照してください。

の AMI ベースの製品 AWS Marketplace

Amazon マシンイメージ (AMI) は、オペレーティングシステム、および多くの場合に AWS で動作する追加のソフトウェアを含むサーバーのイメージです。

にリストされているソフトウェア AWS Marketplace は、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) でのみ実行できます。ダウンロードすることはできません。

では AWS Marketplace、AMIs の検索 (検索提案を含む)、他の顧客から送信された製品レビューの表示、AMIs サブスクライブと起動、サブスクリプションの管理を行うことができます。すべての AWS Marketplace 製品は品質が検証され、Amazon Web Services (AWS) インフラストラクチャの 1-Click 起動機能用に事前設定されています。

AMI 製品と Software as a Service (SaaS) 製品の出品は、どちらも信頼できる販売者から提供されます。AMI 製品は、お客様の AWS アカウントで実行されます。ソフトウェア設定とソフトウェアで動

作するサーバーをより詳細に制御できますが、サーバーの設定とメンテナンスに関する責任も大きくなります。

AWS Marketplace カタログには、有名な販売者の厳選されたオープンソースおよび商用ソフトウェアが含まれています。の多くの製品は、1 時間で購入 AWS Marketplace できます。

AMI カタログは、ユーザーや開発チームがコストのかかる調査を行うことなく開発中のソフトウェアやプロジェクトを表示および交換できるコミュニティリソースです。コミュニティの AMI カタログに表示される製品は、有名な販売者が提供するものである場合とそうでない場合があります、一般的には詳しい調査を行っていません。

AWS Marketplace 製品には、製品が利用可能な各 AWS リージョン 1 つの AMI が含まれています。これらの AMI は、場所を除いて同じです。また、販売者が最新のパッチと更新プログラムで製品を更新するときに、製品に別の AMI セットを追加することがあります。

一部の AWS Marketplace 製品は、AWS CloudFormation テンプレートを使用してクラスターとしてデプロイされるため、AMI の複数のインスタンスを起動することがあります。このインスタンスのクラスターと CloudFormation テンプレートで設定された追加の AWS インフラストラクチャサービスは、単一製品のデプロイとして機能します。

AWS CloudFormation テンプレート

AWS CloudFormation は、AWS リソースをモデル化してセットアップするのに役立つサービスです。これにより、リソースの管理に費やす時間が減り、で実行されるアプリケーションに集中する時間が増えます AWS。CloudFormation テンプレートは、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスや Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) データベースインスタンスなど、必要なさまざまな AWS リソースを記述します。次に、CloudFormation はプロビジョニングとそのためのリソースの設定を行います。詳細については、[「の開始方法 AWS CloudFormation」](#)を参照してください。

AWS CloudFormation テンプレートの使用

ソフトウェア販売者は CloudFormation テンプレートを提供して、複数の AMI インスタンスやその他の AWS リソースで構成される優先デプロイトポロジを定義できます。製品に CloudFormation テンプレートを使用できる場合は、製品一覧ページにデプロイオプションとして表示されます。

AMI では単一の Amazon EC2 インスタンスをデプロイできます。CloudFormation テンプレートを使用して、クラスターとして機能する AMI の複数のインスタンスと、Amazon RDS、Amazon Simple Storage Service サービスなどの AWS リソースを単一のソリューションとしてデプロイできます。

計測対応 AMI 製品

にリストされている一部の製品は AWS Marketplace、ソフトウェアアプリケーションで測定された使用量に対して請求されます。計測された使用状況ディメンションの例として、ホスト/エージェントの使用状況や帯域幅の使用状況などがあります。これらの製品が正しく機能するには追加の設定が必要です。使用量を計測するアクセス許可を持つ IAMrole は、起動時に AWS Marketplace Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスに関連付ける必要があります。Amazon EC2 の IAMroles [Amazon EC2 の IAM ロール](#)」を参照してください。

AMI 製品バージョンポリシー

AWS Marketplace は、S-AMI、CloudFormation テンプレートを使用した AMI、コンテナ製品を使用して、AWS 顧客と販売者のバージョン管理エクスペリエンスを自動化します。自動バージョンアーカイブでは、販売者によって 2 年以上制限されているすべての製品バージョンが自動的にアーカイブされます。アーカイブされたバージョンは、新規のお客様に対してから AWS Marketplace 起動できなくなりましたが、既存のユーザーは AMI ID を指定することで、起動テンプレートと Amazon EC2 Auto Scaling グループを通じてアーカイブされたバージョンを引き続き使用できます。過去 13 か月間に新しいインスタンスの起動に使用されていないアーカイブバージョンはすべて削除されます。アーカイブされたバージョンが削除されると、新規または既存のユーザーに対して起動できなくなります。

AWS Marketplace での AMI サブスクリプション

AWS Marketplace では、一部の Amazon マシンイメージ (AMI) ベースのソフトウェア製品には、年間サブスクリプション料金モデルがあります。この料金モデルは一括前払いで、以降の 12 か月間は時間単位の使用料金はかかりません。1 つの Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスに対して、AWS Marketplace のソフトウェア製品の 1 つの年間サブスクリプションを適用できます。

Note

年間料金による時間単位の AMI の場合、年間サブスクリプションは購入時に指定したインスタンスタイプのみを対象としています。例えば、t3.medium と指定します。他のインスタンスタイプを起動すると、アクティブなサブスクリプションに基づいて、そのインスタンスタイプの時間単価の料金が発生します。

また、AWS Marketplace のソフトウェアを時間単位の料金で起動および実行を継続できます。AWS Marketplace のソフトウェア製品を購入するために支払う料金に加えて、Amazon EC2 や AWS の他のサービスの使用料金が別途必要です。

Amazon EC2 インスタンスタイプを時間単位で使用するように変更した場合、Amazon EC2 インフラストラクチャは契約した Savings Plans に従って請求されます。ただし、AWS Marketplace の AMI ライセンスは自動的に時間単位の料金に変更されます。

時間単位の AMI 製品が年間料金をサポートしていない場合、購入者は年間サブスクリプションを購入できません。時間単位の AMI 製品が年間料金をサポートしている場合、購入者は AWS Marketplace の製品のページにアクセスして年間料金で購入できます。各年間契約では、購入者は時間単位の料金を請求されることなく 1 つのインスタンスを実行できます。契約は、インスタンスタイプによって異なります。

年次契約の変更

1 時間ごとの年次 (年次) プラン修正案では、AWS Marketplace 管理ポータル から直接プランを変更できます。より多くの vCPUs が搭載されている Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスタイプで実行するために AMI に切り替えるか、CPU アーキテクチャの最新世代に移行する場合は、修正案を使用できます。修正案により、既存の年間計画に以下の変更を加えることができます。

- Amazon EC2 インスタンスタイプファミリー間の切り替え
- Amazon EC2 インスタンスタイプサイズ間の切り替え
- 新しいインスタンスタイプを追加する
- 契約内の既存のインスタンスタイプの数量を増やす

契約で追加または切り替えた新しい Amazon EC2 インスタンスタイプは、プランの現在の終了日に同時終了されるため、契約内のすべてのインスタンスタイプが同時に更新されます。

変更の比例配分コストが 0 より大きい限り、変更を行うことができます。新しく追加された Amazon EC2 インスタンスの日割コストは、契約の残りの期間に合わせて調整されたインスタンスタイプの年次コストに基づいています。インスタンスタイプを切り替える場合、削除された Amazon EC2 インスタンスタイプの比例配分コストは、新しく追加された Amazon EC2 インスタンスタイプの日割コストから差し引かれます。

 Note

修正案は、パブリックオファーから行われたすべての契約と、分割プランなしのプライベートオファーからの契約でサポートされます。

年間契約修正案の例

年次契約の修正案に関する以下の例を検討してください。次の例では、顧客は 2024 年 1 月 1 日に m5.large インスタンスタイプの 2 つのユニット (4,000 USD/年) の契約に署名しました。販売者には、8,000 USD から出品料を差し引いた金額が支払われます。

Example 1: 同じ数のインスタンスタイプに切り替える

年半ばに、顧客は m5.large インスタンスタイプの 1 つのユニットを r5.large インスタンスタイプの 1 つのユニットに切り替えたいと考えています。切り替え日割額は、追加されたインスタンスの日割額 (6 か月分の r5.large - 2,000 USD) から、削除されたインスタンスの日割額 (6 か月分の m5.large - 2,000 USD) を差し引いて計算されます。正味コストは 0 USD であるため、修正が発生する可能性があります。

Example 2: より高価なインスタンスタイプに切り替える

年半ばに、顧客は m5.large インスタンスタイプの 1 つのユニットを m5.2xlarge インスタンスタイプの 1 つのユニットに切り替えたいと考えています。スイッチの日割額は、追加されたインスタンスの日割額 (6 か月分の m5.2xlarge - 3,000 USD) から、削除されたインスタンスの日割額 (6 か月分の m5.large - 2,000 USD) を差し引いて計算されます。正味コストは 1,000 USD であるため、修正が発生する可能性があります。

Example 3: 低価格インスタンスタイプの 1 つのユニットに切り替える

年半ばに、顧客は m5.large インスタンスタイプの 1 つのユニットを c5.large インスタンスタイプの 1 つのユニットに切り替えたいと考えています。切り替えの日割額コストは、追加されたインスタンスの日割額 (6 か月分の c5.large - 1,500 USD) から、削除されたインスタンスの日割額 (6 か月分の m5.large - 2,000 USD) を差し引いて計算されます。正味コストは - 500 USD (0 USD 未満) であるため、修正は発生しません。

Example 4: 低価格インスタンスタイプの複数のユニットに切り替える

年半ばに、顧客は m5.large インスタンスタイプの 1 つのユニットを c5.large インスタンスタイプの 2 つのユニットに切り替えたいと考えています。切り替えの日割額は、追加されたインスタンスの日割額 (6 か月分の 2 つの c5.large - 3,000 USD) から、削除されたインスタンスの日割額 (6 か月分の m5.large - 2,000 USD) を差し引いて計算されます。正味コストは 1,000 USD であるため、修正が発生する可能性があります。

Example 5: 新しいインスタンスタイプを追加する

年半ば、顧客は m5.large インスタンスタイプの追加ユニットを契約に追加したいと考えています。この変更の日割額は、追加されたインスタンスの日割額 (6 か月の m5.large - 2,000 USD) として計算されます。正味コストは 2,000 USD であるため、修正が発生する可能性があります。

Example 6: インスタンスタイプを削除する

年半ば、顧客は m5.large インスタンスタイプの 1 つのユニットを削除したいと考えています。この変更の日割額は、削除されたインスタンスの日割額 (6 か月の m5.large - 2,000 USD) として計算されます。正味コストは - 2,000 USD (0 USD 未満) であるため、修正は発生しません。

で契約料金が設定されている AMI 製品 AWS Marketplace

一部の販売者は、Amazon マシンイメージ (AMI) ベースのソフトウェア製品を契約料金モデルで販売しています。このモデルでは、選択した期間、ソフトウェア製品にアクセスするための個別のライセンスについて、一括で前払いすることに同意したものとみなされます。を通じて事前に請求されます AWS アカウント。例えば、1 年間に 10 件のユーザーアクセスライセンスと 5 件の管理ライセンスを購入するとします。ライセンスを自動的に更新するように選択できます。

さらに、一部の企業では、契約料金モデルでプライベート AMI ベースのソフトウェア製品を提供しています。通常、プライベートオファーは期間が決まっており、変更できません。

AMI ベースのソフトウェア製品契約は、 の製品の詳細ページを使用して購入できます AWS Marketplace。このオプションが利用可能な場合、商品の詳細ページの [配信方法] に、[契約料金による AMI] が表示されます。製品を購入すると、アカウントのセットアップと設定を行うために、製品のウェブサイトが表示されます。その後、使用料金は通常の AWS アカウント 請求レポートに表示されます。

契約料金の AMI 製品をサブスクライブする

販売者は、Amazon マシンイメージ (AMI) ベースのソフトウェア製品に対してパブリック契約またはプライベート契約を提案できます。ソフトウェア製品にアクセスするための個別のライセンスについて、一括で前払いすることに同意したものとみなされます。

契約がパブリックオファーである場合は、契約の期間とライセンスを自動更新するかどうかを選択できます。

通常、プライベートオファーは期間が決まっており、変更できません。

契約料金モデルによるパブリックオファーの AMI ベースの製品をサブスクライブするには

1. AWS Marketplace にサインインして、契約料金モデルによるコンテナベースのソフトウェア製品を検索します。
2. [調達] ページで、[料金情報] を表示します。

各期間 (月単位) の [単位] と料金を確認できます。

3. [サブスクライブを続ける] を選択して、サブスクリプションを開始します。

サブスクライブせずにこの製品を保存するには、[リストに保存する] を選択します。

4. 料金情報を確認し、ソフトウェア製品の条件を設定して契約を作成します。
 - a. [1 か月]、[12 か月]、[24 か月]、[36 か月] の中から契約期間を選択します
 - b. [更新設定] で、契約を自動的に更新するかどうかを選択します。
 - c. [契約オプション] で、各単位の数量を選択します。

契約料金の合計は、[料金の詳細] に表示されます。

5. すべての選択を完了したら、[Create Contract (契約の作成)] を選択します。

契約料金の合計 が AWS アカウント に請求されます。ライセンスは AWS License Manager で生成されます。

Note

サブスクリプションを処理し、ソフトウェア製品のライセンスが AWS License Manager アカウントに生成されるまで、最大 10 分かかる場合があります。

契約料金モデルによるプライベートオファターの AMI ベースの製品をサブスクライブするには

1. 購入者アカウントで AWS Marketplace にサインインします。
2. プライベートオファターが表示されます。
3. [調達] ページで、[料金情報] を表示します。

各期間 (月単位) の [単位] と料金を確認できます。

4. [サブスクライブを続ける] を選択して、サブスクリプションを開始します。
5. 料金情報を確認し、ソフトウェア製品の条件を設定して契約を作成します。

契約期間は既に販売者が設定しており、変更できません。

6. [契約オプション] で、各単位の数量を選択します。
7. [料金の詳細] で契約料金の合計を表示します。

また、パブリックオファターは、[ご利用いただけるその他のオファター] の [オファターを表示] を選択して確認できます。

8. すべての選択を完了したら、[Create Contract (契約の作成)] を選択します。

Note

サブスクリプションを処理し、ソフトウェア製品のライセンスが AWS License Manager アカウントに生成されるまで、最大 10 分かかる場合があります。

AMI ベースソフトウェアへのアクセス

契約料金で Amazon マシンイメージ (AMI) ベースソフトウェア製品を購入すると、アカウントのセットアップと設定のために製品のウェブサイトに移移します。その後、使用料が通常の AWS アカウント 請求レポートに表示されます。

AMI ベースのソフトウェア製品にアクセスするには

1. AWS Marketplace コンソールで、サブスクリプションの表示に移動し、ソフトウェア製品のライセンスを表示します。
2. [調達] ページで、次の手順を実行します。

- a. ライセンスの管理を選択して、使用権限の表示、アクセス許可の付与、使用状況の追跡を行います AWS License Manager。
 - b. [Continue to Configuration (設定に進む)] を選択します。
3. [起動] ページの設定を確認し、[アクションを選択] でソフトウェアの起動方法を選択します。
 4. [インスタンスタイプを選択] で、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) を選択し、次に [次の手順: インスタンスの詳細の設定] を選択します。
 5. インスタンスの詳細の設定ページの IAM ロールで、 から既存の AWS Identity and Access Management (IAM) ロールを選択します AWS アカウント。

IAM ロールがない場合は、[新しい IAM ロールを手動で作成] リンクを選択し、その手順に従ってください。

Note

契約料金で製品を購入すると、ソフトウェアが License Manager API を使用してチェックできるライセンス AWS アカウント が AWS Marketplace で によって作成されます。AMI ベースの製品のインスタンスを作成するには、IAM ロールが必要です。IAM ポリシーでは、次の IAM アクセス許可が必要です。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "license-manager:CheckoutLicense",
        "license-manager:GetLicense",
        "license-manager:CheckInLicense",
        "license-manager:ExtendLicenseConsumption",
        "license-manager:ListReceivedLicenses"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

```
}
```

6. インスタンスの詳細を設定したら、[確認と作成] を選択します。
7. [インスタンス作成の確認] ページで、既存のキーペアを選択するか、新しいキーペアを作成し、[インスタンスの作成] を選択します。

[インスタンスの作成を開始する] 進行状況ウィンドウが表示されます。

8. インスタンスが開始されたら、EC2 ダッシュボードに移動し、[インスタンス] の下の [インスタンスの状態] に [実行中] と表示されていることを確認します。

生成されたライセンスを表示する

AMI ベース製品をサブスクライブすると、AWS License Manager でライセンスが生成されます。[発行者] (AWS/マーケットプレイス) および [使用権限] (ライセンスによってアプリケーションやリソースの使用、アクセス、消費する権限を与える単位) を表示できます。

生成されたライセンスを表示するには

1. AWS License Manager で AWS アカウント にサインインします。
2. [付与されたライセンス] には、付与されたライセンスがすべて表示されます。
3. [検索] バーに、製品 SKU、受取人、または状態を入力してライセンスを検索します。
4. [ライセンス ID] を選択すると、[ライセンスの詳細] が表示されます。

既存の契約を変更する

AMI 製品に対する既存の前払い契約がある場合、AWS Marketplace 購入者は契約の一部の側面を変更できます。AMI 契約は、時間単位または年単位の Flexible Consumption Pricing (FCP) オファーではなく、契約条件ベースのオファーによってサポートされています。この機能は、と統合されているアプリケーションでのみ使用できます AWS License Manager。購入者は、現在の契約と同一オファーの使用権限の範囲内で、追加ライセンスを購入できます。ただし、購入者は契約で購入した使用権限の数を減らすことはできません。また、販売者がオプションを有効にしている場合、購入者はサブスクリプションの自動更新をキャンセルできます。

 Note

Flexible Payment Schedule (FPS) 契約のオファーは変更できません。FPS で購入した契約では、購入者が使用権限を変更することはできません。使用権限とは、アプリケーションやリソースを使用、アクセス、消費する権利のことです。FPS オファーは変更できません。

サブスクリプションを管理する

1. AWS Marketplace コンソールで、サブスクリプションの表示に移動し、ソフトウェア製品のライセンスを表示します。
2. [調達] ページで [ライセンスを管理] を選択します。
3. リストから [条件を表示] を選択します。
4. [契約オプション] セクションで、矢印を使って使用権限を増やします。使用権限の数は、購入した使用権限の数よりも減らすことはできません。
5. 契約の詳細と合計金額は [料金の詳細] セクションに表示されます。

サブスクリプションの自動更新をキャンセルするには

1. AWS Marketplace コンソールで、サブスクリプションの表示に移動し、ソフトウェア製品のライセンスを表示します。
2. [調達] ページで [ライセンスを管理] を選択します。
3. [サブスクリプション] ページで、[更新設定] セクションを見つけます。
4. キャンセルに関する利用規約を必ずご確認ください。
5. チェックボックスをオンにすると、自動更新がキャンセルされます。

での AMI 製品のコスト配分タグ付け AWS Marketplace

AWS Marketplace は、Amazon マシンイメージ (AMI) ベースのソフトウェア製品のコスト配分タグ付けをサポートしています。新規および既存の Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスタグは、対応する AMI AWS Marketplace の使用に対して自動的に入力されます。アクティブ化されたコスト配分タグを使用して、AWS、コストと使用状況レポート AWS Cost Explorer、AWS 予算、またはその他のクラウド支出分析ツールを通じて AMI の使用状況を特定して追跡できます。

AMI を提供したベンダーでは、製品固有の情報に基づいて、AMI ベースの製品の計測に他のカスタムタグを記録する場合があります。詳細については、[コスト配分タグを使用する](#)を参照してください。

タグを使用してリソースを整理し、コスト配分タグを使用して AWS のコストを詳細レベルで追跡できます。コスト配分タグを有効にすると、はコスト配分タグ AWS を使用してコスト配分レポートでリソースコストを整理し、AWS コストの分類と追跡を容易にします。

コスト配分タグは、タグが Billing and Cost Management コンソールでアクティブ化された時点からのコストのみを追跡します。アカウントの請求情報とコスト管理コンソールにアクセスできるのは、AWS アカウント 所有者、AWS Organizations 管理アカウントの所有者、および適切なアクセス許可を持つユーザーのみです。コスト配分タグを使用するかどうかにかかわらず、請求額に変更はありません。コスト配分タグを使用するかどうかは、AMI ベースのソフトウェア製品の機能には影響しません。

複数のインスタンス間での 1 つの AMI のコスト配分タグの追跡

AMI サブスクリプション用に起動された各 Amazon EC2 AWS Marketplace インスタンスには、AWS Marketplace AWS コストと使用状況レポートに対応するソフトウェア使用状況の明細項目があります。AWS Marketplace 使用状況には、対応する Amazon EC2 インスタンスに適用された特定のタグが常に反映されます。これにより、割り当てられたさまざまなタグ値に基づいて、インスタンスレベルで AWS Marketplace 使用コストを区別できます。

また、タグベースの使用コストを合計して、Cost Explorer または AWS Cost and Usage レポートで請求書に反映された AMI ソフトウェア使用料と等しくなるようにすることもできます。

コスト配分タグ付きインスタンスを使用した予算の検索

Billing and Cost Management コンソールで、複数の Amazon EC2 インスタンスのコスト配分タグでフィルタリング済みの有効な予算が既にある場合、それらすべてを見つけるのは難しい場合があります。次の Python スクリプトは、現在の AWS リージョンの AWS Marketplace からの Amazon EC2 インスタンスを含む予算のリストを返します。

このスクリプトを使用して、予算への潜在的な影響、およびこの変更によってオーバーランが発生する可能性がある場所を認識することができます。請求額は変更されませんが、コスト配分はより正確に反映され、これが予算に影響する可能性があることに注意してください。

```
#!/usr/bin/python

import boto3
```

```

session = boto3.Session()
b3account=boto3.client('sts').get_caller_identity()['Account']
print("using account {} in region {}".format(b3account,session.region_name))

def getBudgetFilters(filtertype):
    """
    Returns budgets nested within the filter values [filter value][budeget name].
    The filtertype is the CostFilter Key such as Region, Service, TagKeyValue.
    """
    budget_client = session.client('budgets')
    budgets_paginator = budget_client.get_paginator('describe_budgets')
    budget_result = budgets_paginator.paginate(
        AccountId=b3account
    ).build_full_result()
    returnval = {}
    if 'Budgets' in budget_result:
        for budget in budget_result['Budgets']:
            for cftype in budget['CostFilters']:
                if filtertype == cftype:
                    for cfval in budget['CostFilters'][cftype]:
                        if cfval in returnval:
                            if not budget['BudgetName'] in returnval[cfval]:
                                returnval[cfval].append(budget['BudgetName'])
                        else:
                            returnval[cfval] = [ budget['BudgetName'] ]
    return returnval

def getMarketplaceInstances():
    """
    Get all the Amazon EC2 instances which originated with AWS Marketplace.
    """
    ec2_client = session.client('ec2')
    paginator = ec2_client.get_paginator('describe_instances')
    returnval = paginator.paginate(
        Filters=[{
            'Name': 'product-code.type',
            'Values': ['marketplace']
        }]
    ).build_full_result()
    return returnval

def getInstances():

```

```

mp_instances = getMarketplaceInstances()
budget_tags = getBudgetFilters("TagKeyValue")
cost_instance_budgets = []
for instance in [inst for resrv in mp_instances['Reservations'] for inst in
resrv['Instances'] if 'Tags' in inst.keys()]:
    for tag in instance['Tags']:
        # combine the tag and value to get the budget filter string
        str_full = "user:{}${}".format(tag['Key'], tag['Value'])
        if str_full in budget_tags:
            for budget in budget_tags[str_full]:
                if not budget in cost_instance_budgets:
                    cost_instance_budgets.append(budget)
print("\r\nBudgets containing tagged Marketplace EC2 instances:")
print( '\r\n'.join([budgetname for budgetname in cost_instance_budgets]) )

if __name__ == "__main__":
    getInstances()

```

出力例

Using account **123456789012** in region us-east-2

Budgets containing tagged Marketplace EC2 instances:
 EC2 simple
 MP-test-2

関連トピック

詳細については、以下の各トピックを参照してください。

- 「AWS Billing ユーザーガイド」の「[コスト配分タグの使用](#)」。
- 「AWS Billing ユーザーガイド」の「[AWS 生成コスト配分タグの有効化](#)」。
- 「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「[Amazon EC2 リソースにタグをつける](#)」

での AMI エイリアスの使用 AWS Marketplace

Amazon マシンイメージ (AMI) は、AMI ID で識別されます。AMI ID を使用して、製品を起動する際に使用する AMI を指定できます。AMI ID は `ami-<identifier>` の形式で、例えば

ami-123example456 などです。AMI (AMI ID) は、AWS リージョン、製品、製品バージョンによって異なります。

から製品を起動すると AWS Marketplace、 が自動的に入力AMI IDされます。を用意しておくAMI IDと、AWS Command Line Interface (AWS CLI) から、または Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) を使用して製品の起動を自動化する場合に便利です。AMI ID は、起動時にソフトウェアを設定すると確認できます。詳細については、「[ステップ 3: ソフトウェアを設定する](#)」を参照してください。

ソフトウェアの設定時には、Ami Alias も AMI ID と同じ場所にあります。Ami Alias は AMI ID と似たような ID ですが、その方が自動化で簡単に使用できます。AMI alias は `aws/service/marketplace/prod-<identifier>/<version>` の形式で、例えば `aws/service/marketplace/prod-1234example5678/12.2` などです。この Ami Alias ID は任意のリージョンで使用でき、AWS は自動的に正しいリージョンにマッピングしますAMI ID。

製品の最新バージョンを使用する場合は、 でバージョン**latest**の代わりに という用語を使用して、 が製品の最新バージョン AWS を選択するAMI aliasようにします。たとえば、 です`aws/service/marketplace/prod-1234example5678/latest`。

Warning

latest オプションを使用すると、ソフトウェアの最新のリリースが提供されます。ただし、この機能を使用するには注意する必要があります。例えば、ある製品にバージョン 1.x と 2.x がある場合、2.x を使用している可能性があります。ここで、製品の最新リリースバージョンは 1.x のバグ修正である場合があります。

AMI エイリアスの使用例

AMI エイリアスは自動化に役立ちます。または テンプレート AWS CLI で AWS CloudFormation 使用できます。

次の例では、AWS CLIを使用することにより、AMI エイリアスを使用してインスタンスエイリアスを起動しています。

```
aws ec2 run-instances
--image-id resolve:ssm:/aws/service/marketplace/prod-<identifier>/version-7.1
--instance-type m5.xlarge
--key-name MyKeyPair
```

次の例では、AMI エイリアスを入力パラメータとして受け入れ、インスタンスを作成する CloudFormation テンプレートを示しています。

```
AWSTemplateFormatVersion: 2010-09-09

Parameters:
  AmiAlias:
    Description: AMI alias
    Type: 'String'

Resources:
  MyEC2Instance:
    Type: AWS::EC2::Instance
    Properties:
      ImageId: !Sub "resolve:ssm:${AmiAlias}"
      InstanceType: "g4dn.xlarge"
      Tags:
        -Key: "Created from"
          Value: !Ref AmiAlias
```

の EC2 Image Builder コンポーネント製品 AWS Marketplace

EC2 Image Builder と の統合 AWS Marketplace により、カスタマイズされた Amazon マシンイメージ (AMIs) 内のサードパーティーの EC2 Image Builder コンポーネントを検出、デプロイ、管理できます。

購入者は、EC2 Image Builder [コンソールまたは から直接、サードパーティーの EC2 Image Builder](#) コンポーネントを検出してサブスクライブできます [AWS Marketplace](#)。新しいゴールデンイメージを構築するときは、Image Builder から直接複数のサードパーティーコンポーネントを選択し、Image Builder レシピに追加できます。

EC2 Image Builder と の統合 AWS Marketplace により、次の機能と利点を活用できます。

- セキュリティスキャナー、モニタリングエージェント、OS 強化スクリプト、分析ツール、ビジネスアプリケーションなどのさまざまなツールをイメージ構築プロセスに組み込みます。
- Image Builder パイプラインで複数のコンポーネントを組み合わせ、カスタマイズされたゴールデンイメージを作成します。
- を使用して、組織全体での調達、一括請求、ライセンス共有を簡素化できます AWS License Manager。

- 組織全体でゴールデンイメージを共有し、すべての EC2 イメージが確立されたセキュリティおよび規制要件に準拠していることを確認します。
- AWS Marketplaceソースコンポーネントの継続的な脆弱性スキャンでセキュリティを確保します。
- 新しいソフトウェアバージョンに関する通知を最新の状態に保ち、ゴールデンイメージの自動更新を設定します。

のコンテナ製品 AWS Marketplace

コンテナ製品は、コンテナイメージとして提供されるスタンドアロン製品です。コンテナ製品は無料の場合もありますが、販売者が提供する料金オプションによって支払いが必要な場合もあります。

コンテナ製品は、[Amazon Elastic Container Service](#) (Amazon ECS)、[Amazon Elastic Kubernetes Service](#) (Amazon EKS)、さらに独自のインフラストラクチャ上で実行されるサービスなど、複数のコンテナランタイムやサービスで使用できます。サポートされているランタイムとサービスのすべてのリストと、それぞれの詳細については、「[コンテナ製品向けのサポート対象のサービス](#)」を参照してください。

コンテナ製品は、AWS Marketplace ウェブサイトまたは Amazon ECS コンソールで検出、サブスクライブ、デプロイできます。タスク定義や Helm チャートなど、販売者が提供するデプロイテンプレートを使用して、Amazon ECS や Amazon EKS に多くの製品をデプロイできます。また、製品にサブスクライブした後に、プライベート [Amazon Elastic Container Registry](#) (Amazon ECR) リポジトリからコンテナイメージに直接アクセスできます。

製品でクイック起動が有効になっている場合は、これを使用して、わずか数ステップで Amazon EKS クラスターでコンテナ製品をすばやくテストできます。クイック起動では AWS CloudFormation、を使用して Amazon EKS クラスターを作成し、そのクラスターでコンテナソフトウェアを起動します。クイック起動を使用した起動の詳細については、「」を参照してください[クイック起動を使用したコンテナ製品の起動](#)。

このセクションでは、AWS Marketplaceでのコンテナ製品の検索、サブスクリプション、起動について説明しています。

有料コンテナ製品の料金モデル

有料コンテナ製品には、1 つ以上の料金モデルが必要です。の他の有料製品と同様に AWS Marketplace、料金モデル AWS に従って によって有料コンテナ製品の料金が請求されます。料金モデルには、固定月額料金と時間単位の料金があります。時間単位の料金は秒単位でモニタリングして日割り計算されます。料金の詳細は、製品登録時に詳細ページに表示されます。

のコンテナ製品でサポートされている料金モデル AWS Marketplace は次のとおりです。

- 無制限の使用を提供する固定月額料金。
- 長期契約期間中の製品使用に対する前払い料金。
- 製品の使用状況に応じた従量制料金モデル (通常は 1 時間ごと)。
- 契約料金による前払いモデル。

各モデルの詳細については、「AWS Marketplace 販売者ガイド」の「[コンテナ製品料金表](#)」を参照してください。

コンテナ製品向けのサポート対象のサービス

次のリストには、AWS Marketplaceのコンテナ製品でサポート対象のすべてのサービスが含まれています。サポート対象のサービスとは、製品を起動できるコンテナサービスまたは環境です。コンテナ製品には、1 つ以上の環境への起動手順が記載された配信方法を含むフルフィルメントオプションが少なくとも 1 つ含まれている必要があります。

Amazon ECS

Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) は、スケーラビリティの高い、高速のコンテナ管理サービスで、クラスターでコンテナの実行、停止、管理に使用できます。コンテナは、個々のタスクやサービス内のタスクを実行するために使用するタスク定義で定義されます。ここでのサービスとは、クラスター内で指定された数のタスクを同時に実行および維持する構成のことです。タスクとサービスは、が管理するサーバーレスインフラストラクチャで実行できます AWS Fargate。または、インフラストラクチャをより詳細に制御するために、管理する Amazon EC2 インスタンスのクラスターでタスクとサービスを実行できます。

Amazon ECS の詳細については、「Amazon Elastic Container Service デベロッパーガイド」の「[Amazon Elastic Container Service とは](#)」を参照してください。

Amazon EKS

Amazon Elastic Kubernetes Service (Amazon EKS) は、AWS で Kubernetes を簡単に実行できるようにするマネージド型サービスです。独自の Kubernetes コントロールプレーンまたはノードをインストール、操作、維持する必要はありません。Kubernetes は、コンテナ化されたアプリケーションのデプロイ、スケーリング、および管理を自動化するためのオープンソースシステムです。

Amazon EKS コンソールを使用して、サードパーティーの Kubernetes ソフトウェアを検索、サブスクライブ、デプロイできます。詳細については、「Amazon EKS ユーザーガイド」の「[Amazon EKS アドオンの管理](#)」を参照してください。

セルフマネージド型 Kubernetes

コンテナ製品は、EKS Anywhere で実行中のセルフマネージド型 Kubernetes クラスター、Amazon ECS Anywhere、Amazon EC2、またはオンプレミスのインフラストラクチャで起動できます。

Amazon ECS Anywhere は Amazon ECS の機能の 1 つで、顧客が管理するインフラストラクチャ上でコンテナワークロードを実行および管理するために使用できます。Amazon ECS Anywhere は Amazon ECS を基盤としており、コンテナベースのアプリケーション全体で整合性のあるツールと API エクスペリエンスを提供します。

詳細については、「[Amazon ECS Anywhere](#)」を参照してください。

EKS Anywhere は、顧客が管理するインフラストラクチャに Amazon EKS クラスターを作成するために使用できるサービスです。EKS Anywhere は、サポートされていないローカル環境としてデプロイすることも、サポート対象のオンプレミスの Kubernetes プラットフォームとして使用できる本番環境としてデプロイすることもできます。

EKS Anywhere の詳細については、[EKS Anywhere ドキュメント](#)を参照してください。

コンテナと Kubernetes の概要

Docker コンテナなどのコンテナは、仮想化されたオペレーティングシステム (Linux や Windows Server など) に対して抽象化と自動化の追加レイヤーを提供する、オープンソースのソフトウェアテクノロジーです。仮想マシンがサーバーイメージのインスタンスであるのと同様に、コンテナは Docker コンテナイメージのインスタンスです。コンテナでは、サーバーアプリケーションソフトウェアが、その実行に必要なあらゆるもの (コード、ランタイム、システムツール、システムライブラリなど) が含まれているファイルシステムでラップされます。コンテナを使用することにより、ソフトウェアは環境に関係なく常に同じように動作します。

Java 仮想マシンと同様に、コンテナでは、変換レイヤーとオーケストレーションレイヤーを提供し、オペレーティングシステムとコンテナ間および各コンテナ間を分離するための、基盤となるプラットフォームが必要です。Docker コンテナで使えるさまざまな Docker 互換ランタイムおよびオーケストレーションサービスがあります。Amazon ECS は、用の非常にスケーラブルで高性能なオーケストレーションサービスであり AWS、Amazon EKS は、オープンソースの管理およびオーケストレーションサービスである [Kubernetes](#) を使用してコンテナ化されたアプリケーションのデプロイ、管理、スケーリングを容易にします。

AWS Marketplace でコンテナ製品を検索する

コンテナ製品は、AWS Marketplace で、コンテナイメージで起動できる製品です。コンテナ製品には、AWS Marketplace で販売者がフルフィルメントオプションとしてコンテナイメージ、Helm チャート、Amazon EKS 向けアドオンの配信方法を提供しているすべての製品が含まれます。コンテナ製品の配信方法の詳細については、「[コンテナ製品の配信方法](#)」を参照してください。

コンテナ製品のフルフィルメントオプションには、サポート対象のサービスとも呼ばれる多くの起動環境が用意されています。起動環境には Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS)、Amazon Elastic Kubernetes Service (Amazon EKS) などのサービスや、独自のセルフマネージド型インフラストラクチャが含まれます。使用可能なコンテナ製品の起動環境の詳細なリストについては、「[コンテナ製品向けのサポート対象のサービス](#)」を参照してください。

AWS Marketplace ウェブサイトを使用してコンテナ製品を検索する

AWS Marketplace の [製品詳細] ページには、次の情報を含む製品詳細が表示されます。

- [製品概要] - 概要には、製品の説明と次の情報が含まれます。
 - 表示されている製品のバージョン。
 - 販売者のプロフィールへのリンク。
 - この製品が属する製品カテゴリ。
 - このソフトウェアを実行するためにサポートされているオペレーティングシステム。
 - ソフトウェアの起動に使用できる配信方法。
 - この製品を起動できるサポート対象のサービス。
- [料金情報] - 製品には、無料利用枠、Bring-Your-Own-License (BYOL)、契約料金による前払い、月額または年額の固定料金、時間単位の従量制料金があります。料金モデルの詳細については、「[コンテナ製品料金表](#)」を参照してください。
- [使用状況情報] - 販売者が提供するフルフィルメントオプションと、ソフトウェアの起動と実行の手順が記載されています。各製品には少なくとも 1 つのフルフィルメントオプションが必要で、最大 5 つまで指定できます。各フルフィルメントオプションには、配信方法と、ソフトウェアの起動と実行の手順が記載されています。
- [サポート情報] - このセクションには、製品のサポートを受ける方法と返金ポリシーに関する詳細が含まれています。
- [カスタマーレビュー] - 他のユーザーからの製品レビューを検索したり、自分でレビューを書いたりできます。

AWS Marketplace ウェブサイトを使用してコンテナ製品を検索する

1. [\[AWS Marketplace 検索ページ\]](#) に移動します。
2. コンテナイメージまたは Helm チャートで、配信方法をフィルタリングします。
3. (オプション) サポート対象のサービスをフィルタリングして、製品を起動できるサービスで検索結果を絞り込みます。

関心のある製品が見つかったら、タイトルを選択して [製品の詳細] ページに移動します。

Amazon ECS コンソールを使用してコンテナ製品を検索する

Amazon ECS コンソールでコンテナ製品を見つけることもできます。ナビゲーションペインに、AWS Marketplace の新しい製品を検出するリンクと、既存のサブスクリプションを確認するリンクがあります。

コンテナ製品の配信方法

AWS Marketplace の製品には、販売者がフルフィルメントオプションとしてコンテナイメージ、Helm チャート、Amazon EKS 向けアドオンの少なくとも 1 つを提供している場合、コンテナ製品とみなされます。

コンテナイメージの配信方法

コンテナイメージの配信方法を使用するフルフィルメントオプションについては、販売者が提供した手順に従って製品を販売します。これは Amazon Elastic Container Registry の AWS Marketplace レジストリから Docker イメージを直接プルすることにより行われます。この配信方法による起動の詳細については、「[コンテナイメージのフルフィルメントオプションで起動する](#)」を参照してください。

Helm チャートの配信方法

Helm チャートの配信方法を使用するフルフィルメントオプションについては、販売者が提供した手順またはデプロイテンプレートに従って製品を販売します。これを行うには、Helm CLI を使用して Helm チャートをインストールします。アプリケーションは、既存の Amazon EKS クラスター、EKS Anywhere のセルフマネージド型クラスター、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2)、またはオンプレミスで起動できます。この配信方法による起動の詳細については、「[Helm フルフィルメントオプションで起動する](#)」を参照してください。

Amazon EKS アドオンの配信方法

Amazon EKS アドオンの配信方法を使用したフルフィルメントオプションの場合、Amazon EKS コンソールまたは Amazon EKS CLI を使用して製品を起動します。Amazon EKS アドオンの詳細については、「[Amazon EKS アドオン](#)」を参照してください。

AWS Marketplace で製品をサブスクライブする

製品を使用するには、まずその製品をサブスクライブする必要があります。サブスクリプションページでは、有料製品の料金情報を確認でき、ソフトウェアのエンドユーザー使用許諾契約 (EULA) にアクセスできます。

コンテナ契約料金の製品の場合は、契約料金を選択し、[契約に同意する] を選択して続行します。製品のサブスクリプションが作成され、その製品を使用するための使用権限が提供されます。サブスクリプションが完了するまでに 1~2 分程度かかります。有料製品の使用権限を受け取った後、その製品の使用を開始すると課金されます。そのソフトウェアの実行中のインスタンスを 1 つでも削除せずにサブスクリプションをキャンセルした場合、ソフトウェアの使用状況に対する課金は継続されます。また、その製品の使用に関連するインフラストラクチャの料金が発生する場合があります。たとえば、ソフトウェア製品をホストするために新規 Amazon EKS クラスターを作成した場合は、そのサービスに対して課金されます。

Note

コンテナベースの製品をサブスクライブしてデプロイする方法については、次の動画も参照してください。

- [Amazon ECS クラスターの AWS Marketplace コンテナをデプロイする](#) (3:34)
- [Amazon ECS Anywhere を使用して AWS Marketplace コンテナベースの製品をデプロイする](#) (5:07)
- [Amazon EKS アドオンの管理](#)

で契約料金が設定されているコンテナ製品 AWS Marketplace

一部の販売者は、公開コンテナベースのソフトウェア製品を契約料金モデルで販売しています。このモデルでは、選択した期間、ソフトウェア製品にアクセスするための個別のライセンスについて、一括で前払いすることに同意したものとみなされます。これは、AWS アカウント経由で事前請求されます。

Example 異なるライセンスを異なる数量で購入する例

例えば、1 年間に 10 件のユーザーアクセスライセンスと 5 件の管理ライセンスを購入するとします。ライセンスを自動的に更新するように選択できます。

さらに、一部の企業では、契約料金モデルでプライベートコンテナベースのソフトウェア製品を提供しています。通常、プライベートオファーは期間が決まっており、変更できません。

コンテナベースのソフトウェア製品の契約は、AWS Marketplaceの [製品の詳細] ページから購入できます。このオプションが利用可能な場合、商品の詳細ページの [配信方法] に、[契約料金による AMI] が表示されます。製品を購入すると、アカウントのセットアップと設定を行うために、製品のウェブサイトが表示されます。その後、使用料金は通常の AWS アカウント 請求レポートに表示されます。

AWS Marketplace での契約料金のコンテナ製品をサブスクライブする

販売者は、コンテナベースのソフトウェア製品に対してパブリック契約またはプライベート契約を提供できます。ソフトウェア製品にアクセスするための個別のライセンスについて、一括で前払いすることに同意したものとみなされます。

契約がパブリックオファーである場合は、契約の期間とライセンスを自動更新するかどうかを選択できます。

通常、プライベートオファーは期間が決まっており、変更できません。

契約料金モデルによるパブリックオファーのコンテナベースの製品をサブスクライブするには

Note

Amazon EKS を使用してサブスクライブする方法の詳細については、「[Amazon EKS アドオンの管理](#)」を参照してください。

1. AWS Marketplace にサインインして、契約料金モデルによるコンテナベースのソフトウェア製品を検索します。
2. [調達] ページで、[料金情報] を表示します。

各期間 (月単位) に対する [単位] と料金を確認できます。
3. サブスクリプションを開始するには、[サブスクライブを続ける] を選択します。

サブスクライブせずにこの製品を保存するには、[リストに保存する] を選択します。

4. 料金情報を確認し、ソフトウェア製品の条件を設定して契約を作成します。
 - a. [1 か月]、[12 か月]、[24 か月]、[36 か月] の中から契約期間を選択します。
 - b. [更新設定] で、契約を自動的に更新するかどうかを選択します。
 - c. [契約オプション] で、各単位の数量を選択します。

契約料金の合計は、[料金の詳細] に表示されます。

5. すべての選択を完了したら、[契約書を作成] を選択します。

契約料金の合計が AWS アカウント に請求され、お客様の AWS License Manager にライセンスが生成されます。

 Note

サブスクリプションを処理し、ソフトウェア製品のライセンスが License Manager アカウントに生成されるまで、最大 10 分かかる場合があります。

契約料金モデルによるプライベートオファターのコンテナベースの製品をサブスクライブするには

 Note

Amazon EKS を使用してサブスクライブする方法の詳細については、「[Amazon EKS アドオンの管理](#)」を参照してください。

1. 購入者アカウントで AWS Marketplace にサインインします。
2. プライベートオファターが表示されます。
3. [調達] ページで、[料金情報] を表示します。

各期間 (月単位) の [単位] と料金を確認できます。

4. [サブスクライブを続ける] を選択して、サブスクリプションを開始します。
5. 料金情報を確認し、ソフトウェア製品の条件を設定して契約を作成します。

契約期間は既に販売者が設定しており、変更できません。

6. [契約オプション] で、各単位の数量を選択します。
7. [料金の詳細] で契約料金の合計を表示します。

また、パブリックオファーは、[ご利用いただけるその他のオファー] の [オファーを表示] を選択して確認できます。

8. すべての選択を完了したら、[契約書を作成] を選択します。

Note

サブスクリプションを処理し、ソフトウェア製品のライセンスが License Manager アカウントに生成されるまで、最大 10 分かかる場合があります。

コンテナベースのソフトウェアへのアクセス

契約料金でコンテナベースのソフトウェア製品を購入すると、アカウントのセットアップと設定のために製品のウェブサイトに移移します。その後、使用料金は通常の AWS アカウント請求レポートに表示されます。

コンテナベースのソフトウェア製品にアクセスするには

1. AWS Marketplace コンソールで、サブスクリプションの表示に移動し、ソフトウェア製品のライセンスを表示します。
2. [調達] ページで、次の手順を実行します。
 - a. ライセンスの管理を選択して、使用権限の表示、アクセス許可の付与、使用状況の追跡を行います AWS License Manager。
 - b. [Continue to Configuration (設定に進む)] を選択します。
3. [起動] ページで、コンテナイメージの詳細を確認し、表示される手順に従います。

Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) クラスターを作成する場合、IAM ポリシーに次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクセス許可を追加する必要があります。

JSON

```
{  
  "Version": "2012-10-17",
```

```
"Statement":[
  {
    "Sid":"VisualEditor0",
    "Effect":"Allow",
    "Action":[
      "license-manager:CheckoutLicense",
      "license-manager:GetLicense",
      "license-manager:CheckInLicense",
      "license-manager:ExtendLicenseConsumption",
      "license-manager:ListReceivedLicenses"
    ],
    "Resource":"*"
  }
]
```

生成されたライセンスを表示する

コンテナベースの製品をサブスクライブすると、ライセンスが生成されます AWS License Manager。[発行者] (AWS/マーケットプレイス) および [使用権限] (ライセンスによってアプリケーションやリソースの使用、アクセス、消費する権限を与える単位) を表示できます。

生成されたライセンスを表示するには

1. AWS License Manager を使用して にサインインします AWS アカウント。
2. [付与されたライセンス] には、付与されたライセンスがすべて表示されます。
3. [検索] バーに、製品 SKU、受取人、または状態を入力してライセンスを検索します。
4. [ライセンス ID] を選択すると、[ライセンスの詳細] が表示されます。

既存の契約を変更する

コンテナ製品に対する既存の前払いコミットメントがある場合、AWS Marketplace 購入者は契約の一部の側面を変更できます。コンテナ契約は、時間単位または年単位の Flexible Consumption Pricing (FCP) オファーではなく、契約条件ベースのオファーによってサポートされています。この機能は、と統合されているアプリケーションでのみ使用できます AWS License Manager。購入者は、現在の契約と同一オファーの使用権限の範囲内で、追加ライセンスを購入できます。ただし、購入者は契約で購入した使用権限の数を減らすことはできません。また、販売者がオプションを有効にしている場合、購入者はサブスクリプションの自動更新をキャンセルできます。

 Note

Flexible Payment Schedule (FPS) 契約のオファーは変更できません。FPS で購入した契約では、購入者が使用権限を変更することはできません。使用権限とは、アプリケーションやリソースを使用、アクセス、消費する権利のことです。FPS オファーは変更できません。

サブスクリプションを管理する

1. AWS Marketplace コンソールで、サブスクリプションの表示に移動し、ソフトウェア製品のライセンスを表示します。
2. [調達] ページで [ライセンスを管理] を選択します。
3. リストから [条件を表示] を選択します。
4. [契約オプション] セクションで、矢印を使って使用権限を増やします。使用権限の数は、購入した使用権限の数よりも減らすことはできません。
5. 契約の詳細と合計金額は [料金の詳細] セクションに表示されます。

サブスクリプションの自動更新をキャンセルするには

1. AWS Marketplace コンソールで、サブスクリプションの表示に移動し、ソフトウェア製品のライセンスを表示します。
2. [調達] ページで [ライセンスを管理] を選択します。
3. [サブスクリプション] ページで、[更新設定] セクションを見つけます。
4. キャンセルに関する利用規約を必ずご確認ください。
5. チェックボックスをオンにすると、自動更新オプションがキャンセルされます。

AWS Marketplaceからのコンテナソフトウェアの起動

でコンテナ製品へのアクティブなサブスクリプションを取得したら AWS Marketplace、ソフトウェアを起動します。これを行うには、販売者が提供するフルフィルメントオプションの 1 つに記載されている手順に従ってください。では AWS Marketplace、フルフィルメントオプションは、環境で製品を起動するためのオプションの販売者提供の手順です。コンテナ製品の場合、販売者は最大 4 つのフルフィルメントオプションを提供でき、それぞれ異なる配信方法を使用したり、異なるソフトウェアの構成を示したりすることができます。たとえば、販売者は、製品のテストに使用されるフル

フィルメントオプションを 1 つ作成し、エンタープライズ内で製品を大規模にデプロイするためのフルフィルメントオプションを作成します。

利用可能なフルフィルメントオプションは、[製品の詳細] ページの [使用情報] セクションで確認できます。販売者が提供するフルフィルメントオプションに加えて、AWS Marketplace には Amazon Elastic Container Registry (Amazon ECR) から Docker イメージ直接プルする手順が含まれています。

販売者はフルフィルメントオプションを提供しているため、販売者の名前とコンテンツは製品ごとに異なります AWS Marketplace。配信方法は製品や販売者によって異なりますが、各フルフィルメントオプションには配信方法が必要です。配信方法は、フルフィルメントオプションの種類と考えることができます。コンテナ製品には、次の配信方法を使用できます。

- コンテナイメージ
- Helm チャート
- Amazon EKS の への追加

からコンテナソフトウェアを起動するには AWS Marketplace

1. [AWS Marketplace](#) にサインインします。
2. 起動するソフトウェアを含む製品を参照して AWS Marketplace 検索します。ソフトウェアを起動するには、製品のサブスクリプションが必要です。でコンテナ製品を検索してサブスクライブする方法については AWS Marketplace、「」を参照してください [AWS Marketplace でコンテナ製品を検索する](#)。
3. [製品の詳細] ページで [サブスクライブを続ける] を選択します。
4. [Continue to Configuration (設定に進む)] を選択します。ボタンが表示されない場合は、最初の利用規約に同意する必要があるか、製品のサブスクリプションがない可能性があります。
5. デプロイするサービスと、販売者が提供する配信方法を選択します。
6. 販売者が提供する手順に従って製品を起動します。手順は、フルフィルメントオプションによって異なります。詳細については、[コンテナイメージのフルフィルメントオプションで起動する](#) または [Helm フルフィルメントオプションで起動する](#) を参照してください。
7. オプション - [使用手順] を選択すると、起動後の製品の設定方法や使用方法について、販売者からのドキュメントが表示されます。

Note

コンテナベースの製品をサブスクライブしてデプロイする方法については、次の動画も参照してください。

- [Amazon ECS クラスターへの AWS Marketplace コンテナのデプロイ](#) (3:34)
- [Amazon ECS Anywhere を使用して AWS Marketplace コンテナベースの製品をデプロイする](#) (5:07)

ECS Anywhere を使用した AWS Marketplace コンテナベースの製品のデプロイ

コンテナイメージのフルフィルメントオプションで起動する

コンテナイメージの配信方法を使用するフルフィルメントオプションについては、販売者が提供した手順に従って製品を販売します。これは、Amazon ECR から Docker イメージを直接プルすることによって行われます。製品を起動する一般的なステップは次のとおりです。

コンテナイメージのフルフィルメントオプションで製品を起動する

1. AWS Command Line Interface (AWS CLI) と Docker の最新バージョンがインストールされていることを確認します。詳細については、「Amazon Elastic Container Registry ユーザーガイド」の「[AWS CLI で Amazon ECR を使用する](#)」を参照してください。
2. Amazon ECR レジストリに対し、Docker クライアントを認証します。これを行うステップは、オペレーティングシステムによって異なります。
3. 提供された Amazon ECR イメージの Amazon リソースネーム (ARN) を使用して、すべての Docker イメージをプルします。詳細については、「Amazon Elastic Container Registry ユーザーガイド」の「[イメージのプル](#)」を参照してください。
4. 製品の使用方法については、販売者から提供されている使用手順や外部リンクを確認してください。

Helm フルフィルメントオプションで起動する

Helm の配信方法を使用するフルフィルメントオプションについては、販売者が提供した手順に従って製品を販売します。これを行うには、Helm CLI を使用して Helm チャートをインストールします。アプリケーションは、既存の Amazon EKS クラスター、EKS Anywhere のセルフマネージド型クラスター、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2)、またはオンプレミスで起動できます。

Note

起動環境には、Helm CLI バージョン 3.7.1 を使用する必要があります。Helm バージョンのリストについては、「[GitHub の Helm リリース](#)」を参照してください。

販売者がクイック起動を有効にしている場合は、それを使用してアプリケーションを起動できます。クイック起動は、で AWS CloudFormation を使用して Amazon EKS クラスターを作成し、そのクラスターでアプリケーションを起動 AWS Marketplace する機能です。クイック起動の詳細については、「」を参照してください[クイック起動を使用したコンテナ製品の起動](#)。

手順は販売者が提供するもので、販売者や製品ごとに異なります。Helm フルフィルメントオプションによる製品を起動する一般的な手順は次のとおりです。

Helm フルフィルメントオプションによる製品を起動するには

1. [AWS Marketplaceからのコンテナソフトウェアの起動](#) のステップ 1~6 に従い、Helm チャートの配信方法を含むフルフィルメントオプションを選択します。
2. [起動ターゲット] で、デプロイする環境を選択します。
 - [Amazon マネージド型 Kubernetes] を選択し、Amazon EKS でアプリケーションをデプロイします。販売者がクイック起動を有効にしている場合は、それを使用して新しい Amazon EKS クラスターを作成し、起動できます。
 - [セルフマネージド型 Kubernetes] を選択すると、[EKS Anywhere](#)、Amazon EC2 またはオンプレミスで実行中の任意の Kubernetes クラスターにアプリケーションをデプロイできます。
3. Amazon マネージド型 Kubernetes クラスターで起動する場合:
 - a. Amazon EKS の既存のクラスターで起動するには、[起動方法] で [既存のクラスターで起動する] を選択し、[起動手順] に従います。手順には、AWS Identity and Access Management (IAM) ロールの作成とアプリケーションの起動が含まれます。Helm CLI バージョン 3.7.1 を使用していることを確認します。
 - b. クイック起動を使用して新しい Amazon EKS クラスターを作成して起動するには、起動メソッドで、クイック起動で新しい EKS クラスターで起動を選択します。コンソールでスタックを作成するには、リダイレクトする起動を選択します AWS CloudFormation 。このスタックによって Amazon EKS クラスターを作成し、販売者が提供した Helm チャートをインストールしてアプリケーションをデプロイします。
 - c. [スタックのクイック作成] ページの [スタック名] に、このスタックの名前を入力します。

- d. [パラメータ] タイルの情報を確認し、必要な情報を入力します。[機能] に表示される確認事項を確認して選択し、[スタックを作成] を選択します。

 Note

、スタック、作成された Amazon EKS クラスターなど AWS CloudFormation、クイック起動の詳細については、「」を参照してください [クイック起動を使用したコンテナ製品の起動](#)。

4. セルフマネージド型 Kubernetes クラスターで起動する場合:

- a. Helm CLI バージョン 3.7.1 を使用していることを確認します。
- b. [トークンを作成] を選択して、ライセンストークンと IAM ロールを生成します。このトークンとロールは、と通信 AWS License Manager して製品の使用権限を検証するために使用されます。

 Note

Create トークンを使用するに
は、AWSServiceRoleForAWSLicenseManagerRole アカウントに が必要です。
アカウントのライセンストークンの最大数は 10 です。

- c. [CSV 形式でダウンロード] を選択して、生成されたトークン情報を含む .csv のファイルをダウンロードします。すべてのシークレットやパスワードと同様に、.csv ファイルは安全な場所に保存します。
- d. [Kubernetes シークレットとして保存] のコマンドを実行して、ライセンストークンと IAM ロールを Kubernetes クラスターのシークレットとして保存します。このシークレットは、Helm チャートをインストールしてアプリケーションを起動するときに使用されます。はシークレット AWS Marketplace を使用して、この製品の使用権限を検証します。
- e. [トークンを使用してアプリケーションを起動する] のコマンドを実行して、アプリケーションをクラスターにデプロイする Helm チャートをインストールします。
- f. [使用手順] を選択すると、起動後の製品の設定方法や使用方法について、販売者からのドキュメントが表示されます。
- g. オプション - [[オプション] アーティファクトをダウンロード] に記載されているコマンドを使用して、製品のコンテナイメージと Helm チャートをローカルにダウンロードします。

Amazon EKS フルフィルメントオプションで起動する

Amazon EKS アドオンの配信方法を使用したフルフィルメントオプションの場合、Amazon EKS コンソールを使用して、Amazon EKS クラスターにソフトウェアをデプロイします。製品を起動する一般的なステップは次のとおりです。

Amazon EKS フルフィルメントオプションによる製品を起動するには

1. 製品をサブスクライブしたら、[設定] ページに移動し、[Amazon EKS コンソールに進む] を選択して Amazon EKS コンソールにアクセスします。
2. Amazon EKS コンソールから、クラスターをデプロイする AWS リージョン を選択します。ソフトウェアをデプロイするクラスターを選択します。
3. [アドオン] タブを選択します。
4. [アドオンをさらに追加] を選択し、スクロールしてデプロイするアドオンを検索し、[次へ] を選択します。
5. デプロイするバージョンを選択し、[次へ] を選択します。Amazon EKS のデプロイの詳細については、「[EKS アドオン](#)」を参照してください。
6. 場所を確認して [作成] を選択します。

の機械学習製品 AWS Marketplace

のMachine Learningカテゴリ AWS Marketplace には、機械学習 (ML) モデルパッケージやアルゴリズムなどの製品が含まれます。

モデルの品質や適合性を評価するために、製品説明、使用手順、お客様のレビュー、サンプルの [Jupyter ノートブック](#)、料金情報、およびサポート情報を確認できます。Amazon SageMaker AI コンソール、Jupyter Notebook、Amazon SageMaker AI SDK、またはを使用して、モデルを直接デプロイします AWS Command Line Interface AWS CLI。Amazon SageMaker AI は、すべてのマーケットプレイス製品で静的スキャンを実行して、トレーニングジョブと推論ジョブを実行するための安全な環境を提供します。

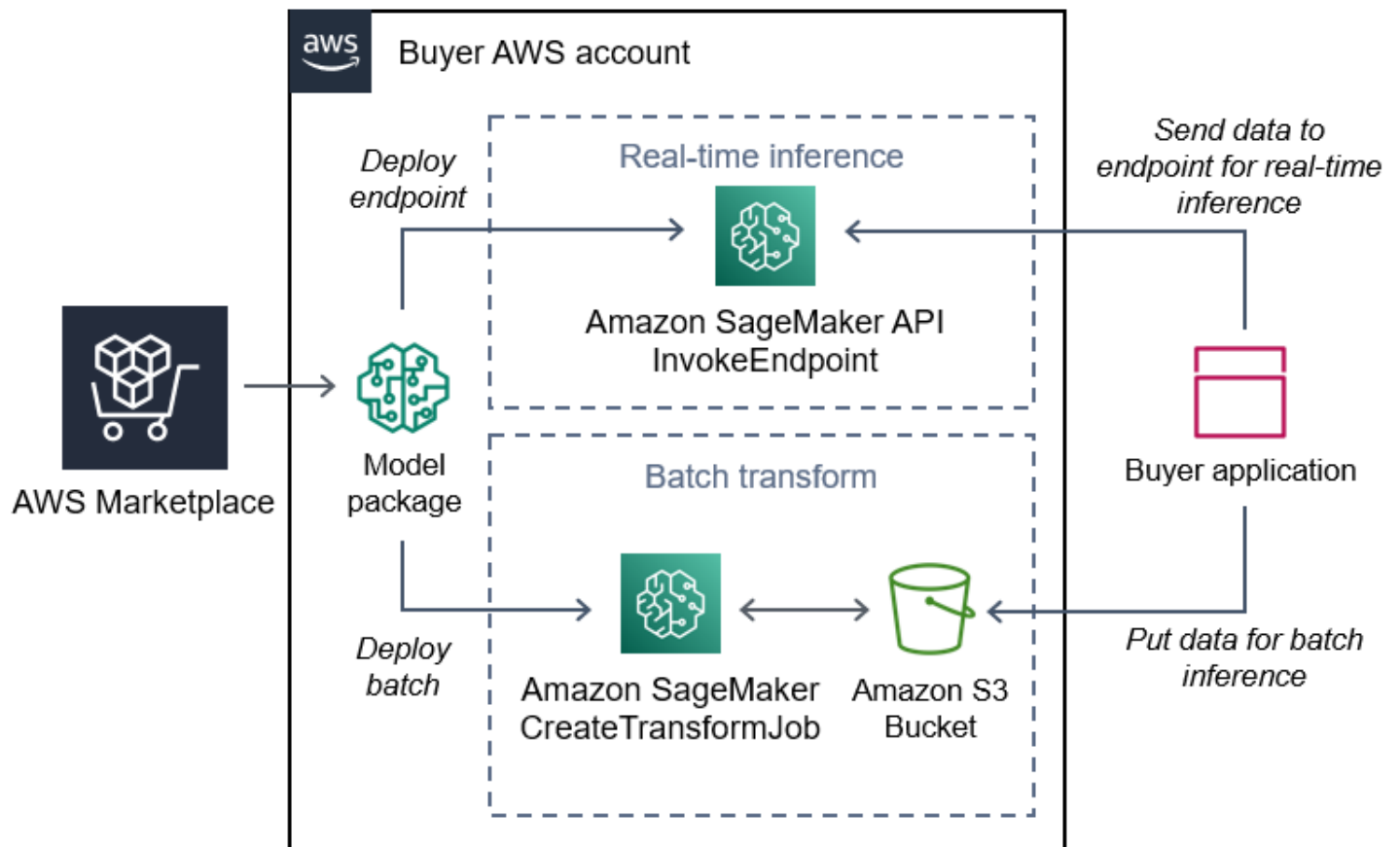
Amazon SageMaker AI モデルパッケージ

Amazon SageMaker AI モデルパッケージは、Amazon SageMaker AI の Amazon リソースネーム (ARN) によって識別される、トレーニング済みの一意の ML モデルです。お客様はモデルパッケージを使用して Amazon SageMaker AI でモデルを作成します。次に、モデルをホスティングサービスで

使用してリアルタイム推論を実行したり、バッチ変換で Amazon SageMaker AI でバッチ推論を実行したりできます。

次の図は、モデルパッケージ製品を使用するワークフローを示しています。

1. で AWS Marketplace、モデルパッケージ製品を見つけてサブスクライブします。
2. 製品の推論コンポーネントを SageMaker AI にデプロイして、リアルタイムまたはバッチで推論 (または予測) を実行します。



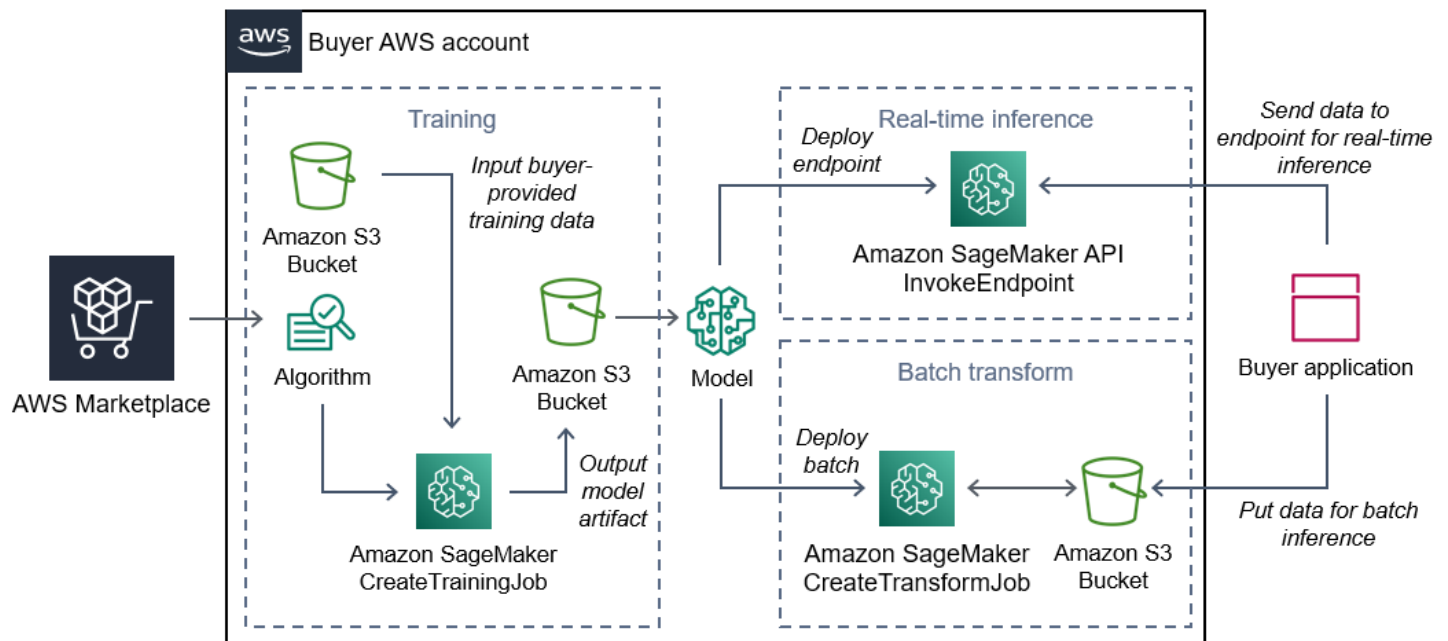
Amazon SageMaker AI アルゴリズム

Amazon SageMaker AI アルゴリズムは、ARN によって識別される一意の Amazon SageMaker AI エンティティです。アルゴリズムには、トレーニングと推論という 2 つの論理コンポーネントがあります。

次の図は、アルゴリズム製品を使用するワークフローを示しています。

1. で AWS Marketplace、アルゴリズム製品を見つけてサブスクライブします。

2. 製品のトレーニングコンポーネントを使用して、Amazon SageMaker AI の入力データセットを使用して機械学習モデルを構築するトレーニングジョブまたは調整ジョブを作成します。
3. 製品のトレーニングコンポーネントが完了すると、機械学習モデルのアーティファクトが生成されます。
4. SageMaker AI は、モデルアーティファクトを Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットに保存します。
5. SageMaker AI では、生成されたモデルアーティファクトを使用して製品の推論コンポーネントをデプロイし、リアルタイムまたはバッチで推論 (または予測) を実行できます。

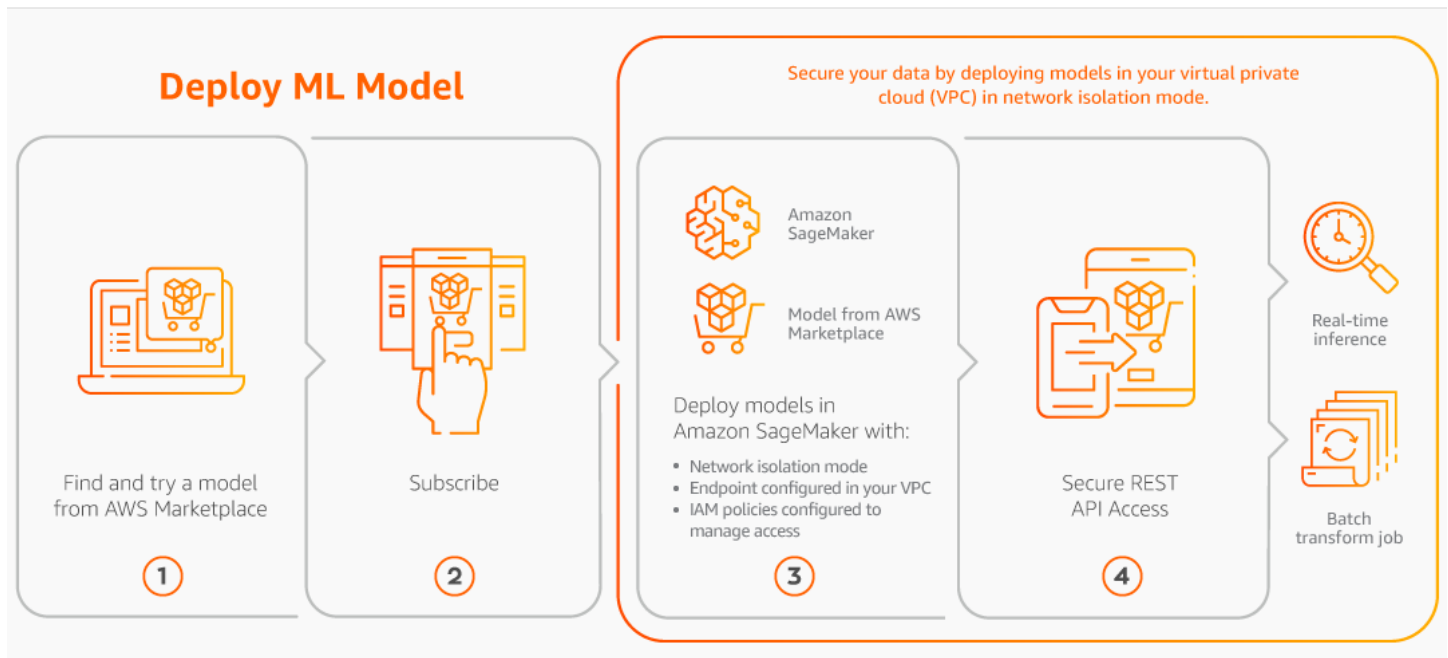


機械学習製品の検索とデプロイのプロセスの概要

次の図は、Amazon SageMaker AI で機械学習製品を検索、サブスクライブ、デプロイするプロセスの概要を示しています。

1. からモデルを検索して試す AWS Marketplace
2. ML 製品をサブスクライブする
3. Amazon SageMaker AI にモデルをデプロイする
4. 安全な REST API を使用する
5. 実行
 - リアルタイム推論

- バッチ変換ジョブ



最低料金や前払いのコミットメントなしで、使用量に対してのみお支払いいただきます。は、アルゴリズムとモデルパッケージ、AWS インフラストラクチャ使用料の一括請求 AWS Marketplace を提供します。

機械学習製品の検索

さまざまなサブカテゴリ (コンピュータビジョン、自然言語処理、音声認識、テキスト、データ、音声、イメージ、動画分析、不正検出、予測分析など) で、何百もの ML モデルパッケージとアルゴリズムを参照および検索できます。

Amazon SageMaker AI モデルパッケージとアルゴリズムを見つけるには

1. [AWS Marketplace ウェブサイト](#) にサインインします。
2. 「ニーズに合った AWS Marketplace 製品を見つける」で、カテゴリドロップダウンメニューを使用して、関心のある Machine Learning のサブカテゴリを見つけます。
3. リソースタイプ、カテゴリ、および料金プランのフィルターを適用して検索結果を絞り込むことができます。
4. 検索結果から、[製品の詳細] ページにアクセスします。
5. 製品の説明、使用方法、カスタマーレビュー、データ要件、サンプル Jupyter Notebook、料金とサポート情報を確認してください。

機械学習製品をサブスクライブする

AWS Marketplace には、を通じてサブスクライブできる機械学習製品のカテゴリがあります AWS Marketplace。その製品カテゴリは [Machine Learning] です。このカテゴリの製品には、機械学習 (ML) モデルパッケージとアルゴリズムがあります。

Amazon SageMaker AI モデルパッケージとアルゴリズムをサブスクライブするには

1. [製品の詳細] ページで [サブスクライブを続ける] を選択します。
2. 調達ページで、製品の料金情報とエンドユーザー使用許諾契約 (EULA) を確認します。
3. [サブスクリプションを続行する] を選択します。

機械学習製品をデプロイする

モデルパッケージ製品またはアルゴリズム製品をサブスクライブすると、SageMaker AI コンソールの製品リストに追加されます。AWS SDKs、AWS Command Line Interface (AWS CLI)、または SageMaker AI コンソールを使用して、フルマネージド REST 推論エンドポイントを作成したり、データのバッチに対して推論を実行したりすることもできます。

Amazon SageMaker AI モデルパッケージとアルゴリズムをデプロイするには

1. [\[Marketplace ソフトウェア\]](#) に移動して、有効なアルゴリズムまたはモデルパッケージのサブスクリプションがあることを確認します。
2. AWS Marketplace ウェブサイトで製品を設定します (特定のバージョンやデプロイリージョンを選択するなど)。
3. Amazon SageMaker AI で表示を選択して、Amazon SageMaker AI 製品の詳細ページを表示します。
4. Amazon SageMaker AI コンソールから、Amazon SageMaker AI コンソール、Jupyter Notebook、Amazon SageMaker AI CLI コマンド、または API オペレーションを使用してモデルパッケージとアルゴリズムをデプロイできます。

Amazon SageMaker AI へのデプロイの詳細については、[「開始方法」](#)を参照してください。

AWS Marketplace でプロフェッショナルサービス製品を購入する

AWS Marketplace には、AWS Marketplace の販売者によるプロフェッショナルサービスの製品が含まれます。AWS Marketplace の [プロフェッショナルサービス] カテゴリを使用してプロフェッショ

ナルサービスを検索できます。関心のある製品が見つかったら、販売者にオファーをリクエストしてください。通常、プロフェッショナルサービスでは連携が必要なため、購入を完了するには販売者に追加情報を提供する必要があります。また、この機会を利用して、料金や解決が必要なその他のサービスの詳細について交渉できます。製品のプライベートオファーが届きます。詳細については、「[のプライベートオファー AWS Marketplace](#)」を参照してください。

プロフェッショナルサービス製品を購入するには

1. [AWS Marketplace](#) に移動して AWS アカウントにサインインし、購入するプロフェッショナルサービス製品を検索して見つけます。
2. その製品の [製品の詳細] ページで、[続行] を選択します。
3. [サービスのリクエスト] ページで、販売者がオファーを作成するのに必要な追加情報を追加します。これには、名前、E メールアドレス、会社名その他、ビジネスニーズ、タイムライン、契約要件など、販売者に有益な追加情報が含まれます。
4. 販売者は、提供された E メールアドレスを使用してお客様に連絡し、オファーの詳細を検討します。同意すると、販売者は AWS Marketplace のオファーへのリンクを送信します。ブラウザでリンクを開き、AWS アカウントにサインインします。
5. 販売者によって開かれた [調達] ページで、オファーの詳細を確認します。そのオファーが、期待したサービスと料金に合っていることを確認してください。一括払いなのか、分割払いなのかといった条件も確認してください。オファーが正しければ、続行します。それ以外の場合は、販売者に連絡して変更を加えます。
6. [契約を設定] で、契約に使用する設定を選択します。例えば、サポート契約を購入する場合、Silver、Gold、Platinum のオプションがあり、それぞれ料金が異なります。
7. [契約書を作成] を選択してサービスを購入します。2 営業日以内に、販売者からサービスの使用方法を連絡します。

による SaaS 製品 AWS Marketplace

Software as a Service (SaaS) 製品の場合は、を通じて製品をサブスクライブしますが AWS Marketplace、ソフトウェア販売者の環境で製品にアクセスします。

AWS Marketplace には、次の料金モデルが用意されています。

- [SaaS 使用量ベースのサブスクリプションをサブスクライブする](#)
- [SaaS 事前コミットメントをサブスクライブする](#)
- [SaaS 無料トライアルをサブスクライブする](#)

[クイック起動オプション](#)がある製品では、ソフトウェアを一度に設定、デプロイ、起動できます。

SaaS 使用量ベースのサブスクリプションをサブスクライブする

SaaS 使用量ベースのサブスクリプションでは、ソフトウェア販売者が使用量を追跡し、ユーザーは使用した分の料金だけを支払います。このpay-as-you-goモデルは、多くの に似ています AWS のサービス。SaaS 製品の使用に対する請求は、AWS 請求書を通じて管理されます。

SaaS 使用量ベースサブスクリプションを使用してサブスクライブするには

1. 製品詳細ページで [購入オプションを表示] を選択し、サブスクリプションプロセスを開始します。
2. 製品に複数のオファertypeがある場合は、[プライベートオファー] または [パブリックオファー] を選択できます。

Note

販売者がプライベートオファーをリクエストするには、[製品詳細] ページで、[プライベートオファーをリクエスト] をクリックします。この製品の利用可能なプライベートオファーは、[購入] ページで表示するか、販売者が提供したプライベートリンクにアクセスします。

3. 製品に複数の利用可能なオファーがある場合は、利用可能なオファードロップダウンリストからオファーを選択できます。
4. 請求される料金ディメンションと各ディメンションの料金を確認します。特定のディメンションを検索するには、料金の上にある検索バーに名前を入力します。料金ディメンションは [希望通貨](#) で表示されます。
5. [EULA をダウンロード] をクリックして、このオファーの利用規約を確認します。
6. サブスクリプションを確認し、[サブスクリプション] ページで [承認] を選択して、有効なサブスクリプションを作成します。

Note

一部の製品には、ソフトウェアの設定、デプロイ、起動に必要な時間とリソースを削減できるクイック起動デプロイオプションが用意されています。これらの製品はクイック起動バッジで識別されます。詳細については、「[the section called “クイック起動による SaaS 製品の起動”](#)」を参照してください。

7. [\[マーケットプレイスサブスクリプション\]](#) ページで現在のサブスクリプションを確認します。

SaaS 事前コミットメントをサブスクライブする

一部の企業では、SaaS 契約を前払いで購入できます AWS Marketplace。このオプションでは、これらの製品のライセンスまたはデータインジェストを個別に購入できます。その後、を通じてこれらの製品を事前に請求できます AWS アカウント。たとえば、1 年間のユーザーアクセスライセンスを 10 個購入したり、1 日に 10 GB のデータを取り込める 1 年間のサービスを購入したりできます。

製品を購入すると、クイック起動が有効になっていない場合にはアカウントのセットアップと設定を行う製品のウェブサイトに移動します。その後、使用料金は通常の AWS アカウント 請求レポートに表示されます。

Note

クイック起動エクスペリエンスについて詳しくは、「[the section called “クイック起動による SaaS 製品の起動”](#)」を参照してください。

SaaS 契約でサブスクライブするには

1. 製品詳細ページで [\[購入オプションを表示\]](#) を選択し、サブスクリプションプロセスを開始します。必要な量かユニット、サブスクリプションの期間 (複数のオプションを使用できる場合)、および自動更新を選択できます。
2. 選択が完了したら、サブスクリプションを選択します。
3. [\[Set Up Your Account \(アカウントのセットアップ\)\]](#) を選択すると、製品を提供する会社のウェブサイトに移動します。アカウントが設定されていて、支払いが検証されている間、AWS Marketplace 製品詳細ページで契約が保留中であることがわかります。

Note

一部の製品には、ソフトウェアの設定、デプロイ、起動に必要な時間とリソースを削減できるクイック起動デプロイオプションが用意されています。これらの製品はクイック起動バッジで識別されます。詳細については、「[the section called “クイック起動による SaaS 製品の起動”](#)」を参照してください。

設定が完了すると、製品ページにアカウントを設定するためのリンクが表示されます。AWS Marketplace ソフトウェアは、アカウントにサインインすると Marketplace ソフトウェアの下に表示されます。これでソフトウェアの使用を開始できます。アカウントのセットアッププロセスを完了していない場合は、その製品を再確認するときにセットアッププロセスを実行するように求められます AWS Marketplace。

ソフトウェア会社のウェブサイトで作成したアカウントを使用して、その会社のウェブサイトからソフトウェアサブスクリプションにアクセスします。AWS Marketplace アカウントへのサインイン時に Marketplace ソフトウェア AWS Marketplace で購入したソフトウェアサブスクリプションのウェブサイトリンクも参照できます。

SaaS 無料トライアルをサブスクライブする

一部のベンダーでは、評価 AWS Marketplace 目的で を通じて SaaS 製品の無料トライアルを提供しています。で SaaS 製品を検索 AWS Marketplace し、結果をフィルタリングして、無料トライアルがある製品のみを表示できます。検索結果には、どの製品が無料トライアルを提供しているかがわかります。すべての無料トライアル製品には、製品ロゴの横に [無料トライアル] バッジが表示されます。製品調達ページでは、無料試用期間と試用版に含まれる無料ソフトウェアの使用量を確認できます。

無料トライアル中、または無料トライアルの有効期限が切れた後は、プライベートオファーを交渉するか、パブリックオファーに登録することにより、購入を決定できます。SaaS の無料トライアルは、自動的に有料契約に切り替わりません。無料トライアルが不要になった場合は、期限切れにできます。

AWS Marketplace コンソールからサブスクリプションの管理を選択すると、サブスクリプションを表示できます。

Note

各 AWS アカウント は、製品ごとに 1 つの無料トライアルのみの対象となります。

SaaS 契約無料トライアルオファーをサブスクライブするには

1. AWS Marketplace コンソールにサインインし、AWS Marketplace メニューから製品の検出を選択します。
2. [結果の絞り込み] パネルで [無料トライアル] に移動し、[無料トライアル] を選択します。
3. [配信方法] には [SaaS] を選択します。

4. [料金モデル] で [前払いのコミットメント] を選択すると、無料トライアルを提供するすべての製品が表示されます。対象となるすべての製品には、[無料トライアル] バッジが表示されます。
5. 必要な SaaS 製品を選択します。
6. [製品の詳細] ページから [無料で試す] を選択します。
7. [オファータイプ] には、[無料トライアル] オプションを選択します。
8. 購入 で、無料で試す を選択します。
9. [アカウントのセットアップ] を選択して登録を完了し、ソフトウェアの使用を開始します。

SaaS サブスクリプション無料トライアルオファーをサブスクライブするには

1. AWS Marketplace コンソールにサインインし、AWS Marketplace メニューから製品の検出を選択します。
2. [結果の絞り込み] パネルで [無料トライアル] に移動し、[無料トライアル] を選択します。
3. [配信方法] には [SaaS] を選択します。
4. [料金モデル] で [使用量ベース] を選択すると、無料トライアルを提供するすべての製品が表示されます。対象となるすべての製品には、[無料トライアル] バッジが表示されます。
5. 必要な SaaS 製品を選択します。
6. [製品の詳細] ページから [無料で試す] を選択します。
7. [オファータイプ] には、[無料トライアル] オプションを選択します。
8. 購入 で、無料で試す を選択します。

既存のパブリック契約の変更

SaaS 製品に対する既存の前払い契約がある場合は、で既存のパブリック契約の一部の側面を変更できます AWS Marketplace。追加のライセンスは、現在の契約で同じオファーの使用権限内で購入できます。ただし、契約で購入した使用権限の数を減らすことはできません。販売者がこのオプションを有効にしている場合は、サブスクリプションの自動更新をキャンセルすることもできます。プライベートオファーの変更については、「」を参照してください [the section called “プライベートオファーの変更またはサブスクライブ解除”](#)。

サブスクリプションを管理する

次の手順を使用して、現在の契約をアップグレードしたり、将来の契約を変更したり、自動更新を有効にして契約を更新したり、自動更新をキャンセルしたりできます。

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. サブスクリプションの管理を選択し、製品を名前で検索して選択します。
3. 契約セクションで、アクションを選択します。
4. ドロップダウンメニューから、用語の表示を選択します。
5. サブスクリプションページで、変更を選択します。
 - 自動更新設定セクションで、この契約の自動更新を選択して自動更新を有効にするか、自動更新をキャンセルを選択します。
6. 自動更新が有効になっている場合は、契約変更オプションセクションで、現在の契約を変更するか、将来の契約更新設定を変更するかを選択できます。

現在の契約を変更するには

1. 現在の契約の変更を選択します。
2. 料金の詳細と単位設定セクションで、矢印を使用して使用権限を増やします。使用権限の数を、既に購入した数以下に減らすことはできません。
3. 契約の詳細と合計料金は、購入の詳細セクションに表示されます。
4. 変更内容を確認してから、[変更を保存] を選択します。

自動更新が有効になっているときに将来の契約を変更するには

1. 「将来の契約更新設定の変更」を選択します。
2. 契約設定セクションで、販売者が設定したオプションから希望する契約期間を選択します。
3. 料金の詳細と単位設定セクションで、目的の単位を選択します。
4. 契約の詳細と合計料金は、購入の詳細セクションに表示されます。
5. 変更内容を確認してから、[変更を保存] を選択します。

SaaS およびコンテナ製品でのクイック起動の使用

クイック起動は、SaaS 製品とコンテナ製品を設定するときに販売者が選択できるデプロイオプションです AWS Marketplace。クイック起動は、AWS CloudFormation テンプレートを使用したガイド付きのstep-by-stepの手順とリソースデプロイを購入者に提供します。購入者は CloudFormation テンプレートを使用して製品を設定、起動します。

トピック

- [クイック起動による SaaS 製品の起動](#)
- [クイック起動を使用したコンテナ製品の起動](#)

クイック起動による SaaS 製品の起動

クイック起動は、クイック起動が有効になっている SaaS 製品で利用できる AWS Marketplace デプロイオプションです。これにより、ソフトウェアの設定、デプロイ、起動に必要な時間、リソース、手順が削減されます。この機能を提供する製品では、クイック起動を使用するか、リソースを手動で設定するかを選択できます。

クイック起動エクスペリエンスを使用して SaaS 製品を検索、サブスクライブ、起動するには

1. [\[AWS Marketplace 検索ページ\]](#) に移動します。
2. 起動するソフトウェアを含む製品を参照して AWS Marketplace 検索します。クイック起動エクスペリエンスを提供する製品には、製品説明にクイック起動バッジが付いています。

Tip

クイック起動エクスペリエンスが有効になっている製品を検索するには、[結果を絞り込む] ペインの [SaaS] および [CloudFormation テンプレート] フィルターを使用します。

3. 製品をサブスクライブしたら、[アカウントの設定] ボタンを選択して [設定と起動] ページに移動します。
4. ステップ 1: 必要な AWS アクセス許可があることを確認する「設定と起動」ページで、クイック起動エクスペリエンスを使用するために必要なアクセス許可があることを確認します。アクセス許可をリクエストするには、AWS 管理者にお問い合わせください。

クイック起動エクスペリエンスをフル活用するには、次のアクセス許可が必要です。

- `CreateServiceLinkedRole` — AWS Marketplace が `AWSServiceRoleForMarketplaceDeployment` サービスにリンクされたロールを作成できるようにします。このサービスにリンクされたロールにより AWS Marketplace、は AWS Secrets Manager、ユーザーに代わってシークレットとして保存されるデプロイ関連のパラメータを管理できます。
- `DescribeSecrets` — 販売者が渡したデプロイパラメータに関する情報の取得 AWS Marketplace を許可します。

- GetRole — AWS Marketplace サービスにリンクされたロールがアカウントで作成されたかどうかを判断できるようにします。
 - ListSecrets — AWS Marketplace がデプロイパラメータのステータスを取得できるようにします。
 - ListRegions — が現在のアカウントにオプトイン AWS リージョン されている AWS Marketplace を取得できるようにします。
 - ReplicateSecrets — AWS Marketplace が、ソフトウェアをデプロイする選択したリージョンへのシークレットのレプリケーションを開始できるようにします。
5. 「ステップ 2: 既存または新規のベンダーアカウントにログインする」で、[ログインまたはアカウントを作成] ボタンを選択します。販売者のサイトが新しいタブで開き、そこでログインするか、新しいアカウントを作成できます。完了したら、[設定と起動] ページに戻ります。
 6. ステップ 3: ソフトウェアと AWS 統合を設定するには、製品の設定方法を選択します。
 - クイック起動 — この合理化されたエクスペリエンスを選択して、製品をすばやく設定できます。
 - 手動 — 販売者が提供する指示に従ってソフトウェアを設定します。
 7. 「ステップ 4: ソフトウェアを起動する」で、[ソフトウェアを起動] ボタンを選択してソフトウェアを起動します。

クイック起動を使用したコンテナ製品の起動

販売者がフルフィルメントオプションでクイック起動を有効にしている場合は、それを使用して Amazon EKS クラスターを作成し、コンテナアプリケーションをデプロイできます。クイック起動では、AWS CloudFormation を使用して Amazon EKS クラスターを設定および作成し、そのクラスターでコンテナアプリケーションを起動します。クイック起動を使用すると、テスト目的でコンテナアプリケーションを起動できます。クイック起動を使用するには、「」の手順に従います[Helm フルフィルメントオプションで起動する](#)。

アプリケーションをデプロイできる Amazon EKS クラスターを作成するには、CloudFormation スタックを作成します。スタックは、単一のユニットとして管理できる AWS リソースのコレクションです。スタック内のすべてのリソースは、スタックの CloudFormation テンプレートで定義されます。クイック起動では、スタックのリソースには、Amazon EKS クラスターを作成してアプリケーションを起動するために必要な情報が含まれています。のスタックの詳細については AWS CloudFormation、「AWS CloudFormation ユーザーガイド」の[「スタックの使用」](#)を参照してください。

クラスターが作成されると、クイック起動は、販売者提供の Helm チャートをクラスターにインストールして、そのクラスターでアプリケーションを起動します。クイック起動は、Amazon EKS クラスターも作成するスタック作成の一部としてこれを処理します。

での製品の支払い AWS Marketplace

月初めに、Amazon Web Services (AWS) から AWS Marketplace 料金の請求書が届きます。ソフトウェア製品の場合、請求書には、ソフトウェアの時間単位料金に、このソフトウェアの Amazon マシンイメージ (AMI) インスタンスの実行時間数を掛けた計算結果が示されます。また、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2)、Amazon Simple Storage Service、Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS)、帯域幅などの AWS インフラストラクチャサービスの使用料も請求されます。

AWS アカウント がトルコと南アフリカを除く欧州、中東、アフリカ (EMEA) を拠点とし、購入が EMEA 対象販売者からのものである場合、Amazon Web Services EMEA SARL () から請求書を受け取ります AWS Europe。AWS アカウント がオーストラリアに拠点を置く場合は、Amazon Web Services Australia Pty Ltd () から請求書を受け取ります AWS Australia。AWS アカウント が日本に拠点を置く場合は、Amazon Web Services Japan G.K (AWS Japan) から請求書を受け取ります。それ以外の場合は、AWS Inc. から請求書を受け取ります。

Note

AMI 年次および契約購入の場合、サブスクリプション料金の請求書は、毎月の一括請求ではなく、サブスクリプション時に発行されます。AMI 年次購入では、サブスクリプション中に購入したすべてのインスタンスタイプを対象とする契約全体に対して 1 つの請求書が生成されます。契約の Flexible Payment は、予定されている支払い時に請求されます。従量制料金モデルなど、使用量が含まれる契約の場合、その使用量は毎月の一括請求書に表示されます。

AWS Marketplace 複雑なトポロジを使用する 製品では、提供された AWS CloudFormation テンプレートによって起動された AMIs やその他の AWS インフラストラクチャサービスのクラスターに対して料金が発生する場合があります。

たとえば、EC2 スモールインスタンスタイプでソフトウェアを 720 時間実行したとします。ソフトウェア使用に対する販売者の料金は 0.12 USD/時間であり、EC2 料金は 0.085 USD/時間です。この場合、月末の請求額は 147.60 USD になります。

データ製品のサブスクリプションの詳細については、「AWS Data Exchange ユーザーガイド」の「[AWS Data Exchange でのデータ製品のサブスクリプション](#)」を参照してください。

AWS 請求書の支払いの詳細については、[AWS Billing 「ユーザーガイド」](#)を参照してください。

Amazon Web Services EMEA SARL (AWS Europe) での支払い管理の詳細については、「AWS Billing ユーザーガイド」の「[AWS Europe での支払いの管理](#)」を参照してください。

AWS Marketplace トランザクションの発注書

AWS Marketplace および AWS Billing コンソールで発注書 (POs) を使用すると、お客様が定義した PO 番号 AWS を含む請求書が から届きます。この方法により、支払い処理とコスト配分が簡単になります。では AWS Marketplace、out-of-cycle 請求書には、即時に請求されるか、プライベートオファードでスケジュールされた定義された支払いに従って請求される購入が含まれます。通常、pay-as-you-go が AWS Marketplace 一括月次使用請求書に表示されます。

AWS Marketplace のトランザクションに発注書を使用する

トランザクション時に PO を追加できます。は、提供された PO に基づいて請求書 AWS を生成し、各請求書は 1 つの PO 番号に関連付けられます。

で PO を指定するには AWS Marketplace :

1. 製品を見つけて購入する準備をします AWS Marketplace。
2. 購入プロセス中に、発注書番号で発注書の追加を選択します。
3. PO 番号を発注書番号フィールドに入力します。

PO 番号は、システムで追跡するために使用する識別子です。通常、内部システムまたはプロセスによって発行され、最大 200 文字の長さになります。

複数の請求書が発生するトランザクションの場合、は複数の POs AWS Marketplace をサポートします。以下の選択肢が 1 つ以上ある場合があります。

- PO 割り当てなし: PO 番号は料金に関連付けられません。このオプションは、追加の追跡や請求書の詳細を提供しません。請求コンソールに PO がある場合、その PO は引き続きこの購入に適用される場合があります。
- すべての料金 (固定料金と使用状況): 1 回限りの料金、定期サブスクリプション、使用状況ベースのサービスなど、すべての AWS Marketplace 料金に 1 つの PO 番号を使用します。
- 固定料金と使用料の個別の POs: すべての固定料金 (スケジュールされた前払いと前払い) に 1 つの PO 番号を割り当て、すべての使用ベースの料金 (pay-as-you-go に個別の PO 番号を割り当てます。このオプションを使用すると、固定料金と可変料金を区別できます。
- 各料金の個々の PO: 注文に関連する各料金に個々の PO 番号を割り当てます。

トランザクション中に AWS Marketplace 提供された PO など、POs の詳細については、AWS Billing コンソールで[発注書を表示します](#)。

トランザクション中の発注書の追加

トランザクション中に PO 番号を追加するには、次の手順を実行します。

1. オファ어의承諾ページから、PO 番号を見つけます。
2. すべての料金に 1 つの PO 番号を選択するか、個々の料金に複数の PO 番号を選択します。
3. PO 番号を入力します。数字は最大 200 文字です。

トランザクション後の発注書の更新

AWS Marketplace 製品をサブスクライブした後、サブスクリプションの詳細ページから PO 番号を追加できます。PO が請求に関連付けられている場合、その請求に対して生成された請求書には PO 番号が含まれます。料金ごとに同じ PO 番号または異なる PO 番号を指定できます。使用料の詳細については、[AWS Billing コンソール](#)を参照してください。

Note

PO 番号は、将来の料金に対してのみ入力できます。

請求書の作成前に PO を追加または更新するには：

1. サブスクリプションの詳細ページから、料金概要コンテナに移動します。
2. 請求明細項目ごとに、発注書番号列に PO 番号を入力できます。

Note

請求書の作成後に購入を追加または更新するには、[AWS サポート](#)にお問い合わせください。

一括使用発注書の使用

他の POs から AWS Marketplace 請求を分離するには、AWS Billing コンソールで AWS Marketplace 一括使用明細項目を含む PO を作成します。AWS Marketplace 請求トランザクションには、特定の条件とパラメータが一致する場合に指定する一括使用 PO が含まれます (請求エンティティなど)。に一括 PO AWS Marketplace とは異なる PO 番号を入力した場合、その料金は一括 PO には適用されません。

詳細については、「[発注書の管理](#)」を参照してください。

発注書に関するトラブルシューティング

次の表の情報は、発注書 (POs) に関する問題をトラブルシューティングし、さまざまなシナリオで何が起こるかを理解するのに役立ちます。

シナリオ	詳細
購入後のアクセス許可が不十分	サブスクライブ後に PO を追加または更新するには、 <code>aws-marketplace:ListAgreementCharges</code> および <code>aws-marketplace:UpdatePurchaseOrders</code> のアクセス許可が必要です。
PO が存在しません	AWS Marketplace は新しい PO を作成します。新しい PO にはデフォルトの情報があり、連絡先情報はありません。
欠落している PO 通知	連絡先情報のない POs (AWS Marketplace POsを含む) は、E メール通知を受信しません。 請求情報とコスト管理コンソールの発注書ダッシュボードで、PO に連絡先情報を追加 できます。
間違った PO 番号が追加されました	誤った PO 番号を入力し、更新する必要がある場合は、AWS Marketplace コンソールから PO 番号を追加して、今後の料金を支払うことができます。請求書をすでに受け取っている場合は、サポートに連絡して PO 番号を更新

シナリオ	詳細
	してください。詳細については、「 the section called “購入後の PO の更新” 」を参照してください。
サブスクリプションアカウントが別の組織に移動した	新しい組織で POs を使用するには、新しい組織で統合を完了する必要があります。統合が完了し、PO サポートが新しい組織で機能している場合、サブスクライブしているアカウントが組織間を移動すると、新しい請求書に新しい組織の PO 番号が表示されます (必要に応じて新しい PO が作成されます)。
チェックアウト時に PO オプションを使用できない	製品を購入したら、のサブスクリプションページに移動 AWS Marketplace して PO を更新します。PO を更新できない場合は、にお問い合わせください サポート。詳細については、「 the section called “購入後の PO の更新” 」を参照してください。
従量制料金による契約	すべての料金、pay-as-you-go使用) 料金のみ、または個別の料金をカバーする PO を使用できます。詳細については、「 the section called “AWS Marketplace のトランザクションに発注書を使用する” 」を参照してください。
すべての AWS Marketplace 料金に対して 1 つの PO	すべての料金に 1 つの PO 番号を使用する場合は、AWS Billing コンソールで 一括使用の PO を追加できます 。

シナリオ	詳細
停止された PO	PO 番号が提供され、請求情報とコスト管理コンソールの発注書ダッシュボードで PO が停止としてマークされると、新しい明細項目が PO に追加されますが、請求書には PO は含まれません。の請求管理者は PO をアクティブにし、サポート に連絡してアクティブな PO で請求書を再生成 AWS アカウント する必要があります。
期限切れの PO	期限切れの PO 番号を指定すると、新しい明細項目が作成され、PO がアクティブとしてマークされます。明細項目の終了日は、新しい PO の有効期限として使用されます。
残高の追跡	残高追跡は AWS Marketplace 明細項目に対して有効になっていません。
調達システムの統合	管理アカウントから、AWS Billing の統合を設定 AWS Marketplace して、統合された調達システムによって提供された発注書を請求書に表示する必要があります。
柔軟な支払いスケジュール — 複数の POs	柔軟な支払いスケジュールの個別の支払いで異なる POs を表示する必要がある場合は、購入時に複数の POs を追加するか、請求書の作成前に AWS Marketplace サブスクリプションページから PO を更新できます。詳細については、「 the section called “購入後の PO の更新” 」を参照してください。

シナリオ	詳細
調達ページに PO オプションがありません	POsはほとんどの AWS Marketplace 製品でサポートされていますが、以下の PO を追加することはできません。 1. 無料製品 2. コンテナの年間料金製品 3. 調達ページの機械学習製品 Amazon EC2 コンソールなど AWS Marketplace、の外部で製品を購入する場合、サブスクリプション中に PO を追加することはできません。ただし、他の AWS Marketplace コンソールから購入した機械学習製品や製品の POs、購入後に AWS コンソールで更新できます。詳細については、「the section called “購入後の PO の更新”」を参照してください。
ライセンスマネージャーを使用した POs	PO はサブスクリプション関連の料金にのみ適用されます。付与料金は、元のサブスクリプションに適用された PO を継承しません。

製品サブスクリプションをキャンセルする

以下のセクションのステップでは、Amazon マシンイメージ (AMI)、コンテナ製品、機械学習、Software as a Service (SaaS) 製品をキャンセルする方法について説明します。

トピック

- [AMI サブスクリプションをキャンセルする](#)
- [コンテナサブスクリプションをキャンセルする](#)
- [機械学習サブスクリプションをキャンセルする](#)
- [SaaS サブスクリプションをキャンセルする](#)

AMI サブスクリプションをキャンセルする

AWS Marketplace コンソールを使用して AMI サブスクリプションをキャンセルし、Amazon EC2 コンソールを使用してサブスクリプションのすべての実行中のインスタンスを終了します。サブスクリプションの請求を停止するには、すべてのインスタンスを終了する必要があります。

サブスクリプションをキャンセルすると、ソフトウェアにアクセスできなくなります。

以下のステップでは、サブスクリプションをキャンセルし、すべてのインスタンスを終了する方法について説明します。

サブスクリプションをキャンセルする

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
[サブスクリプションを管理] ページが表示されます。
2. [配信方法] リストを開き、[Amazon マシンイメージ] を選択します。
3. キャンセルするサブスクリプションを選択します。
4. [契約] の [アクション] リストで [サブスクリプションをキャンセル] を選択します。
5. [サブスクリプションをキャンセル] ダイアログボックスで、**confirm** と入力し、[はい、サブスクリプションをキャンセルします] を選択します。
6. サブスクリプションのすべてのインスタンスを終了するには、次のステップを実行します。終了しないと、請求される場合があります。

インスタンスを削除するには

1. Amazon EC2 コンソールの <https://console.aws.amazon.com/ec2/> を開いてください。
2. [Amazon EC2 ダッシュボード] ページの [リソース] で、[インスタンス] を選択します。
3. すべてのインスタンスのチェックボックスをオンにします。

Note

サブスクリプションの請求を停止するには、すべてのインスタンスを終了する必要があります。

4. [インスタンスのステータス] リストで、[インスタンスを終了 (削除)] を選択します。
5. [インスタンスの終了 (削除)] ダイアログボックスで、[終了 (削除)] を選択します。

コンテナサブスクリプションをキャンセルする

次の手順では、コンテナサブスクリプションをキャンセルする方法について説明します。

サブスクリプションをキャンセルする

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
[サブスクリプションを管理] ページが表示されます。
2. [配信方法] リストを開き、[コンテナイメージ] を選択します。
3. キャンセルするサブスクリプションを選択します。
4. [契約] の [アクション] リストで [サブスクリプションをキャンセル] を選択します。
5. [サブスクリプションをキャンセル] ダイアログボックスで、**confirm** と入力し、[はい、サブスクリプションをキャンセルします] を選択します。

機械学習サブスクリプションをキャンセルする

機械学習のサブスクリプションをキャンセルする前に、次のアクションを実行してください。

- ML アルゴリズムの場合 – にサインイン AWS Management Console し、[Amazon SageMaker AI](#) コンソールを開きます。アルゴリズムに対して実行中のトレーニングジョブをすべて終了します。アルゴリズムからモデルパッケージを作成した場合は、リアルタイムエンドポイントの起動や、サブスクリプションキャンセル後のバッチ推論ジョブの作成はできません。
- アルゴリズムから作成された ML モデルパッケージまたはモデルの場合 – にサインイン AWS Management Console し、[Amazon SageMaker AI](#) コンソールを開きます。実行中のモデルのリアルタイムエンドポイントをすべて終了するか、実行中のバッチ推論ジョブをすべて終了します。

Note

終了していない既存のジョブやエンドポイントは引き続き実行され、終了するまで課金されます。

機械学習のサブスクリプションをキャンセルするには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. [サブスクリプションを管理] ページで、キャンセルするサブスクリプションを選択します。

3. [契約] の [アクション] リストで [サブスクリプションをキャンセル] を選択します。
4. [サブスクリプションをキャンセル] ダイアログボックスで、**confirm** と入力し、[はい、サブスクリプションをキャンセルします] を選択します。

サブスクリプションをキャンセルすると、アルゴリズムやモデルを起動できなくなります。

SaaS サブスクリプションをキャンセルする

SaaS サブスクリプションをキャンセルするプロセスは、サインアップしたサブスクリプションのタイプによって異なります。

SaaS サブスクリプション契約をキャンセルするには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
[サブスクリプションを管理] ページが表示されます。
2. [配信方法] リストを開き、[SaaS] を選択します。
3. キャンセルするサブスクリプションを選択します。
4. [契約] の [アクション] リストで [サブスクリプションをキャンセル] を選択します。
5. [サブスクリプションをキャンセル] ダイアログボックスで、**confirm** と入力し、[はい、サブスクリプションをキャンセルします] を選択します。

SaaS 契約の自動更新をキャンセルするには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. [製品の詳細] ページに異動します。
3. [続行] を選択して [注文] ページに移動します。
4. [更新を変更] タブを選択し、[更新をキャンセル] を選択します。

支払い方法

を初めて作成するときは AWS アカウント、そのアカウントの支払い方法を設定します。支払い方法は、[AWS 請求情報とコスト管理コンソール](#)で管理できます。手順については、「AWS Billing ユーザーガイド」の「[支払いの管理](#)」を参照してください。

支払いエラー

支払者アカウントでの支払い処理中にエラーが発生した場合は、支払い方法を更新してもう一度試してください。このエラーは、次の理由で発生する可能性があります。

- 支払い方法が見つからない、無効、またはサポートされていない。
- 支払いが拒否された。
- Amazon Internet Services Private Limited (AISPL) アカウントでは、契約料金モデルによる新規購入の際、デビットカードまたはクレジットカードの使用が制限されています。AISPL アカウントをお持ちの場合は、[AWS カスタマーサービス](#)に連絡してデフォルトの支払い方法を更新してください。詳細については、AWS Marketplace ブログウェブサイトの「[を使用する AISPL のお客様のクレジットカードおよびデビットカードの購入の制限 AWS Marketplace](#)」を参照してください。
-

更新された支払い方法は、新しい購入が利用可能になるまでに最大 7 日かかる場合があります。トラブルシューティングについては、[サポート](#)にお問い合わせください。

サポートされている通貨

次のリストには AWS、Amazon Web Services EMEA SARL、Amazon Web Services Australia、Amazon Web Services Japan G.K. でサポートされている既存の通貨がすべて含まれています。

Note

Amazon Internet Services Private Limited (AISPL) は現在 でサポートされていないため、インドルピー (INR) はサポートされている通貨ではありません AWS Marketplace。詳細については、「[AWS アカウント アカウントと AWS India アカウントの違いは何ですか？](#)」を参照してください。

プライベートオファーおよびその他のトランザクションの通貨処理：

プライベートオファー契約を EUR、GBP、AUD、または両替で締結している場合は、サブスクリプションを通じてその通貨で請求書を直接受け取ります。その他のすべての購入 (パブリックサブスクリプション、使用料金、プライベートオファーなど) については、請求書は USD になります。ただ

し、これらの USD 請求書は、サポートされている任意の現地通貨で支払うことができます。現地通貨を選択した場合、金額は請求時に USD-to-local 為替レートを使用して計算されます。

AWS は、日次外国為替レートを使用して通貨換算を計算します。一括 pay-as-you-go の請求書には、その月の最終日からの料金が使用されます。各請求書で使用されている特定の為替レートを確認できます。

アマゾン ウェブ サービスでサポートされている通貨は次のとおりです。

- オーストラリアドル (AUD)
- 英国ポンド (GBP)
- カナダドル (CAD)
- デンマーククローネ (DKK)
- ユーロ (EUR)
- 香港ドル (HKD)
- 日本円 (JPY)
- ニュージーランドドル (NZD)
- ノルウェークローネ (NOK)
- シンガポールドル (SGD)
- 南アフリカランド (ZAR)
- スウェーデンクローナ (SEK)
- スイスフラン (CHF)
- 米ドル (USD)

Amazon Web Services EMEA SARL でサポートされている通貨は次のとおりです。

- 英国ポンド (GBP)
- デンマーククローネ (DKK)
- ユーロ (EUR)
- ノルウェークローネ (NOK)
- 南アフリカランド (ZAR)
- スウェーデンクローナ (SEK)
- スイスフラン (CHF)
- 米ドル (USD)

Amazon Web Services Australia でサポートされている通貨は次のとおりです。

- オーストラリアドル (AUD)
- 米ドル (USD)

Amazon Web Services Japan G.K. でサポートされている通貨は次のとおりです。

- 日本円 (JPY)
- 米ドル (USD)

指定通貨の変更

AWS Marketplace 購入は、に指定した通貨で表示されます AWS アカウント。[AWS Billing and Cost Management コンソール](#)で、アカウントに指定されている通貨を変更できます。手順については、「AWS Billing ユーザーガイド」の「[請求の支払いに使用する通貨の変更](#)」を参照してください。ただし、[米ドル以外の通貨](#)でプライベートオファーを承諾した場合、サブスクリプションが終了するまで、オファーに選択された通貨で請求書が引き続き届きます。契約書は、[自分のサブスクリプション] ページでご確認いただけます。

Note

希望通貨を変更すると、送金手順が変更されます。更新された送金手順を表示するには、AWS Marketplace 請求書を参照するか、[AWS Billing and Cost Management コンソール](#)のアカウント設定ページを参照してください。

支払い方法と支払い時期

次の表は、プライベートオファーおよびパブリックサブスクリプションにおける契約および使用量ベースの料金の請求方法を示しています。

プライベートオファーのサブスクリプション

料金モデル	「請求」
契約	契約ベースの料金モデルでは、購入者には次のいずれかの方法で請求されます。

料金モデル	「請求」
	- カスタム請求スケジュールを含む分割プラン。販売者が定義した日付の 00:00 UTC に請求されます。請求書には、購入者の支払い手順が含まれています。 - サブスクリプション直後に前払い料金が発生します。
使用量 (従量制)	毎月 2 日目または 3 日目の 00:00 UTC に請求され、他の AWS 料金と組み合わせて請求されます。

パブリックサブスクリプション (セルフサービス購入)

料金モデル	「請求」
契約	サブスクリプション直後に前払い料金が発生します。
使用量 (従量制)	毎月 2 日目または 3 日目の 00:00 UTC に請求され、他の AWS 料金と組み合わせて請求されます。

送金手順の更新

欧州、中東、アフリカ (EMEA) を AWS アカウント 拠点とする で、トルコと南アフリカを除く EMEA 対象販売者からソフトウェア製品を購入したお客様は、Amazon Web Services EMEA SARL から請求書を受け取ります。Amazon Web Services EMEA SARL (AWS Europe) 請求書には AWS、Inc. とは異なる送金手順があります。 [AWS Billing and Cost Management コンソール](#) にサインインすると、請求書に送金情報が表示されます。請求書の送金情報部分に記載されている銀行口座は、Amazon Web Services EMEA SARL を介した AWS クラウド サービスの購入とは異なります。Amazon Web Services EMEA SARL は、ルクセンブルクのライセンスされた電子金融機関である Amazon Payments Europe, S.C.A. を AWS Marketplace 請求書の支払いプロセッサとして使用します。すべての請求は、全額決済される必要があります。請求金額の全額に満たない支払いは、お客様の銀行口座に返金されます。

次の表は、取引の種類、取引主体、対応する送金手順 (請求書の「電子送金詳細」に記載されているアカウント名) の概要を示しています。

取引の種類	取引主体	送金手順
AWS クラウド サービスの購入	Amazon Web Services EMEA SARL	Amazon Web Services EMEA SARL
対象 AWS Marketplace 販売者	Amazon Web Services EMEA SARL	Amazon Payments Europe, S.C.A.
対象外 AWS Marketplace の販売者	AWS 株式会社	AWS

送金手順のために残高証明書を請求するには、請求またはアカウントのサポートを選択し、[\[AWSへのお問い合わせ\]](#) でアカウントおよび請求サポートケースを作成するか、<awsflux-receivables-support@email.amazon.com> まで E メールメッセージを送信してください。

通貨設定をサポート対象通貨に変更する方法の詳細については、「AWS Billing ユーザーガイド」の[「請求書の支払いに使用する通貨の変更」](#)を参照してください。

Amazon Web Services EMEA SARL では、電子送金、MasterCard、VISA、American Express のクレジットカードによる支払いを受け付けています。Diners Club または Discover のクレジットカードはご利用いただけません。

詳細については、「[AWS Marketplace 購入者の税務ヘルプ](#)」を参照してください。

AWS Marketplace 製品の返品

顧客は、AWS Marketplace 製品の払い戻しのタイプをリクエストできます。AWS が販売する AWS Marketplace 製品については、[\[返金ポリシー\]](#) ページを参照し、AWS Support Center Console を使用してサポート問い合わせフォームを送信してください。サードパーティーによって製品が販売された場合は、[\[製品の詳細\]](#) ページの返金ポリシーを確認してください。AWS Marketplace サブスクリプションのソフトウェア料金は、製品の販売者に支払われ、返金は販売者に直接要求する必要があります。AWS Marketplace 販売者は、各自の AWS Marketplace ページに返金ポリシーを記載する必要があります。

AWS Marketplace での購入に関連する返金の詳細については、「AWS Marketplace 販売者ガイド」の次のトピックを参照してください。

- [返金](#)
- [製品の料金](#)

 Note

プライベートオファーに関連するすべての返金については、販売者にお問い合わせください。

プライベートマーケットプレイス

Private Marketplace を使用すると、組織内のユーザーが何から調達できるかを制御できます AWS Marketplace。管理者は、承認された製品の厳選されたカタログを使用して、カスタマイズされた調達エクスペリエンスを組織内のさまざまな対象者に提供できます。Private Marketplace は [AWS Organizations](#)、すべての AWS アカウントを 1 か所で管理するためのサービスであると統合されています。

複数のエクスペリエンスを作成して、組織全体、AWS 組織単位 (OUs)、または AWS アカウントを管理し、ビジネスニーズの変化に応じて調達コントロールを調整できます。内の組織構造を更新すると AWS Organizations、Private Marketplace はそれに応じてガバナンスを更新します。カスタム名とメッセージングを使用して、各エクスペリエンスに会社のブランドを追加することもできます。これにより、ユーザーは調達エクスペリエンスに関する詳細情報を得ることができます。

Private Marketplace を使用して管理エクスペリエンスを設定すると、組織内のユーザーは、組織のポリシーと標準に準拠した審査済み製品のみを購入してデプロイできます。AWS Marketplace カタログ全体を参照し、追加の製品をリクエストできます。管理者は、ユーザーリクエストを表示し、これらのリクエストを承認または拒否できます。Private Marketplace は、ユーザーがリクエストを作成するとき、および管理者がこれらのリクエストを承認または拒否するときに Amazon EventBridge イベントを発行します。承認プロセスを合理化し、タイムリーな更新を受け取るために、管理者とユーザーはこれらのイベントの E メール通知を設定できます。詳細については、「[Private Marketplace の通知](#)」を参照してください。

Note

Private Marketplace のレガシーバージョンは、2025 年 11 月 15 日に廃止されます。現在のバージョンを使用するには、の管理アカウントの管理者が Private Marketplace の統合を作成 AWS Organizations する必要があります。統合ステータスを確認するには、「」を参照してください [Private Marketplace 設定の表示](#)。

管理者向けの Private Marketplace

Private Marketplace は、組織の管理アカウントまたはサービスの委任管理者であるメンバーアカウントに管理アクションを制限します。管理者は、[AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess](#) 管理ポリシーに AWS Identity and Access Management (IAM) アクセス許可が含まれている必要があります。

このセクションでは、AWS Marketplace コンソールを使用して Private Marketplace を管理する方法について説明します。AWS Marketplace Catalog API を使用して Private Marketplace を管理することもできます。詳細については、AWS Marketplace API リファレンスの「[プライベートマーケットプレイスの使用](#)」を参照してください。

前提条件

Private Marketplace を使用するには、すべての機能を有効に AWS Organizations して で管理されている 1 つ以上の AWS アカウントが必要です。

- [チュートリアル: 組織の作成と設定を使用して組織を作成します。](#)
- 一括請求機能のみを持つ既存の組織がある場合は、[Organizations で組織のすべての機能を有効にするを使用して、すべての機能](#)を有効にします。

との統合 AWS Organizations

Private Marketplace エクスペリエンスの作成を開始し、それを使用してユーザーが購入できるものを制御できるようにするには AWS Marketplace、Organizations で信頼されたアクセスを有効にし、サービスにリンクされたロールを作成する必要があります。

での信頼されたアクセス AWS Organizations

Organizations で信頼されたアクセスを有効にして、ユーザーに代わって組織とそのアカウントでタスクを実行できる信頼されたサービスを Private Marketplace にする必要があります。詳細については、「[Using AWS Organizations with other AWS services](#)」(他の AWS のサービスでの AWS Organizations の使用) を参照してください。

Organizations での信頼されたアクセスは、Private Marketplace が Organizations 構造の変更とガバナンスを同期させるために不可欠です。信頼されたアクセスを無効にすると、Private Marketplace ガバナンスが完全にオフになります。すべての対象者は Private Marketplace エクスペリエンスとの関連付けを解除され、組織内のすべてのユーザーは任意の製品を調達できます AWS Marketplace。

Important

- 必要なサービスにリンクされたロールも作成する AWS Marketplace コンソールを使用して、信頼されたアクセスを有効にすることを強くお勧めします。Organizations コンソールまたは API を使用して信頼されたアクセスを有効にした場合、サービスにリンクされたロールは作成されません。まず、AWS Identity and Access Management (IAM) を使用してサービスにリンクされたロールを作成する必要があります。

- 組織全体に Private Marketplace ガバナンスを必要としないことが確実にない限り、信頼されたアクセスを無効にしないでください。組織の一部のガバナンスを無効化または更新する方法は、それほど破壊的ではありません。詳細については、「[エクスペリエンス設定の更新](#)」および「[エクスペリエンスのオーディエンスの関連付けの管理](#)」を参照してください。

Private Marketplace のサービスにリンクされたロール

管理アカウントで `AWSServiceRoleForPrivateMarketplaceAdmin` サービスにリンクされたロールを作成する必要があります。これには、Organizations からデータにアクセスし、ユーザーに代わって Private Marketplace リソースを管理するために必要なアクセス許可が含まれます。サービスにリンクされたロールの詳細については、「[でロールを使用して Private Marketplace を設定する AWS Marketplace](#)」を参照してください。

Note

Organizations の統合なしで Private Marketplace を使用している場合、または Organizations がない個々のアカウントを管理するために Private Marketplace を使用している場合、2024 年 2 月 16 日以降に起動された新機能を使用することはできません。

最新の機能を使用するには、Organizations 管理アカウントの管理者が Private Marketplace の統合を作成する必要があります。これは、AWS Marketplace コンソールを使用して Private Marketplace を管理するための前提条件です。Private Marketplace を管理するウェブサイトは、2025 年 11 月 15 日に廃止されます。また、統合は、組織単位 (OU) サポートおよび以下のトピックに記載されているユーザーリクエスト通知の機能を使用するためにも必要です。

- [AWS Marketplace が組織単位の Private Marketplace カタログの管理をサポートするようになりました](#)
- [AWS Marketplace が Private Marketplace の通知をサポートするようになりました](#)

入門

開始するには、サービスにリンクされたロールを作成し、で信頼されたアクセスを有効にすることで Private Marketplace を有効にします AWS Organizations。このアクションは、[AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess](#) 管理ポリシーの AWS Identity and Access Management (IAM) アクセス許可を持つロールまたはユーザーを使用して、組織の管理アカウントが

らのみ実行できます。このポリシーには、Private Marketplace の有効化、設定、管理に必要なすべてのアクセス許可があります。

Private Marketplace の有効化

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [設定] を選択します。
3. Private Marketplace 設定で統合の編集を選択します。
4. 組織全体で信頼されたアクセスを有効にするを選択します。
5. このアカウントの Private Marketplace サービスにリンクされたロールを作成するを選択します。
6. [統合を作成する] を選択します。

AWS Marketplace コンソールからこの統合を元に戻すことはできません。IAM コンソールを使用してサービスにリンクされたロールを削除するか、Organizations コンソールを使用して信頼されたアクセスを無効にします。

Note

AWS Marketplace コンソールのナビゲーションペインの Private Marketplace の開始方法ページにアクセスして、Private Marketplace を有効にすることもできます。

委任管理者の登録

組織で Private Marketplace を有効にしたら、信頼できるアカウントを委任管理者として登録できます。これにより、委任管理者アカウントが組織内で Private Marketplace エクスペリエンスを作成および管理できるようにすることで、管理アカウント管理者の作業が軽減されます。さらに、Organizations は委任管理者アカウントに、組織構造、メンバーシップ、ポリシーを表示するための読み取り専用アクセス権を付与します。詳細については、[「Organizations と連携する AWS サービスの委任管理者」](#)を参照してください。

の委任管理者を登録する手順

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [設定] を選択します。
3. Private Marketplace 設定で新しい管理者を登録するを選択します。

4. 委任管理者として登録する AWS アカウント ID を入力します。アカウントは、組織のメンバーである必要があります。
5. このアカウントの Private Marketplace サービスにリンクされたロールを作成するを選択します。
6. [登録] を選択します。

委任管理者はいつでも削除でき、必要に応じて別のアカウントを登録できます。

Private Marketplace の概念

このトピックでは、Private Marketplace の主要な概念の一部について説明します。

エクスペリエンス

Private Marketplace エクスペリエンスは、組織内のユーザーが調達できるものを制御できるカスタムブランドを持つ承認済み製品の厳選されたカタログです AWS Marketplace。ユーザーを管理するには、ユーザーを含む対象者をライブエクスペリエンスに関連付けます。対象者は、組織全体、組織単位 (OUs)、または組織内のアカウントです。さまざまな対象者に対して、特定の調達コントロールを使用して複数のエクスペリエンスを作成できます。

エクスペリエンスステータス

エクスペリエンスのステータスによって、エクスペリエンスがユーザーを管理できるかどうかが決まります。エクスペリエンスには 2 つのステータスがあります。

- ライブ – エクスペリエンスはアクティブであり、エクスペリエンスが関連付けられている対象者のユーザーを管理します。管理者は引き続き更新を行い、製品を管理できます。
- ライブではない – エクスペリエンスは作成されますが、ユーザーを管理するためにはまだ利用できません。管理者は引き続き更新を行い、設定を構成することができます。ユーザーの準備ができたら、Live に設定できます。

エクスペリエンスモード

エクスペリエンスのモードによって、エクスペリエンスを更新してユーザーを管理するために使用できるかどうかが決まります。エクスペリエンスには 2 つのモードがあります。

- アクティブ – アクティブなエクスペリエンスを更新し、ユーザーを管理するために使用できます。アクティブなエクスペリエンスでは、引き続き更新を行い、製品を管理できます。

- アクティブなエクスペリエンスがライブで、対象者に関連付けられている場合、その対象者のすべてのユーザーはエクスペリエンスによって管理されます。
- アクティブなエクスペリエンスがライブでない場合、オーディエンスに関連付けられている場合でも、ユーザーは管理されません。
- アーカイブ済み – アーカイブされたエクスペリエンスを変更してユーザーを管理するために使用することはできません。アーカイブされたエクスペリエンスを再度使用する場合は、そのエクスペリエンスを再アクティブ化する必要があります。エクスペリエンスのアーカイブは、エクスペリエンスをソフトに削除し、必要に応じて再アクティブ化して再使用できるアクティブな使用を防ぐと考えることができます。

対象者

Organizations の各階層単位 - 組織、組織単位 (OUs)、またはアカウント - は、エクスペリエンスの対象者になることができます。Organizations 階層の組織構造では、対象者をノードと考えることができます。[組織構造](#)の詳細については、AWS Organizations ユーザーガイドを参照してください。

Private Marketplace を使用すると、ビジネスニーズに基づいて、組織内のさまざまな対象者に特定の調達エクスペリエンスを提供できます。これを行うには、エクスペリエンスを対象者に関連付けます。

エクスペリエンスは対象者階層を流れます。上位レベルで適用すると、下位のすべてのレベルが自動的に継承されます。継承されたエクスペリエンスを上書きするには、より低いレベルの対象者を別のエクスペリエンスに関連付けることができます。

関連付けられた対象者

エクスペリエンスは、関連するオーディエンスとしてまとめて複数のオーディエンスに直接関連付けることができます。

エクスペリエンスが Live の場合、関連するオーディエンスを管理します。関連する対象者のユーザーは、エクスペリエンスで承認された製品を調達することのみが許可されます。関連付けられた対象者は、組織階層の上位レベルに関連付けられたエクスペリエンスから製品承認を継承しません。

エクスペリエンスがライブでない場合、関連するオーディエンスは管理されません。関連付けられた対象者は、組織階層の上位レベルに関連付けられた最初のライブエクスペリエンスから製品承認を継承します。

管理エクスペリエンス

対象者は、一度に 1 つのエクスペリエンスによってのみ管理されます。これは管理エクスペリエンスと呼ばれます。エクスペリエンスが対象者を管理している場合、その対象者のユーザーは、エクスペリエンスで承認された製品を調達することのみが許可されます。管理エクスペリエンスは、エクスペリエンスのステータス、関連する対象者、組織階層によって決まります。

管理エクスペリエンスとその対象者の関係は、対象者がエクスペリエンスに直接関連付けられている場合は関連付け、より高いレベルのエクスペリエンスから継承する場合は継承できます。エクスペリエンス継承の仕組みについては[ガバナンス階層](#)、「」を参照してください。

デフォルトの管理エクスペリエンス

デフォルトの管理エクスペリエンスは、他の Live エクスペリエンスに直接関連する組織単位とアカウントを除き、組織全体を管理します。組織全体を管理するには、デフォルトの管理エクスペリエンスを設定することをお勧めします。デフォルトの管理エクスペリエンスは、組織内のすべてのユーザーに対して承認する製品でキュレートする必要があります。

組織のデフォルトの管理エクスペリエンスを設定するには、エクスペリエンスを作成し、組織内で調達を承認する製品を選択し、組織のルートを実験エクスペリエンスの対象者として関連付けます。エクスペリエンスを Live に設定すると、組織内のユーザーは、デフォルトの管理エクスペリエンスで承認した AWS Marketplace 製品の調達のみが許可されます。詳細については、[Private Marketplace の設定](#)「」でエクスペリエンスを作成および設定する手順を参照してください。

特定の調達ニーズを持つ組織単位 (OUs) またはアカウントがある場合は、承認済み製品のさまざまなセットで追加のエクスペリエンスを作成し、それらの対象者に関連付けることができます。

ガバナンス階層

Private Marketplace は、[Organizations](#) の階層に沿った階層ガバナンスを提供します。Private Marketplace を使用すると、複数のエクスペリエンスを作成し、組織全体、AWS 組織単位 (OUs)、または AWS アカウントに関連付けることができます。これにより、ビジネスニーズの変化に応じて調達ガバナンスをスケールできます。Organizations 内の組織階層を更新すると、Private Marketplace はそれに応じてガバナンスを更新します。

さまざまなレベルのオーデイエンスの関連付けと、それぞれの効果を次に示します。エクスペリエンスのステータスもガバナンスを決定する要素であることに注意してください。エクスペリエンスは、Live に設定されている場合にのみ対象者を管理します。以下に説明する効果は、ライブエクスペリエンスを前提としています。対象者に関連するエクスペリエンスがライブでない場合、対象者は次の上位レベルでライブエクスペリエンスを継承します。

- 組織の関連付け – エクスペリエンスを組織のルートに関連付けると、組織内のすべての OUs とアカウントがエクスペリエンスを継承します。組織内のすべてのユーザーはエクスペリエンスによって管理され、エクスペリエンスで承認された製品の調達のみが許可されます。
- OU の関連付け – エクスペリエンスを特定の OU に関連付けると、階層のより高いレベルで設定されたエクスペリエンスは継承されません。その OU または子 OU の直下にあるアカウントは、その OU に関連付けられたエクスペリエンスを継承します。その OU または子 OU の直下にあるアカウントのユーザーは、エクスペリエンスによって管理され、エクスペリエンスで承認された製品の調達のみが許可されます。
- アカウントの関連付け – エクスペリエンスを特定のアカウントに関連付けると、階層のより高いレベルで設定されたエクスペリエンスは継承されません。アカウントのユーザーはエクスペリエンスによって管理され、エクスペリエンスで承認された製品の調達のみが許可されます。

つまり、Live で組織階層内のアカウントに最も近いエクスペリエンスが有効になり、そのアカウントを管理します。

次の例では、組織でのエクスペリエンスがさまざまなアカウントを管理する方法について説明します。

- 組織には、組織全体に適用されるデフォルトのエクスペリエンスがあります。組織内のすべてのアカウントは、このデフォルトのエクスペリエンスで承認された製品の調達のみが制限されます。
- 財務部門には、ライブで組織単位 (OU) に関連付けられている独自のユニットエクスペリエンスがあります。この OU のすべてのアカウントは、財務ユニットエクスペリエンスで承認された製品のみを調達することに限定されます。デフォルトのエクスペリエンスで利用可能な製品にはアクセスできません。
- 個々のアカウントは、アカウント A と呼び、ライブで特に関連付けられている独自のエクスペリエンスを持ちます。アカウント A のユーザーは、アカウント A エクスペリエンスで承認された製品のみを調達できます。
- 別の部門であるマーケティング部門には、ユニットエクスペリエンスは作成されていますが、まだライブではありません。これはマーケティング部門の OU に関連付けられています。ただし、このエクスペリエンスはライブではないため、マーケティング OU のアカウントは引き続きデフォルトのエクスペリエンスによって管理されます。デフォルトのエクスペリエンスで承認された製品のみを調達でき、ライブではないマーケティングユニットエクスペリエンスの製品は調達できません。

マネージド製品

管理者は、組織内のエクスペリエンスから製品を承認または拒否できます。これらはマネージド製品と呼ばれます。ユーザーのサブセットが製品を調達できるように、いずれかのエクスペリエンスで製品を承認できます。別のエクスペリエンスでは、同じ製品が拒否され、別のユーザーのセットによる調達が許可されない可能性があります。

Private Marketplace には、製品を管理し、エクスペリエンスにおける製品の可用性を視覚化する複数の方法が用意されています。詳細については、以下のトピックを参照してください。

- [ガバナンスの詳細の表示と製品の管理](#)
- [エクスペリエンスでの製品の管理](#)
- [エクスペリエンス内の製品の承認ステータス](#)

Private Marketplace の設定

組織内のさまざまな対象者向けに、特定の調達コントロールとカスタマイズされたブランドを使用して、複数の Private Marketplace エクスペリエンスを作成できます。Private Marketplace には、エクスペリエンスを作成および設定するためのマルチステップウィザードが用意されています。

トピック

- [エクスペリエンスの設定](#)
- [対象者の選択 \(オプション\)](#)
- [製品の選択 \(オプション\)](#)
- [ブランディングのカスタマイズ \(オプション\)](#)
- [エクスペリエンスの確認と作成](#)

Note

オプションのステップをスキップし、作成後にエクスペリエンスを更新できます。オプションのステップをスキップしてデフォルト設定を使用すると、承認された製品や関連する対象者がいなくてもエクスペリエンスがライブになります。対象者をこのエクスペリエンスに関連付けるまで、対象者は有効になっていません。対象者に関連付けられている場合、対象者のユーザーが製品を調達することはできません AWS Marketplace。これにより、ユーザーは製品の調達リクエストを送信できます。

エクスペリエンスの設定

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
 1. ナビゲーションペインで、プライベートマーケットプレイスの下のダッシュボードを選択します。
 2. エクスペリエンスの作成 を選択します。
2. 名前や説明などのエクスペリエンスの詳細を指定します。これは、管理者がこのエクスペリエンスを追跡するために使用する内部の名前と説明です。エンドユーザーにはこれらのフィールドは表示されません。
 1. エクスペリエンスの名前を入力します。
 2. (オプション) エクスペリエンスの説明を入力します。
3. (オプション) ステータスとリクエストを更新する
 1. デフォルトでは、エクスペリエンスはライブステータスで作成され、対象者に関連付けられているときに有効になります。エクスペリエンスをすぐに有効にしない場合は、「Not live as Experience status」を選択します。
 2. デフォルトでは、製品リクエストが有効になっているため、ユーザーはより多くの製品をエクスペリエンスに追加するようリクエストできます。ユーザーに製品のリクエストを許可しない場合は、製品調達リクエストに対して無効を選択します。
4. (オプション) タグを指定します。

タグは、AWS リソースに割り当てるカスタム属性ラベルです。タグを使用して、AWS リソースを識別して整理します。多くの AWS のサービスではタグ付けがサポートされるため、さまざまなサービスまでリソースの関連を示すことができリソースに同じタグを割り当てることができます。

 1. [タグ] で [タグを追加] を選択します。
 2. 新しいタグのキーと、オプションで値を入力します。

対象者の選択 (オプション)

この手順は省略可能です。ライブステータスに設定され、対象者に関連付けられるまで、エクスペリエンスはユーザーを管理しないことに注意してください。

対象者を選択するには

1. ツリー構造に移動して、ターゲットオーディエンスを選択します。表示される階層には、組織構造が反映され、Organizations で管理する組織単位 (OUs) とアカウントが表示されます。
2. 組織全体、組織単位 (OUs)、またはアカウントを選択できます。別のエクスペリエンスに直接関連付けられているオーディエンスを選択すると、そのエクスペリエンスとの関連付けが解除され、作成されるエクスペリエンスに関連付けられます。
3. 選択したら、次へを選択します。

Note

- 対象者を選択するときは、上位レベルで対象者をすでに選択している場合は、階層の下位レベルで対象者を選択しないでください。エクスペリエンスは階層を流れます。上位レベルで適用すると、下位のすべてのレベルが自動的に継承されます。たとえば、対象者として OU を選択した場合は、OU のアカウントを選択しないでください。OU のアカウントは自動的にエクスペリエンスを継承します。
- ガバナンスを上書きし、上位レベルから継承しない場合にのみ、下位レベルで対象者を選択します。

製品の選択 (オプション)

この手順は省略可能です。製品を選択しない場合、承認された製品の空のカatalogを使用してエクスペリエンスが作成されます。このようなエクスペリエンスを使用してユーザーを管理する場合、ユーザーによる製品の調達には許可されません AWS Marketplace。

製品を選択するには

1. 作成するエクスペリエンスで承認する AWS Marketplace 製品を選択します。エクスペリエンスに関連付けられた対象者のユーザーは、これらの製品をサブスクライブできます。
2. 選択したら、次へを選択します。

ブランディングのカスタマイズ (オプション)

この手順は省略可能です。

ブランドをカスタマイズするには

1. 作成するエクスペリエンスをブランド化するための名前とオプションの説明を入力します。この名前と説明は、ユーザーのプライベートマーケットプレイスページに表示されます。これらを使用して、キュレートする Private Marketplace エクスペリエンスの詳細をユーザーに提供できます。
2. [次へ] を選択して続行します。

エクスペリエンスの確認と作成

Private Marketplace エクスペリエンスの設定を確認し、必要に応じて設定を編集します。設定に満足したら、エクスペリエンスの作成を選択します。

Private Marketplace は、エクスペリエンスを作成およびセットアップするための複数の変更タイプを含む Catalog API 変更セットを開始します。変更内容は、「変更セット」ページで追跡できます。CreateExperience 変更セットに成功ステータスが表示されると、エクスペリエンスの準備が整います。選択内容と組織のサイズによっては、変更セットが完了するまでに最大数時間かかる場合があります。更新を表示するには、処理が完了したらコンソールを更新します。

Private Marketplace の管理

ユーザーからのリクエストの管理、エクスペリエンスへの追加製品の承認、エクスペリエンスの追加オーディエンスとの関連付け、組織のニーズに合わせてブランドの更新を行うことができます。

- ユーザーリクエストを管理するには、「」を参照してください[ユーザーリクエストの管理](#)。
- 複数のエクスペリエンスで製品を一括承認または拒否するには、「」を参照してください[製品の一括管理](#)。
- エクスペリエンスを更新するには、「」を参照してください[エクスペリエンスの管理](#)。
- ユーザーのガバナンスを更新するには、「」を参照してください[オーディエンスを管理する](#)。

すべての管理アクションについて、Private Marketplace は 1 つ以上の変更タイプを使用して Catalog API 変更セットを開始します。詳細については、変更の追跡方法の詳細については、[変更の表示](#)「」を参照してください。

ユーザーリクエストの管理

組織内のエクスペリエンスに対して製品調達リクエストを有効にした場合、エンドユーザーは追加の製品の承認をリクエストできます。ユーザーが製品をリクエストすると、Amazon EventBridge イベ

ントを受け取ります。これらのイベントの E メール通知を設定する方法の詳細については、[Private Marketplace の通知](#)「」を参照してください。

製品調達リクエストは、エクスペリエンスに対してデフォルトで有効になっています。この設定は、エクスペリエンスごとに表示および編集できます。

エクスペリエンスの製品調達リクエスト設定を更新するには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、Private Marketplace でエクスペリエンスを選択します。
3. 更新するエクスペリエンスを選択します。
4. 詳細の表示を選択して、エクスペリエンスのすべての詳細を含むページを表示します。
5. 詳細タブから編集を選択します。
6. エンドユーザーが調達のために製品をリクエストすることを許可する場合は、「製品調達リクエストで有効」を選択します。それ以外の場合は、Disabled を選択します。
7. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

保留中のユーザーリクエストに対してアクションを実行するには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、プライベートマーケットプレイスの下のダッシュボードを選択します。
3. リクエストの表示 を選択します。これにより、古い Private Marketplace ウェブサイトが開き、保留中のリクエストのリストが表示されます。
4. このページから複数のリクエストされた製品を承認するには、まずリクエストされた各製品の名前の横にあるチェックボックスを選択し、次に承認を選択します。同様に、[拒否] を選択して、1 つまたは複数の選択したリクエストを拒否することもできます。
5. リクエストに関する詳細を表示するには、そのリクエストの詳細を表示するを選択します。

製品の一括管理

一括更新ウィザードを使用して、複数のエクスペリエンスで製品を一括承認または拒否できます。このウィザードは、ダッシュボードの製品の一括更新アクションを使用して起動できます。マネージド製品またはすべての製品テーブルで製品を選択し、承認または拒否を選択することで、このウィザードにアクセスすることもできます。

製品を一括管理するには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、プライベートマーケットプレイスの下のダッシュボードを選択します。
3. 一括更新製品を選択します。
4. 一括更新アクションの承認または拒否を選択します。
5. 製品を検索し、すべての製品テーブルから選択します。
6. [次へ] を選択します。
7. アクティブなエクスペリエンステーブルからエクスペリエンスを選択します。
8. [次へ] を選択します。
9. 選択内容を確認し、必要に応じて編集します。
10. 満足したら、更新を選択します。

エクスペリエンスの管理

エクスペリエンスの作成、すべてのエクスペリエンスのリストの表示、エクスペリエンスページからの編集を行うことができます。これには、アクティブおよびアーカイブされたエクスペリエンスが含まれます。

トピック

- [エクスペリエンスの表示と更新](#)
- [エクスペリエンス設定の更新](#)
- [エクスペリエンスのオーディエンスの関連付けの管理](#)
- [エクスペリエンスでの製品の管理](#)
- [ブランド設定のカスタマイズ](#)

エクスペリエンスの表示と更新

アクティブなエクスペリエンスを使用してユーザーを管理できます。アクティブなエクスペリエンスでは、引き続き更新を行い、製品を管理できます。アクティブなエクスペリエンスがライブで、対象者に関連付けられている場合、その対象者のすべてのユーザーはエクスペリエンスによって管理されます。アクティブなエクスペリエンスがライブでない場合、オーディエンスに関連付けられている場合でも、ユーザーは管理されません。

アーカイブされたエクスペリエンスを変更してユーザーを管理するために使用することはできません。アーカイブされたエクスペリエンスを再度使用する場合は、そのエクスペリエンスを再アクティブ化する必要があります。

エクスペリエンスを表示および更新するには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、Private Marketplace でエクスペリエンスを選択します。
3. 更新するエクスペリエンスを選択します。
4. 詳細の表示を選択して、エクスペリエンスのすべての詳細を含むページを表示します。編集するには、[エクスペリエンス設定の更新](#)「」、[エクスペリエンスのオーディエンスの関連付けの管理](#)「」、[エクスペリエンスでの製品の管理](#)「」、[「](#)、[「](#)を参照してください[ブランド設定のカスタマイズ](#)。
5. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

エクスペリエンス設定の更新

エクスペリエンスの内部名と説明、ステータス、管理モードを更新できます。製品調達リクエストを有効または無効にすることもできます。

対象者に関連付けられているエクスペリエンスのステータスを Live に設定しても、その対象者のユーザーの既存のサブスクリプションと使用状況は中断されません。例えば、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスで実行されているアクティブな Amazon マシンイメージ (AMIs) は中断されません。エクスペリエンスがライブで、対象者に関連付けられている場合、すべての新しいサブスクリプションまたは更新は、エクスペリエンスで承認された製品に限定されます。

エクスペリエンスの設定を編集するには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、プライベートマーケットプレイスでエクスペリエンスを選択します。
3. 更新するエクスペリエンスを選択します。
4. 詳細の表示を選択して、エクスペリエンスのすべての詳細を含むページを表示します。設定を編集するには、詳細タブで編集を選択します。
5. エクスペリエンスを有効にして関連する対象者を管理する場合は、Live as Experience ステータスを選択します。エクスペリエンスを有効にしない場合、またはエクスペリエンスをオフにする場合は、エクスペリエンスステータスとしてライブではないを選択します。

6. エクスペリエンスの管理モードは、ステータスがライブでない場合にのみ更新できます。編集を許可するにはアクティブ、編集を禁止するにはアーカイブを選択します。
7. エンドユーザーが調達のために製品をリクエストすることを許可する場合は、「製品調達リクエストで有効」を選択します。無効を選択すると、エンドユーザーは製品調達リクエストを作成できなくなります。
8. エクスペリエンスの名前と説明は、エクスペリエンスの詳細セクションで編集できます。これは、管理者がこのエクスペリエンスを追跡するために使用する内部の名前と説明です。エンドユーザーにはこれらのフィールドは表示されません。
9. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

エクスペリエンスのオーディエンスの関連付けの管理

追加の対象者をエクスペリエンスに関連付けることも、既存の対象者をエクスペリエンスから関連付け解除することもできます。このセクションでは、エクスペリエンスの詳細ページを使用して、エクスペリエンスからオーディエンスの関連付けと関連付け解除を行う方法について説明します。

追加の対象者をエクスペリエンスに関連付けるには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、Private Marketplace でエクスペリエンスを選択します。
3. 更新するエクスペリエンスを選択します。
4. 詳細の表示を選択して、エクスペリエンスのすべての詳細を含むページを表示します。
5. 関連付けられたオーディエンスタブを選択し、追加のオーディエンスを追加します。
6. ツリー構造に移動して、ターゲットオーディエンスを選択します。表示される階層には、組織構造が反映され、組織で管理する組織単位 (OUs) とアカウントが表示されます。
7. 組織全体、組織単位 (OUs)、またはアカウントを選択できます。別のエクスペリエンスに直接関連付けられているオーディエンスを選択すると、そのエクスペリエンスとの関連付けが解除され、現在のエクスペリエンスに関連付けられます。
8. 選択したら、次へを選択します。
9. 選択した対象者を確認してエクスペリエンスに関連付け、必要に応じて編集します。
10. 選択内容に満足したら、関連付けを選択します。

エクスペリエンスでの製品の管理

エクスペリエンス内の製品は、複数の方法で管理できます。このセクションでは、詳細ページを使用して特定のエクスペリエンスで製品を承認または拒否する方法について説明します。

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、Private Marketplace でエクスペリエンスを選択します。
3. 更新するエクスペリエンスを選択します。
4. 詳細の表示を選択して、エクスペリエンスのすべての詳細を含むページを表示します。
5. 製品タブを選択します。
6. 製品を選択し、マネージド製品またはすべての製品テーブルから承認または拒否を選択します。
7. モーダルで、承認または拒否を選択して、製品を承認または拒否します。

以下の方法で、エクスペリエンスから製品を承認または拒否することもできます。

- ダッシュボードから – 「」を参照してください[製品の一括管理](#)。
- 製品詳細ページから – 「」を参照してください[エクスペリエンス内の製品の承認ステータス](#)。

ブランド設定のカスタマイズ

ユーザーが承認済みカタログで製品を調達していることがわかるように、エクスペリエンスを名前と説明でブランド化できます。

エクスペリエンスのブランドをカスタマイズするには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、Private Marketplace でエクスペリエンスを選択します。
3. 更新するエクスペリエンスを選択します。
4. 詳細の表示を選択して、エクスペリエンスのすべての詳細を含むページを表示します。
5. ブランディング設定タブを選択します。
6. 作成するエクスペリエンスのブランド化の名前と説明を更新します。この名前と説明は、ユーザーのプライベートマーケットプレイスページに表示されます。これらを使用して、キュレートする Private Marketplace エクスペリエンスの詳細をユーザーに提供できます。
7. 変更を保存を選択してブランドを更新します。

オーディエンスを管理する

Organizations の各階層単位 - 組織、組織単位 (OUs)、またはアカウント - は、エクスペリエンスの対象者になることができます。対象者をライブエクスペリエンスに関連付けると、対象者のすべてのユーザーはエクスペリエンスによって管理され、エクスペリエンスで承認された製品の調達のみが許可されます。

組織内のすべての対象者は、対象者ページから表示できます。このページが開き、対象者の名前と ID、現在の管理経験、関連付けの関係を示す階層ビューが表示されます。組織単位に切り替えると、組織単位 (OUs) のリストを表示できます。アカウントに切り替えて、アカウントのリストを表示することもできます。

管理エクスペリエンス列には対象者を管理するエクスペリエンスが表示され、リレーションシップ列には対象者がエクスペリエンスに直接関連付けられているかどうか (関連付けられている)、またはより高いレベルからエクスペリエンスを継承するかどうか (継承されている) が表示されます。継承された関係の関連付けを解除できないため、継承されたステータスを示す対象者はグレー表示されます。

新しいオーディエンスの関連付けを作成するには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、Private Marketplace で対象者を選択します。
3. [アソシエーションを作成する] を選択してください。
4. ツリー構造に移動して、ターゲットオーディエンスを選択します。表示される階層には、組織構造が反映され、Organizations で管理する組織単位 (OUs) とアカウントが表示されます。
5. 組織全体、組織単位 (OUs)、またはアカウントを選択できます。別のエクスペリエンスに直接関連付けられているオーディエンスを選択すると、そのエクスペリエンスとの関連付けが解除され、選択したエクスペリエンスに関連付けられます。
6. 選択したら、次へを選択します。
7. アクティブなエクスペリエンスを選択します。選択したエクスペリエンスがライブでない場合、そのエクスペリエンスは有効ではなく、関連付ける対象者も管理されません。このウィザードでは、エクスペリエンスステータスを Live に更新できます。
8. 選択したら、次へを選択します。
9. 選択した対象者を確認してエクスペリエンスに関連付け、必要に応じて編集します。
10. 選択内容に満足したら、関連付けを選択します。

エクスペリエンスから対象者の関連付けを解除するには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、Private Marketplace で対象者を選択します。
3. ツリー構造に移動して、関連付けを解除する対象者を選択します。
4. エクスペリエンスからの関連付けの解除を選択します。
5. 関連付けを解除すると、エクスペリエンスを継承する下位レベルの OUs とアカウントも影響を受けることに注意してください。現在関連付けられているエクスペリエンスから誤って対象者の関連付けを解除しないようにするには、テキストボックス **confirm** に「**Y**」と入力して追加の同意を提供します。
6. [関連付け解除] を選択してください。

対象者の関連付けを編集するには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、Private Marketplace で対象者を選択します。
3. ツリー構造に移動して、関連付けを編集する対象者を選択します。
4. [Edit association] を選択します。
5. アクティブなエクスペリエンスを選択します。すべての対象者は、選択したエクスペリエンスに関連付けられ、関連付けられている以前のエクスペリエンスから関連付けが解除されます。
6. 選択したエクスペリエンスが Not Live の場合、そのエクスペリエンスは有効ではなく、関連付ける対象者を管理します。このウィザードでは、エクスペリエンスステータスを Live に更新できます。
7. 選択したら、変更を保存を選択します。

Private Marketplace のモニタリング

Private Marketplace には、組織で設定したガバナンスコントロールを視覚化する複数の方法が用意されています。

- 統合ステータスを表示するには、「**Y**」を参照してください [Private Marketplace 設定の表示](#)。
- ガバナンスの詳細については、「**Y**」を参照してください [ガバナンスの詳細の表示と製品の管理](#)。
- 組織階層内のさまざまな対象者のガバナンスを表示するには、「**Y**」を参照してください [ガバナンス階層の表示](#)。

- アクティブなエクスペリエンスの製品の承認ステータスを表示するには、「」を参照してください [エクスペリエンス内の製品の承認ステータス](#)。
- 変更の進行状況を追跡し、Private Marketplace 管理アクションの監査証跡を表示するには、「」を参照してください [変更の表示](#)。

Private Marketplace 設定の表示

Private Marketplace のすべての機能を使用するには、 の管理アカウントの管理者が Private Marketplace の統合を作成 AWS Organizations する必要があります。これは、AWS Marketplace コンソールを使用して Private Marketplace を管理するための前提条件です。統合は、次の最新情報の投稿で説明されている組織単位 (OU) サポートとユーザーリクエスト通知機能を使用するためにも必要です。

- [AWS Marketplace が組織単位の Private Marketplace カタログの管理をサポートするようになりました](#)
- [AWS Marketplace が Private Marketplace の通知をサポートするようになりました](#)

統合ステータスを表示するには

Note

管理ポリシーを持つロールまたはユーザーで、組織のAWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess管理アカウントを使用する必要があります。非管理アカウントから、またはアクセス許可が不十分な統合ステータスを表示しようとすると、「ステータスを特定できません」というメッセージが表示されます。

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [設定] を選択します。
3. サービスにリンクされたロールと信頼されたアクセスの値を確認します。
 - 正常に作成されたと表示される場合、組織は Private Marketplace の統合を作成しています。
 - Not created と表示されている場合、組織は Private Marketplace の統合を作成していません。

ガバナンスの詳細の表示と製品の管理

ダッシュボードページには、組織内の Private Marketplace ガバナンスの概要が表示され、デフォルトの管理エクスペリエンス、ライブエクスペリエンスの数、組織内のエクスペリエンスで管理しているすべての製品が表示されます。

ガバナンスの詳細を表示して製品を管理するには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、プライベートマーケットプレイスの下のダッシュボードを選択します。
3. 組織全体を管理するデフォルトの管理エクスペリエンスと、ガバナンスの詳細コンテナのライブエクスペリエンスの合計数を表示します。デフォルトの管理エクスペリエンスを使用することをお勧めします。詳細については、「[デフォルトの管理エクスペリエンス](#)」を参照してください。
4. マネージド製品タブで、いずれかのエクスペリエンスで承認または拒否したすべての製品のリストを表示します。
5. ダッシュボードのアクションを使用して、新しいエクスペリエンスの作成、製品の一括管理、ユーザーリクエストの表示を行うこともできます。

ガバナンス階層の表示

Private Marketplace は、Organizations で設定した階層を使用して階層ガバナンスを提供します。対象者に関連するエクスペリエンスは、下位レベルの対象者が別のエクスペリエンスに直接関連付けられていない限り、すべての対象者を下位レベルで管理します。Organizations で階層を更新すると、変更は自動的に同期され、ガバナンスは Private Marketplace で更新されます。ガバナンスを視覚化するには、以下のセクションを参照してください。

- 組織内のすべての対象者の階層ビューについては、「」を参照してください[対象者](#)。
- 組織単位 (OU) のガバナンスの詳細については、「」を参照してください[組織単位 \(OU\) の詳細](#)。
- アカウントのガバナンスの詳細については、「」を参照してください[アカウントの詳細](#)。

トピック

- [対象者](#)
- [組織単位 \(OU\) の詳細](#)
- [アカウントの詳細](#)

対象者

対象者ページには、組織内のすべての対象者が、管理経験と関連付け関係とともに表示されます。このページを表示するには：

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、プライベートマーケットプレイスで対象者を選択します。
3. デフォルトの階層ビューを使用して、ネストされた組織単位 (OUs) とアカウントを表示する組織構造に移動します。
4. OUs、組織単位に切り替えます。
5. アカウントのリストを表示するには、Account に切り替えます。
6. 正確な ID を使用して OU またはアカウントを検索します。

管理エクスペリエンス列には、対象者を管理するエクスペリエンスが表示されます。関係列には、対象者がエクスペリエンスに直接関連付けられているかどうか (関連付けられている)、またはより高いレベルからエクスペリエンスを継承するかどうか (継承されている) が表示されます。

対象者は、ルートへのパスで最初のライブエクスペリエンスによって管理されます。詳細については、「[ガバナンス階層](#)」を参照してください。異なるレベルのアカウントを持つ OUs をネストした場合、対象者の管理経験を推測するのは簡単ではない場合があります。これを視覚化するには、OUs とアカウントの詳細ページを使用できます。

組織単位 (OU) の詳細

OU のガバナンスを表示するには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、Private Marketplace で対象者を選択します。
3. 正確な ID を使用して OU を検索します。ツリー構造に移動して OU を検索することもできます。
4. OU 名を選択します。
5. OU の詳細ページで、OU の現在の関連エクスペリエンスと管理エクスペリエンスを表示できます。現在関連付けられているエクスペリエンスが Live の場合も同じになります。現在関連付けられているエクスペリエンスがライブではないか、存在しない場合、管理エクスペリエンスは上位レベルから継承されます。
6. 子アカウントテーブルで OU の直接子アカウントを表示します。

7. 子組織単位テーブルで OUs の直接子 OU を表示します。

アカウントの詳細

アカウントのガバナンスを表示するには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、Private Marketplace で対象者を選択します。
3. 正確な ID を使用してアカウントを検索します。ツリー構造に移動してアカウントを検索することもできます。
4. アカウント名を選択します。
5. アカウントの詳細ページで、現在の関連エクスペリエンスとアカウントの管理エクスペリエンスを表示できます。現在関連付けられているエクスペリエンスが Live の場合も同様です。現在関連付けられているエクスペリエンスがライブではないか、存在しない場合、管理エクスペリエンスは上位レベルから継承されます。
6. 階層ビューコンテナで、アカウントから組織ルートまでの階層を表示します。各レベルでの管理エクスペリエンスを表示します。リーフからルートにツリーを横断することで、アカウントの管理エクスペリエンスがどのように解決されるかを視覚化できます。

エクスペリエンス内の製品の承認ステータス

Private Marketplace のすべてのテーブルの製品列のリンクをクリックすると、製品に関する簡単な説明と、AWS Marketplace 製品ページの追加の詳細を表示するリンクを含むページが開きます。これにより、アクティブなエクスペリエンスの製品承認ステータスを表示および管理できます。

製品承認ステータスを表示および管理するには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、Private Marketplace を選択します。
3. Private Marketplace のサブセクションのいずれかから、製品リンクを選択します。これにより、製品の詳細ページが開きます。
4. アクティブなエクスペリエンスタブには、すべてのアクティブなエクスペリエンスと、それぞれの製品承認ステータスが表示されます。
5. Experiences with product approved タブを選択すると、製品が承認されているすべてのエクスペリエンスが表示されます。

6. 製品拒否タブでエクスペリエンスを選択すると、製品が拒否されたすべてのエクスペリエンスが表示されます。
7. いずれかのタブからエクスペリエンスを選択し、製品の承認または製品の拒否を選択して、選択したエクスペリエンスから製品を承認または拒否します。

変更の表示

Private Marketplace の管理アクションは Catalog API を使用して実行されます。アクションは、Private Marketplace エンティティを作成または更新するための 1 つ以上の変更を含む変更セットとして開始されます。詳細については、AWS Marketplace API リファレンスの「[プライベートマーケットプレイスの使用](#)」を参照してください。

すべての Private Marketplace の変更セットは、変更セットページに表示されます。これには、APIs を直接呼び出すことで開始される変更セットも含まれます。

Private Marketplace 管理アクションのステータスを追跡するには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、プライベートマーケットプレイスでセットの変更を選択します。
3. 特定の変更セットを表示するには、変更セット ID を使用してフィルタリングします。また、成功、失敗、進行中、またはキャンセルのステータスを使用してフィルタリングすることもできます。
4. 変更タイプを選択し、詳細を表示を選択してすべての変更を表示します。
5. JSON レスポンスを含む詳細を表示するには、変更を選択します。
 1. 変更が失敗すると、JSON レスポンスの ErrorCode フィールドと ErrorMessage フィールドには原因の詳細が表示されます。
 2. 変更が成功したら、コンソールを更新して変更の更新を表示します。

AWS CloudTrail ログ記録

変更セットは 90 日間のみ保持されます。を使用して AWS CloudTrail、AWS Marketplace Catalog API へのすべての呼び出しをイベントとしてキャプチャできます。証跡を作成する場合は、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットへの CloudTrail イベントの継続的な配信を有効にすることができます。詳細については、AWS Marketplace Catalog API リファレンスの[CloudTrail を使用した AWS Marketplace Catalog API コールのログ記録](#)」を参照してください。

ベストプラクティス

デフォルトのエクスペリエンスを作成する

組織全体を管理するには、デフォルトの管理エクスペリエンスを設定することをお勧めします。このエクスペリエンスは、対象者として組織のルートに関連付けられ、すべてのユーザーに対して承認する製品でキュレートされている必要があります。これにより、直接関連付けられたエクスペリエンスを持たない組織単位 (OU) またはアカウントが、このデフォルトのエクスペリエンスのガバナンスに自動的に適用されるようになります。

委任された管理者の登録

管理アカウント管理者は、信頼されたメンバーアカウントを登録して、Private Marketplace の委任管理者として行動できます。これにより、委任管理者アカウントが組織内で Private Marketplace エクスペリエンスを作成および管理できるようにすることで、管理アカウント管理者の運用上の負担が軽減されます。また、セキュリティ上の理由から管理アカウントを使用する必要も最小限に抑えられます。

組織単位を活用する

組織階層を構築するときは、調達ニーズに合わせて OUs を構築します。これにより、エクスペリエンスを作成して OUs に関連付けることで、特定の調達コントロールを適用できます。これにより、メンテナンスのオーバーヘッドが軽減され、構造をシームレスに再利用できます AWS Organizations。で階層を更新すると AWS Organizations、変更は自動的に同期され、ガバナンスは Private Marketplace で更新されます。

個々のアカウントのガバナンスをカスタマイズする

包括的な組織や OU エクスペリエンスと一致しない特定の調達ニーズを持つ個々のアカウントがある場合は、エクスペリエンスを作成してカスタマイズし、個々のアカウントに関連付けることができます。これにより柔軟性が提供され、特定のアカウント要件に基づいてガバナンスを調整できます。

エクスペリエンスを定期的に監査する

古い製品が承認済みリストに残らないように、エクスペリエンス、関連する対象者、承認済み製品のリストを定期的に監査します。定期的なレビューは、Private Marketplace のセットアップの関連性とセキュリティを維持するのに役立ちます。

すべての管理アクションをモニタリングする

変更セットページを使用して、すべての Private Marketplace 管理アクションを追跡します。を使用することもできます AWS CloudTrail。詳細については、「[変更の表示](#)」を参照してください。

承認された製品リストを管理する

組織全体で現在使用されているすべての AWS Marketplace 製品が Private Marketplace エクスペリエンスに含まれていることを確認します。Private Marketplace は既存のサブスクリプションを中断しませんが、サブスクリプションまたは新しいサブスクリプションへの変更は、製品がユーザーのエクスペリエンスで承認された場合にのみ許可されます。Private Marketplace ガバナンスを有効にする前に、未承認製品の使用を中止する計画を立てることをお勧めします。

不要になったエクスペリエンスをアーカイブする

テスト用に複数のエクスペリエンスを作成する場合は、それらをアーカイブすることをお勧めします。これにより、より良い監視を可能にするエクスペリエンスの効率的なリストが確保されます。

との統合 AWS Organizations

Organizations の統合なしで Private Marketplace を使用している場合、または Organizations がない個々のアカウントを管理するために Private Marketplace を使用している場合、2024 年 2 月 16 日以降に起動された新機能を使用することはできません。最新の機能を使用するには、の管理アカウントの管理者が Private Marketplace の統合を作成 AWS Organizations する必要があります。これは、AWS Marketplace コンソールを使用して Private Marketplace を管理するための前提条件です。Private Marketplace を管理するウェブサイトは、2025 年 11 月 15 日に廃止されます。統合は、次の最新情報の投稿で説明されている組織単位 (OU) サポートとユーザーリクエスト通知の機能を使用するためにも必要です。

- [AWS Marketplace が組織単位の Private Marketplace カタログの管理をサポートするようになりました](#)
- [AWS Marketplace が Private Marketplace の通知をサポートするようになりました](#)

ユーザー向けの Private Marketplace

Private Marketplace エクスペリエンスによって管理されているユーザーは、エクスペリエンスで承認された AWS Marketplace 製品を調達することのみが許可されます。Private Marketplace エクスペリエンスで追加の製品を承認するように管理者にリクエストできる場合があります。

このセクションでは、Private Marketplace エクスぺリエンスによって管理されるユーザーの調達エクスペリエンスについて説明します。

Private Marketplace エクスぺリエンス

Organizations 管理者は、調達できるものをコントロールする Private Marketplace エクスぺリエンスを作成して提供している場合があります AWS Marketplace。

Private Marketplace エクスぺリエンスによって管理されているかどうかを確認するには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、プライベートマーケットプレイスの下のマーケットプレイスを選択します。
3. Marketplace ページには、管理者が調達を制御するために設定した Private Marketplace エクスぺリエンスの詳細が表示されます AWS Marketplace。このページは、管理者を含むすべてのユーザーが、ナビゲーションペインの Private Marketplace の下に常に表示されます。
4. Private Marketplace エクスぺリエンスによって管理されている場合は、ウェルカムメッセージと、管理者によって設定されたエクスペリエンスの説明が表示されます。エクスペリエンスで承認された製品の購入に制限されます。
 1. 製品をブラウズするには、Explore your Private Marketplace を選択します。購入が承認された製品には、承認済み製品のラベルが付いています。
 2. 製品調達リクエストで有効ステータスが表示された場合は、調達のために追加の製品を承認するように管理者にリクエストできます。無効になっている場合、製品調達リクエストを作成することはできません。
5. 管理者が Private Marketplace エクスぺリエンスを設定していない場合は、「あなたは Private Marketplace エクスぺリエンスによって管理されていません」と表示されます。で任意の製品を参照して調達できます AWS Marketplace。

承認済み製品の表示

Private Marketplace エクスぺリエンスによって管理されている場合は、エクスペリエンスで承認された製品の購入に制限されます。

承認済み製品を表示するには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。

2. ナビゲーションペインで、プライベートマーケットプレイスの下のマーケットプレイスを選択します。
3. Explore your Private Marketplace を選択します。
4. これにより、Private Marketplace 用に事前に選択された承認済み製品フィルターを含む製品の検出ページが開きます。ナビゲーションペインの Discover Products ページに直接アクセスすることもできます。
5. Private Marketplace の承認済み製品フィルターを選択すると、管理者によって購入が承認された製品のリストが表示されます。
6. Private Marketplace の承認済み製品フィルターのチェックを解除すると、すべての AWS Marketplace 製品を表示できます。購入が承認されている製品には、承認済み製品のラベルが付付けられます。

製品のサブスクライブ

Private Marketplace エクスペリエンスによって管理されているユーザーは、管理者によってエクスペリエンスで承認されたすべての製品をサブスクライブできます。

製品をサブスクライブするには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、製品の検出を選択します。
3. Private Marketplace エクスペリエンスによって管理されているユーザーの場合、Discover Products ページには、管理者によって購入が承認された製品のリストが表示されます。
4. 承認された製品を選択して、製品の詳細ページにアクセスします。製品を購入してデプロイする詳細については、「[購入者 AWS Marketplace としてを使用する](#)」を参照してください。

プライベート製品のサブスクライブ

一部の製品は一般公開されていません AWS Marketplace。これらの製品は、販売者からプライベートオファーを受けた場合にのみ表示されます。ただし、Private Marketplace 管理者がエクスペリエンスで製品を承認した場合にのみサブスクライブできます。このため、プライベートオファーは、AWS アカウントと組織の管理アカウント、または Private Marketplace の委任管理者アカウントの両方に拡張する必要があります。

プライベートオファーがユーザーアカウントと管理者アカウントの両方に拡張されると、Private Marketplace 管理者はエクスペリエンスで製品を承認できます。管理者が製品調達リクエストを有効

にしている場合は、製品をリクエストできます。詳細については、[Private Marketplace エクスぺリエンス](#)「」を参照して、リクエストを作成できるかどうかを確認してください。

製品が管理者から直接、またはリクエストによって承認されたら、他のプライベートオファーと同様に製品をサブスクライブできます。詳細については、[「プライベートオファーの表示とサブスクライブ」](#)を参照してください。

調達のための製品のリクエスト

ユーザーとして、Private Marketplace エクスぺリエンスにない製品の承認を管理者にリクエストできます。リクエストは、管理者が製品調達リクエストを有効にしている場合にのみ作成できます。詳細については、[Private Marketplace エクスぺリエンス](#)「」を参照して、リクエストを作成できるかどうかを確認してください。

製品をリクエストするには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace/> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、製品の検出を選択します。
3. 購入する製品を検索します。
4. Private Marketplace エクスぺリエンスで製品が承認されていない場合は、製品のリクエストボタンが付いた赤いバナーが表示されます。
5. 製品のリクエストを選択します。
6. 詳細を入力し、製品リクエストを選択してリクエストを送信します。管理者の場合は、リクエストを作成せずに製品を直接承認できるフォームにリダイレクトされます。
7. アカウントのユーザーが製品をリクエストし、管理者がリクエストを承認または拒否すると、Amazon EventBridge イベントを受け取ります。詳細については、これらのイベントの E メール通知を設定する方法の詳細については、[Private Marketplace の通知](#)「」を参照してください。

Private Marketplace の通知

プライベートマーケットプレイス管理者と購入者は、購入者が製品をリクエスト AWS Marketplace したとき、およびリクエストが承認または拒否されたときに、 から通知イベントを受け取ります。管理者は、AWS 組織内の任意のアカウントからリクエストの通知を受け取ります。購入者は、アカウントからのリクエストの通知のみを受け取ります。通知イベントには、製品の詳細と販売者名が含まれます。

Private Marketplace 通知イベントの詳細については、このガイドの後半にある[AWS Marketplace 「イベントの Amazon EventBridge 通知」](#)を参照してください。

ターゲットタイプ別 EventBridge ルールを作成するには、「Amazon EventBridge ユーザーガイド」の「[Amazon EventBridge ルール](#)」の手順を実行します。

E メール通知設定を作成する

AWS ユーザー通知サービスを使用して、E メールを含む複数のチャネルを通じてイベントの通知を取得できます。次の手順では、E メール通知設定を作成する方法について説明します。通知設定は、通知を受け取るサービスとイベントルールのコンテナとして機能します。イベントルールは、AWS コンソールで通知を生成するイベントと、使用する配信チャネルを指定します。

通知設定を作成するには

1. AWS マネジメントコンソールにサインインし、AWS ユーザー通知に移動します。
2. 通知設定を選択し、通知設定の作成を選択します。
3. 名前 ボックスに、設定の名前を入力します。
4. ページのイベントルールセクションに、次の値を入力します。
 1. AWS サービス名で、AWS Marketplace Private Marketplace を選択します。
 2. イベントタイプで、以下から 1 つ以上を選択します。
 - a. 製品リクエストが作成される
 - b. 製品リクエストが承認される
 - c. 製品リクエストが拒否される
 3. [リージョン] には、[us-east-1] を選択します。プライベートマーケットプレイスは、そのリージョンでのみ動作します。
5. 集約設定では、5 分以内に受信を選択することをお勧めします。
6. 配信チャネルで、E メールのチェックボックスを選択し、次の操作を行います。
 1. 受信者ボックスに、通知受信者の E メールアドレスを入力します。
 2. 必要に応じて、別の受信者を追加を選択し、受信者ボックスに別の E メールアドレスを入力します。最大 99 人の受信者を入力できます。
 3. (オプション) タグの管理で、新しいタグを追加を選択し、キーと値ボックスに値を入力します。
7. 完了したら、通知設定の作成を選択します。

E メール配信チャネルの使用に加えて、AWS コンソールモバイルアプリとチャット配信チャネルを使用することもできます。次のリンクでは、これらのチャネルの詳細とユーザー通知について説明します。

- [「AWS コンソールモバイルアプリケーションユーザーガイド」](#)の「AWS コンソールモバイルアプリケーションとは」。
- チャットアプリケーションの Amazon Q Developer 管理者ガイドの [「AWS Chatbot とは」](#)。
- 「ユーザーガイド」の「通知[設定の作成](#)」。

のプライベートマーケットプレイス AWS Marketplace (レガシーバージョン)

Important

このドキュメントは、2025 年 11 月 15 日に廃止される Private Marketplace のレガシーバージョンを対象としています。最新バージョンのドキュメントについては、「」を参照してください [プライベートマーケットプレイス](#)。現在のバージョンを使用するには、の管理アカウントの管理者が Private Marketplace の統合を作成 AWS Organizations する必要があります。統合ステータスを確認するには、「」を参照してください [Private Marketplace 設定の表示](#)。

プライベートマーケットプレイスは AWS アカウント、ビジネスユーザーやエンジニアリングチームなど、のユーザーがどの製品から調達できるかを制御します AWS Marketplace。これは上に構築されており AWS Marketplace、管理者は承認された独立系ソフトウェアベンダー (ISVs) と自社ポリシーに準拠した製品の厳選されたデジタルカタログを作成およびカスタマイズできます。のユーザーは、プライベートマーケットプレイスから承認済み製品 AWS アカウント を検索、購入、デプロイし、利用可能なすべての製品が組織のポリシーと標準に準拠していることを確認できます。

[AWS Organizations](#) を使用すると、すべてのアカウントの管理を一元化し、アカウントを組織単位 (OU) にグループ化し、異なるアクセスポリシーを各 OU に割り当てることができます。組織全体、一つ以上の OU、または、組織内の 1 つ以上のアカウントに関連付けられた複数のプライベートマーケットプレイスエクスペリエンスを作成し、それぞれに独自の承認済み製品一式を設定できます。AWS 管理者は、会社またはチームのロゴ、メッセージング、カラースキームを使用して、各プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスに会社のブランドを適用することもできます。

メモ

- ([プライベートオファー](#)を通じて) シェアされたプライベート製品をプライベートマーケットプレイスに追加できます。詳細については、「[プライベートマーケットプレイスで製品をサブスクライブする](#)」を参照してください。
- プライベートマーケットプレイスでは、EULA が AWS カスタマーアグリーメントまたはの使用 AWS を管理する とのその他の契約によって管理 EULAs されている製品に対して、お客様は自動的に権利を付与されます AWS のサービス。顧客にはデフォルトで既にこれらの製品を利用する資格があるため、プライベートマーケットプレイスで承認した製品のリストには含まれません。お客様は Service Catalog を使用してこれらの製品のデプロイを管理できます。

トピック

- [製品の詳細ページの表示](#)
- [通知の設定](#)
- [ユーザー向けプライベートマーケットプレイス](#)
- [管理者向けのプライベートマーケットプレイス](#)

製品の詳細ページの表示

ユーザーは、アカウントを管理するプライベートマーケットプレイスで許可されている製品のみをサブスクライブできます。製品の詳細ページを閲覧したり表示したりすることはできますが、サブスクリプションが有効になっているのは、プライベートマーケットプレイスに追加した製品のみです。製品がプライベートマーケットプレイスに含まれていない場合は、ページ上部に赤色のバナーが表示され、製品が AWS Marketplaceでの調達が承認されていないことを示します。

ソフトウェアリクエストが有効な場合、ユーザーは製品詳細ページで [リクエストを作成] を選択できます。ユーザーが [リクエストを作成] を選択すると、製品をプライベートマーケットプレイスで入手可能にするためのリクエストが管理者に送信されます。この機能の詳細については、「[プライベートマーケットプレイスでの製品に対するユーザーリクエストを管理する](#)」を参照してください。

通知の設定

プライベートマーケットプレイス管理者と購入者は、購入者が製品をリクエスト AWS Marketplace したとき、およびリクエストが承認または拒否されたときに、 から通知イベントを受け取ります。

管理者は、AWS 組織内の任意のアカウントからリクエストの通知を受け取ります。購入者は、アカウントからのリクエストの通知のみを受け取ります。通知イベントには、製品の詳細と販売者名が含まれます。

プライベートマーケットプレイス通知イベントの詳細については、このガイドで後述されている「[AWS Marketplace イベントの Amazon EventBridge 通知](#)」を参照してください。

ターゲットタイプ別 EventBridge ルールを作成するには、「Amazon EventBridge ユーザーガイド」の「[Amazon EventBridge ルール](#)」の手順を実行します。

E メール通知設定を作成する

AWS User Notifications サービスを使用して、E メールを含む複数のチャネルを介してイベントの通知を受信できます。次の手順では、E メール通知設定を作成する方法について説明します。通知設定は、通知を受け取るサービスとイベントルールのコンテナとして機能します。イベントルールは、AWS コンソールで通知を生成するイベントと、使用する配信チャネルを指定します。

通知設定を作成するには

1. AWS マネジメントコンソールにサインインし、AWS ユーザー通知に移動します。
2. 通知設定を選択し、通知設定の作成を選択します。
3. 名前 ボックスに、設定の名前を入力します。
4. ページのイベントルールセクションに、次の値を入力します。
 - AWS サービス名で、AWS Marketplace Private Marketplace を選択します。
 - イベントタイプで、次のいずれかを選択します。
 - 製品リクエストが作成される
 - 製品リクエストが承認される
 - 製品リクエストが拒否される

Note

必要に応じて、イベントタイプごとに通知設定を作成できます。

- [リージョン] には、[us-east-1] を選択します。プライベートマーケットプレイスは、そのリージョンでのみ動作します。
5. 集約設定では、5 分以内に受信を選択することをお勧めします。

6. 配信チャネルで、Eメールのチェックボックスを選択し、次の操作を行います。
 - a. 受信者ボックスに、通知受信者のEメールアドレスを入力します。
 - b. 必要に応じて、別の受信者を追加を選択し、受信者ボックスに別のEメールアドレスを入力します。最大99人の受信者を入力できます。
 - c. (オプション) タグの管理 で、新しいタグを追加を選択し、キーと値ボックスに値を入力します。

 Note

AWS コンソールモバイルアプリとチャットチャネルの配信オプションの使用の詳細については、以下のリンクを参照してください。

7. 完了したら、通知設定の作成を選択します。

Eメール配信チャネルの使用に加えて、AWS コンソールモバイルアプリとチャット配信チャネルを使用することもできます。以下のリンクから、これらのチャネルとに関する詳細情報にアクセスできます User Notifications。

- 「[AWS コンソールモバイルアプリケーションユーザーガイド](#)」のAWS 「コンソールモバイルアプリケーションとは」。
- Chatbot とは、[AWS 「チャットアプリケーションの Amazon Q Developer 管理者ガイド」の「Chatbot」](#)です。
- 「User Notifications ユーザーガイド」の[「通知設定の作成」](#)。

ユーザー向けプライベートマーケットプレイス

ユーザーとしてプライベートマーケットプレイスで製品をサブスクライブするには、製品の詳細ページに移動し、[続行] を選択します。これにより、製品のサブスクリプションページにリダイレクトされます。サブスクリプションページで、設定を選択してから、[サブスクライブ] を選択できます。

プライベートマーケットプレイスで製品が承認されていない場合、[Subscribe (サブスクライブ)] は使用できません。現時点で製品の調達が承認されていないことを示す赤色のバナーがページ上部に表示されます。ソフトウェアリクエストが有効な場合は、[Create request (リクエストの作成)] を選択して、プライベートマーケットプレイスに製品を追加するよう管理者にリクエストを送信できます。

プライベートマーケットプレイスで製品をサブスクライブする

AWS Marketplace には、一般公開されていない製品もあります。これらの製品は、販売者からプライベートオファーを受けた場合にのみ表示されます。ただし、プライベートマーケットプレイスの管理者が最初にプライベートマーケットプレイスに製品を追加した場合にのみ、サブスクライブできます。このため、プライベートオファーは、自分の AWS アカウントと組織のプライベートマーケットプレイス管理者を含むアカウントの両方にまで拡大する必要があります。プライベートオファーがユーザーと管理者の両方に拡大されたら、プライベートマーケットプレイスの管理者はプライベートマーケットプレイスに製品を追加できます。製品が承認されると、他のプライベートオファーと同様に製品をサブスクライブできます。

プライベートマーケットプレイス向け製品を再リクエストする

ユーザーは、管理者にプライベートマーケットプレイスにない製品の追加をリクエストできます。リクエストを行うには、製品の詳細ページに移動して [Create request (リクエストの作成)] を選択し、製品をプライベートマーケットプレイスに追加するためのリクエストを管理者宛てに入力して、送信します。リクエストのステータスを追跡するには、左側のドロップダウンメニューで [Your Private Marketplace Requests (プライベートマーケットプレイスのリクエスト)] を選択します。

管理者向けのプライベートマーケットプレイス

プライベートマーケットプレイスを作成および管理するには、管理アカウントまたはプライベートマーケットプレイスの委任管理者アカウントにサインインする必要があります。また、AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess IAM ポリシーで AWS Identity and Access Management (IAM) アクセス許可を保持している必要があります。このポリシーをユーザー、グループ、およびロールに適用するための詳細については、「[the section called “プライベートマーケットプレイスの管理者の作成”](#)」を参照してください。

Note

プライベートマーケットプレイス AWS Organizations の統合がない現在のプライベートマーケットプレイスのお客様は、IAM AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess ポリシーを持つ組織内の任意のアカウントからプライベートマーケットプレイスを作成および管理できます。

このセクションでは、AWS Marketplace ウェブサイトを通じてプライベートマーケットプレイス管理者として実行できるタスクについて説明します。AWS Marketplace Catalog APIを使用してプ

プライベートマーケットプレイスを管理することもできます。詳細については、「AWS Marketplace Catalog API リファレンス」の「[Working with a private marketplace](#)」を参照してください。

プライベートマーケットプレイスの開始方法

プライベートマーケットプレイスの使用を開始するには、AWS 管理アカウントにサインインし、[プライベートマーケットプレイス](#)に移動して、次の前提条件を有効にします。

- 信頼されたアクセス – の信頼されたアクセスを有効にする必要があります。これにより AWS Organizations、組織の管理アカウントは、AWS サービスの AWS Organizations データへのアクセスを許可または取り消すことができます。信頼されたアクセスを有効にすることは、プライベートマーケットプレイスがと統合 AWS Organizations し、プライベートマーケットプレイスを組織内の信頼されたサービスとして指定するために不可欠です。
- サービスにリンクされたロール – プライベートマーケットプレイスのサービスにリンクされたロールを有効にする必要があります。このロールは管理アカウントにあり、ユーザーに代わってプライベートマーケットプレイスリソースを記述 AWS Organizations および更新するためにプライベートマーケットプレイスが必要とするすべてのアクセス許可が含まれています。サービスにリンクされたロールの詳細については、「[ロールを使用して AWS Marketplaceのプライベートマーケットプレイスを構成する](#)」を参照してください。

Note

現在のプライベートマーケットプレイス顧客は、[プライベートマーケットプレイス] の管理者ページで [設定] を選択すると、プライベートマーケットプレイスの設定を有効化できます。の信頼されたアクセスを有効に AWS Organizations し、サービスにリンクされたロールを作成することで、OUsプライベートマーケットプレイスエクスペリエンスに関連付ける、委任された管理者を登録するなどの機能を利用できます。有効化すると、管理アカウントと専任管理者アカウントのみがマーケットプレイスエクスペリエンスを作成および管理できます。既存のリソースは、管理アカウントに転送され、専任管理者のみと共有されます。信頼されたアクセスを無効にすると、組織のプライベートマーケットプレイスガバナンスが削除されます。プライベートマーケットプレイスにはアカウントグループは表示されません。組織のガバナンスをさまざまなレベルで表示するには、[組織構造] ページを使用します。ご質問やサポートが必要な場合は、[お問い合わせください](#)。

プライベートマーケットプレイスを管理する

プライベートマーケットプレイスは、左ペインの [設定] にある [プライベートマーケットプレイス] 管理者ページで管理できます。管理アカウント管理者と委任管理者は、このページを使用して、デフォルトのプライベートマーケットプレイスやライブエクスペリエンスの数などのプライベートマーケットプレイスの詳細を確認します。

管理アカウント管理者は、このページを使用して以下の設定を管理することもできます。

委任された管理者

管理アカウント管理者は、委任管理者と呼ばれる指定されたメンバーアカウントにプライベートマーケットプレイス管理アクセス許可を委任できます。プライベートマーケットプレイスの委任管理者としてアカウントを登録するには、管理アカウントの管理者は、信頼できるアクセスとサービスにリンクされたロールが有効になっていることを確認し、[新しい管理者の登録] を選択した後に、12 桁の AWS アカウント番号を指定して、[送信] を選択する必要があります。

管理アカウントと委任された管理者アカウントは、エクスペリエンスの作成、ブランド設定の更新、オーディエンスの関連付けまたは関連付け解除、製品の追加または削除、保留中のリクエストの承認または拒否などのプライベートマーケットプレイス管理タスクを実行できます。

信頼されたアクセスとサービスにリンクされたロール

管理アカウント管理者は、プライベートマーケットプレイスで次の機能を有効にできます。

Note

現在のプライベートマーケットプレイス顧客は、[プライベートマーケットプレイス] の管理者ページで [設定] を選択すると、プライベートマーケットプレイスの設定を有効化できます。AWS Organizations の信頼されたアクセスを有効化し、サービスにリンクされたロールを作成すると、OU とプライベートマーケットプレイスエクスペリエンスの関連付けや専任管理者の登録などの機能を使用できるようになります。有効化すると、管理アカウントと専任管理者アカウントのみがマーケットプレイスエクスペリエンスを作成および管理できます。既存のリソースは、管理アカウントに転送され、専任管理者のみと共有されます。信頼されたアクセスを無効にすると、組織のプライベートマーケットプレイスガバナンスが削除されます。プライベートマーケットプレイスにはアカウントグループは表示されません。組織のガバナンスをさまざまなレベルで表示するには、[組織構造] ページを使用します。ご質問やサポートが必要な場合は、[お問い合わせください](#)。

- 信頼されたアクセス – AWS Organizations に対して、信頼されたアクセスを有効化します。これにより、組織の管理アカウントは、AWS サービスの AWS Organizations データを提供するか、無効にします。信頼されたアクセスを有効にすることは、プライベートマーケットプレイスと AWS Organizations を統合し、組織内で信頼されたサービスとしてプライベートマーケットプレイスを指定するために重要です。
- サービスにリンクされたロール – プライベートマーケットプレイスのサービスにリンクされたロールを有効にする必要があります。このロールは管理アカウントに存在し、ユーザーに代わってプライベートマーケットプレイスが AWS Organizations を記述し、プライベートマーケットプレイスリソースを更新するためのすべてのアクセス許可を含みます。サービスにリンクされたロールの詳細については、「[ロールを使用して AWS Marketplace のプライベートマーケットプレイスを構成する](#)」を参照してください。

プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスの作成

プライベートマーケットプレイスは 1 つ以上のプライベートマーケットプレイスエクスペリエンスで構成されます。エクスペリエンスは、1 つ以上のオーディエンスを関連付けることができる製品のサブセットおよび関連するブランディングです。エクスペリエンスは、組織全体、1 つ以上の OU または組織内の 1 つ以上のアカウントに関連付けることができます。AWS アカウント が組織のメンバーでない場合は、1 つのアカウントに関連付けられた 1 つのプライベートマーケットプレイスエクスペリエンスがあります。プライベートマーケットプレイスを作成するには、[プライベートマーケットプレイス](#)に移動し、左側の [エクスペリエンス] ページを選択して、[エクスペリエンスを作成] を選択します。各エクスペリエンスでは、ロゴやタイトルを追加したり、組織のカラースキームを使用するようにユーザーインターフェイスをカスタマイズしたりできます。

Note

でプライベートマーケットプレイスを使用するには AWS Organizations、組織のすべての機能を有効にする必要があります。詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の「[組織内のすべての機能の有効化](#)」を参照してください。
AWS アカウント が組織のメンバーでない場合は、プライベートマーケットプレイスを使用するための前提条件ステップは必要ありません。

プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスを作成する

1. [\[プライベートマーケットプレイス\]](#) に移動します。

2. 左側のナビゲーションペインで、[エクスペリエンス]、[エクスペリエンスを作成] の順に選択します。
3. エクスペリエンスの名前を指定し、[エクスペリエンスを作成] を選択します。

プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスは、承認された商品やブランド要素なしで作成され、組織内のアカウントにも関連付けられていません。デフォルトでは、ライブになりません。マーケットプレイスエクスペリエンスの次のステップは次のとおりです。

1. [プライベートマーケットプレイスのオーディエンスを管理する](#)
2. [製品を追加する](#)
3. [プライベートマーケットプレイスのステータスを \[ライブ\] に変更する](#)

プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスのオーディエンスを管理する

オーディエンスとは、プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスに関連付けることができる組織または組織単位のグループ (OU) またはアカウントのことを示します。オーディエンスは、左側のペインの [エクスペリエンス] の [プライベートマーケットプレイス] 管理者ページから作成できます。

1 つ以上のオーディエンスをエクスペリエンスに関連付けることができます。オーディエンスを関連付けづけるまたは関連を解除する際、子 OU およびアカウントの管理エクスペリエンスが変更される場合があります。[組織構造] ページを使用して、関連付けの影響を受けるアカウントと OU を表示します。信頼されたアクセスを無効にすると、オーディエンスの関連付けが解除され、すべてのガバナンスが削除されます。

Note

プライベートマーケットプレイスから AWS Organizations 階層を表示し、組織のガバナンスを管理できます。プライベートマーケットプレイスを組織単位レベルで管理し、委任管理者を登録するには、[設定] ページから信頼されたアクセスとサービスにリンクされたロールを有効にします。ご質問やサポートが必要な場合は、[お問い合わせください](#)。

プライベートマーケットプレイスに製品を追加する

プライベートマーケットプレイスでは、で利用可能な幅広い製品カタログと AWS Marketplace、それらの製品のきめ細かな制御が提供されます。

Note

プライベートマーケットプレイスでは、EULA EULAs が AWS カスタマーアグリーメントまたは AWS の使用を管理する とのその他の契約に準拠するすべての製品に対して、自動的に権利が付与されます AWS のサービス。顧客にはデフォルトで既にこれらの製品を利用する資格があるため、プライベートマーケットプレイスで承認した製品のリストには含まれません。お客様は Service Catalog を使用してこれらの製品のデプロイを管理できます。

プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスに製品を追加するには

1. [プライベートマーケットプレイス] 管理者ページから、左側のナビゲーションペインで [エクスペリエンス] を選択します。次に、製品タブで、すべての AWS Marketplace 製品を選択します。製品名または販売者名で検索できます。
2. プライベートマーケットプレイスに追加する各製品の横にあるチェックボックスを選択してから、[Add to Private Marketplace] を選択します。

Note

赤いバナーの [プライベートマーケットプレイスに追加] ボタンを選択して、商品詳細ページから直接商品を追加することもできます。赤いバナーが製品ページに表示されていない場合、その商品は既にプライベートマーケットプレイスにあります。

左側のナビゲーションペインで [製品を一括追加/削除] を選択すれば、複数の製品を複数のエクスペリエンスに一度に追加することもできます。

プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスでの製品の確認

プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスで製品が承認されていることを確認するには

1. [プライベートマーケットプレイス] 管理者ページから、左側のナビゲーションペインで [エクスペリエンス] を選択します。
2. [承認された製品] を選択します。承認された製品はすべて承認済みリストに表示されます。

Note

編集しているエクスペリエンスに関連付けられたアカウントを使用していて、そのエクスペリエンスが有効になっている場合は、AWS Marketplace コンソール (<https://console.aws.amazon.com/marketplace>) で製品を直接表示することもできます。プライベートマーケットプレイスの一部であれば、検索結果のすべての製品に [調達の承認済み] のバッジが表示されます。

プライベート製品の使用

一部の製品は、一般公開されていません AWS Marketplace。これらの製品は、販売者からプライベートオファーを受けた場合にのみ表示されます。販売者からのプライベートオファーには、製品へのリンクが含まれています。ページ上部のバナーから、プライベートマーケットプレイスに製品を追加できます。

Note

組織内の別のアカウントからプライベート製品をサブスクライブする場合、販売者は AWS アカウント プライベートオファーに (製品をプライベートマーケットプレイスに追加するため) とユーザーのアカウント (製品をサブスクライブするため) の両方を含める必要があります。

プライベートマーケットプレイスからプライベート製品を削除するには、[AWS Marketplace サポートに連絡する](#) 必要があります。

プライベートマーケットプレイスのステータスを変更する

エクスペリエンスの製品リスト、マーケットプレイスのブランド設定、関連するアカウントグループに問題がなければ、プライベートマーケットプレイスを公開できます。[AWS プライベートマーケットプレイス] 管理者ページにある左側のナビゲーションペインで [エクスペリエンス] を選択し、有効にするエクスペリエンスを選択します。[設定] タブでは、プライベートマーケットプレイスのステータスを [ライブ] (有効) と [非ライブ] (無効) に変更できます。

プライベートマーケットプレイスがライブの場合、エンドユーザーは承認した製品のみを購入できます。プライベートマーケットプレイスを無効にした場合は、製品のリストが保持されます。ただし、プライベートマーケットプレイス無効にすると、AWS Organizations 組織のユーザーに対する制限が解除されます。その結果、パブリックな製品にサブスクライブできます AWS Marketplace。

プライベートマーケットプレイスをライブ化しても、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスで実行されているアクティブな Amazon マシンイメージ (AMI) が中断されることはありません。ベストプラクティスとして、組織全体で現在使用されているすべての AWS Marketplace 製品がプライベートマーケットプレイスに含まれていることを確認してください。また、プライベートマーケットプレイスをライブにする前に、未承認製品の使用を中止する計画を立てておくのもベストプラクティスです。プライベートマーケットプレイスの開始後は、すべての新規購読または更新は、プライベートマーケットプレイスのカタログで承認された製品によって管理されます。

プライベートマーケットプレイスでの製品に対するユーザーリクエストを管理する

ソフトウェアリクエスト機能を使用して、自分の Private Marketplace カタログに製品を追加するリクエストをユーザーが送信できるようにできます。ソフトウェアリクエストはデフォルトで有効になっており、プライベートマーケットプレイスが有効になっている間のみ設定を変更できます。

このページから、リクエストされた製品をいくつでも追加できます。追加するには、リクエストされた各製品の名前の横にあるチェックボックスをオンにし、[Add to Private Marketplace (プライベートマーケットプレイスに追加)] を選択します。同様に、[拒否] を選択して、1 つまたは複数の選択したリクエストを拒否することもできます。製品 (またはそのソフトウェアリクエスト) に関する詳細情報を表示するには、そのリクエストの [詳細] 列で [詳細を表示] を選択します。

製品リクエストを拒否する場合は、その理由を追加して、今後この製品がリクエストされないように (ブロック) できます。製品のブロックにより、プライベートマーケットプレイスに製品を追加できなくなることはありませんが、ユーザーは製品をリクエストできなくなります。

ユーザーリクエストを管理する

1. [プライベートマーケットプレイス] 管理者ページから、左側のナビゲーションペインで [エクスペリエンス] を選択します。
2. 管理するエクスペリエンスを選択します。
3. ユーザーリクエストを有効または無効にするには、[設定] タブを選択します。
4. 製品リクエストを表示するには、[製品] タブを選択します。ここから、ユーザーが自分の Private Marketplace カタログに追加した製品のリクエストを確認できます。

プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスをアーカイブする

プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスはアーカイブして削除できます。アーカイブされたエクスペリエンスは更新したり、組織内のアカウントを管理したりするために使用できません。アーカイブされたエクスペリエンスに関連付けられているオーディエンスがいる場合は、それらを別

のエクスペリエンスに関連付けられます。後でエクスペリエンスを使用する場合は、[いつでも再有効化できます](#)。管理アカウント管理者または委任管理者は、エクスペリエンスをアーカイブするアクセス許可を持っています。

 Note

エクスペリエンスをアーカイブする前に、そのエクスペリエンスを無効にする必要があります。エクスペリエンスの無効化について詳しくは、「[プライベートマーケットプレイスの状態を変更する](#)」を参照してください。

プライベートマーケットプレイスと AWS Organizations の統合がない現在のプライベートマーケットプレイスのお客様の場合、エクスペリエンスを作成したアカウントの管理者には、エクスペリエンスをアーカイブするアクセス許可があります。

1 つ以上のプライベートマーケットプレイスエクスペリエンスをアーカイブするには

1. [プライベートマーケットプレイス] 管理者ページから、左側のナビゲーションペインで [エクスペリエンス] を選択します。
2. [アクティブエクスペリエンス] タブで、1 つ以上のエクスペリエンスを選択します。
3. [エクスペリエンスをアーカイブ] を選択します。

 Note

1 つ以上のエクスペリエンスのステータスが「ライブ」になっている場合は、[エクスペリエンスをオフラインにする] を選択してオフラインにする必要があります。

4. エクスペリエンスをアーカイブするかどうかを確認するには、テキストボックスに **confirm** (すべて小文字) と入力します。
5. [Archive] (アーカイブ) を選択します。

 Note

エクスペリエンスを選択し、[設定] タブの [管理者] モードで [エクスペリエンスをアーカイブ] を選択し、[保存] を選択してもエクスペリエンスをアーカイブできます。

プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスを再有効化する

[アーカイブされた](#)マーケットプレイスエクスペリエンスを使用する場合は、いつでも再有効化できます。管理アカウント管理者または委任管理者は、エクスペリエンスを再有効化するアクセス許可を保有しています。

Note

プライベートマーケットプレイスと AWS Organizations の統合がない現在のプライベートマーケットプレイスのお客様の場合、エクスペリエンスを作成したアカウントの管理者には、エクスペリエンスを再アクティブ化するアクセス許可があります。

1 つ以上のプライベートマーケットプレイスエクスペリエンスを再有効するには

1. [プライベートマーケットプレイス] 管理者ページから、左側のナビゲーションペインで [エクスペリエンス] を選択します。
2. [アーカイブされたエクスペリエンス] タブで、1 つ以上のエクスペリエンスを選択します。
3. [再有効化] を選択します。
4. エクスペリエンスを再有効化するかどうかを確認するには、テキストボックスに **confirm** と入力します。
5. [再有効化] を選択します。

Note

エクスペリエンスを選択し、[設定] タブの [管理者] モードで [エクスペリエンスを再有効化] を選択し、[保存] を選択してもエクスペリエンスを再有効化できます。

のプライベートオファー AWS Marketplace

AWS Marketplace 販売者のプライベートオファー機能を使用すると、公開されていない販売者から製品の料金と EULA 条件を受け取ることができます。販売者と料金と条件を交渉し、販売者は指定した AWS アカウントのプライベートオファーを作成します。プライベートオファーを受け入れ、交渉価格と利用規約の受信を開始します。

プライベートオファーをサブスクライブしたら、プライベートオファーの製品の種類によっては、プライベートオファーの契約が有効期限に達すると、自動的に製品のパブリックオファーに移行するか、製品をサブスクライブしなくなります。

一括請求機能を使用している場合は AWS Organizations、組織の管理アカウントまたはメンバーアカウントからプライベートオファーを受け入れることができます。管理アカウントから承諾すると、プライベートオファーを組織内のすべてのメンバーアカウントと共有できます。以前この製品をサブスクライブしていたメンバーアカウントも、価格設定のメリットを受けるためには、新しいプライベートオファーを受け入れる必要があります。また、AMI およびコンテナ製品の場合は、AWS License Manager を使用して管理アカウントからのライセンスをメンバーアカウントと共有できます。製品をサブスクライブしていないメンバーアカウントは、製品をデプロイするためにプライベートオファーを受け入れる必要があります。

一括請求の詳細については、「AWS Billing ユーザーガイド」の「[組織の一括請求](#)」を参照してください。以下は、プライベートオファーを使い始める際に留意すべき重要なポイントです。

- AWS Marketplace 購入者は、プライベートオファーのためにサードパーティーの資金調達サービスにアクセスできます。詳細については、[「Customer Finance is now available in AWS Marketplace」](#)を参照してください。
- プライベートオファーを使用して購入するソフトウェア製品に違いはありません。プライベートオファーを使用して購入したソフトウェアは、プライベートオファーを使用せずにソフトウェアを購入した場合と同じように動作します。
- プライベートオファーで購入した製品サブスクリプションは、その他すべての AWS Marketplace 製品と同じように毎月の請求書に記載されています。詳細請求を使用して、AWS Marketplace 購入した各製品の使用状況を表示できます。各プライベートオファーは、内訳別に明細項目が表示されます。
- プライベートオファーをサブスクライブするのに、ソフトウェアの新しいインスタンスを起動する必要はありません。プライベートオファーを承諾すると、料金がプライベートオファーの料金に対応したものに更新されます。製品に 1-Click 起動機能がある場合は、ソフトウェアの新しいイン

スタンスをデプロイできます。製品の 1-Click 起動機能がデフォルトになっている場合は、新しいインスタンスを起動せずにプライベートオファーを承諾できます。新しいインスタンスをデプロイせずに起動するには、受理ページで [Manual Launch (手動起動)] を選択します。Amazon Elastic Compute Cloud コンソールを使用して、他の AWS Marketplace 製品と同様に追加のインスタンスをデプロイできます。

- 販売者がプライベートオファーを行うと、販売者がプライベートオファーに含めたアカウントに対して確認メッセージが送信されます。プライベートオファーは、表示されている特定のソフトウェア購入者のアカウントに連結されています。ソフトウェア販売者は、指定されたアカウントのプライベートオファーを作成します。各プライベートオファーは、最大 25 個のアカウントに対して作成できます。
- プライベートオファーを承認すると、あなたと販売者間で締結する契約 (コントラクトまたはサブスクリプションとも呼ばれる) になります。
- 販売者は、購入済みの SaaS 契約製品または従量課金制の SaaS 契約製品に対するアップグレードや更新を提供する場合があります。たとえば、販売者は新しいプライベートオファーを作成することで、新しい権利の付与、料金割引の提供、支払いスケジュールの調整、またはエンドユーザーライセンス契約 (EULA) の変更を行い、[標準化されたライセンス条項](#)を使用できます。

これらの更新やアップグレードは、承諾済みの元のプライベートオファーに対する変更であり、この変更を承諾するには同じプロセスを使用します。新しいアップグレードや更新のプライベートオファーを承諾すると、新しい契約条項が即座に発効し、ソフトウェアサービスが中断されることはありません。以前の条項または残りの支払予定はキャンセルされ、この新しい契約の条項に置き換えられます。

- の年間ソフトウェアサブスクリプションはすべて、ソフトウェア AWS Marketplace で確認できます。一括請求の AWS Organizations を使用して 1 つのアカウントで年間サブスクリプションを購入した場合、連結アカウントファミリー全体で共有されます。サブスクリプションを購入したアカウントに実行中のインスタンスがない場合、年間サブスクリプションは、そのソフトウェアを実行する別の連結アカウントの使用量としてカウントされます。年間サブスクリプションの詳細については、「[the section called “AMI サブスクリプション”](#)」を参照してください。
- プライベートオファーの有効期限が切れると、サブスクライブすることはできません。ただし、販売者に問い合わせることもできます。販売者に、現在のオファーの有効期限を将来の日付に変更してもらるか、新しいプライベートオファーを作成してもらってください。

プライベートオファーに適した製品のタイプ

次の製品タイプのプライベートオファーを取得できます。

オファ어의タイプ	説明
データ製品	詳細については、「AWS Data Exchange ユーザーガイド」の「 プライベートオファ어의承諾 」を参照してください。
SaaS 契約	SaaS (Software-as-a-Service) 契約では、SaaS 製品の予想使用量に対する前払い金をコミットするか、販売者と Flexible Payment Schedule を交渉できます。契約期間は 1 か月、1 年、2 年、3 年、または月単位で最長 60 か月までのカスタム期間を選択できます。前払い料金をお支払いいただく場合は、製品ソフトウェアを使用する前に前払い料金が請求されます。 販売者が Flexible Payment Schedule を提供する場合、プライベートオファ어に記載されている金額で、支払いスケジュールの日付に従って請求されます。 また、販売者は契約した量を越える使用量に対して、交渉による従量制料金を含めることができます。
SaaS サブスクリプション	SaaS サブスクリプションを使用すると、製品の使用に対する価格に同意したことになります。販売者は使用状況を追跡して AWS Marketplace に報告し、使用した分に応じて料金が請求されます。
時間単位の AMI	時間単位の Amazon マシンイメージ (AMI) では、AMI を使用するための時間あたりの料金を交渉して、最も近い時間に四捨五入します。
年間料金による時間単位の AMI	年間料金による時間単位の AMI では、インスタンスタイプごとに時間単位と長期料金を交渉します。長期料金は、プライベートオファ어의期間 (1 日から 3 年間) を対象としています

オファーのタイプ	説明
	。販売者が Flexible Payment Schedule なしでプライベートオファーを作成した場合、プライベートオファーで決定された時間単位の料金で Amazon EC2 インスタンスを実行し、オプションでプライベートオファーに設定された長期料金で契約期間中の前払いのコミットメントを購入できます。販売者が Flexible Payment Schedule を設定したプライベートオファーを作成した場合、利用状況にかかわらず、プライベートオファーに記載されている金額で、支払いスケジュールの日付に従って請求されます。このタイプのプライベートオファーでは、販売者は、時間単位の料金の請求なしで実行できるインスタンスタイプごとに Amazon EC2 インスタンスの数を含めることができます。使用量がこの料金に含まれるものを超え得た場合、プライベートオファーで設定された時間単位の料金で請求されます。
AMI 契約	AMI 契約では、契約料金と契約期間 (1 ~ 60 か月) を交渉します。販売者が Flexible Payment Schedule なしでプライベートオファーを作成した場合、承諾時にプライベートオファーに設定されている料金とオプションに従って契約を設定できます。販売者が Flexible Payment Schedule を設定したプライベートオファーを作成した場合、プライベートオファーに記載されている金額で、支払いスケジュールの日付に従って請求されます。このタイプのプライベートオファーでは、販売者はプライベートオファーで契約を設定しますが、承諾時には設定できません。

オファ어의タイプ	説明
コンテナ製品	コンテナ製品では、購入する製品に合わせて、ポッド、タスク、カスタム単位で、使用するコンテナ製品の時間単位または年間料金を交渉します。コンテナ製品のプライベートオファ어は、AMI 製品のプライベートオファ어と一致します。
Machine Learning 製品	プライベートオファ어は、指定された日数の固定前払い料金が適用される契約にできます。契約の終了時に、継続して実行するすべてのインスタンスには、販売者がプライベートオファ어で設定した時間単位の料金で請求されます。
プロフェッショナルサービス	プロフェッショナルサービスのオファ어は、すべてプライベートオファ어です。購入者と協力して、プライベートオファ어を作成する必要があります。詳細については、「 AWS Marketplace でプロフェッショナルサービス製品を購入する 」を参照してください。

プライベートオファ어의受け入れ準備

一般的なプライベートオファ어를交渉する場合、サードパーティーの資金調達を利用している場合を除き、オファ어를承諾した時点でオファ어의全額を支払います。サードパーティーの資金調達では、金融機関がお客様に代わって契約料金を支払い、合意された支払いスケジュールに基づいて請求書を発行します。プライベートオファ어를承諾する前に、会社の請求構造、AWS 請求の支払い方法、希望通貨、税金設定を確認してください。

Note

一部の販売者は、AWS Marketplaceで製品のプライベートオファ어를リクエストするオプションを提供しています。参加販売者の場合、製品詳細ページにプライベートオファ어의リクエストボタンが表示されます。プライベートオファ어를リクエストするには、このボタン

を選択し、リクエストの詳細を指定します。リクエストをまとめた確認 E メールが届き、AWS 担当者から連絡をします。

AWS Billing and Cost Management 設定の確認

請求とコスト管理は、AWS 請求の支払い、使用状況のモニタリング、コストの予算作成に使用するサービスです。の一括請求機能を使用して AWS Organizations、複数のアカウントまたは複数の Amazon Internet Services Pvt の請求と支払いを統合できます。 Ltd (AISPL) アカウント。のすべての組織には、すべてのメンバーアカウントの料金を支払う管理アカウント AWS Organizations があります。管理アカウントは支払者アカウントと呼ばれ、メンバーアカウントは連結アカウントと呼ばれます。プライベートオファーをネゴシエートする前に、会社が AWS 請求書の支払い方法と、プライベートオファーの対象となる AWS アカウントを確認します。

支払い方法の確認

プライベートオファーを承認する前に、支払い方法と希望通貨がプライベートオファーの全額の支払いをサポートしているか確認します。支払い方法を確認するには、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> の Billing and Cost Management コンソールを開きます。

課税設定の確認

ユーザーの会社が免税を受ける資格がある場合は、課税設定を確認してください。税設定を表示または変更するには、にサインイン AWS Management Console し、アカウント設定で税設定を表示します。税登録の詳細については、[「アカウントの税登録番号または会社住所を追加または更新するにはどうすればよいですか？ AWS」](#)を参照してください。

プライベートオファーの表示とサブスクライブ

プライベートオファーは、交渉された料金、カスタム条件、特定の設定を含む、お客様と AWS Marketplace 販売者間のカスタマイズされた契約です。これらのオファーには、プライベートオファーページから、製品ページから直接、または販売者提供のリンクから、複数の方法でアクセスできます。このページでは、さまざまな製品タイプ (AMI、SaaS、ML) の特定のステップなど、プライベートオファーへのアクセス、表示、サブスクライブについて説明します。サブスクリプションを続行する前に、すべての条件、料金、設定を慎重に確認し、交渉済みの契約と一致することを確認してください。

プライベートオファーの表示

1. [AWS Marketplace](#) コンソールにサインインします。
2. 次のいずれかの方法を使用してプライベートオファーにアクセスします。

Private offer list

1. プライベートオファーページに移動します。
2. 利用可能なオファータブで、対象オファーのオファー ID を選択します。

Seller-provided link

- 販売者が提供するリンクに従ってください。

Note

正しいアカウントにログインする前にこのリンクをクリックすると、[ページが見つかりません] (404) というエラーが表示されます。
詳細については、「[プライベートオファーを表示するために \[オファー ID\] をクリックすると、\[ページが見つかりません\] \(404\) エラーが表示されます。](#)」を参照してください。

Product page

1. 製品ページに移動します。
2. 上部のバナーにプライベートオファー、オファー ID、有効期限が表示されます。

Note

将来の日付のプライベートオファーは早期更新として表示されます。詳細については、「[the section called “将来の日付の契約とプライベートオファー”](#)」を参照してください。

3. [オファー ID] を選択します。

 Note

その製品に対して複数のプライベートオファーがある場合、各オファーは [オファー名] の下に表示されます。現在契約中の製品がある場合は、そのオファーの横に [使用中] アイコンが表示されます。

3. プライベートオファーの詳細を表示します。

プライベートオファーのサブスクライブ

サブスクリプションプロセスを完了するには：

1. 正しいオファーを表示していることを確認します。1 つの製品に対して複数のオファーがある場合があります。
2. すべての契約条件と料金の詳細を確認して、交渉された条件と一致することを確認します。

 Important

[プライベートオファー] ページに表示されないセクションは、プライベートオファーの交渉対象ではありません。

Machine learning

1. 時間単位の条件を確認して同意します。
2. 契約条件を確認します。

 Note

リンクされたアカウントでは、支払者アカウントも条件を確認して同意する必要があります。

SaaS

1. 料金詳細でディメンションと数量を確認します。

Note

将来の日付のオファーは、早期更新として一覧表示されます。詳細については、「[the section called “将来の日付の契約とプライベートオファー”](#)」を参照してください。

2. 支払い情報で、支払い情報を確認します。Flexible Payment Schedule について交渉した場合は、支払い日と金額が一覧表示されます。層ではない場合は、オファーを承諾する際に、契約の合計金額が請求されます。
3. 利用規約で、EULA が販売者と交渉したものであることを確認します。

AMI

- EULA、期間、およびその他のオファー条件が交渉したものであることを確認します。

Note

インスタンスタイプ または にアクセスできない場合は AWS リージョン、プライベートオファーが送信された時点でサポートされていない可能性があります。さらなる情報については、契約の詳細を確認してください。インスタンスまたはリージョンにアクセスするには、販売者に連絡して、更新されたプライベートオファーをリクエストします。新しいオファーを承諾すると、新しく追加されたインスタンスまたはリージョンにアクセスできます。

3. オファー条件を承諾します。

Machine learning

- オファーを受け入れるを選択します。

SaaS

- [サブスクライブ] を選択します。

AMI

1. Accept terms または Accept contract を選択します。
2. 柔軟性のない支払いスケジュールの場合：
 - a. このソフトウェアにサブスクライブを選択します。
 - b. インスタンスタイプを選択します。
 - c. ライセンス数量を選択します。
3. 「契約を受け入れる」または「契約を作成する」を選択し、「確認」を選択します。

Note

多くの場合、支払いアカウントは製品を使用するアカウントではありません。支払いアカウントを使用してオファーを承認する場合は、ワンクリックオプションを選択するのではなく、手動で製品を起動することが推奨されます。

Note

システムが契約リクエストを処理する間は、ブラウザを更新しないでください。

4. オファーを承諾すると、製品を正常にサブスクライブしたことを示すアラートが表示され、次のステップが表示されます。
5. 製品設定を完了する：

Machine learning

- 「設定に進む」を選択します。

SaaS

- 販売者のウェブサイトで設定するアカウントの設定を選択します。

AMI

- 「設定に進む」を選択します。

プライベートオファーを受け入れるビデオチュートリアル

Machine learning

AMI

柔軟な支払いスケジュール：

柔軟な支払いスケジュールがない場合：

のプライベートオファーページ AWS Marketplace

のプライベートオファーページには AWS Marketplace、プライベート製品とパブリック製品 AWS アカウント の両方 でに拡張されたすべてのプライベートオファーが一覧表示されます。利用できるすべてのオファーは、製品ごとに表示されます。各製品につき 1 つのオファーを受け入れることができます。

プライベートオファーページについて理解する

[プライベートオファー] ページを表示するには、AWS Marketplace コンソールにサインインして [プライベートオファー] に移動します。に拡張されたプライベートオファー AWS アカウント は、オファー ID、製品、登録販売者 (ISV またはチャンネルパートナー)、パブリッシャー、有効な契約 (該当する場合)、オファーの有効期限など、プライベートオファーの下に一覧表示されます。関心のあるオファーの [オファー ID] を選択してオファーの詳細を確認したり、プライベートオファーをサブスクライブしたりできます。

プライベートオファーページには以下の情報が含まれます。

- [ご利用いただけるオファー] タブには、ご利用のアカウントに適用されたプライベートオファーのうち、受け付け可能なプライベートオファーが一覧表示されます。このタブの [オファー ID] リンクは、プライベートオファーの詳細にアクセスするために販売者が提供しているリンクと同じです。
- [受け入れたオファーと期限切れのオファー] タブには、お客様が承諾し、契約が作成されたオファーが一覧表示されます。また、販売者が設定したオファーの有効期限に達したオファーも一覧

表示されます。このタブは、販売者との契約を更新するときに、以前のオファー ID と契約 ID (ある場合) を取得するのに便利です。オファーによって契約が成立し、契約がアクティブな場合は、契約を選択してサブスクリプションの詳細ページを表示できます。

Note

将来の日付のプライベートオファーは早期更新として表示されます。詳細については、「[the section called “将来の日付の契約とプライベートオファー”](#)」を参照してください。

プライベートオファーの変更、アップグレード、更新について詳しくは、「[でのプライベートオファーの変更またはサブスクリプション解除 AWS Marketplace](#)」を参照してください。

プライベートオファーページの閲覧に必要なアクセス許可

AWS Marketplace コンソールでプライベートオファーページを表示するには、次のアクセス許可が必要です。

- AWS マネージドポリシーを使用する場合: `AWSMarketplaceRead-only`、`AWSMarketplaceManageSubscriptions`、または `AWSMarketplaceFullAccess`
- AWS マネージドポリシーを使用していない場合: IAM アクション `aws-marketplace:ListPrivateListings` と `aws-marketplace:ViewSubscriptions`

プライベートオファーページを表示できない場合は、管理者に連絡して正しい AWS Identity and Access Management (IAM) アクセス許可を設定してください。に必要な IAM アクセス許可の詳細については AWS Marketplace、「」を参照してください [AWS 購入者向けの AWS Marketplace 管理ポリシー](#)。

外部通貨でのプライベートオファーの支払い

米ドル以外の通貨での米ドルのプライベートオファーの支払い

米ドル通貨でプライベートオファーを受け取り、支払い方法が米ドル以外の通貨である場合、使用される変換レートは請求書の日付の現在のレートです。プライベートオファーに応じて、請求書の日付はプライベートオファーの承諾日またはそれ以降の日付にすることができます。たとえば、支払いスケジュールのない契約ベースのプライベートオファーの場合、請求日はオファーの承諾日です。支払

いスケジュールのプライベートオファーの場合、請求日は分割払いの請求が予定されている日付です。

米ドル以外のプライベートオファーの支払い

すべての AWS 料金は本日も USD のままです。ただし、他の 4 つの通貨でプライベートオファーを受け取ることはできます: EUR、GBP、AUD、および兄弟で、外為の変動はありません。販売者は、希望の支払い通貨で契約料金でプライベートオファーを拡張できます。任意の通貨でプライベートオファーを表示して受け入れることができるため、外為の変動に対処することなく、いくら支払うかがわかります。

オファーの承諾時に、AWS は合意済みの米ドル以外の料金を米ドル料金に変換し、サブスクリプション全体について外国為替レートをロックします。オファーの承諾後、請求書には、米ドルの料金、オファーの承諾時の固定外国為替レート、および米ドル以外の料金通貨の両方が表示されます。別の AWS Marketplace オペレーターから請求書が生成される新しい場所に移動した場合、既存の固定外為オファーはキャンセルされます。販売者に連絡して、支払う通貨で新しいオファーを再発行してください。まれに、米ドル以外の請求額が、外為変換によりわずかに四捨五入される場合があることに注意してください。

消費ベースの料金の支払い

プライベートオファーの通貨に関係なく、消費ベースの料金が USD 通貨の月別一括請求に追加されます。消費ベースの料金の例は、契約に含まれる以外の追加使用です。詳細については、[「での製品の支払い AWS Marketplace」](#)を参照してください。

でのプライベートオファーの変更またはサブスクリプション解除 AWS Marketplace

標準サブスクリプションからプライベートオファーに更新したり、AWS Marketplaceの既存の特定のプライベートオファーを変更したりすることもできます。プロセスは、定められた契約によって異なります。

多くのサブスクリプションでは、パブリックプライシングからプライベートオファーに移行する際に、ISV またはチャネルパートナーとオファーについて交渉します。プライベートオファーを承諾すると、関連する既存の 1 つまたは複数のサブスクリプションが自動的にプライベートオファー料金モデルに移行します。これにはユーザー側のアクションは一切必要ありません。以下のガイダンスを使用して、プライベートオファーの料金設定を受けるシナリオとステップを確認してください。

パブリックオファーからプライベートオファーへの料金設定の変更

プライベートオファーを承諾すると、そのオファーを承諾したユーザーに対してそれ以上のアクションは必要ありません。これらは、プライベートオファーで定義されている料金設定、契約条件に切り替えられます。プライベートオファーの料金、契約条件に切り替えるには、製品を使用している連結済みの各ユーザーがプライベートオファーを承諾する必要があります。製品の使用を開始するユーザーも、プライベートオファーで定義されている料金設定、および契約条件を取得するために、プライベートオファーを受け入れる必要があります。

SaaS 契約の変更 - アップグレードと更新

このセクションは、Software as a Service (SaaS) 契約と従量課金制の製品の SaaS 契約に適用されます。以前のプライベートオファーで有効な契約があり、同じ製品の新しいプライベートオファーを受け入れる場合、販売者は既存の契約をアップグレードまたは更新して、条件、価格、期間を変更したり、既存の契約を終了前に更新したりすることができます。これにより、既存の契約を先にキャンセルしなくても、新しいプライベートオファーを受け入れることができます。

Note

将来の日付のプライベートオファーは早期更新として表示されます。詳細については、「[the section called “将来の日付の契約とプライベートオファー”](#)」を参照してください。

アップグレードまたは更新を受け入れるには、請求書の発行条件を満たしている必要があります。現在、請求書発行の条件を満たしていない場合は、[AWS カスタマーサービス](#)にチケットを送信して、支払い方法を請求書発行に変更してください。

請求書発行に切り替えない場合は、次のいずれかのアクションを取ることができます。

- 製品ベンダーおよび AWS Marketplace カスタマーサポートチームと協力して、その製品の新しいプライベートオファーを受け入れる前に現在の契約をキャンセルします。
- 別の AWS アカウントでオファーを受け入れます。

SaaS サブスクリプションから SaaS 契約に変更する

SaaS サブスクリプションから SaaS 契約に変更するには、まず SaaS サブスクリプションを解除する必要があります。その後、SaaS 契約のプライベートオファーを承諾します。既存の SaaS サブ

スクリプションを表示するには、AWS Marketplace コンソールの右上隅にある Marketplace ソフトウェアを選択します。

AMI 契約から新しい契約に変更する

以前のプライベートオファーから Amazon マシンイメージ (AMI) 契約を結んでいて、同じ製品に対して新しいプライベートオファーを受け入れる場合は、次のいずれかを実行する必要があります。

- 新しい AMI 契約を受け入れる前に、現在の AMI 契約が終了するのを待つ。
- 製品ベンダーと AWS Marketplace カスタマーサポートチームと協力して、現在の契約を終了します。
- 契約しているもの AWS アカウント とは異なる を使用してプライベートオファーを受け入れます。

時間単位の AMI から年単位の AMI に変更する

時間単位の AMI サブスクリプションから年単位の AMI サブスクリプションに移行すると、そのサブスクリプションはバウチャーシステムと同様に機能します。時間単位の各 AMI の使用量は、年単位の AMI サブスクリプションの 1 単位で相殺されます。年間サブスクリプションを購入すると、関連付けられているすべてのプライベートオファーを介して製品にサブスクライブしているアカウントは、自動的にプライベートオファーで交渉された料金に変更されます。プライベートオファーが設定された後にサブスクリプションを開始する連結済みのアカウントは、サブスクライブ時にプライベートオファーをサブスクライブする必要があります。

Note

古いオファーの年間ライセンスは、新しいオファーの条項に同意するとすぐに無効化されます。ISV と協力して、無効化されたライセンスの補償と新しいオファーを続行する方法について検討します。

年単位の AMI から時間単位の AMI に変更する

年単位のサブスクリプションの有効期限が終了すると、製品にサブスクライブしている連結済みアカウントは自動的に 時間単位の AMI 料金に切り替わります。年単位のサブスクリプションが設定されている場合は、連結済みアカウントはそのサブスクリプションをキャンセルせずにその製品の時間単位のサブスクリプションに切り替えることはできません。

での将来の日付の契約とプライベートオファー AWS Marketplace

で将来の日付の契約 (FDA) を使用すると AWS Marketplace、将来の日付で製品の使用が開始される製品をサブスクライブできます。支払い時期や使用時期とは独立して製品を購入する時期を管理できます。

FDA は、AWS Marketplaceで購入者が以下の取引について独立して以下のアクションを実行できるようサポートします。

- オファーを受け入れ、製品を調達するか、取引を予約する。
- 製品の使用 (ライセンス/権利のアクティベーション) を開始する。
- 購入代金を支払う (請求書の生成)。

FDAは、Software as a Service (SaaS) 製品契約や、Flexible Payment Schedule の有無にかかわらず、使用料金付きの契約 (CCP) を作成するプライベートオファーでサポートされています。

将来の日付の契約を使用する場合は、以下の日付に注意します。

契約署名日

オファーを承諾した日付と、契約が作成された日付。この日付は契約 ID が作成された日です。

契約開始日

製品の使用が開始される日付。これは将来の日付または将来の開始日です。これはライセンス/権利が有効になる日付です。

契約終了日

契約が終了する日付。契約とライセンス/権利はこの日付で失効します。

Note

エンドユーザーライセンス契約、注文フォーム、またはお客様と販売者の間のその他の契約で指定された契約期間は、AWS Marketplace 請求書で指定された期間と競合するかどうかを制御します。

将来の日付の契約の作成

SaaS 契約や、Flexible Payment Schedule の有無にかかわらず、使用料金付き契約の場合、販売者はプライベートオファーの作成の一環として契約開始日を設定します。購入者は販売者と協力して、開始日が要件を満たしていることを確認する必要があります。

将来の日付の契約を作成するには、次の手順に従います。将来の日付の契約は、サブスクリプションの管理ページの AWS Marketplace コンソールで確認できます。

将来の日付の契約を作成するには

1. 「[プライベートオファーの表示とサブスクライブ](#)」の手順を実行します。
2. オファーの詳細ペインで、正しいプライベートオファーを選択したことで、契約開始日が正しいことを確認します。将来の日付のオファーは、[オファー] メニューで [早期更新] とマークされます。

Note

SaaS 製品の場合は、契約開始日に、必ず ISV のアカウント設定を完了する必要があります。契約開始日より前にこのステップを完了することはできません。

将来の日付の契約での Flexible Payment Scheduler の使用

Flexible Payment Scheduler は、将来の日付の契約に使用できます。購入代金の支払い時期は、契約署名日と契約終了日の間の時期を選択して設定できます。このアプローチには、契約開始日の前後の支払いが含まれます。

プライベートオファーを作成した記録上の販売者が支払い日と金額を選択します。詳細については、「[Flexible Payment Scheduler](#)」を参照してください。

将来の日付の契約の修正

契約開始日の後に、FDA で特定のディメンションの購入数量を増やすことができます。このオプションは、契約に Flexible Payment Schedule がない場合に可能です。詳細については、「[Flexible Payment Scheduler](#)」を参照してください。

修正が完了すると、契約開始日に日割り計算された金額が請求されます。開始日が過去の場合は、すぐに請求されます。

将来の日付の契約の通知を受け取る

将来の日付の契約に対して実行された次のアクションについて、指定されたルートアカウントに送信される電子メール通知が届きます。

- オファーの承認/契約の作成 (契約署名日)
- ライセンスまたは権利のアクティベーション時 (契約開始日)
- 30 日後、60 日後、または 90 日後に失効する契約に関する事前のリマインダー
- 契約失効日 (契約終了日)
- 契約の修正または置き換え時

プライベートオファーのトラブルシューティング

でプライベートオファーを使用する際に HTTP ステータスコード 404 (Not Found) の問題や同様の問題が発生した場合は AWS Marketplace、このセクションのトピックを参照してください。

問題

- [プライベートオファーを表示するために \[オファー ID\] をクリックすると、\[ページが見つかりません\] \(404\) エラーが表示されます。](#)
- [どの提案でも機能しない場合](#)

プライベートオファーを表示するために [オファー ID] をクリックすると、[ページが見つかりません] (404) エラーが表示されます。

- 正しい AWS アカウントにサインインしていることを確認します。販売者はプライベートオファーを AWS アカウント IDs。
- オファーが AWS Marketplace コンソールの[プライベートオファー](#)に存在するかどうかを確認します。[プライベートオファー] にオファーが見つからない場合は、販売者が別の AWS アカウント ID に対してオファーを延長したことが原因である可能性があります。販売者に確認して、オファーが延長された AWS アカウント ID を確認します。
- AWS Marketplace コンソールのプライベートオファーの「承諾済みオファーと期限切れオファー」タブを表示して、[プライベートオファー](#)の有効期限が切れていないことを確認します。オファーの有効期限が切れている場合は、販売者と協力してオファーの有効期限を変更するか、お客様のアカウントに対して新しいオファーを延長してください。

- アカウント ID がプライベートオファーの表示を許可していることを確認します。ISV によっては、限定出品を使用する場合があります。ISV に、お客様のアカウントが製品の表示を許可しているかどうかを問い合わせてください。AMI 製品の限定出品には許可リストが必要です。AWS 組織に属していて、販売者が管理アカウントにオファーを延長している場合、連結アカウントにはサブスクライブするには許可リストが必要です。そうしないと、許可リストにない購入者の連結アカウントがオファーを表示しようとしたときに「ページが見つかりません (404)」というエラーが表示されます。
- オファーを表示 `aws-marketplace:ViewSubscriptions` する必要がある場合は、AWS 管理者に確認してください。AWS Marketplace セキュリティの詳細については、「」を参照してくださいの[セキュリティ AWS Marketplace](#)。
- プライベートマーケットプレイスを利用しているかどうかを確認してください。
 - 製品を購入できるように、製品がプライベートマーケットプレイス (該当する場合) の許可リストに掲載されていることを確認します。不明な場合は、システム管理者に問い合わせて確認してください。

どの提案でも機能しない場合

どの提案でも HTTP ステータスコード 404 (Not Found) エラーが解決されない場合は、ブラウザで次の操作を試してください。

- キャッシュをクリアします。
- Cookie を削除します。
- サインアウトし、サインインし直します。
- シークレットモードまたはプライベートブラウジングモードを使用します。
- 別のブラウザを試します。Internet Explorer を使用することは推奨しません。

トラブルシューティングの提案をすべて完了しても、まだ Page not found エラーが表示される場合は、[AWS Marketplace 管理ポータル](#) 経由で、Private Offer Success Team (POST) チームにご連絡ください。

でのライセンスの管理 AWS Marketplace

で製品をサブスクライブすると AWS Marketplace、それらの製品を使用する権限を付与するライセンスが自動的に作成されます。これらのライセンスは、製品サブスクリプションを AWS Organizations 組織内の他のアカウントと共有する、ライセンスの使用状況を表示および追跡する、異なるライセンスタイプを切り替えるなど、いくつかの方法で管理できます。を通じて、AMI、コンテナ、機械学習、データ製品のライセンスを組織メンバーと共有できます AWS License Manager。さらに、インスタンスを再デプロイすることなく異なるライセンスタイプを切り替えることができ、ソフトウェアライセンスの管理方法と支払い方法の柔軟性が高まります。

トピック

- [で製品サブスクリプションを共有する AWS Marketplace](#)
- [ライセンスの表示](#)
- [ライセンスの共有](#)
- [ライセンスの使用状況の追跡](#)
- [ライセンスの切り替え](#)

で製品サブスクリプションを共有する AWS Marketplace

で製品をサブスクライブすると AWS Marketplace、それらの製品を使用するライセンスを付与する契約が作成されます。AWS アカウント が組織のメンバーである場合は、Amazon マシンイメージ (AMI)、コンテナ、機械学習、データ製品のライセンスを、その組織内の他のアカウントと共有できます。でライセンスサポートを設定し AWS Marketplace、これを 内から共有する必要があります AWS License Manager。

Note

詳細については AWS Organizations、[AWS Organizations 「ユーザーガイド」](#) を参照してください。

で組織とライセンスを共有する方法の詳細については AWS License Manager、「AWS License Manager ユーザーガイド」の [「付与されたライセンス」](#) を参照してください。

次の動画では、ライセンス共有について簡単に紹介します。

[AWS Marketplace ライセンス使用権限を配布する \(3:56\)](#)

ライセンスの表示

AWS Marketplace は、AMI、コンテナ、機械学習、Software as a Service (SaaS)、および購入したデータ製品のライセンスを自動的に作成します。それらのライセンスを組織内の他のアカウントと共有できます。

Note

ライセンスは SaaS 製品用に作成されますが、SaaS ライセンスの共有は現在サポートされていません。

を使用してライセンスを管理および共有します AWS License Manager。ただし、AWS Marketplace を使用して、内部から購入した製品のライセンスを表示できます AWS Marketplace。

でサブスクライブした製品のライセンスを表示するには AWS Marketplace

1. [AWS Marketplace](#) でサインインして [サブスクリプションを管理する] を選択します。

Note

現在の のサブスクリプションのみがサブスクリプションの管理ページ AWS アカウントに表示されます。アカウントが [AWS Organization](#) の管理アカウントである場合、メンバーアカウントのサブスクリプションは表示されません。

2. すべてのライセンスを表示することも、特定のサブスクリプションのライセンスを表示することもできます。
 - すべてのライセンスを表示するには
 - アクションメニューから、ライセンスの表示を選択して、License Manager コンソールですべての AWS Marketplace マネージドライセンスを表示します。
 - 単一のサブスクリプションのライセンスを表示するには
 - a. 表示する製品のカードを選択すると、製品の詳細ページに移動します。
 - b. [アクション] メニューから [ライセンスの表示] を選択し、その製品のライセンスを License Manager コンソールに表示します。

Note

組織内のすべてのアカウントから集計された、付与されたライセンスを表示することもできます。詳細については、[AWS License Manager ユーザーガイド](#)の付与されたライセンスを参照してください。

ライセンスの共有

共有できるライセンスがあるのは、AMI、コンテナ、機械学習、データ製品だけです。

AWS Marketplace のサブスクリプションには、製品詳細に [アクセスレベル] が表示されます。

- [契約] レベルのある製品には、組織内の他のアカウントで使用したり共有したりできるライセンスがあります。
- [使用権限] レベルのある製品は、アカウントと共有されているライセンスです。これらの製品を使用することはできますが、共有することはできません。

AWS Marketplace では、ライセンスの使用を AWS Organizations、AWS アカウント または AWS License Manager を使用する組織単位と直接共有する許可をサポートします。許可のアクティブ化プロセスには、AWS Marketplace から提供された同じ製品に対して有効化された許可に代わるオプションが追加されました。詳細については、[AWS License Manager ユーザーガイド](#)の付与されたライセンスを参照してください。

Note

特定の AWS リージョン に限定されている製品の場合、ライセンスを共有するアカウントは、そのアカウントが許可されたリージョン内にある場合にのみライセンスを有効にできます。

ライセンス共有の前提条件

AWS Marketplace でライセンスを共有する前に、まず組織のライセンス共有をセットアップする必要があります。以下のタスクを完了して、組織のライセンス共有をセットアップしてください。

- ユーザーに代わってライセンスを管理する許可を AWS Marketplace に付与して、ユーザーがライセンスを購入または共有するときに関連するライセンス供与を作成できるようにします。詳細につ

いては、「[の使用権限を共有するサービスにリンクされたロール AWS Marketplace](#)」を参照してください。

- 初回使用のために AWS License Manager をセットアップします。詳細については、「AWS License Manager ユーザーガイド」の「[AWS License Manager の使用開始](#)」を参照してください。

ライセンスの使用状況の追跡

AMI 製品の使用量ベースのライセンスメトリクスは、それぞれのライセンスの [使用状況ダッシュボード] タブを選択することにより AWS License Manager を使用して追跡できます。

License Manager を使用してライセンスの使用状況を追跡する方法について詳しくは、「AWS License Manager ユーザーガイド」の「[付与されたライセンス](#)」を参照してください。

ライセンスの切り替え

Amazon EC2 インスタンスを再デプロイすることなく、既存のオペレーティングシステム (OS) AWS Marketplace ライセンスをサードパーティーサブスクリプションに切り替えることができます。これにより、ダウンタイムが短縮され、アプリケーションを再テストする必要がなくなります。

ライセンス切り替えを使用すると、Amazon EC2 ライセンス込み (LI) オペレーティングシステムで利用可能なサードパーティーサブスクリプションに変換できます AWS Marketplace。ライセンスタイプの変換の詳細については、「[でのライセンスタイプの変換 AWS License Manager](#)」を参照してください。切り替え後、以下に対して個別に請求されます。

- Amazon EC2 インフラストラクチャコスト (Amazon Elastic Compute Cloud 経由)
- OS ソフトウェアコスト (経由 AWS Marketplace)

この機能は現在、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) および RHEL for SAP with High Availability and Update Services 製品をサポートしています。

利点

- 再デプロイせずに既存のインスタンスを引き続き使用する
- ライセンス変更中のダウンタイムを最小限に抑える
- を通じて OS サブスクリプションのプライベートオファーにアクセスする AWS Marketplace

- インフラストラクチャとソフトウェアの請求を分離してコスト追跡を改善する

前提条件

ライセンスを切り替える前に、以下を確認してください。

- ターゲット AWS Marketplace 製品のアクティブなサブスクリプション
- を使用するアクセス許可 AWS License Manager
- Amazon EC2 インスタンスを一時的に停止する機能

ライセンスの切り替え

ライセンスを切り替えるには：

1. AWS マネジメントコンソールにサインインし、<https://console.aws.amazon.com/license-manager/> で AWS License Manager コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、ライセンスタイプの変換を選択します。
3. ライセンスタイプ変換の作成 を選択します。
4. 新しいライセンスに切り替える予定のインスタンスを停止します。
5. ソースライセンスタイプを選択します。
6. 送信先のライセンスタイプを選択します AWS Marketplace。
7. 選択した AWS Marketplace 製品への既存のサブスクリプションがない場合は、プロンプトに従って作成します。
8. 場所を確認して [作成] を選択します。
9. ライセンススイッチが完了したら、インスタンスを再起動します。

Linux ライセンスタイプの変換の詳細な手順については、[「Convert a license type for Linux in AWS License Manager」](#)を参照してください。

請求の変更

ライセンスを切り替えた後：

- Amazon EC2 インスタンスの料金にオペレーティングシステムのコストが含まれなくなりました。

- AWS Marketplace サブスクリプションに対して個別に請求されます。
- AWS Marketplace 請求額については、AWS Marketplace セクション AWS で確認できます。

考慮事項と制限事項

- ライセンスの切り替えプロセス中にインスタンスを停止する必要があります。
- ライセンスの切り替えは、サポートされている RHEL 製品でのみ使用できます。
- ターゲット AWS Marketplace 製品へのアクティブなサブスクリプションが必要です。

トラブルシューティング

ライセンスの切り替え時に問題が発生した場合：

- インスタンスが停止状態であることを確認します。
- ターゲット AWS Marketplace 製品へのアクティブなサブスクリプションがあることを確認します。
- IAM アクセス許可に AWS License Manager と Amazon EC2 インスタンスの両方へのアクセスが含まれていることを確認します。

その他のトラブルシューティングガイダンスについては、[「でのライセンスタイプの変換のトラブルシューティング AWS License Manager」](#)を参照してください。その他のサポートについては、AWS サポートにお問い合わせください。

のコスト管理

AWS Marketplace には、コスト管理に役立つ以下のツールが用意されています。

- 調達インサイトダッシュボードには、組織 AWS アカウント 内のすべての のコスト分析と契約データが表示されます。
- コスト配分タグは、AWS Marketplace リソースの使用状況を特定して追跡するのに役立ちます AWS Cost Explorer。

以下のトピックでは、ツールの使用方法について説明します。

トピック

- [調達インサイトを使用してコストレポートを表示する](#)
- [コスト配分タグを使用する](#)

調達インサイトを使用してコストレポートを表示する

調達インサイトダッシュボードを使用して、組織内のすべての AWS アカウントのコスト分析と契約データを表示します。

例えば、ダッシュボードを使用して以下を実行できます。

- 各 AWS Marketplace 購入のコストの詳細を表示する
- ベンダーや製品などのディメンション別にデータを分析
- 時間の経過に伴うコスト傾向の追跡
- 今後の更新を 30 日や 60 日などの日付範囲別に表示
- サブスクライバーアカウントや製品タイトルなど、複数のカテゴリ別にデータを表示
- 監査のために契約の実行を経時的に追跡
- 同じ製品の複数のインスタンスを識別

Note

- ダッシュボードを使用するには、QuickSight サブスクリプションは必要ありません。

- フル機能の組織である必要があります。詳細については、[AWS「Organizations を使用して組織のすべての機能を有効にする」](#)を参照してください。
- 新規 AWS Marketplace 購入のデータがダッシュボードに表示されるまでに 24 時間以上かかる場合があります。
- 委任管理者を作成するには、AWS Organizations 管理アカウントに属している必要があります。

管理アカウントの詳細については、「[ユーザーガイド](#)」の「[チュートリアル: 組織の作成と設定](#)」と「[で管理アカウントを管理する AWS Organizations](#)」を参照してください。

AWS Organizations

次のトピックでは、ダッシュボードを有効にして使用方法と、ダッシュボードをプログラムで作成する方法について説明します。

トピック

- [調達インサイトダッシュボードの有効化](#)
- [ダッシュボードの使用](#)
- [委任管理者を使用する](#)
- [ダッシュボードへのプログラムによるアクセス](#)

調達インサイトダッシュボードの有効化

以下のセクションでは、[調達インサイト]ダッシュボードを有効にするための一般的な前提条件を満たす方法と、それを有効にする方法について説明します。

このセクションのいずれかの部分についてサポートが必要な場合は、AWS 管理者にお問い合わせください。

トピック

- [ダッシュボードの前提条件](#)
- [ダッシュボードを有効化する](#)
- [管理者の場合: ポリシー例](#)

ダッシュボードの前提条件

[調達インサイト] ダッシュボードを設定して有効にするには、次の前提条件が必要です。

- 組織のすべての機能を有効化します。詳細については、[AWS 「Organizations ユーザーガイド」の「Organizations で組織のすべての機能を有効にするAWS」](#)を参照してください。
- サービスにリンクされたロールを作成し、AWS Marketplace 設定で信頼されたアクセスを有効にします。
- ダッシュボードを有効にするには、次の有効化アクセス許可が必要です。
 - iam:CreateServiceLinkedRole
 - organizations:DescribeOrganization
 - organizations:EnableAWSServiceAccess
 - organizations:ListAWSServiceAccessForOrganization
 - organizations:DeregisterDelegatedAdministrator (委任された管理者を管理するために必要)
 - organizations:ListDelegatedAdministrators (委任された管理者を管理するために必要)
 - organizations:RegisterDelegatedAdministrator (委任された管理者を管理するために必要)
- ダッシュボードを表示して操作するには、次のアクセス許可が必要です。
 - aws-marketplace:GetBuyerDashboard
 - organizations:DescribeOrganization

Note

これらのアクセス許可の取得についてサポートが必要な場合は、AWS 管理者にお問い合わせください。

ダッシュボードを有効化する

ダッシュボードをアクティブ化するには、すべての機能を有効にして AWS 組織の管理アカウントにサインインする必要があります。IAM ユーザーまたはロールには、[Dashboard の前提条件](#)で指定されたアクセス許可が必要です。

⚠ Important

以下の手順を完了するには、ユーザーまたは AWS 管理者にフル機能の組織があり、AWS Organizations 管理アカウントに属している必要があります。詳細については、「[ユーザーガイド](#)」の「[チュートリアル: 組織の作成と設定](#)」と「[で管理アカウントを管理する AWS Organizations](#)」を参照してください。AWS Organizations

ダッシュボードを有効化する

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [設定] を選択します。
3. [AWS Marketplace 調達インサイト] で、[信頼できるアクセスを有効にする] を選択します。
4. [組織全体で信頼できるアクセスを有効にする] および [組織用のサービスにリンクされたロールを作成する] の両方のチェックボックスをオンにします。
5. [統合を作成する] を選択します。

統合を作成すると、システムは以下のサービスにリンクされたロールと AWS 管理ポリシーを作成します。

- [AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy](#) (このガイドの後半)
- [AWS 管理ポリシー: AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy](#) (AWS 管理ポリシーリファレンス)

⚠ Important

AWS コマンドラインインターフェイス (CLI) を使用してダッシュボードをアクティブにする場合は、信頼されたアクセスを有効にする前に、上記のサービスのようなロールを作成する必要があります。作成しないと、有効化プロセスは失敗します。

管理者の場合: ポリシー例

このポリシー例には、このセクションの [ダッシュボードの前提条件](#) で前述されているアクセス許可が含まれます。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [{
    "Sid": "CreateServiceLinkedRoleForProcurementInsights",
    "Effect": "Allow",
    "Action": "iam:CreateServiceLinkedRole",
    "Resource": "arn:aws:iam::*:role/aws-service-role/procurement-
insights.marketplace.amazonaws.com/AWSServiceRoleForProcurementInsights*",
    "Condition": {
      "StringLike": {
        "iam:AWSServiceName": "procurement-
insights.marketplace.amazonaws.com"
      }
    }
  },
  {
    "Sid": "EnableAWSServiceAccessForProcurementInsights",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "organizations:EnableAWSServiceAccess"
    ],
    "Resource": "*",
    "Condition": {
      "StringLike": {
        "organizations:ServicePrincipal": "procurement-
insights.marketplace.amazonaws.com"
      }
    }
  },
  {
    "Sid": "ManageDelegatedAdministrators",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "organizations:ListDelegatedAdministrators",
      "organizations:DeregisterDelegatedAdministrator",
      "organizations:RegisterDelegatedAdministrator"
    ],
    "Resource": "*",
    "Condition": {
      "StringLike": {
```

```
        "organizations:ServicePrincipal": "procurement-
insights.marketplace.amazonaws.com"
    }
},
{
    "Sid": "GetBuyerDashboardStatement",
    "Effect": "Allow",
    "Action": "aws-marketplace:GetBuyerDashboard",
    "Resource": "*"
},
{
    "Sid": "ViewOrganizationDetails",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
        "organizations:DescribeOrganization",
        "organizations:ListAWSServiceAccessForOrganization"
    ],
    "Resource": "*"
}
]
```

ポリシーの作成の詳細については、IAM ユーザーガイドの[AWS 「Identity and Access Management」の「ポリシーとアクセス許可」](#)を参照してください。

ダッシュボードの使用

以下のセクションでは、AWS Marketplace 調達インサイトダッシュボードを使用する方法について説明します。

Note

組織内のすべてのアカウントのデータを表示するには、AWS Organizations 管理アカウントまたは委任された管理者アカウントに属している必要があります。

管理アカウントの詳細については、上記の[概要のリンク](#)を参照してください。委任された管理者の詳細については、このセクションの後半の「[委任管理者を使用する](#)」を参照してください。

トピック

- [ダッシュボードを起動する](#)
- [ダッシュボードを使用するためのヒント](#)

ダッシュボードを起動する

AWS Marketplace コンソールで調達インサイトダッシュボードを使用するか、プログラムで呼び出すことができます。コンソールでダッシュボードを使用する場合、[コスト分析] と [契約] の 2 つのタブが表示されます。次の手順では、コンソールでダッシュボードを開く方法について説明します。

ダッシュボードを起動する

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[調達インサイト] を選択します。
3. 次のいずれかを実行します。
 - 製品と販売者に費やした金額を表示する [費用分析] タブのチャートやグラフを使用します。
 - 契約タブのグラフとグラフを使用して、組織内のすべての AWS アカウントにわたる AWS Marketplace 契約の全体的なビューを取得します。

Important

タブの [期限切れ契約] セクションには、ダッシュボードが使用できるようになった後に期限が切れた契約のデータのみが表示されます。

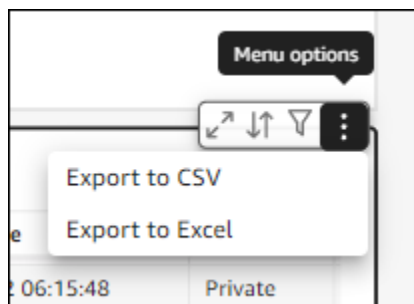
QuickSight ダッシュボードの使用の詳細については、QuickSight [QuickSight ユーザーガイドの QuickSight ダッシュボードの操作](#)」を参照してください。

ダッシュボードを使用するためのヒント

以下のヒントは、[調達インサイト] ダッシュボードの使用に役立ちます。

- ダッシュボードは QuickSight を使用してデータを表示します。システムは、データに最も論理的に適合するグラフやその他の表示要素を自動的に選択します。QuickSight ダッシュボードの使用の詳細については、QuickSight [QuickSight ユーザーガイドの QuickSight ダッシュボードの操作](#)」を参照してください。

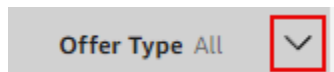
- データをダウンロードすることができます。いずれかのタブで、[ソースデータ] テーブルまで下にスクロールします。テーブルの右上隅にカーソルを合わせたら、縦の省略記号を選択してデータをエクスポートします。CSV ファイルまたは Microsoft Excel でエクスポートできます。



- どちらのタブでも同じデータフィルターが使用されます。特定のタブのフィルターは、そのタブにのみ適用されますが、タブのすべてのチャートとグラフに適用されます。次のテーブルは、フィルターとデフォルト値を一覧しています。

フィルター	デフォルト値
契約終了日	過去 12 か月間と現在の比較
 Note [契約] タブの [期限切れの契約] セクションでは、ダッシュボードのリリース日までさかのぼった値のみが表示され、12 か月分のデータは表示されません。	
従量制料金契約を含める	はい、従量制料金を含めます
オファーのタイプ	すべて

- フィルターのデフォルト値を変更するには、[コントロール] バーの右側にある矢印を選択します。



QuickSight フィルターの使用の詳細については、QuickSight [ユーザーガイドの「ダッシュボードデータのフィルター」の使用](#)と [「セッション中のデータのフィルタリング」](#)を参照してください。

委任管理者を使用する

以下のセクションのステップでは、委任管理者を登録および登録解除する方法について説明します。委任管理者は、組織内のすべてのデータを表示できます。

Important

以下の手順を実行するには、ユーザーまたは AWS 管理者が組織のすべての機能を有効にし、AWS Organizations 管理アカウントに属している必要があります。詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の「[チュートリアル: 組織を作成して構成する](#)」と「[AWS Organizations を使用して管理アカウントを管理する](#)」を参照してください。

トピック

- [委任管理者を登録する](#)
- [委任管理者の登録を解除する](#)

委任管理者を登録する

委任管理者を作成するには、アカウント ID を登録し、そのアカウント内のすべてのユーザーが、契約とコストデータの統合されたビューを取得します。

管理者を登録する

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [設定] を選択します。
3. [委任管理者] で、[登録] を選択します。

[委任管理者を登録] ページが表示されます。

4. [アカウント ID] ボックスに対象のアカウント ID を入力します。
5. [登録] を選択します。

委任管理者の登録を解除する

次の手順では、アカウントの登録を解除し、そのアカウントのすべてのユーザーがデータの全体像を表示できないようにする方法について説明します。

管理者の登録を解除する

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [設定] を選択します。
3. [委任管理者] で、登録解除するアカウントの横にあるラジオボタンを選択します。
4. [Deregister] (登録解除) を選択します。
5. [委任管理者の登録を解除する] ダイアログボックスで、[登録を解除] を選択します。

ダッシュボードへのプログラムによるアクセス

プログラムで [調達インサイト] ダッシュボードを作成するには、[GetBuyerDashboard](#) API を呼び出します。

Important

ダッシュボードへの信頼されたアクセスを有効にする前に、[ダッシュボードを有効化する](#) で一覧されているサービスにリンクされたロールを作成する必要があります。作成しないと、有効化プロセスは失敗します。

コスト配分タグを使用する

AWS Marketplace は、購入するソフトウェア製品のコスト配分タグ付けをサポートします。アクティブ化されたコスト配分タグを使用して、AWS コストと使用状況レポート AWS Cost Explorer、AWS 予算、またはその他のクラウドコスト分析ツールを使用して、AWS Marketplace リソースの使用状況を特定および追跡できます。

AWS Marketplace コストの分類と追跡を容易にするために、コスト配分タグを使用してコスト配分レポートでリソースコストを整理できます。

のコスト配分タグは、次のソースから AWS Marketplace 取得されます。

- Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスに関連付けられる Amazon マシンイメージ (AMI) ソフトウェア製品のコストは、同じタグを継承します。これらのタグは、アカウントの AWS Billing and Cost Management コンソールでコスト配分タグとしてアクティブ化できます。AMI 製品でのコスト配分タグの使用の詳細については、「[での AMI 製品のコスト配分タグ付け AWS Marketplace](#)」を参照してください。

- AMI、コンテナ、Software as a Service (SaaS) 製品には、ベンダーが提供するタグが付いている場合があります。例えば、ユーザー数で請求する SaaS 製品では、タグを使用して部門ごとの使用状況を識別できます。これらのタグの使用の詳細については、「[ベンダー計測タグ](#)」を参照してください。

コスト配分タグは、タグが Billing and Cost Management コンソールでアクティブ化された時点からのコストのみを追跡します。アカウントの請求情報とコスト管理コンソールにアクセスできるのは、AWS アカウント 所有者、AWS Organizations 管理アカウントの所有者、および適切なアクセス許可を持つユーザーのみです。コスト配分タグには追加料金は発生せず、AWS Marketplace ソフトウェア製品の機能には影響しません。

EMEA 対象販売者からのサブスクリプションの場合、コストと使用状況レポートには AWS、契約当事者 (Amazon Web Services EMEA SARL) の列が含まれます。

ベンダー計測タグ

AWS Marketplace ベンダー計測を使用する 製品 (AMI、コンテナ、SaaS 製品を含む) には、ソフトウェアベンダーが顧客の追加サービスとして提供するタグがある場合があります。これらのタグは、ベンダーが提供するメトリクス全体での AWS Marketplace リソース使用量を理解するのに役立つコスト配分タグです。これらのタグを使用して AWS Cost Explorer Service、またはその他のクラウドコスト分析ツールを通じて AWS Cost and Usage Report AWS Budgets リソースの使用状況を特定および追跡 AWS Marketplace できます。

タグは、AWS Marketplace 製品の使用を開始し、ベンダーが計測レコードを送信すると AWS Billing、コンソールに表示されます AWS Marketplace。前払いのコミットメントに基づいて製品を使用する場合は、その製品の使用量の計測を受け取ることはできません。そのため、AWS Billing コンソールにはベンダー計測タグがありません。リンクされたアカウントを管理する場合は、タグを表示およびアクティブ化するための ModifyBilling および アクセス ViewBilling 許可が必要です AWS Billing。詳細については、[AWS 「請求ユーザーガイド」の「請求アクションポリシー」](#)を参照してください。AWS

Note

ベンダー計測タグを有効にすると、コストと使用状況レポートのサイズが大きくなる場合があります。コストと使用状況レポートは Amazon S3 に保存されます。そのため、Amazon S3 のコストも増加する可能性があります。

すべての対象 AWS Marketplace 製品のベンダー計測タグをアクティブ化するには

1. にサインイン AWS Management Console し、[AWS Billing コンソール](#)を開きます。次に、左側のナビゲーションペインで、[コスト配分タグ] を選択します。
2. [AWS生成のコスト配分タグ] タブを選択します。
3. `aws:marketplace:isv:` を検索して、ベンダー計測タグによるタグ付けをサポートするすべての製品のタグを見つけます。
4. すべてのタグのチェックボックスをオンにして、[有効化] を選択します。ベンダー計測タグは、24 時間以内に有効になります。

関連トピック

詳細については、以下の各トピックを参照してください。

- 「AWS Billing ユーザーガイド」の「[コスト配分タグの使用](#)」
- 「AWS Billing ユーザーガイド」の「[AWS 生成コスト配分タグの有効化](#)」

AWS Marketplace イベントの購入者通知

AWS Marketplace は、E メール、Amazon EventBridge イベント、Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) トピックを通じてタイムリーな通知を提供します。

EventBridge と Amazon SNS の詳細については、以下のトピックを参照してください。

- 「EventBridge ユーザーガイド」の「[Amazon EventBridge の使用を開始する](#)」。
- 「[Amazon Simple Notification Service トピックの作成方法とメッセージの公開方法](#)」については、「Amazon SNS デベロッパーガイド」を参照。

このセクションのトピック

- [AWS Marketplace イベントの E メール通知](#)
- [AWS Marketplace イベントの Amazon EventBridge 通知](#)

AWS Marketplace イベントの E メール通知

の購入者は AWS Marketplace、次のイベントが発生したときに E メール通知を受け取ります。

- オファーを承諾します。
- 販売者は、以前に承諾したプライベートオファー関連の新しいプライベートオファーを公開します。
- 販売者は、以前に承諾されたオファーの更新を公開します。

Note

通知は、購入者 AWS アカウント ID に関連付けられた E メールアドレスに送信されます。E AWS Marketplace メールが見つからない場合は、スパムフォルダを確認するか、E メール設定を調整します。からの E メール通知 AWS Marketplace は から送信されますno-reply@marketplace.aws。通知メールは、Google や Yahoo などのプロバイダーによってフィルタリングされる場合があります。手順については、「[正当なメールが迷惑メールに振り分けられないようにする \(Google\)](#)」、または「[Block and unblock email addresses in Yahoo Mail](#)」を参照してください。

AWS Marketplace イベントの Amazon EventBridge 通知

AWS Marketplace は、以前は Amazon CloudWatch Events と呼ばれていた Amazon EventBridge と統合されています。EventBridge は、アプリケーションをさまざまなソースからのデータに接続するために使用できるイベントバスサービスです。詳細については、「[Amazon EventBridge ユーザーガイド](#)」を参照してください。

AWS Marketplace は、次のタイプの EventBridge イベントを送信します。

- [Discovery API イベント](#) – 購入者は、販売者がオファーを作成して購入可能にする AWS Marketplace たびに、 からイベントを受け取ります。イベントには、製品 ID、有効期限、製品の詳細、販売者名などの詳細が含まれます。
- [プライベートマーケットプレイスイベント](#) – プライベートマーケットプレイス管理者と購入者は、購入者が製品リクエストを作成する AWS Marketplace たびに、 およびリクエストが承認または拒否されるたびに、 からイベントを受け取ります。イベントには、製品詳細や販売者名などの詳細が含まれます。

Note

EventBridge ルールの作成の詳細については、「Amazon EventBridge ユーザーガイド」の「[Amazon EventBridge ルール](#)」を参照してください。

AWS Marketplace Discovery API Amazon EventBridge イベント

購入者は、販売者がオファーを作成して購入可能にするたびに、AWS Marketplace からイベントを受け取ります。イベントには、販売者 ID、有効期限、製品の詳細、販売者名などの詳細が含まれます。

このトピックでは、次の表に示す各イベントに関して詳述します。

販売者によるアクション	購入者が受信したイベント	詳細情報
オファーを作成して購入できるようにします。	Listing Available	新規出品のイベント

新規出品のイベント

販売者がオファーを作成して購入できるようになると、購入者は Listing Available 詳細タイプのイベントを受け取ります。

次の例は、Listing Available イベントのイベント本文の例です。

```
{
  "version": "0",
  "id": "01234567-0123-0123-0123-0123456789ab",
  "detail-type": "Listing Available",
  "source": "aws.discovery-marketplace",
  "account": "123456789012",
  "time": "2023-08-26T00:00:00Z",
  "region": "us-east-1",
  "resources": [],
  "detail": {
    "requestId": "3d4c9f9b-b809-4f5e-9fac-a9ae98b05cbb",
    "catalog": "AWSMarketplace",
    "offer": {
      "id": "offer-1234567890123",
      "expirationDate": "2025-08-26T00:00:00Z"
    },
    "product": {
      "id": "bbbbaaaa-abcd-1111-abcd-666666666666",
      "title": "Product Title"
    },
    "sellerOfRecord": {
      "name": "Seller Name"
    }
  }
}
```

AWS Marketplace Private Marketplace EventBridge イベント

プライベートマーケットプレイスの管理者と購入者は、購入者が製品のリクエストを作成するたびに AWS Marketplace からイベントを受信します。また、リクエストが承認または拒否された際もイベントを受信します。イベントには、製品 ID や販売者名などの詳細が含まれます。

このセクションのトピックでは、次のテーブルに一覧されるイベントについて詳述します。

アクション	受信したイベント	詳細情報
購入者がプライベートマーケットプレイスの製品をリクエストする	製品リクエストが作成される	新製品リクエストのイベント
管理者が製品を承認する	製品リクエストが承認される	製品リクエスト承認イベント
管理者が製品を拒否するか、30 日後にシステムが自動拒否する	製品リクエストが拒否される	製品リクエストの拒否イベント

新製品リクエストのイベント

購入者がプライベートマーケットプレイスカタログの製品をリクエストすると、購入者とプライベートマーケットプレイスの管理者は Product Request Created 詳細タイプのイベントを受信します。

次の例は、Product Request Created イベントのイベント本文の例です。

```
{
  "version": "0",
  "id": "01234567-0123-0123-0123-0123456789ab",
  "detail-type": "Product Request Created",
  "source": "aws.private-marketplace",
  "account": "255182084545",
  "time": "2016-11-01T13:12:22Z",
  "region": "us-east-1",
  "resources": [
    "arn:aws:aws-marketplace:us-east-1:255182084545:AWSMarketplace/Experience/exp-12345"
  ],
  "detail": {
    "requestId": "3d4c9f9b-b809-4f5e-9fac-a9ae98b05cbb",
    "expirationDate": "2022-11-01T13:12:22Z",
    "schemaVersion": "1.0.0",
    "product": {
      "id": "product-12345",
      "arn": "arn:aws:aws-marketplace:us-east-1:123456789012:AWSMarketplace/SaaSProduct/product-12345",
    }
  }
}
```

```

    "title": "MSP360 Backup for Google Workspace"
  },
  "manufacturer": {
    "name": "Test Vendor"
  },
  "experienceId": "exp-12345",
  "catalog": "AWSMarketplace",
  "requesterArn": "arn:aws:iam::255182084545:user/pmp-enduser"
}
}

```

製品リクエスト承認イベント

プライベートマーケットプレイス管理者が購入者のプライベートマーケットプレイスカタログの製品を承認すると、購入者とプライベートマーケットプレイス管理者は Product Request Approved 詳細タイプのイベントを受信します。

次は、Product Request Approved イベントのイベント本文例です。

```

{
  "version": "0",
  "id": "01234567-0123-0123-0123-0123456789ab",
  "detail-type": "Product Request Approved",
  "source": "aws.private-marketplace",
  "account": "255182084545",
  "time": "2016-11-01T13:12:22Z",
  "region": "us-east-1",
  "resources": [
    "arn:aws:aws-marketplace:us-east-1:255182084545:AWSMarketplace/Experience/exp-12345"
  ],
  "detail": {
    "requestId": "3d4c9f9b-b809-4f5e-9fac-a9ae98b05cbb",
    "approvedDate": "2022-11-05T13:12:22Z",
    "schemaVersion": "1.0.0",
    "product": {
      "id": "product-12345",
      "arn": "arn:aws:aws-marketplace:us-east-1:123456789012:AWSMarketplace/SaaSProduct/product-12345",
      "title": "MSP360 Backup for Google Workspace"
    },
    "manufacturer": {
      "name": "Test Vendor"
    }
  }
}

```

```

    },
    "experienceId": "exp-12345",
    "catalog": "AWSMarketplace",
    "requesterArn": "arn:aws:iam::255182084545:user/pmp-enduser"
  }
}

```

製品リクエストの拒否イベント

プライベートマーケットプレイス管理者が製品の追加を拒否した場合、または 30 日後にシステムがリクエストを自動的に拒否した場合、購入者とプライベートマーケットプレイス管理者 (複数可) は Product Request Declined 詳細タイプのイベントを受信します。

次は、Product Request Declined イベントのイベント本文例です。

```

{
  "version": "0",
  "id": "01234567-0123-0123-0123-0123456789ab",
  "detail-type": "Product Request Declined",
  "source": "aws.private-marketplace",
  "account": "255182084545",
  "time": "2016-11-01T13:12:22Z",
  "region": "us-east-1",
  "resources": [
    "arn:aws:aws-marketplace:us-east-1:255182084545:AWSMarketplace/Experience/exp-12345"
  ],
  "detail": {
    "requestId": "3d4c9f9b-b809-4f5e-9fac-a9ae98b05cbb",
    "declinedDate": "2022-11-05T13:12:22Z",
    "declinedCause": "REQUEST_EXPIRED",
    "schemaVersion": "1.0.0",
    "product": {
      "id": "product-12345",
      "arn": "arn:aws:aws-marketplace:us-east-1:123456789012:AWSMarketplace/SaaSProduct/product-12345",
      "title": "MSP360 Backup for Google Workspace"
    },
    "manufacturer": {
      "name": "Test Vendor"
    }
  },
  "experienceId": "exp-12345",
  "catalog": "AWSMarketplace",

```

```
"requesterArn": "arn:aws:iam::255182084545:user/pmp-enduser"  
}  
}
```

AWS Marketplace 調達システムとの統合

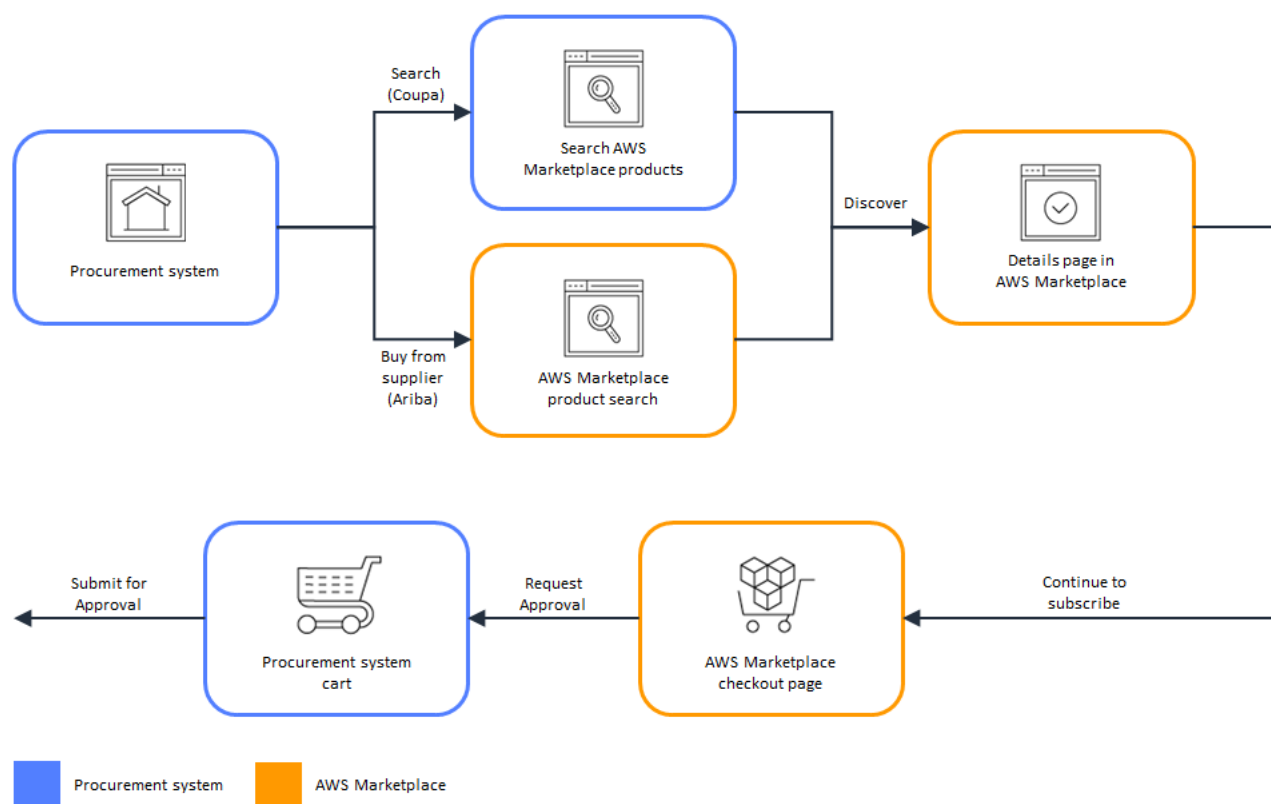
コマーシヤル拡張マークアップ言語 (cXML) プロトコル AWS Marketplace に従って と統合するように調達ソフトウェアを設定できます。この統合は、サードパーティーのカatalogにパンチアウトとも呼ばれるアクセスポイントを作成します。

統合は、調達システムによってわずかに異なります。

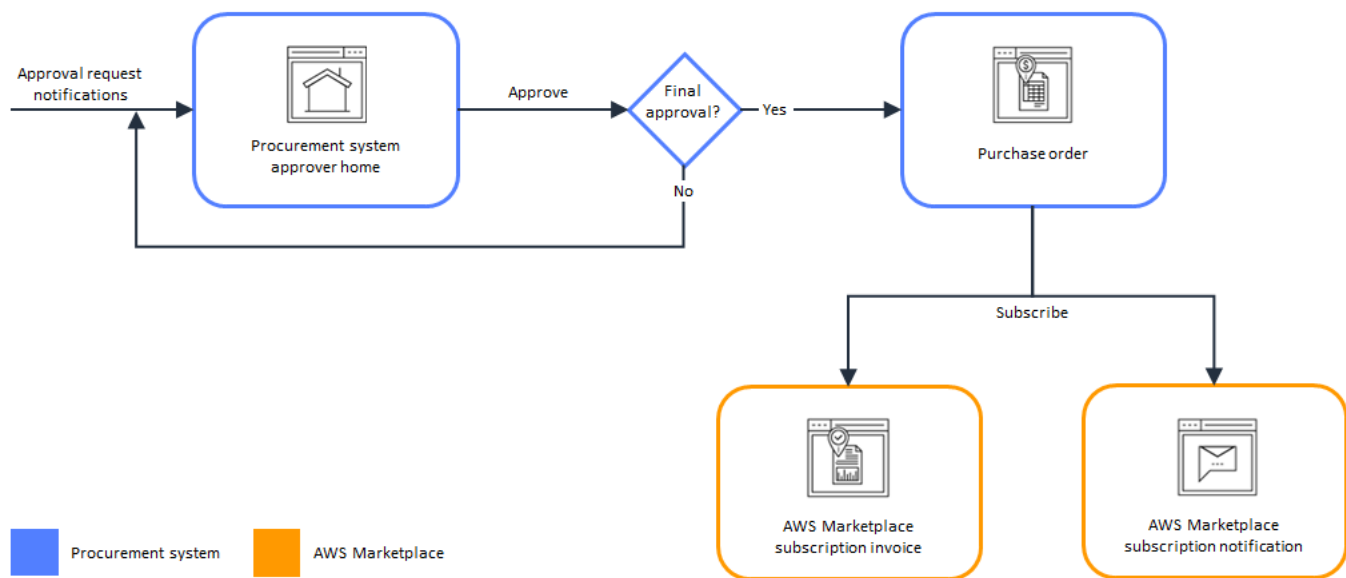
- Coupa – Coupa Open Buy 機能を使用すると、Coupa 内 AWS Marketplace から検索できます。Coupa には検索結果が表示され、ユーザーが製品を選択すると、AWS Marketplace にリダイレクトされて詳細が表示されます。または、Coupa の調達ソフトウェアのユーザーは、ホームページのオンラインショッピングセクションで AWS Marketplace Catalogにアクセスできます。ユーザーは、で直接開始 AWS Marketplace して製品を参照することもできます。
- SAP Ariba – Ariba はユーザーを にリダイレクト AWS Marketplace してソフトウェアを検索し、製品の詳細を取得します。管理者がパンチアウト統合を設定すると、Ariba の調達ソフトウェアのユーザーは Catalog タブを選択し、AWS Marketplace Catalogを選択して AWS Marketplace ソフトウェアを検索できます。これにより、関心のある製品を見つける AWS Marketplace ために にリダイレクトされます。

Ariba ユーザーは AWS Marketplaceではなく、Ariba 内から購入を開始する必要があります。

ユーザーが閲覧しているサブスクリプションを購入すると AWS Marketplace、その中にサブスクリプションリクエストが作成されます AWS Marketplace。製品のサブスクリプションページでは、購入を完了する代わりに、ユーザーは承認をリクエストします。承認プロセスを完了するために、リクエストは調達システムのショッピングカートに返送されます。次の図は、調達システムサブスクリプションリクエストのプロセスを示しています。



調達システムが リクエストを受け取ると AWS Marketplace、調達システムは承認プロセスを完了するためのワークフローを開始します。リクエストが承認されると、調達システムの発注書システムは AWS Marketplace の取引を自動的に完了し、ユーザーにサブスクリプションのデプロイ準備ができたことを通知します。リクエストは、購入を完了 AWS Marketplace するために に戻る必要はありません。ただし、購入した製品の使用方法 AWS Marketplace については、「」を参照してください。は、アクセスに使用した AWS アカウントに E メール AWS Marketplace メッセージを送信します AWS Marketplace。E メールメッセージは、サブスクリプションが成功し、ソフトウェアが使用可能であることを受信者に通知します AWS Marketplace。次の図は、調達システムサブスクリプションリクエストの承認プロセスを示しています。



調達システムとの統合に関するその他の注意事項は次のとおりです。

- 使用量ベースの料金の SaaS 製品では、予想される使用量の予算見積りを設定できます。この見積りは、調達システムを通じて承認のために送信できます。事前承認の取得を選択した場合、実際の料金は実際の使用量に基づいており、承認された発注書に対して毎月請求されます。最初の見積もりに関係なく、実際の使用量に基づいて課金されます。実際の使用量が推定使用量を超える場合は、差額をカバーするために追加の購入申請を提出する必要があります。
- 無料試用版には料金がかからないため、調達システムでは請求書は生成されません。
- サーバー年間契約 (AMI、コンテナ、Helm チャートオプションを含む) には、継続的な pay-as-you-go と 1 回限りの前払い料金の両方が含まれており、2 段階の承認プロセスが必要です。まず、pay-as-you-go 契約の承認リクエストを送信します。デフォルトでは 10,000 USD です (この金額は請求されません)。がこの最初の承認から PO AWS Marketplace を受け取ったら、調達ページに戻り、2 番目の承認にルーティングします。これにより、合計契約額が表示されます。この 2 回目の承認が完了すると、最終的な契約が締結されます。
- PSI (調達システム統合) を利用しているお客様は、無料製品と BYOL 製品の事前承認を有効にできます。無料版と BYOL 版の 2 つの設定があります。設定を有効にすると、注文は 事前承認され AWS Marketplace、顧客は承認のために調達システムに注文を送信する必要はありません。この設定が無効になっている場合、顧客は [リクエスト承認] ボタンを使用して調達システムに承認を送信します。無料製品と BYOL 製品の事前承認設定を無効にすると、顧客の調達システムで 0.00 USD の注文が生成されます。調達システム統合の詳細については、「<https://aws.amazon.com/marketplace/features/procurementsystem>」を参照してください。

Coupa と統合 AWS Marketplace するための の設定

このセクションのトピックでは、Coupa 調達システムと AWS Marketplace 統合する方法について説明します。

ステップ 1. IAM 許可をセットアップする

AWS Marketplace と調達システムの統合を設定するには、AWS Marketplace でプロセスを開始し、調達システムでプロセスを完了します。AWS Marketplace で生成された情報を使用して、調達システムのパンチアウトを設定します。設定を完了するには、使用するアカウントが以下の要件を満たしている必要があります。

- AWS Marketplace の設定を完了するために使用される AWS アカウントは、管理アカウントであり、[AWS #####: AWSMarketplaceProcurementSystemAdminFullAccess](#) 管理ポリシーで定義されている IAM アクセス許可を持っている必要があります。

アクセス許可を手動で設定するのではなく、IAM マネージドアクセス許可を使用することをお勧めします。この方法を使用すると、ヒューマンエラーが発生しにくくなり、アクセス許可が変更された場合に、管理ポリシーが更新されます。での IAM の設定と使用の詳細については AWS Marketplace、このガイドの[セキュリティ AWS Marketplace](#)後半の「」を参照してください。

- 設定の完了に使用される調達システムアカウントは、調達システムに契約、サプライヤー、パンチアウトカタログを設定するための管理アクセスを持つ必要があります。

ステップ 2. Coupa と統合するように AWS Marketplace を設定する

IAM アクセス許可を設定したら、Coupa との AWS Marketplace 統合を設定する準備が整います。[調達の管理] に移動します。[調達システムの管理] ペインで、パンチアウトの名前と説明を入力します。統合をテストモードに切り替えて、準備ができるまで製品サブスクリプションを作成せずに統合をテストすることもできます。統合の AWS Marketplace 部分を設定するには、次の手順を実行します。

Coupa と統合するように AWS Marketplace を設定するには

1. [AWS Marketplace Manage Procurement Systems](#) の Procurement systems で、Set up Coupa integration を選択します。
2. [Manage Coupa integration (Coupa 統合の管理)] ページの [Account information (アカウント情報)] で、統合の名前と説明を入力します。

Note

AWS Billing コンソールで、Software as a Service (SaaS) 契約製品をサブスクライブするために使用されるコマース拡張マークアップ言語 (cXML) 発注書を参照する場合があります。その場合は、AWS Marketplace 設定でサービスにリンクされたロールを使用して AWS 請求統合を有効にできます。

3. リダイレクトとテストモードを有効にするの設定をオンまたはオフにし、保存を選択して AWS Marketplace システムでの統合を完了できます。

AWS Marketplace で統合が完了したら、Coupa で統合をセットアップする必要があります。このページで生成された情報を使用して、Coupa システムのパンチアウトを設定します。

AWS Marketplace の設定では、デフォルトでテストモードが有効になります。テストモードでは、サブスクリプションリクエストは Coupa バックエンドに送られるため、フロー全体を確認できますが、最終的な請求書は作成されません。これは、設定を完了してから計画的にパンチアウトを有効するのに役立ちます。

Note

必要に応じてテストモードをオンまたはオフに切り替えることができます。統合が完了したら、テストモードをオフにすることを忘れないでください。そうしない場合、システム内のユーザーがリクエストを作成しているように見えますが、ソフトウェアは購入されません。

ステップ 3. Coupa を設定する

Coupa システムで AWS Marketplace との統合を設定するには、AWS Marketplace の「Coupa 統合の管理」ページの「購入情報」ペインから情報をコピーします。この情報を使用して以下のリンクのステップを完了し、ガイドに従って Coupa 調達システムを設定します。

- [Coupa パンチアウト設定](#)
- [cXML 発注書用のサプライヤーの設定](#)

Note

AWS Marketplace で使用される UNSPSC コードの詳細については、[AWS Marketplaceが使用する UNSPSC コード](#)「」を参照してください。

SAP Ariba と統合 AWS Marketplace するための の設定

以下のトピックでは、SAP Ariba 調達システムと連携 AWS Marketplace するように を設定する方法について説明します。Configuration を使用すると、ユーザーは SAP Ariba を離れることなく AWS Marketplace ソフトウェアを検索して購入できます。

IAM アクセス許可のセットアップ

設定プロセスは WS Marketplace AWS Marketplace で開始され、SAP Ariba で終了します。で生成された情報を使用して AWS Marketplace 、調達システムのパンチアウトを設定します。設定を完了するには、使用するアカウントが次の要件を満たしている必要があります。

- AWS Marketplace 設定を完了するために使用される AWS アカウントは、管理アカウントであり、[AWS #####: AWSMarketplaceProcurementSystemAdminFullAccess](#)管理ポリシーで定義されている IAM アクセス許可を持っている必要があります。

アクセス許可を手動で設定するのではなく、IAM マネージドアクセス許可を使用することをお勧めします。このアプローチはヒューマンエラーが発生しにくく、アクセス許可が変更されると、管理ポリシーが更新されます。での IAM の設定と使用の詳細については AWS Marketplace、このガイドの後半の「[のセキュリティ AWS Marketplace](#)」を参照してください。

- 設定の完了に使用される調達システムアカウントは、調達システムに契約、サプライヤー、パンチアウトカタログを設定するための管理アクセスを持つ必要があります。

ステップ 2. SAP Ariba と統合 AWS Marketplace するように を設定する

を Ariba と統合 AWS Marketplace するように設定するには、AWS Marketplace 運用チームと協力してレベル 1 のパンチアウトを作成する必要があります。SAP Ariba パンチアウトの詳細については、SAP コミュニティウェブサイトの「[SAP Ariba パンチアウトの概要](#)」を参照してください。

セットアップを設定する準備として、以下の情報を収集してください。

- AWS アカウント ID。AWS アカウントが AWS 組織の一部である場合は、管理アカウント ID も必要です。
- SAP Ariba システムの Ariba ネットワーク ID (ANID)。

Ariba と統合 AWS Marketplace するように を設定するには

1. [AWS Marketplace Manage Procurement Systems](#) の [調達システム] で、[Ariba 統合の設定] を選択します。
2. [SAP Ariba 統合の管理] ページの [アカウント情報] で、統合の名前と説明、Ariba システムの [SAP Ariba ネットワーク ID] (ANID) を入力します。

 Note

AWS Billing コンソールの請求書で、SaaS 契約製品のサブスクリプションに使用される cXML 発注書を参照する場合があります。その場合は、AWS Marketplace 設定でサービスにリンクされたロールを使用して AWS 請求統合を有効にできます。

3. テストモードが有効になっていることを確認し、保存を選択して AWS Marketplace 統合設定を保存します。
4. SAP Ariba 統合の作成プロセスを開始するには、[お問い合わせください](#)。上記の情報を含めてください。AWS Marketplace から Ariba 統合の設定とテストの手順をお送りします。

 Note

サプライヤー関係を作成するには、SAP Ariba システムへの管理者アクセス権が必要です AWS Marketplace。

AWS Marketplace チームの指示と設定に従って、SAP Ariba テスト環境で統合を作成し、をテストモードで AWS Marketplace 実行します。テスト環境では、サブスクリプションリクエストは Ariba バックエンドに送られるため、でサブスクリプションを作成することなく、承認を含むフロー全体を確認でき AWS Marketplace、請求書は生成されません。この方法では、本番環境でパンチアウトを有効にする前に設定をテストできます。テストが完了し、本番環境に移行する準備ができれば、[当社に連絡して](#)実稼働環境でアカウントを設定してください。

Note

統合のテストが終わったら、忘れずに本番環境に移行してください。そうしない場合、システム内のユーザーは自分がリクエストを作成していると思っても、ソフトウェアは購入されません。

テストが完了し、AWS Marketplace チームと協力してテストモードをオフにすると、統合は完了です。

SAP Ariba の構成詳細については、「SAP コミュニティ」の「[SAP Ariba パンチアウトの概要](#)」を参照してください。

Note

UNSPSC コードの詳細については、[AWS Marketplaceが使用する UNSPSC コード](#)「」を参照してください。

AWS Marketplaceが使用する UNSPSC コード

AWS Marketplace は、調達カートに返送されるソフトウェア出品に、以下の国連標準製品およびサービスコード (UNSPSC) を使用します: 43232701

調達システムの統合の無効化

Coupa または SAP Ariba との統合を無効にするには、調達システム内からパンチアウト統合を削除する必要があります。これを行うには、Coupa または Ariba のいずれかから AWS Marketplace の自動リダイレクト機能を無効にします。これにより統合は無効になりますが、設定は維持され、簡単に再有効化できます。

AWS Marketplace サイドの統合設定を完全に削除する必要がある場合は、[お問い合わせください](#)。

購入者 AWS として で購入を使用する

で購入 AWS すると、購入者は販売者のウェブサイトやマーケットプレイス、シンプルな埋め込み CTA (call-to-action) ボタンなど、任意の選択肢から AWS Marketplace 出品を購入できます。お客様は、パートナーのウェブサイトで「 で利用可能 AWS Marketplace」製品を調べたり、デモをリクエストしたり、無料トライアルにアクセスしたり、カスタム料金を要求したりできます。購入するには、Buy with AWS ボタンをクリックし、アカウントにログインします AWS。AWS トランザクションを使用したすべての購入は、内で処理および管理されます AWS Marketplace。これにより、一括 AWS 請求、一元的なサブスクリプション管理、コスト最適化ツールへのアクセスなどのメリットが得られます。

Note

AWS 機能での購入の詳細については、「[での購入 AWS](#)」を参照してください。

販売者のウェブサイトに表示される CTA ボタンは次のとおりです。

- で購入する AWS
- でオファーを表示する AWS
- で無料で試す AWS
- プライベートオファーをリクエストする
- デモをリクエストする

で購入 AWS すると、次の利点があります。

- クラウドソリューションの検出と評価を加速する: ウェブ上でソリューションを探しながら AWS、を通じて購入可能な AWS パートナーからソフトウェアを見つけます AWS。
- アカウント AWS での便利で安全な購入: AWS ボタンで購入を探し、アカウント AWS でログインして、AWS 支払い設定を高速購入に使用します。
- による一括請求とメリット AWS Marketplace: で一括請求をロック解除 AWS し、一元化されたツールにアクセスして、のサブスクリプションを管理し、コストを最適化できます AWS Marketplace。

サポートされている製品

以下の製品は、での購入をサポートしています AWS。

- SaaS サブスクリプション
- SaaS 契約
- SaaS 契約 (追加使用量あり)
- SaaS 無料トライアル

製品の検出と購入

販売者のウェブサイトで製品を表示およびサブスクライブする

1. で購入する機能を備えた販売者のウェブサイトに移動します AWS。
2. 購入する製品を特定します。
3. CTA で購入 AWSボタンを選択します。

[Buy with AWS](#)[Try free with AWS](#)[Request private offer](#)[Request demo](#)

4. まだログインしていない場合は、AWS アカウントにログインします。シングルサインオン (SSO) ユーザーの場合は、まず SSO 認証情報を使用して認証します。通常使用しているのと同じ認証フレームワーク (SAML 2、OIDC、OAuth 2.0 など) を使用します。ログインすると、AWS 共同ブランド調達による購入ページにアクセスできます。
5. AWS 共同ブランド調達での購入ページには、顧客レビューと購入のオファーの詳細、料金、条件が表示されます。
6. 購入オファーの詳細を確認します。
7. [サブスクライブ] を選択します。
8. SaaS 製品をサブスクライブしたら、販売者のウェブサイトに登録するアカウントを設定するを選択します。

販売者のウェブサイトからプライベートオファーをリクエストする

1. で購入する機能を備えた販売者のウェブサイトに移動します AWS。
2. 購入する製品を特定します。
3. プライベートオファーのリクエスト CTA ボタンを選択します。
4. 連絡先の詳細 (名前、電話番号、E メール) と、リクエストに関連する情報を入力します。
5. [Submit request (リクエストの送信)] を選択します。

販売者は、プライベートオファーのリクエストについて連絡します。

販売者のウェブサイトからデモをリクエストする

1. で購入する機能を備えた販売者のウェブサイトに移動します AWS。
2. 購入する製品を特定します。
3. デモ CTA のリクエストボタンを選択します。
4. 連絡先の詳細 (名前、電話番号、E メール) と、リクエストに関連する情報を入力します。
5. [Submit request (リクエストの送信)] を選択します。

販売者はデモのリクエストについて連絡します。

に記載されている製品の無料トライアル AWS Marketplace

に記載されている一部の製品では、無料トライアル AWS Marketplace を提供しています。無料トライアルでは、購入前にソフトウェアを試用できます。無料トライアルは、一定の無料使用量または期間に制限されています。無料トライアル期間を開始すると一時停止できません。

ソフトウェアとインフラストラクチャの料金

販売者が提供する無料トライアルは、出品されている製品のソフトウェア料金にのみ適用されます AWS Marketplace。購入者は、ソフトウェアの料金に無料トライアルが含まれているかどうか AWS Marketplace にかかわらず、 から販売者の製品を使用する際のすべてのインフラストラクチャコストを負担する責任があります。これらのインフラストラクチャコストは によって設定 AWS され、それぞれの料金ページで利用できます。例えば、無料トライアルがある Amazon マシンイメージ (AMI) 製品をサブスクライブする場合、無料トライアル中の AMI の使用に対しては課金されません。ただし、AMI 製品を実行する Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスに対して課金される場合があります。

Note

製品によっては、実行するために追加の AWS インフラストラクチャが必要になる場合があります。例えば、販売者は、ロードバランサー、ストレージ、データベース、またはその他の AWS のサービスにデプロイするデプロイ手順やテンプレートを提供する場合がありま AWS アカウント。販売 AWS のサービス 者が製品に何を必要としているかを理解するには、 にリストされている製品の詳細ページを確認してください AWS Marketplace。次に、該当する AWS のサービスの料金ページを確認します。

AMI ベースの製品の無料トライアル

で時間単位または時間単位の年間料金を使用する一部の AMI 製品 AWS Marketplace には、無料トライアルがあります。無料トライアルにサブスクライブすると、販売者が設定した期間中、AMI 製品の Amazon EC2 インスタンスを 1 つ、時間単位のソフトウェア料金なしで実行できます。インフラストラクチャの料金は、ユーザーの負担となります。追加の Amazon EC2 インスタンスを起動するには、インスタンスごとに時間単位のソフトウェア料金が発生します。無料トライアルは、有効期限が切れると自動的に有料サブスクリプションに切り替わります。

無料トライアルの終了前に Amazon EC2 インスタンスを終了しないと、無料トライアルが終了した時点から時間単位のソフトウェア料金が発生します。無料トライアルのサブスクリプションを解除しても、Amazon EC2 インスタンスは自動的に終了せず、継続して使用するとソフトウェア料金が発生します。インフラストラクチャの料金の詳細については、「[Amazon EC2 料金表](#)」を参照してください。

コンテナベースの製品の無料トライアル

で時間単位または時間単位の長期料金を使用する一部のコンテナ製品 AWS Marketplace には、無料トライアルがあります。無料トライアルにサブスクライブすると、複数の Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) タスクまたは Amazon Elastic Kubernetes Service (Amazon EKS) ポッドを時間単位のソフトウェア料金なしで一定期間実行できます。含まれるタスクまたはポッドの数、無料トライアルの期間は、販売者が設定します。インフラストラクチャの料金は、ユーザーの負担となります。無料トライアルに含まれる数を超えて追加のタスクまたはポッドを起動すると、タスクまたはポッドごとに時間単位のソフトウェア料金が発生します。無料トライアルは、有効期限が切れると自動的に有料サブスクリプションに切り替わります。

無料トライアルの終了前にタスクやポッドを終了しないと、無料トライアルが終了した時点から時間単位のソフトウェア料金が発生します。無料トライアルのサブスクリプションを解除しても、タスクやポッドは自動的に終了せず、継続して使用するとソフトウェア料金が発生します。これらの料金の詳細については、「[Amazon ECS 料金表](#)」と「[Amazon EKS 料金表](#)」を参照してください。

機械学習製品の無料トライアル

の時間単位の料金を使用する一部の機械学習製品 AWS Marketplace には、無料トライアルがあります。無料トライアルにサブスクライブすると、時間単位のソフトウェア料金を発生させることなく、販売者が設定した期間、Amazon SageMaker AI エンドポイント、バッチ変換ジョブ、またはトレーニングジョブを実行できます。インフラストラクチャの料金は、ユーザーの負担となります。無料トライアルは、有効期限が切れると自動的に有料サブスクリプションに切り替わります。

無料トライアルが終了する前に Amazon SageMaker AI エンドポイント、バッチ変換ジョブ、またはトレーニングジョブを終了しない場合、無料トライアル終了時に時間単位のソフトウェア料金が発生します。無料トライアルのサブスクリプションを解除しても、Amazon SageMaker AI エンドポイント、バッチ変換ジョブ、またはトレーニングジョブは自動的に終了せず、使用を継続してもソフトウェア料金が発生します。インフラストラクチャ料金の詳細については、[Amazon SageMakerの料金](#)」を参照してください。

SaaS 製品の無料トライアル

の Software as a Service (SaaS) 製品には無料トライアル AWS Marketplace があります。SaaS の無料トライアルは、自動的に有料契約に切り替わりません。無料トライアルが不要になった場合は、期限切れにできます。詳細については、「[SaaS 無料トライアルをサブスクライブする](#)」を参照してください。

AWS Service Catalog への AWS Marketplace サブスクリプションの追加

Service Catalog では、Amazon Web Services (AWS) での使用が承認された IT サービスのカタログを作成および管理できます。この IT サービスには、仮想マシンイメージ、サーバー、ソフトウェア、データベースから包括的な多層アプリケーションアーキテクチャまで、あらゆるものが含まれます。Service Catalog では、一般的にデプロイされる IT サービスを一元管理できます。Service Catalog により、一貫性のあるガバナンスを実現してコンプライアンス要件を満たし、ユーザーは必要な承認されたサービスのみをすばやくデプロイできるようになります。

詳細については、「Service Catalog [管理者ガイド](#)」の「[ポートフォリオへの AWS Marketplace 製品の追加](#)」を参照してください。

にリストされているアイテムの製品レビュー AWS Marketplace

AWS Marketplace は、購入者が賢明な購入選択を行うために必要な情報を取得したいと考えています。AWS 顧客は、にリストされているアイテムのレビューを送信 AWS Marketplace し、他の顧客からのレビューを表示して、購入の決定を知らせることができます。

を通じて製品を購入すると AWS Marketplace、購入から 30 日後に、エクスペリエンスの共有を求める E メールが届きます。製品の詳細ページでレビューを残すことを選択して、いつでもレビューを送信することもできます。

すべてのレビューは検証プロセスを経て、公開される前に AWS Marketplace レビュー基準を満たしていることを確認します。これにより、他の顧客に表示されるフィードバックの品質と信頼性を維持できます。

Note

データおよびプロフェッショナルサービス製品は、製品レビューをサポートしていません。

AWS Marketplace レビューとは

AWS Marketplace は、製品の使用経験のある他のユーザーからのフィードバックに基づいて、情報に基づいた購入決定を行うのに役立つ顧客レビューを表示します。レビューには、星の評価 (1~5 個の星) と、製品の機能、パフォーマンス、全体的なエクスペリエンスに関する詳細な書面によるフィードバックが含まれます。

レビューのタイプ

AWS Marketplace には、AWS Marketplace 顧客および外部レビューサイトの 2 つのソースからのレビューが表示されます。

AWS Marketplace カスタマーレビュー

AWS Marketplace カスタマーレビューには、星の評価と、製品を購入した検証済み AWS 顧客からの詳細な製品フィードバックが含まれます。これらのレビューは、エンタープライズソフトウェアレビューを専門とする business-to-business レビュープラットフォームである PeerSpot とのパートナーシップを通じて収集されます。

AWS Marketplace 顧客レビューの主な特徴：

- 検証済み購入 – レビューは、 を通じて製品を実際に購入した顧客からのものです。 AWS Marketplace
- 拡張コンテキスト – レビューには、レビュー担当者の役職、業界、利用可能な場合の会社規模などの追加情報が含まれます。
- 検証プロセス – 公開前に、すべてのレビューが AWS Marketplace レビュー基準を満たしていることが確認されます。
- 評価計算 – これらの顧客スター評価の平均によって、製品ページに表示される全体的な製品評価が決まります。

外部レビュー

G2 と PeerSpot (business-to-businessレビュープラットフォーム) からの外部レビューも表示され、追加の視点を提供します。これらのレビューは、より広範なソフトウェアコミュニティから取得され、他のチャネルを通じて製品を購入したユーザーからのフィードバックが含まれる場合があります。

外部レビューの主な特徴：

- 個別の検証 – これらのレビューは、外部プラットフォーム独自の検証プロセスに従い、によってレビューされません。 AWS Marketplace
- 個別の評価 – 外部レビューからのスター評価は個別に表示され、AWS 顧客評価平均には含まれません。
- その他のインサイト – これらのレビューは、より広範な市場視点を提供し、代替ソリューションと比較できます。

どちらのタイプのレビューも明確にラベル付けされているため、購入を決定する際に、検証済みの AWS Marketplace 顧客フィードバックと外部コミュニティレビューを区別できます。

製品ページからレビューを送信する

製品の詳細ページから直接レビューを送信するには、すぐにレビューを記述したり、音声レビューを記録したり、PeerSpot アナリストとの通話をスケジュールしたりできます。

製品ページからレビューを送信するには

1. 確認する製品の製品詳細ページに移動します。
2. 「顧客レビュー」セクションで、「レビューを残す」を選択します。

PeerSpot の AWS ブランドのレビューインターフェイスにリダイレクトされます。

3. PeerSpot レビューページで、任意のレビュー方法を選択します。
 - レビューを書き込む – レビューフォームをすぐに作成します。
 - 通話をスケジュールする – PeerSpot アナリストとの電話インタビューを手配する
 - 音声レビューを記録する – PeerSpot の AI 音声エージェントとの会話を通じてレビューを残します。
4. 選択した方法に基づいてプロセスを完了します。
 - レビューを書き込むには
 - a. 製品の星の評価 (1～5 個の星) を選択します。
 - b. 「製品名」について何が一番好きですか？ フィールドで、エクスペリエンスの肯定的な側面を記述します。
 - c. 「製品名」について何が好きですか？ フィールドで、発生した課題や制限について説明します。
 - d. 「製品名」が解決する問題と、その利点は何ですか？ フィールドで、ユースケースと製品が提供する価値について説明します。
 - e. (オプション) 他の購入者が自分の視点を理解できるように、自分の役割、業界、会社規模に関する追加のコンテキストを提供します。
 - f. レビューの送信を選択して、フィードバックを送信します。
 - g. レビューが PeerSpot によって検証され、3 営業日以内に公開されることを示す確認メッセージが表示されます。
 - 通話をスケジュールするには
 - a. 名、姓、E メールアドレスを入力します。電話番号はオプションです。
 - b. (オプション) 会社名と役職を入力します。
 - c. ドロップダウンメニューから任意のタイムゾーンを選択します。
 - d. カレンダー表示から使用可能なタイムスロットを選択します。
 - e. コールのスケジュールを選択して、予約を確認します。

- f. E メールをチェックして、通話の詳細とウェブ会議情報を含むカレンダーの招待を確認します。
- 音声レビューを録音するには
 - a. E メールアドレスを入力します。
 - b. 録音の開始 を選択して、音声レビュープロセスを開始します。
 - c. 面接準備画面が読み込まれるまで待ちます。
 - d. プロンプトが表示されたら、レビューを記録します。記録期間を示すタイマーが表示されます。
 - e. システムがインタビュー録音を保存するまで待ちます。
 - f. 確認フォームに詳細を入力します。
 - g. 続行を選択して電話検証に進みます。
 - h. 電話番号に送信された検証コードを入力し、検証を選択します。
 - i. 経験評価を選択して、面接プロセスに関するフィードバックを提供します。
 - j. レビューの送信が完了したことを示す確認メッセージを確認します。

レビューを送信した後、送信について質問がある場合は、reviews@peerspot.com まで PeerSpot に直接お問い合わせください。スケジュールされた通話の場合、PeerSpot アナリストが製品エクスペリエンスに関する構造化されたインタビューを案内し、ユーザーに代わって包括的なレビューを作成します。

Note

スケジュールされた予約を再スケジュールまたはキャンセルする必要がある場合は、確認メールまたはカレンダーの招待に記載されている連絡先情報を使用します。

ガイドライン

製品の AWS Marketplace サブスクリプションを持つユーザーは誰でも、その製品のレビューを作成できます。レビューを送信すると、PeerSpot のレビューインターフェイスに移動し、フィードバックを収集するための AWS ブランドエクスペリエンスを提供します。

製品レビューを書く際には、以下のガイドラインに従ってください。

- 理由を記載する - レビューには製品の好き嫌いだけでなく、その理由も書かれていると大変参考になります。関連する製品についての意見やそれらの製品との比較結果を書いてもかまいません。
- 具体的に記載する - レビューでは、製品の具体的な機能やエクスペリエンスに焦点を当てます。ユースケース、実装エクスペリエンス、および環境での製品のパフォーマンスに関する詳細を含めます。
- 簡潔にする - 書面によるレビューは、焦点を絞って読みやすくしながら役立つ十分な詳細を提供する必要があります。
- 正直に記載する - 肯定的か否定的かを問わず、製品に関する正直な意見をお聞かせください。役立つ情報は、お客様の購入決定に役立ちます。
- 透明性を保つ - レビューを行うことを条件に無料の製品を受け取った場合は、その旨を明確かつわかりやすい形で開示してください。
- コンテキストを提供する - 可能であれば、自分の職務、業界、会社規模に関する情報を含めて、自分の経験が自分の状況とどのように関連しているかを他の購入者が理解できるようにします。

レビューは、書面による送信、PeerSpotアナリストとのインタビュー、AWS イベントでのアウトリーチなど、複数の方法で収集されます。フィードバックの提供方法にかかわらず、同じ品質ガイドラインが適用されます。

制限事項

レビューは、公開される前に PeerSpot によってモデレートされます AWS Marketplace。次のいずれかのコンテンツを含むレビューは、公開が承認されません。

- 次のような好ましくないマテリアル。
 - ひわいな内容や不快な内容
 - 不敬な意見や悪意のある意見
 - 違法行為や不道德な行為を促す内容
- 以下を含む販促コンテンツ：
 - 広告、販促資料、または同じ主張を繰り返す投稿
 - 個人や会社による、または個人や会社のための、製品や直接競合する製品の金銭的利益につながる意見 (作成者、公開者、製造者、または製品を販売するサードパーティーの業者によるレビューなど)
 - 製品の無料コピー以外の対価を受けることを目的としたレビューコメント (有料の宣伝パッケージに含まれるレビューなど)

- 製品への検証可能なサブスクリプションのない顧客のレビューコメント
- 以下を含む不適切なコンテンツ:
 - 他者からコピーされたコンテンツ (過度の引用など)
 - Amazon.com 以外の連絡先または URL
 - 在庫や別の注文/発送の詳細
 - ウォーターマークを含む動画
 - 形式に問題があるテキスト
- 以下を含む主題から外れた情報:
 - 販売者や配送に関するフィードバック
 - カタログや製品説明の誤植や間違いに関するフィードバック (これについては、製品ページの下にあるフィードバックフォームを使用)

製品の欠陥を特定する重要なレビューは、報告された問題に対処するために、さらなるレビューと潜在的なフォローアップ AWS のために と共有される場合があります。

カスタマーレビューに関するご質問は、[お問い合わせ](#)までご連絡ください。

プロセスとタイミングを確認する

のレビューの収集と公開 AWS Marketplace は、エンタープライズソフトウェアに特化したbusiness-to-businessレビュープラットフォームである PeerSpot とのパートナーシップを通じて管理されます。

検証と承認プロセス

すべてのレビューは、公開前に PeerSpot の検証とモデレーションのプロセスを経て行われます。レビューはコンテンツガイドラインに照らして評価され、品質基準を満たしていることを確認します。承認済みのレビューのみが に送信され AWS 、 で公開されます AWS Marketplace。PeerSpot は、送信から 2 営業日以内にレビューの処理に取り組んでいます。承認されたレビューは AWS Marketplace 、少なくとも週に 1 回 に取り込まれます。

言語サポート

現在、レビュー送信エクスペリエンスは英語でのみ利用できます。製品ページでレビューを残すを選択すると、PeerSpot の英語レビューインターフェイスが表示されます。

英語以外の言語でレビューを送信すると、PeerSpot は自動的に言語を検出し、製品ページに表示する元のレビューと英語翻訳の両方を作成します。

 Note

レビューインターフェイスの拡張言語サポートは、2025 年Q4 四半期に予定されています。

連絡先とサポート

レビューに関する質問や懸念がある場合：

- 送信またはコンテンツに関する質問を確認する – サポートチャネルを通じて PeerSpot に直接連絡する
- 一般的な AWS Marketplace 質問 – [AWS Marketplace サポートへのお問い合わせ](#)
- レビューに関する販売者の問い合わせ – 販売者は PeerSpot に直接連絡し、必要に応じて AWS Marketplace からエスカレーションサポートを受けることができます。

PeerSpot は、2 営業日以内に問い合わせに応答することを約束します。

 Note

コメントを通じてレビューに応答する機能は使用できなくなりました。販売者は、製品の改善と直接的なカスタマーサポートを通じて、顧客の懸念に対処することに集中する必要があります。

AWS Marketplace のサポートを取得する

AWS Marketplace の一般的な問題については、[お問い合わせください](#)。AWS Marketplace で購入するソフトウェアに関する質問については、ソフトウェア販売者にお問い合わせください。

カスタマーサポートの AWS アカウント番号の検索

お客様、またはお客様のユーザーが サポート に連絡する必要がある場合、AWS アカウント 番号が必要です。

AWS アカウント番号を確認するには

1. ユーザー名で [AWS Management Console](#) にサインインします。
2. 上部のナビゲーションバーで、[サポート]、[サポートセンター] の順に選択します。

AWS アカウント ID (アカウント番号) が上部のナビゲーションバーの下に表示されます。

AWS Marketplace Vendor Insights

AWS Marketplace Vendor Insights は、信頼できる業界標準を満たすソフトウェアを調達できるようにすることで、ソフトウェアリスク評価を簡素化します。AWS Marketplace Vendor Insights を使用すると、単一のユーザーインターフェイスから製品のセキュリティプロファイルをほぼリアルタイムでモニタリングできます。ソフトウェア製品のセキュリティ情報をダッシュボードに表示することにより、評価にかかる労力を低減できます。ダッシュボードを使用して、データプライバシー、アプリケーションセキュリティ、アクセスコントロールなどの情報を表示および評価できます。

AWS Marketplace Vendor Insights は、業界標準を継続的に満たす信頼できるソフトウェアを調達することで、販売者からセキュリティデータを収集し、購入者をサポートします。と統合することで AWS Audit Manager、AWS Marketplace Vendor Insights はの Software as a Service (SaaS) 製品の up-to-date セキュリティ情報を自動的に取得できます AWS Marketplace。AWS Marketplace Vendor Insights AWS Artifact はサードパーティーのレポートと統合されるため、ベンダーソフトウェアのオンデマンドコンプライアンスレポートとのレポートにアクセスできます AWS のサービス。

AWS Marketplace Vendor Insights は、10 のコントロールカテゴリと複数のコントロールからの証拠ベースの情報を提供します。次の 3 つのソースから、証拠に基づいた情報を収集します。

- ベンダーの本番環境アカウント - 複数のコントロールのうちの 25 のコントロールが、ベンダーの本番環境アカウントからのライブエビデンスの収集をサポートしています。各コントロールのライブ証拠は、販売者の AWS リソースの設定を評価する 1 つ以上の AWS Config ルールによって生成されます。ライブ証拠は、複数のソースのデータを常に更新して最新の情報を表示する方法です。は証拠を AWS Audit Manager キャプチャし、AWS Marketplace Vendor Insights ダッシュボードに配信します。
- Vendor ISO 27001 および SOC 2 Type II レポート - コントロールカテゴリは、国際標準化機構 (ISO) レポートおよび Service Organization Controls (SOC) 2 レポートのコントロールにマッピングされています。販売者が AWS Marketplace Vendor Insights とこれらのレポートを共有すると、サービスは関連するデータを抽出してダッシュボードに表示します。
- Vendor 自己評価 - 販売者によって自己評価を行います。また、AWS Marketplace Vendor Insights のセキュリティ自己評価や CAIQ (Consensus Assessment Initiative Questionnaire) など、他の自己評価を作成してアップロードできます。

次の動画では、AWS Marketplace Vendor Insights を使用して、SaaS リスク評価を簡素化する方法を示しています。

購入者として AWS Marketplace Vendor Insights の使用を開始する

AWS Marketplace Vendor Insights は、 で利用可能なソフトウェア製品のセキュリティ情報を表示します AWS Marketplace。 AWS Marketplace Vendor Insights を使用して、 の製品のセキュリティプロフィールを表示できます AWS Marketplace。

AWS Marketplace Vendor Insights ダッシュボードには、 AWS Marketplace Vendor Insights を使用してソフトウェア製品のコンプライアンスアーティファクトとセキュリティコントロール情報が表示されます。 AWS Marketplace Vendor Insights は、ダッシュボードに表示される複数のセキュリティコントロールに関する証拠ベースの情報を収集します。

AWS Marketplace Vendor Insights を使用して製品のセキュリティおよびコンプライアンス情報にアクセスする場合、料金はかかりません。

AWS Marketplace Vendor Insights を使用した製品の検索

Vendor AWS Marketplace Insights ダッシュボードで製品のプロフィールと概要情報を表示したり、カテゴリコントロールを選択して、製品で収集されたデータの詳細を確認したりできます。 AWS Marketplace Vendor Insights AWS Marketplace を使用して で製品を検索するには、次の手順を使用します。

AWS Marketplace Vendor Insights で製品を検索するには

1. にサインイン AWS Management Console し、 [AWS Marketplace コンソール](#)を開きます。
2. [すべての製品を表示] を選択します。
3. [Vendor Insights] タグが付いた製品を表示します。
4. [ベンダーインサイトの検索結果を絞り込む] で、[セキュリティプロフィール] を選択します。
5. [製品の詳細] ページの [製品概要] から、[ベンダーインサイト] セクションを選択します。
6. [この製品のすべてのプロフィールを表示] を選択します。
7. [概要] では、製品に関する詳細と、受け取ったセキュリティ証明書の一覧を表示できます。
8. [アクセスをリクエスト] を選択します。
9. [Vendor Insights データへのアクセスをリクエストする] ページで、情報を入力し、[アクセスをリクエスト] を選択します。

この製品の AWS Marketplace Vendor Insights データへのアクセスを正常にリクエストしたことを示す成功メッセージが表示されます。

サブスクライブして、評価データへのアクセスをリクエストする

AWS Marketplace Vendor Insights を使用すると、ベンダーソフトウェアのセキュリティプロファイルを継続的にモニタリングできます。まず、モニタリングする製品のベンダー評価データをサブスクライブするか、アクセスをリクエストします。製品の評価データをモニタリングする必要がなくなった場合、その製品の評価データの配信を停止できます。AWS Marketplace Vendor Insights を使用して製品のセキュリティおよびコンプライアンス情報にアクセスする場合、料金はかかりません。料金の詳細については、「[AWS Marketplace Vendor Insights 料金表](#)」を参照してください。

特定のベンダー製品のすべての評価データにアクセスするには、その製品の評価データをサブスクライブする必要があります。

製品の AWS Marketplace Vendor Insights 評価データをサブスクライブするには

1. にサインイン AWS Management Console し、[AWS Marketplace コンソール](#)を開きます。
2. [ベンダーインサイト] を選択します。
3. [ベンダーインサイト] から製品を選択します。
4. [概要] タブを選択します。
5. [アクセスをリクエスト] を選択します。
6. 指定されたフィールドに、お客様の情報を入力します。
7. 完了したら、[アクセスをリクエスト] を選択します。

この製品のすべてのベンダー評価データへのアクセスをリクエストしたことを示す成功メッセージが表示されます。

評価データのサブスクリプションを解除する

そのベンダーの製品の評価データにアクセスする必要がなくなった場合、その製品の評価データの配信を停止できます。

製品の AWS Marketplace Vendor Insights 評価データのサブスクリプションを解除するには

1. にサインイン AWS Management Console し、[AWS Marketplace コンソール](#)を開きます。
2. [ベンダーインサイト] を選択します。
3. [製品の詳細] ページで製品を選択し、[サブスクリプション解除] を選択します。
4. AWS Marketplace Vendor Insights データのサブスクリプション解除に関する用語をお読みください。

5. テキスト入力フィールドに **Unsubscribe** を入力し、[サブスクリプション解除] を選択します。

Vendor AWS Marketplace Insights データのサブスクリプションを解除し、アクセスに対して課金されなくなることを示す成功メッセージが表示されます。

AWS Marketplace Vendor Insights を使用した製品のセキュリティプロファイルの表示

AWS Marketplace Vendor Insights は、販売者からセキュリティデータを収集します。製品のセキュリティプロファイルには、製品のセキュリティ、回復力、コンプライアンス、その他の評価に必要な要素に関する最新情報が表示されます。この情報は、常に業界標準に適合し、信頼できるソフトウェアの調達を支援することにより、お客様をはじめとする購入者をサポートします。評価する Software as a Service (SaaS) 製品ごとに、AWS Marketplace Vendor Insights は複数のセキュリティコントロールに関する証拠ベースの情報を収集します。

トピック

- [AWS Marketplace Vendor Insights のダッシュボード](#)
- [SaaS 製品のセキュリティプロファイルを表示する](#)
- [コントロールカテゴリを理解する](#)

AWS Marketplace Vendor Insights のダッシュボード

ダッシュボードには、AWS Marketplace Vendor Insights によって収集されたソフトウェア製品のコンプライアンスアーティファクトとセキュリティコントロール情報が表示されます。すべてのセキュリティ [コントロールカテゴリ](#) について、データレジデンシーの変更や認証の期限切れなど、証拠に基づく情報を提供します。統合ダッシュボードには、コンプライアンス情報の変更が表示されます。AWS Marketplace Vendor Insights を使用すると、追加のアンケートを作成し、リスク評価ソフトウェアを使用する必要がなくなります。ダッシュボードは常に更新および検証されているため、調達後もソフトウェアのセキュリティコントロールを継続的にモニタリングできます。

SaaS 製品のセキュリティプロファイルを表示する

AWS Marketplace Vendor Insights は、販売者のソフトウェアに関する意思決定に役立ちます。AWS Marketplace Vendor Insights は、10 のコントロールカテゴリと複数のコントロールにわたる販売者の証拠ベースの情報からデータを抽出します。ダッシュボードで SaaS 製品のプロファイルと概要情報を表示したり、コントロールカテゴリを選択して、収集したデータの詳細を確認したりするこ

とができます。プロフィールを通じてコンプライアンス情報を表示するには、製品をサブスクライブし、アクセス許可を付与されている必要があります。

1. にサインイン AWS Management Console し、 [AWS Marketplace コンソール](#)を開きます。
2. [ベンダーインサイト] を選択します。
3. [ベンダーインサイト] から製品を選択します。
4. [プロフィールの詳細] ページで、[セキュリティとコンプライアンス] タブを選択します。

 Note

赤丸の中の数字は、非準拠のコントロールの数を示しています。

5. [コントロールカテゴリ] では、一覧表示されたカテゴリの下テキストを選択すると、詳細情報が表示されます。
 - 最初の [コントロール名] (適用される法律、規制、契約上の要求事項を確実に遵守するためのポリシー/手順がありますか?) を選択します。
 - 表示された情報を読んでください。また、AWS Artifact サードパーティーのレポートからレポートを表示したり、監査人から例外を表示したりすることもできます。
 - 上のナビゲーションで製品名を選択すると、[製品の詳細] ページに戻ります。

コントロールカテゴリを理解する

AWS Marketplace Vendor Insights は、10 のコントロールカテゴリ内の複数のコントロールから証拠ベースの情報を提供します。AWS Marketplace Vendor Insights は、ベンダーの本番稼働用アカウント、ベンダーの自己評価、ベンダー ISO 27001 および SOC 2 Type II レポートの 3 つのソースから情報を収集します。これらのソースの詳細については、「[AWS Marketplace Vendor Insights](#)」を参照してください。

次のリストは、各コントロールカテゴリの説明です。

アクセス管理

システムまたはアプリケーションへのアクセスを識別、追跡、管理、コントロールします。

アプリケーションセキュリティ

アプリケーションの設計、開発、テストを行う際に、アプリケーションにセキュリティが組み込まれているかどうかを検証します。

監査、コンプライアンス、セキュリティポリシー

組織の規制要件の遵守状況を評価します。

ビジネスの回復力と継続性

事業の継続性を維持しながら、迅速に混乱に適応する組織の能力を評価します。

データセキュリティ

データと資産を保護します。

エンドユーザーデバイスのセキュリティ

エンドユーザーのポータブルデバイスと、それらが接続されているネットワークを脅威や脆弱性から保護します。

人事

従業員の雇用、給与支払い、退職などのプロセスにおける機密データの取り扱いについて、従業員関連部門を評価します。

インフラストラクチャセキュリティ

重要な資産を脅威や脆弱性から保護します。

リスク管理とインシデント対応

許容可能と判断したリスクのレベルと、リスクや攻撃に対応するために講じられた措置を評価します。

セキュリティと設定に関するポリシー

組織の資産を保護するセキュリティポリシーとセキュリティ設定を評価します。

コントロールカテゴリセット

次の表は、各カテゴリの詳細情報と、収集された各カテゴリの値に関する情報を示しています。次の表は、表の各列に含まれる情報の種類を示しています。

- コントロールセット - コントロールはコントロールセットに割り当てられ、各コントロールにはそのカテゴリのセキュリティ機能を反映します。各カテゴリには、複数のコントロールセットがあります。
- コントロール名 - ポリシーまたはプロシージャの名前。「手動による認証が必要」とは、ポリシーまたは手順の書面による確認または文書化が必要であることを意味します。

- コントロールの説明 - このポリシーまたは手続きに関して必要な質問、情報、または文書。
- 証拠抽出の詳細 - このカテゴリに必要なデータを追加で取得するために必要な、コントロールに関する情報と背景情報。
- サンプル値 - このカテゴリのコンプライアンス値が規制基準に準拠していることを示すガイダンスのために示した例。

トピック

- [アクセス管理コントロール](#)
- [アプリケーションのセキュリティコントロール](#)
- [監査とコンプライアンスのコントロール](#)
- [ビジネスの回復力のコントロール](#)
- [データセキュリティコントロール](#)
- [エンドユーザーデバイスのセキュリティコントロール](#)
- [人事コントロール](#)
- [インフラストラクチャのセキュリティ](#)
- [リスク管理とインシデント対応のコントロール](#)
- [セキュリティと設定に関するポリシーコントロール](#)

アクセス管理コントロール

アクセス管理コントロールは、システムまたはアプリケーションへのアクセスを識別、追跡、管理、制御します。この表は、アクセス管理コントロールの値と説明をまとめたものです。

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明
安全な認証	アクセス管理 3.1.1 - 安全な認証 - UserId の個人データ (手動による認証が必要)	ユーザー ID に個人情報 (名前や E 外) が必要ですか？
	アクセス管理 3.1.2 - 安全な認証 - アプリケーションが 2 要素認証をサポート (手動による認証が必要)	アプリケーションは 2 要素認証をすか？

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明
認証情報管理	アクセス管理 3.1.3 - 安全な認証 - アカ ウントロックアウト (手動による認証が 必要)	ログインに複数回失敗した場合、 はロックされますか？
	アクセス管理 3.2.1 - 認証情報管理 - パ スワードポリシー	アプリケーションには、強力なパ スワードがありますか？
	アクセス管理 3.2.2 - 認証情報管理 - パ スワード暗号化	パスワードポリシーは、サインイン パスワードとユーザー ID) を転送時に暗 号化でハッシュ化することを要す ますか？
	アクセス管理 3.2.3 - 認証情報管理 - シークレット管理	シークレット管理サービスを使用 していますか？
	アクセス管理 3.2.4 - 認証情報管理 - コード内の認証情報 (手動による認証が 必要)	コードに認証情報が含まれていま すか？
本番環境へのアクセス	アクセス管理 3.3.1 - 本番環境へのアク セス - シングルサインオン (手動による 認証が必要)	SSO は本番環境にアクセスできる ように構成されていますか？
	アクセス管理 3.3.2 - 本番環境へのアク セス - 2 要素認証	本番環境またはホスト環境にアク セスするときに 2 要素認証が必要ですか？
	アクセス管理 3.3.3 - 本番環境へのアク セス - ルートユーザー (手動による認証 が必要)	ルートユーザーは例外的に本番環 境にのみ使用されますか？

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明
	アクセス管理 3.3.4 - 本番環境へのアクセス - ルートユーザー MFA	ルートユーザーには多要素認証 (MFA) が有効化されていますか？
	アクセス管理 3.3.5 - 本番環境へのアクセス - リモートアクセス	本番環境へのリモートアクセスは、VPN チャンネルやキーベースの認証などを使用して保護されていますか？
アクセスコントロールポリシー	アクセス管理 3.4.1 - アクセスコントロールポリシー - 最小特権アクセス	ユーザーが本番環境にアクセスする場合は、最小特権アクセスポリシーに従っていますか？
	アクセス管理 3.4.2 - アクセスコントロールポリシー - アクセスポリシーのレビュー	本番環境のすべてのアクセスポリシーは定期的にレビューされていますか？
	アクセス管理 3.4.3 - アクセスコントロールポリシー - ユーザーとセキュリティポリシーの設定 (手動による認証が必要)	このアプリケーションは、ユーザーと権限を設定できるように設計されていますか？
	アクセス管理 3.4.4 - アクセスコントロールポリシー - 論理セグメンテーション (手動による認証が必要)	アプリケーションユーザーには論理セグメンテーションがありますか？
	アクセス管理 3.4.5 - アクセスコントロールポリシー - 終了時のアクセスのレビュー	従業員の退職時または職務変更時のアクセスポリシーが更新されていますか？

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明
アクセスログ	アクセス管理 3.5.1 - アクセスログ	本番環境で個々のユーザーが実行 ティのログを記録していますか？

アプリケーションのセキュリティコントロール

アプリケーションのセキュリティコントロールは、アプリケーションの設計、開発、テストを行う際に、アプリケーションにセキュリティが組み込まれているかどうかを検証します。この表は、アプリケーションのセキュリティポリシーコントロールの値と説明をまとめたものです。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
安全なソフト ウェア開発ライ フサイクル	アプリケーション セキュリティ 4.1.1 - 安全なソ フトウェア開発 ライフサイクル - 個別の環境	開発環境、テス ト環境、ステー ジング環境は本 番環境から分離 されていますか？	開発環境、テス ト環境、ステー ジング環境が本 番環境から分離 されているかど うかを記載しま す。	あり
	アプリケーション セキュリティ 4.1.2 - 安全なソ フトウェア開発 ライフサイクル - 安全なコーディ ング対策	セキュリティエ ンジニアは、デ ベロッパーと協 力してセキュリ ティ対策に取り 組んでいますか？	デベロッパーと セキュリティエ ンジニアが、安 全なコーディン グ対策について 協力しているか どうかを記載し ます。	あり
	アプリケーション セキュリティ 4.1.3 - 安全なソ	顧客データは、 テスト、開発、 または QA 環境	顧客データは、 テスト、開発、 または QA 環境	いいえ

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	ソフトウェア開発 ライフサイクル - テスト環境での 顧客データの使 用 (手動による認 証が必要)	で使用されたこ とはありますか？	で使用されたこ とはありますか？ その場合、どの ようなデータ が、何のために 使用されていま すか？	
	アプリケーション セキュリティ 4.1.4 - 安全なソ フトウェア開発 ライフサイクル - 安全な接続	SSL/TLS は、 顧客データを使 用するすべて のウェブページ と通信で有効に なっていますか？	顧客データを使 用するすべての 通信に安全な接 続 (SSL/TLS な ど) を使用するか どうかを記載し ます。	あり

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	アプリケーションセキュリティ 4.1.5 - 安全なソフトウェア開発 ライフサイクル - イメージのバックアップ	アプリケーションイメージのスナップショットはバックアップされていますか？	イメージスナップショット (アプリケーションをサポートするシステムや顧客データをホストするシステムなど) をバックアップするかどうかを記載します。 「はい」の場合、対象範囲内のデータを含むイメージスナップショットがスナップされる前に、承認されていることを確認するプロセスがありますか？ イメージスナップショットへのアクセスコントロールは実装されていますか？	はい。イメージは、顧客と経営層の承認を得てバックアップされます。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
アプリケーション セキュリティ レビュー	アプリケーション セキュリティ 4.2.1 - アプリ ケーションセ キュリティレ ビュー - セキュ アコードのレ ビュー	セキュアコード のレビューは各 リリースの前に 行われますか？	セキュアコード のレビューは各 リリースの前に 行われるかど うかを記載しま す。	あり
	アプリケーション セキュリティ 4.2.2 - アプリ ケーションセ キュリティレ ビュー - ペネト レーションテス ト	ペネトレーショ ンテストは実施 されていますか？ ペネトレーショ ンテストのレ ポートを提示し ていただけます か？	アプリケーション でペネトレー ションテストを 実施するかど うかを記載しま す。「はい」の 場合、直近の 3 件のレポートを 手動による証拠 として提示して いただけますか？	あり
	アプリケーション セキュリティ 4.2.3 - アプリ ケーションセ キュリティレ ビュー - セキュ リティパッチ	入手可能なリス クの高いセキュ リティパッチは すべて適用さ れ、定期的に検 証されています か？	リスクの高いセ キュリティパッ チを定期的に適 用するかどう かを記載しま す。「はい」の 場合、どのくら いの頻度で適用 されていますか？	はい。セキュリ ティパッチは 毎月適用されま す。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	アプリケーション セキュリティ 4.2.4 - アプリ ケーションセ キュリティレ ビュー - アプリ ケーションの脆 弱性スキャン	インターネット に接続している すべてのアプリ ケーションに 対して、定期的 または大幅な変 更が行われた後 で、脆弱性ス キャンを実施し ていますか？	インターネット に接続している すべてのアプリ ケーションに 対して脆弱性ス キャンを実行す るかどうかを記 載します。「は い」の場合、脆 弱性スキャンは どのくらいの頻 度で行われてい ますか？レポー トのコピーを提 出していただけ ますか？	はい。脆弱性ス キャンを毎月実 行しています。
	アプリケーション セキュリティ 4.2.5 - アプリ ケーションセ キュリティレ ビュー - 脅威と 脆弱性の管理	脅威および脆弱 性の評価ツール と、それらが収 集するデータを 管理するプロセ スがありますか？	脅威および脆弱 性の評価ツール と、その検出結 果を管理するプ ロセスがあるか どうかを記載し ます。脅威と脆 弱性の管理方法 について、詳細 を記載してくだ さい。	はい。さまざま なソースからの すべての脅威と 脆弱性が 1 つの ポータルに集約 されます。それ らは重大度別に 管理されていま す。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	アプリケーション セキュリティ 4.2.6 - アプリ ケーションセ キュリティレ ビュー - マル ウェア対策スキ ャン	アプリケーション をホストする ネットワークや システムに対し て、定期的にマ ルウェア対策ス キャンを実施し ていますか？	アプリケーション をホストする ネットワークや システムに対 して、マルウェ ア対策スキャン を実施するかと うかを記載しま す。「はい」の 場合、どのくら いの頻度で行わ れていますか？ レポートを提出 していただけま すか？	はい。マルウェ ア対策スキャン を毎月実行して います。
アプリケーション ログ	アプリケーション セキュリティ 4.3.1 - アプリ ケーションログ - アプリケーショ ンログ	アプリケーション ログを収集 し、それを確認 していますか？	アプリケーション ログを収集 し、それを確認 しているかどう かを記載しま す。「はい」の 場合、ログはど のくらいの期間 保持されますか？	はい。ログは 1 年間保持されま す。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	アプリケーション セキュリティ 4.3.2 - アプリ ケーションログ - ログへのアクセ ス	オペレーティン グシステムとア プリケーション のログは、変 更、削除、不適 切なアクセスか ら保護されてい ますか？	オペレーティン グシステムとア プリケーション のログが、変 更、削除、不適 切なアクセスか ら保護されてい るかどうかを 記載します。侵 害やインシデン トが発生した場 合、アプリケー ションログの消 失を検知するプ ロセスを導入し ていますか？	あり
	アプリケーション セキュリティ 4.3.3 - アプリ ケーションログ - ログに保存され たデータ (手動に よる認証が必要)	顧客の個人を特 定できる情報 (PII) をログに保 存していますか？	顧客の個人を特 定できる情報 (PII) をログに保 存しているかど うかを記載しま す。	いいえ。PII デー タはログに保存 されません。
変更管理ポリ シー	アプリケーション セキュリティ 4.4.1 - 変更管理 ポリシー - 機能 テストと耐障害 性テスト	変更をリリース する前に、機能 テストと耐障害 性テストを実施 していますか？	新規リリースの 前に、アプリ ケーションの機 能テストと耐障 害性テストを実 施するかどうか を記載します。	あり

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	アプリケーション セキュリティ 4.4.2 - 変更管理 ポリシー - 変更 管理手順	変更管理手順 は、本番環境に 対するすべての 変更に必要なで すか？	本番環境で行わ れたすべての変 更に変更管理手 順が適用されて いるかどうかを 記載します。	あり
	アプリケーション セキュリティ 4.4.3 - 変更管理 ポリシー - 本番 環境における人 為的ミス/リスク の回避	ヒューマンエ ラーやリスクが 本番環境に影響 を与えないこと を検証するプロ セスは整ってい ますか？	ヒューマンエ ラーやリスクが 本番環境に影響 を与えないこと を検証するプロ セスがあること を記載します。	あり
	アプリケーション セキュリティ 4.4.4 - 変更管 理ポリシー - ド キュメントとロ グの変更	サービスに影響 を与える可能性 のある変更を文 書化してログを 記録しています か？	サービスに影響 を与える変更を 文書化して記録 するかどうか を記載します。 「はい」の場 合、ログはどの くらいの期間保 持されますか？	あり

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	アプリケーションセキュリティ 4.4.5 - 変更管理ポリシー - 購入者への変更通知 (手動による認証が必要)	サービスに影響を与える可能性のある変更が加えられる前に、顧客に確実に通知するための正式なプロセスはありますか？	サービスに影響を与える可能性のある変更を行う前に、顧客に通知するかどうかを記載します。「はい」の場合、影響のある変更について、顧客に通知するための SLA はどのようなものですか？	はい。影響がある変更の 90 日前にお客様に通知します。

監査とコンプライアンスのコントロール

監査とコンプライアンスのコントロールでは、組織の規制要件の遵守状況を評価します。この表は、監査コントロールとコンプライアンスコントロールの値と説明を一覧にしたものです。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
認証完了	監査とコンプライアンス 1.1.1 - 認証完了 (手動による認証が必要)	保有している認証を一覧表示します。	持っている認証の名称を記載します。	SOC2、ISO/IEC 27001
認証中	監査とコンプライアンス 1.2.1 - 認証中 (手動による認証が必要)	現在進行中の認証を追加で記載します。	現在監査または審査中の追加の認証と、完了予定日を記載します。	はい。PCI の認証が進行中です (2022 年第 2 四半期に完了予定)。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
コンプライアンス 確保の手順	監査とコンプライアンス 1.3.1 - コンプライアンス確保の手順 - コンプライアンス確保の手順	適用される法律、規制、契約上の要求事項を確実に遵守するための方針または手順がありますか？	適用される法律、規制、契約上の要求事項を確実に遵守するための方針または手順があるかどうかを指定します。「はい」の場合は、手順の詳細を記載し、手動による証拠をアップロードします。	はい。SOC2、ISO/IEC 27001などのドキュメントをアップロードしました。
	監査とコンプライアンス 1.3.2 - コンプライアンス確保の手順 - 未完了の要件を追跡する監査	未完了の規制要件やコンプライアンス要件を追跡する監査は完了していますか？	未完了の要件を追跡する監査を実施するかどうかを記載します。「はい」の場合は、詳細を記載します。	はい、未完了の要件を追跡する監査を毎月実施しています。
	監査とコンプライアンス 1.3.3 - コンプライアンス確保の手順 - 逸脱と例外 (手動による認証が必要)	コンプライアンス要件からの逸脱や例外を処理するプロセスがありますか？	例外やコンプライアンス要件からの逸脱を処理するプロセスがあるかどうかを記載します。「はい」の場合は、詳細を記載します。	はい。逸脱のログとレポートツールを用意しています。例外や逸脱をすべて調査して、今後発生しないように予防します。

ビジネスの回復力のコントロール

ビジネスの回復力のコントロールでは、事業の継続性を維持しながら、迅速に混乱に適応する組織の能力を評価します。この表は、ビジネスの回復力のポリシーコントロールの値と説明をまとめたものです。

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
ビジネスの回復力	ビジネスの回復力と継続性 6.1.1 - ビジネスの回復力 - フェイルオーバーテスト (手動による認証が必要)	サイトのフェイルオーバーテストは、少なくとも年に 1 回実施されていますか？	フェイルオーバーテストを毎年実施するかどうかを記載します。実施していない場合は、どのくらいの頻度で実施しますか？	あり
	ビジネスの回復力と継続性 6.1.2 - ビジネスの回復力 - ビジネスインパクト分析 (手動による認証が必要)	ビジネスインパクト分析は実施されていますか？	ビジネスインパクト分析を実施したかどうかを記載します。 「はい」の場合、最後に実施したのはいつですか？ 実施した分析の詳細を記載します。	はい。ビジネスインパクト分析は 6 か月前に実施しました。
	ビジネスの回復力と継続性 6.1.3 - ビジネスの回復力 - サードパーティーベンダーへの依存 (手動による認証が必要)	重要なサードパーティーサービスプロバイダー (クラウドサービスプロバイダー以外) への依存関係はありますか？	(クラウドサービスプロバイダー以外の) サードパーティーベンダーへの依存関係があるかどうかを記載します。「はい」の場合、ベンダー	いいえ

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
			の詳細を記載してください。	
	ビジネスの回復力と継続性 6.1.4 - ビジネスの回復力 - サードパーティーの継続性と回復力テスト (手動による認証が必要)	サードパーティーベンダーに独自のディザスタリカバリプロセスと演習を要求していますか？	サードパーティーベンダーが独自のディザスタリカバリのプロセスと演習を行う必要があるかどうかを記載します。	このサンプルは該当しません。
	ビジネスの回復力と継続性 6.1.5 - ビジネスの回復力 - サードパーティーベンダーの契約違反 (手動による認証が必要)	重要なサードパーティプロバイダーとの契約には、Amazon が販売、出荷 (SSA) する可用性と継続性の違反に対する罰則や是正条項が含まれていますか？	サードパーティーベンダーとの契約には、可用性と継続性の違反に対する罰則や是正条項は含まれていますか？	このサンプルは該当しません。
	ビジネスの回復力と継続性 6.1.6 - ビジネスの回復力 - システムの健全性	システムの健全性を把握するためのモニタやアラートはありますか？	システムの健全性を把握するためのモニタやアラートがあるかどうかを記載します。	あり

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
ビジネス継続性	ビジネスの回復 力と継続性 6.2.1 - ビジネス継続性 - ビジネス継続性 ポリシー/手順	正式なビジネス 継続性手順が策 定され、文書化 されていますか？	ビジネス継続性 の正式な手順が 策定され、維持 されているかど うかを記載しま す。「はい」の 場合は、手順の 詳細を記載しま す。	あり
	ビジネスの回復 力と継続性 6.2.2 - ビジネス継続性 - 対応と復旧の戦 略	優先順位の高い 活動に対して、 具体的な対応と 復旧の戦略が定 められています か？	復旧と対応の戦 略が顧客の活動 とサービスを対 象として策定 されているかど うかを記載しま す。	あり
	ビジネスの回復 力と継続性 6.2.3 - ビジネス継続性 - ビジネス継続性 テスト	ビジネス継続性 を確実にするた め、復旧テスト を実施していま すか？	障害発生時のビ ジネス継続性を 確保するために 復旧テストを実 施するかどうか を記載します。	はい。障害が発 生した場合、ビ ジネス継続性続 のためのシステ ムが 2 時間以内 に有効になりま す。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	事業回復力と継続性 6.2.4 - ビジネス継続性 - マルチテナンシー環境における可用性への影響 (手動による認証が必要)	購入者によって、システムの他のユーザーの可用性に影響を与える可能性のある負荷を与えることを制限していますか？	ある購入者の負荷が他の購入者の可用性に影響を与える可能性があるかどうかを記載します。 「はい」の場合、影響がなくなるまでのしきい値はどれくらいですか？「いいえ」の場合、使用のピークを越えた時間帯にサービスが影響を受けないようにする方法について、詳細を記載してください。	はい。このサンプルにはしきい値はありません。
アプリケーションの可用性	ビジネスの回復力と継続性 6.3.1 - アプリケーションの可用性 - 可用性の記録 (手動による認証が必要)	昨年、信頼性や可用性に関して重大な問題がありましたか？	過去 1 年間で信頼性や可用性に関する重大な問題があったかどうかを記載します。	いいえ

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	ビジネスの回復 力と継続性 6.3.2 - アプリケーショ ンの可用性 - 提 起メンテナンス 期間 (手動による 認証が必要)	定期メンテナン ス中はダウンタ イムが予想され ますか？	定期メンテナン ス期間中にサー ビスが停止する 可能性がある かどうかを指定 してください。 「はい」の場 合、ダウンタイ ムはどのくらい ですか？	いいえ
	ビジネスの回復 力と継続性 6.3.3 - アプリケーショ ンの可用性 - オ ンラインインシ デントポータル (手動による認証 が必要)	計画的な停止と 予期しない停止 の概要を示すオ ンラインのイン シデント対応ス テータスポータ ルはありますか？	計画的な停止と 予期しない停止 の概要を示すイ ンシデントス テータスポータ ルがあるかど うかを記載しま す。「はい」の 場合は、顧客が アクセスする方 法の詳細を記載 します。サービ ス停止後、どの くらいでポータ ルが更新されま すか？	はい。お客様は example.com か ら詳細情報に アクセスできま す。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	ビジネスの回復 力と継続性 6.3.4 - アプリケーショ ンの可用性 - 目 標復旧時間 (手動 による認証が必 要)	具体的な目標復 旧時間 (RTO) は ありますか？	目標復旧時間 (RTO) があるか どうかを記載し ます。「はい」 の場合、RTO を 記載してくださ い。	はい、RTO は 2 時間です。
	ビジネスの回復 力と継続性 6.3.5 - アプリケーショ ンの可用性 - 目 標復旧時点 (手動 による認証が必 要)	具体的な目標復 旧時点 (RPO) は ありますか？	目標復旧時点 (RPO) があるか どうかを記載し ます。「はい」 の場合、RPO を 記載してくださ い。	はい、RPO は 1 週間です。

データセキュリティコントロール

データセキュリティコントロールでは、データと資産を保護します。この表は、データセキュリティコントロールの値と説明をまとめたものです。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
顧客データイン ジェスト	データセキュリ ティ 2.1.1 - 顧客 データインジェ スト (手動による 認証が必要)	製品機能のため に顧客に必要な データのリスト を作成します。	顧客で消費され るすべてのデー タを記載しま す。機密データ や秘密データが 消費されるかど うかを記載しま す。	機密データや秘 密データは消費 されません。こ の製品は、アプ リケーション、 インフラストラ クチャ、AWS のサービスから のログなど、機 密ではない情報

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
				のみを消費し ます。(AWS CloudTrai l、 AWS Config、VPC フ ローログ)
データストレージの場所	データセキュリティ 2.2.1 - データストレージの場所 (手動による認証が必要)	お客様のデータはどこに保存されますか? データが保存されている国やリージョンを一覧にします。	データが保存されている国と地域のリストを記載します。	オハイオ (米国)、オレゴン (米国)、アイルランド (EU)
アクセスコントロール	データセキュリティ 2.3.1 - アクセスコントロール - 従業員のアクセス (手動による認証が必要)	従業員は暗号化されていない顧客データにアクセスできますか?	従業員が暗号化されていない顧客データにアクセスできるかどうかを記載します。「はい」の場合は、アクセスが必要な理由を簡単に記載してください。「いいえ」の場合は、アクセスコントロールの方法を簡単に記載してください。	いいえ。すべてのデータは保存時に暗号化されます。従業員は顧客データにはアクセスできず、使用状況に関するデータにのみアクセスできます。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	データセキュリティ 2.3.2 - アクセスコントロール - モバイルアプリケーション (手動による認証が必要)	顧客はモバイルアプリケーションからデータにアクセスできますか？	顧客がモバイルアプリケーションからデータにアクセスできるかどうかを記載します。「はい」の場合は、詳細を記載します。顧客はどのようにサインインしますか？ 認証情報はアプリケーションによってキャッシュされますか？ トークンはどのくらいの頻度で更新されますか？	いいえ。モバイルアプリケーションを使用してサービスにアクセスすることはできません。
	データセキュリティ 2.3.3 - アクセスコントロール - データの送信先の国 (手動による認証が必要)	顧客データは送信元以外の国にも送信されますか？	顧客データは送信元以外の国にも送信されますか？「はい」の場合は、顧客データが送受信される国のリストを記載します。	いいえ

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	データセキュリティ 2.3.4 - アクセスコントロール - データはサードパーティーベンダーと共有されるか (手動による認証が必要)	顧客データはサードパーティーベンダー (クラウドサービスプロバイダー以外) と共有されていますか？	顧客データはサードパーティーベンダーと共有されていますか？「はい」の場合は、顧客データを提供するサードパーティーベンダーとその国または地域のリストを記載します。	いいえ
	データセキュリティ 2.3.5 - アクセスコントロール - サードパーティーベンダーに関連するセキュリティポリシー	サードパーティーベンダーが顧客データの機密性、可用性、完全性を維持することを保証するためのポリシーや手順がありますか？	サードパーティーベンダーが顧客データの機密性、可用性、完全性を維持することを保証するためのポリシーや手順があるかどうかを記載します。「はい」の場合は、ポリシーまたは手順のマニュアルまたは文書をアップロードしてください。	このサンプルは該当しません。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
データの暗号化	データセキュリティ 2.4.1 - データ暗号化 - 保管時のデータ暗号化	すべてのデータは保管時に暗号化されますか？	すべてのデータが保管時に暗号化されるかどうかを記載します。	あり
	データセキュリティ 2.4.2 - データ暗号化 - 転送中のデータ暗号化	すべてのデータは転送時に暗号化されますか？	すべてのデータが転送時に暗号化されるかどうかを記載します。	あり
	データセキュリティ 2.4.3 - データ暗号化 - 強力なアルゴリズム (手動による認証が必要)	強力な暗号化アルゴリズムを使用していますか？	強力な暗号化アルゴリズムを使用していますか？「はい」の場合は、使用する暗号化アルゴリズム (RSA、AES 256 など) を記載してください。	はい。データの暗号化に AES 256 を使用しています。
	データセキュリティ 2.4.4 - データ暗号化 - 固有の暗号化キー (手動による認証が必要)	顧客には固有の暗号キーを生成する機能がありますか？	顧客は独自の暗号キーを提供または生成できますか？「はい」の場合は、詳細を記載し、証拠をアップロードしてください。	あり

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	データセキュリ ティ 2.4.5 - デー タ暗号化 - 暗号 化キーへのアク セス (手動による 認証が必要)	従業員は顧客の 暗号キーにアク セスできないよ うになっていま すか？	従業員が顧客の 暗号キーにアク セスできないよ うになっている かどうかを記載 します。「いい え」の場合は、 従業員が顧客の キーにアクセス する理由を記載 してください。 「はい」の場合 は、アクセスコ ントロールの方 法を記載してく ださい。	はい。暗号キー は安全に保管 され、定期的に ローテーション されます。従 業員はこれらの キーにアクセス できません。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
データストレージと分類	データセキュリティ 2.5.1 - データストレージと分類 - データのバックアップ	顧客データをバックアップしていますか？	顧客データをバックアップするかどうかを記載します。「はい」の場合は、バックアップポリシー (バックアップの実行頻度、保存場所、暗号化、冗長性に関する詳細を含む) を記載します。	はい、バックアップは 3 か月ごとに行われます。バックアップは暗号化され、顧客データと同じリージョンに保存されます。顧客のサポートエンジニアにはバックアップを復元するためのアクセス許可がありますが、バックアップ内のデータにはアクセスできません。
	データセキュリティ 2.5.2 - データストレージと分類 - データアクセスコントロールポリシー	保存されている顧客データに対して適切なアクセスコントロールを実施していますか？ アクセスコントロールポリシーを記載します。	保存されている顧客データに適切なアクセスコントロール (RBAC など) を実装するかどうかを記載します。データアクセスのコントロール方法について、より詳細な情報と手動による証拠を提供してください。	はい。顧客データへのアクセスを制限するために、最小特権のアクセスコントロールが実装されています。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	データセキュリティ 2.5.3 - データストレージと分類 - トランザクションデータ (手動による認証が必要)	顧客のトランザクション詳細 (支払いカード情報やトランザクションを行うグループに関する情報など) は境界ゾーンに保存されていますか？	顧客のトランザクション詳細 (支払いカード情報やトランザクションを行うグループに関する情報など) が境界ゾーンに保存されているかどうかを記載します。「はい」の場合は、それを境界ゾーンに保存する必要がある理由を記載してください。	いいえ
	データセキュリティ 2.5.4 - データストレージと分類 - 情報の分類	顧客データは、法的または規制の要件、ビジネス価値、不正な開示や変更に対する機密性に従って分類されていますか？	顧客データを機密性によって分類するかどうかを記載します。「はい」の場合は、この分類に関する手動による証拠をアップロードしてください。	あり

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	データセキュリティ 2.5.5 - データストレージと分類 - データのセグメンテーション (手動による認証が必要)	顧客間のデータセグメンテーションと分離機能は提供されていますか？	異なる顧客のデータをセグメンテーションするかどうかを記載します。「いいえ」の場合は、データを交差汚染から保護するためのメカニズムを記載してください。	あり
データ保持期間	データセキュリティ 2.6.1 - データ保持 (手動による認証が必要)	データの保持期間はどのくらいですか？	データ保持期間を記載します。保持期間がデータの分類と機密性によって異なる場合、それぞれの保持期間の詳細を記載してください。	6 か月間
購入者がサブスクリプションを解除した後のデータ保持	データセキュリティ 2.6.2 - クライアントがサブスクリプションを解除した後のデータ保持 (手動による認証が必要)	購入者がサブスクリプションを解除した後は、どのくらいの期間データを保持しますか？	顧客がサブスクリプションを解除した後のデータ保持期間を記載します。	3 か月間

エンドユーザーデバイスのセキュリティコントロール

エンドユーザーデバイスのセキュリティコントロールでは、ポータブルエンドユーザーデバイスと、それらが接続されるネットワークを脅威や脆弱性から保護します。この表は、エンドユーザーデバイスのセキュリティポリシーコントロールの値と説明をまとめたものです。

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
資産/ソフトウェアインベントリ	エンドユーザーデバイスセキュリティ 7.1.1 - 資産/ソフトウェアインベントリ - 資産インベントリ	資産インベントリリストは定期的に更新されていますか？	資産インベントリを管理しているかどうかを記載します。「はい」の場合、どのくらいの頻度で更新していますか？	はい。インベントリは毎週更新しています。
	エンドユーザーデバイスセキュリティ 7.1.2 - 資産/ソフトウェアインベントリ - ソフトウェアおよびアプリケーションインベントリ	対象範囲のシステムにインストールされているすべてのソフトウェアプラットフォームとアプリケーションがインベントリ化されていますか？	インストールされているすべてのソフトウェアとアプリケーションのインベントリが維持されているかどうかを記載します。「はい」の場合、どのくらいの頻度で更新していますか？	はい。インベントリは毎週更新しています。
資産のセキュリティ	エンドユーザーデバイスセキュリティ 7.2.1 - 資産のセキュリティ - セキュリティパッチ	すべてのエンドユーザーデバイスに、利用可能なリスクの高いすべてのセキュリティパッチが適用され、少な	リスクの高いすべてのセキュリティパッチを少なくとも毎月適用するかどうかを記載します。「いいえ」の	はい。セキュリティチームによって、このプロセスを隔週で実行しています。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
		くとも毎月検証 されていますか？	場合、どのくら いの頻度で適用 していますか？ パッチの管理方 法について、詳 細を記載してく ださい。	
	エンドユーザー デバイスセキュ リティ 7.2.2 - 資産のセキュ リティ - エンドポ イントのセキュ リティ	エンドポイント のセキュリティ はありますか？	エンドポイント のセキュリティ がすべてのデバ イスにインス トールされてい るかどうかを記 載します。「は い」の場合、 ツールとその保 守方法について 詳細を記載して ください。	はい。当社のセ キュリティチー ムでは、社内 ツールを使用し て、これを隔週 で処理していま す。
	エンドユーザー デバイスセキュ リティ 7.2.3 - 資 産セキュリティ - 資産のメンテナ ンスと修復 (手動 による認証が必 要)	組織の資産のメ ンテナンスと修 復は、承認およ び管理されてい るツールを使用 して実施し、記 録されています か？	資産のメンテナ ンスと修復を管 理対象ツールで 実施し、記録さ れちるかどうか を記載します。 「はい」の場 合、その管理方 法について詳細 を記載してくだ さい。	はい。デバイ スのメンテナ ンスは、すべて記録 されています。 このメンテナ ンスによってダウ ンタイムが発生 することはない ません。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	エンドユーザー デバイスセキュ リティ 7.2.4 - 資 産セキュリティ - デバイスのア クセスコントロ ール	デバイスのア クセスコントロ ールは有効にな っていますか？	デバイスのア クセスコントロ ール (RBAC など) が有効になって いるかどうかを 記載します。	はい。最小特権 アクセスがすべ てのデバイスに 実装されていま す。
デバイスログ	エンドユーザー デバイスセキュ リティ 7.3.1 - デ バイスログ - 十 分な詳細をログ に記載 (手動によ る認証が必要)	インシデントの 調査をサポート するため、オペ レーティングシ ステムやデバイ スのログには十 分な詳細が記録 されていますか？	インシデントの 調査をサポート するために、ロ グに十分な詳細 (ログイン試行の 成功と失敗、機 密設定やファイ ルへの変更など) が含まれている かどうかを記載 します。「いい え」の場合は、 インシデントの 調査方法の詳細 を記載してくだ さい。	あり

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	エンドユーザー デバイスセキュ リティ 7.3.2 - デ バイスログ - デ バイスログへの アクセス	デバイスログ は、変更、削 除、不適切なア クセスから保護 されていますか？	デバイスログ は、変更、削 除、不適切な アクセスから保 護されているか どうかを記載し ます。「はい」 の場合、その実 施方法の詳細を 記載してくださ い。	はい。ログの変 更はアクセスコ ントロールによ って実施されま す。ログに加え られた変更は、 すべてアラート につながりま す。
	エンドユーザー デバイスセキュ リティ 7.3.3 - デ バイスログ - ロ グの保持 (手動に よる認証が必要)	ログは、攻撃を 調査するのに十 分な期間保持さ れていますか？	ログはどのくら いの期間保持さ れますか？	はい、1 年間で す。
モバイルデバイ ス管理	エンドユーザー デバイスセキュ リティ 7.4.1 - モ バイルデバイス 管理 - モバイル デバイス管理プ ログラム	モバイルデバイ ス管理プログラ ムはありますか？	モバイルデバイ ス管理プログラ ムがあるかどう かを記載しま す。「はい」の 場合は、モバイル デバイス管理に 使用している ツールを記載し てください。	はい。社内ツ ールを使用してい ます。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	エンドユーザー デバイスセキュ リティ 7.4.2 - モバイルデバイ ス管理 - プライ ベートモバイル デバイスから本 番環境へのアク セス (手動による 認証が必要)	管理されていないプライベートモバイルデバイスを使用して、スタッフが本番環境にアクセスすることは禁止されていますか？	管理されていないプライベートモバイルデバイスを使用して、スタッフが本番環境にアクセスすることが禁止されているかどうかを記載します。「いいえ」の場合、このコントロールを実施する方法を記載してください。	あり
	エンドユーザー デバイスセキュ リティ 7.4.3 - モ バイルデバイス 管理 - モバイル デバイスから顧 客データへのア クセス (手動によ る認証が必要)	従業員は、管理されていないプライベートモバイルデバイスを使用して、顧客データを閲覧または処理することを禁止されていますか？	従業員は、管理されていないプライベートモバイルデバイスを使用して、顧客データにアクセスすることが禁止されているかどうかを記載します。「いいえ」の場合、アクセスを許可するユースケースは何ですか？どのようにアクセスをモニタリングしていますか？	あり

人事コントロール

人事コントロールでは、従業員の雇用、給与支払い、退職などのプロセスにおける機密データの取り扱いについて、従業員関連部門を評価します。この表は、人事ポリシーコントロールの値と説明をまとめたものです。

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
人事ポリシー	人事 9.1.1 - 人事ポリシー - 従業員の身元調査	雇用前に身元調査は行われますか？	雇用前に全従業員の身元調査を実施するかどうかを記載します。	あり
	人事 9.1.2 - 人事ポリシー - 雇用契約	雇用契約は雇用前に締結されていますか？	雇用前に雇用契約が締結されているかどうかを記載します。	あり
	人事 9.1.3 - 人事ポリシー - 従業員向けセキュリティ研修	全従業員は、定期的にセキュリティ意識向上トレーニングを受けていますか？	従業員が定期的にセキュリティトレーニングを受けているかどうかを記載します。「はい」の場合、どのくらいの頻度でセキュリティトレーニングを受けていますか？	はい。毎年セキュリティトレーニングを受けています。
	人事 9.1.4 - 人事ポリシー - ポリシー違反の懲戒処分	人事ポリシーに違反した場合の懲戒処分はありますか？	人事ポリシーの違反に対する懲戒処分の有無を記載します。	あり

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	人事 9.1.5 - 人事ポリシー - 請負業者/下請業者の身元調査 (手動による認証が必要)	サードパーティーベンダー、請負業者、下請業者の身元調査は行われていますか？	サードパーティーベンダー、請負業者、下請業者に対して身元調査を実施しているかどうかを記載します。「はい」の場合、身元調査は定期的に行われていますか？	はい。身元調査は毎年行われます。
	人事 9.1.6 - 人事ポリシー - 退職時の資産返還	退職時に貸与した資産の返還を確認するプロセスはありますか？	従業員の退職時に貸与した資産の返還を検証するプロセスがあるかどうかを記載します。	あり

インフラストラクチャのセキュリティ

インフラストラクチャのセキュリティコントロールでは、重要な資産を脅威や脆弱性から保護します。この表は、インフラストラクチャのセキュリティポリシーコントロールの値と説明をまとめたものです。

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
物理的なセキュリティ	インフラストラクチャのセキュリティ 8.1.1 - 物理的なセキュリティ	資産 (建物、車両、ハードウェアなど) に直接アクセスする必要がある個人は、	資産 (建物、車両、ハードウェアなど) に直接アクセスする必要がある個人に対	あり

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	ティ - 施設への 物理的アクセス	ID と必要な認証 情報を提供する 必要があります か？	し、ID と必要な 認証情報を提供 する必要がある かどうかを記載 します。	
	インフラストラ クチャのセキュ リティ 8.1.2 - 物 理的なセキュリ ティ - 物理的な セキュリティと 環境管理の実施	データセンター やオフィスビル では、物理的な セキュリティと 環境管理が実施 されていますか？	すべての施設で 物理的なセキュ リティと環境管 理が実施されて いるかどうかを 記載します。	あり
	インフラストラ クチャのセキュ リティ 8.1.3 - 物 理的なセキュリ ティ - 訪問者の アクセス (手動に よる認証が必要)	訪問者のアクセ スを記録してい ますか？	訪問者が施設に 入ることを許 可されている場 合、訪問者のア クセスログは保 存されています か？「はい」の 場合、ログはど のくらいの期間 保持されますか？	はい。ログは 1 年間保持されま す。
ネットワークセ キュリティ	インフラストラ クチャのセキュ リティ 8.2.1 - ネットワークセ キュリティ - 未 使用のポートと サービスの無効 化 (手動による認 証が必要)	未使用のポート とサービスは、 すべて本番環境 とシステムで無 効になっています か？	未使用のポート とサービスが、 すべて本番環境 とシステムで無 効になっている かどうかを記載 します。	あり

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	インフラストラ クチャのセキュ リティ 8.2.2 - ネットワーク セキュリティ - ファイアウォー ルの使用	ファイアウォー ルを使用して、 重要で機密性の 高いシステム を、機密性の低 いシステムのあるネットワーク セグメントとは 別のネットワークセグメントに 分離しています か？	ファイアウォー ルを使用して、 重要で機密性の 高いシステム を、機密性の低 いシステムのあるネットワーク セグメントとは 別のネットワークセグメントに 分離しているか どうかを記載し ます。	あり
	インフラストラ クチャのセキュ リティ 8.2.3 - ネットワーク セキュリティ - ファイアウォー ルルールのレ ビュー	ファイアウォー ルのルールはす べて定期的にレ ビューし、更新 されていますか？	ファイアウォー ルのルールはど のくらいの頻度 で定期的にレ ビューし、更新 されていますか？	はい。ファイア ウォールのルー ルは 3 か月ごと に更新されてい ます。
	インフラストラ クチャのセキュ リティ 8.2.4 - ネットワークセ キュリティ - 侵 入検知/防止シス テム	機密性の高いす べてのネット ワークゾーンと ファイアウォー ルが有効な場所 に、侵入検知/防 止システムが設 置されています か？	機密性の高いす べてのネット ワークゾーンで 侵入検知および 防止システムが 有効になっている かどうかを記 載します。	あり

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	インフラストラ クチャのセキュ リティ 8.2.5 - ネットワークセ キュリティ - セ キュリティ基準 と強化基準	ネットワークデ バイスのセキュ リティ基準と強 化基準は定めら れていますか？	ネットワークデ バイスのセキュ リティ基準と強 化基準を定め ているかどうか を記載します。 「はい」の場 合、詳細 (これら の基準が実装お よび更新される 頻度に関する詳 細を含む) を記載 してください。	はい。セキュリ ティ基準と強 化基準は、毎月 ネットワークデ バイスに実装さ れています。
クラウドサービ ス	インフラストラ クチャのセキュ リティ 8.3.1 - ク ラウドサービス - アプリケーショ ンのホストに使 用されるプラッ トフォーム (手動 による認証が必 要)	アプリケーション のホストに使用 するクラウド プラットフォーム を一覧にして ください。	アプリケーション のホストに使用 するクラウド プラットフォーム を記載してく ださい。	AWS

リスク管理とインシデント対応のコントロール

リスク管理とインシデント対応のコントロールでは、許容可能と判断したリスクのレベルと、リスクや攻撃に対応するために講じられた措置を評価します。この表は、リスク管理とインシデント対応のコントロールの値と説明をまとめたものです。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
リスク評価	リスク管理/インシデント対応 5.1.1 - リスク評価 - リスクの対処と特定	組織に対する破壊的インシデントのリスクを特定し、対処することに焦点を当てた正式なプロセスはありますか？	組織に破壊的なインシデントを引き起こすリスクを特定し、対処するプロセスがあるかどうかを記載します。	あり
	リスク管理/インシデント対応 5.1.2 - リスク評価 - リスク管理プロセス	評価中に特定されたリスクの処理を管理するプログラムまたはプロセスはありますか？	リスクとその軽減策を管理するためのプログラムまたはプロセスがあるかどうかを記載します。「はい」の場合、リスク管理プロセスについて詳細を記載してください。	はい。不適合に対処するため、問題を定期的に見直し、修正しています。環境に影響を与えるすべての問題について、次の情報が特定されます。 • 特定された問題の詳細 • 根本原因 • 補償コントロール • 重要度 • 所有者 • 短期的な方向性 • 長期的な方向性

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	リスク管理/イ ンシデント対応 5.1.3 - リスク評 価 - リスク評価	リスク評価は頻 繁に行われてい ますか？	リスク評価は頻 繁に行われて いますか？「は い」の場合は、 リスク評価の頻 度を記載してく ださい。	はい。リスク評 価は 6 か月ごと に実施していま す。
	リスク管理/イ ンシデント対応 5.1.4 - リスク評 価 - サードパー ティーベンダー のリスク評価	リスク評価は、 すべてのサード パーティーベン ダーを対象に実 施されています か？	リスク評価は、 すべてのサード パーティーベン ダーに対して実 施されているか どうかを記載し ます。「はい」 の場合は、どの くらいの頻度で 実施されていま すか？	このサンプルは 該当しません。
	リスク管理/イ ンシデント対応 5.1.5 - リスク評 価 - 契約変更時 のリスク再評価	サービス提供や 契約変更が行わ れたときに、リ スク評価が実施 されていますか？	サービス提供や 契約変更が行わ れるたびに、リ スク評価を実施 するかどうかを 記載します。	このサンプルは 該当しません。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	リスク管理/インシデント対応 5.1.6 - リスク評価 - リスクの受け入れ (手動による認証が必要)	経営陣がリスクを承知の上で客観的に受け入れ、アクションプランを承認するプロセスがありますか？	経営陣がリスクを理解した上で受け入れ、リスクに関連する問題を解決するためのアクションプランとタイムラインを承認するプロセスがあるかどうかを記載します。そのプロセスには、各リスクの背後にあるメトリクスの詳細を経営陣に提供することが含まれていますか？	はい。リスクの重大度と、リスクが軽減されない場合に発生する可能性のある問題に関する詳細が、リスクを承認する前に経営陣に提供されます。
	リスク管理/インシデント対応 5.1.7 - リスク評価 - リスクメトリクス (手動による認証が必要)	リスクメトリクスを定義、監視、報告するための対策は整っていますか？	リスクメトリクスを定義、監視、報告するプロセスがあるかどうかを記載します。	あり
インシデント管理	リスク管理/インシデント対応 5.2.1 - インシデント管理 - インシデント対応計画	正式なインシデント対応計画はありますか？	正式なインシデント対応計画があるかどうかを記載します。	あり

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	リスク管理/インシデント対応 5.2.2 - インシデント管理 - セキュリティインシデントの報告 窓口 (手動による認証が必要)	顧客がセキュリティインシデントを報告するプロセスはありますか？	顧客がセキュリティインシデントを報告するプロセスがあるかどうかを記載します。「はい」の場合、顧客がセキュリティインシデントを報告する方法を記載してください。	はい。お客様は example.com でインシデントを報告できます。
	リスク管理/インシデント対応 5.2.3 - インシデント管理 - インシデントの報告/ 主要な活動	主要な活動を報告していますか？	主要な活動を報告していますか？ 主要な活動を報告するための SLA はどのようなものですか？	はい。主要な活動はすべて 1 週間以内に報告されます。
	リスク管理/インシデント対応 5.2.4 - インシデント管理 - インシデントのリカバリ	ディザスタリカバリ計画はありますか？	インシデント発生後のリカバリ計画があるかどうかを記載します。「はい」の場合、リカバリ計画の詳細を記載してください。	はい。インシデントの発生後、24 時間以内にリカバリが行われます。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	リスク管理/インシデント対応 5.2.5 - インシデント管理 - 攻撃発生時に購入者が利用できるログ (手動による認証が必要)	攻撃を受けた場合、顧客は関連するリソース (ログ、インシデントレポート、データなど) を利用できますか？	攻撃やインシデントが発生した場合、顧客はその使用に関連するリソース (ログ、インシデントレポート、データなど) を利用できますか？	あり
	リスク管理/インシデント対応 5.2.6 - インシデント管理 - セキュリティ情報 (手動による認証が必要)	アプリケーションに影響を及ぼす最新の攻撃や脆弱性をまとめたセキュリティ情報はありますか？	アプリケーションに影響を及ぼす最新の攻撃や脆弱性をまとめたセキュリティ情報があるかどうかを記載します。「はい」の場合、詳細を記載してください。	はい。お客様は example.com でインシデントを報告できます。
インシデント検知	リスク管理/インシデント対応 5.3.1 - インシデント検知 - 包括的なログ記録	インシデントの特定と軽減に役立つ包括的なログ記録はありますか？	包括的なログ記録が有効になっているかどうかを記載します。システムがログに記録できるイベントのタイプを特定します。ログはどのくらいの期間保持されますか？	はい。アプリケーション、デバイス、AWS のサービスなどのイベント AWS CloudTrail AWS Config、および VPC フローログがログに記録されます。ログは 1 年間保持されます。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	リスク管理/インシデント対応 5.3.2 - インシデント検知 - ログのモニタリング	ログのモニタリングなどの検知メカニズムを使用して、異常な活動や不審な活動をモニタリングし、警告していますか？	セキュリティのモニタリングと警告を定期的実施するかどうかを記載します。「はい」の場合、異常な動作や不審な動作のログのモニタリングも含まれていますか？	はい。すべてのログは、複数のログイン失敗、通常とは異なる位置情報からのログイン、その他の不審なアラートなどの異常な動作がないかモニタリングされます。
	リスク管理/インシデント対応 5.3.3 - インシデント検知 - サードパーティーのデータ侵害	下請業者のセキュリティ、プライバシー、データ侵害の問題を特定、検出、ログ記録するプロセスはありますか？	データ侵害、セキュリティ問題、プライバシー問題について、サードパーティーベンダーや下請業者を特定して検出するプロセスがあるかどうかを記載します。	あり
インシデント通知の SLA	リスク管理/インシデント対応 5.4.1 - インシデント通知の SLA (手動による認証が必要)	インシデントや違反に関する通知を送信するための SLA はどのようなものですか？	インシデントや違反に関する通知を送信するための SLA はどのようなものですか？	7 日間

セキュリティと設定に関するポリシーコントロール

セキュリティと設定に関するポリシーコントロールは、組織の資産を保護するセキュリティポリシーとセキュリティ設定を評価します。この表は、セキュリティと設定に関するポリシーコントロールの値と説明をまとめたものです。

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
情報セキュリティに関するポリシー	セキュリティと設定に関するポリシー 10.1.1 - 情報セキュリティに関するポリシー - 情報セキュリティポリシー	セキュリティチームが所有し、維持する情報セキュリティポリシーはありますか？	情報セキュリティポリシーがあるかどうかを記載します。「はい」の場合は、手動による証拠を共有またはアップロードしてください。	はい。NIST フレームワークに基づいてセキュリティポリシーを構築します。
	セキュリティと設定に関するポリシー 10.1.2 - 情報セキュリティに関するポリシー - ポリシーのレビュー	すべてのセキュリティポリシーは、毎年レビューされていますか？	セキュリティポリシーを毎年レビューするかどうかを記載します。「いいえ」の場合、ポリシーはどのくらいの頻度でレビューされますか？	はい。毎年レビューされます。
セキュリティ設定に関するポリシー	セキュリティと設定に関するポリシー 10.2.1 - セキュリティ設定に関するポリシー - セキュリティ設定 (手動による認証が必要)	セキュリティ設定の標準は維持され、文書化されていますか？	すべてのセキュリティ設定の標準が維持され、文書化されているかどうかを記載します。「はい」の場合は、手動による証拠	あり

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
			を共有またはア ップロードして ください。	
	セキュリティと 設定に関するポ リシー 10.2.2 - セキュリティ 設定に関するポ リシー - セキュ リティ設定のレ ビュー (手動によ る認証が必要)	セキュリティ設 定は少なくと も年に 1 回レ ビューされてい ますか？	セキュリティ設 定を少なくとも 年 1 回レビュー するかどうかを 記載します。 「いいえ」の場 合は、レビュー の頻度を記載し てください。	はい。3 か月ご とにレビューさ れます。
	セキュリティと 設定に関するポ リシー 10.2.3 - セキュリティ設 定に関するポリ シー - 設定の変 更	設定の変更は記 録されますか？	設定の変更を記 録するかどうか を指定してくだ さい。「はい」 の場合、ログは どのくらいの期 間保持されます か？	はい。設定の変 更はすべてモニ タリングされ、 記録されます。 設定が変更され るとアラートが 生成されます。 ログは 6 か月間 保持されます。

AWS Marketplace Vendor Insights を使用して購入者としてスナッ プショットをエクスポートする

スナップショットは、セキュリティプロファイルの特定の時点の状態です。スナップショットをエク
スポートすることにより、データをダウンロードしてオフラインでの確認、証拠データの確認、製品
の比較を行うことができます。

JSON 形式または CSV 形式にエクスポートできます。

スナップショットをエクスポートする

1. AWS Management Console にサインインして、[AWS Marketplace コンソール](#) を開きます。
2. [ベンダーインサイト] を選択します。
3. [ベンダーインサイト] から製品を選択します。
4. [セキュリティとコンプライアンス] タブから [概要] セクションに移動し、[エクスポート] を選択します。
5. ドロップダウンリストから [ダウンロード (JSON)] または [ダウンロード (CSV)] を選択します。

AWS Marketplace Vendor Insights でのアクセスの制御

AWS Identity and Access Management (IAM) は、AWS リソースへのアクセスを制御するための AWS のサービスです。IAM は、追加費用なしで利用できる AWS のサービスです。管理者は、誰を認証 (サインイン) し、誰に AWS Marketplace リソースの使用を許可する (アクセス許可を持たせる) かを制御します。AWS Marketplace Vendor Insights は IAM を使用して、販売者データ、評価、販売者の自己認証、および業界標準の監査レポートへのアクセスを制御します。

AWS Marketplace 管理ポータル で許可する操作とユーザーを制御する方法として、IAM を使用してユーザーおよびグループを作成することをお勧めします。次に、そのユーザーをグループに追加してグループを管理します。読み取り専用のアクセス許可を付与するポリシーまたはアクセス許可をグループに割り当てます。読み取り専用アクセスが必要なユーザーが他にもいる場合は、アクセス許可を AWS アカウント に許可するのではなく、作成したグループにそれらのユーザーを追加します。

ポリシーは、ユーザー、グループ、またはロールに適用されるアクセス許可を定義したドキュメントです。AWS でユーザーができることを決定するアクセス許可。ポリシーでは通常、特定のアクションへのアクセスを許可し、オプションで、それらのアクションを Amazon EC2 インスタンスや Amazon S3 バケットなどの特定のリソースで実行することを許可することができます。また、ポリシーにより、アクセスを明示的に拒否することもできます。アクセス許可は、特定のリソースへのアクセスを許可または拒否するポリシー内のステートメントです。

Important

作成したすべてのユーザーは、自分の認証情報を使用して認証します。ただし、同じ AWS アカウント を使用します。ユーザーが行った変更はアカウント全体に影響を及ぼす可能性があります。

AWS Marketplace には、そのようなアクセス許可が付与されたユーザーが AWS Marketplace 管理ポータルで実行できるアクションを制御するために定義されたアクセス許可があります。また、AWS Marketplace によって作成されたポリシーもあります。これは、複数のアクセス許可を組み合わせたものです。AWSMarketplaceSellerProductsFullAccess ポリシーでは、ユーザーに AWS Marketplace 管理ポータル の製品へのフルアクセスを許可します。

アクション、リソース、条件キーの詳細については、「サービス認証リファレンス」の「[AWS Marketplace Vendor Insights 用のアクション、リソース、および条件キー](#)」を参照してください。

AWS Marketplace Vendor Insights 購入者のアクセス許可

AWS Marketplace Vendor Insights の IAM ポリシーで、次のアクセス許可を使用できます。アクセス許可を 1 つの IAM ポリシーにまとめて、必要なアクセス許可を付与できます。

GetProfileAccessTerms

GetProfileAccessTerms では、ユーザーは AWS Marketplace Vendor Insights プロファイルの確認、承認、アクセスに必要な条件を取得できます。

アクショングループ: 読み取り専用、読み取り/書き込み。

必要なリソース: SecurityProfile。

ListEntitledSecurityProfiles

ListEntitledSecurityProfiles では、ユーザーは有効な読み取り権限を持つすべてのセキュリティプロファイルを一覧表示できます。

アクショングループ: 読み取り専用、リスト専用、読み取り/書き込み。

必要なリソース: なし

ListEntitledSecurityProfileSnapshots

ListEntitledSecurityProfileSnapshots では、ユーザーは有効な SecurityProfile の読み取り権限を持つセキュリティプロファイルのセキュリティプロファイルスナップショットを一覧表示できます。

アクショングループ: 読み取り専用、リスト専用、読み取り/書き込み。

必要なリソース: SecurityProfile

GetEntitledSecurityProfileSnapshot

GetEntitledSecurityProfileSnapshot では、ユーザーは有効な読み取り権限を持つセキュリティプロファイルのセキュリティプロファイルスナップショットを一覧表示できます。

アクショングループ: 読み取り専用、読み取り/書き込み。

必要なリソース: SecurityProfile

のセキュリティ AWS Marketplace

当社では、高品質の販売者のソフトウェアを一覧表示し、当社の選択の品質の維持に積極的に取り組んでいます。のすべてのお客様は異なるため、に記載されている製品に関する十分な情報を提供し、顧客が適切な購入決定を下せるように AWS Marketplace することが当社の目標です。

Note

AWS Data Exchange のデータ製品のセキュリティについては、「AWS Data Exchange ユーザーガイド」の「[セキュリティ](#)」を参照してください。

の販売者のセキュリティの詳細については AWS Marketplace、「販売者AWS Marketplace ガイド」の[AWS Marketplace 「セキュリティ」](#)を参照してください。

販売者と共有されるサブスクリバード情報

当社は、以下の理由により、販売者の連絡先情報を当社の販売者と共有することがあります。

- カスタマートレーニングとテクニカルサポートを提供する必要がある場合。
- ソフトウェアのアクティベーション、設定、およびコンテンツのカスタマイズに使用する場合。
- 販売チームに社内で補償する場合。

さらに、販売者が販売チームに報酬を支払うために、会社名、住所、使用料などの情報を販売者と共有することがあります。また、ベンダーがマーケティングキャンペーンの有効性を評価できるように、当社が特定の情報を販売者と共有することもあります。販売者は、この情報をすでに所有している情報と共に使用して、販売チームに対する報酬や特定の購入者の使用法を決定することができます。

そうでない場合は、当社では通常、購入者の情報を販売者と共有することではなく、共有する情報は個人を特定できる情報ではありません。ただし、購入者が個人情報を共有することを当社に許可している場合、もしくは法律や規制に準拠するためにその情報を販売者に提供することが必要であると当社が認めた場合を除きます。

IAM ポリシーを IPv6 にアップグレードする

AWS Marketplace のお客様は、IAM ポリシーを使用して IP アドレスの許容範囲を設定し、設定された範囲外の IP アドレスが AWS Marketplace リソースにアクセスできないようにします。

AWS Marketplace ウェブサイトドメインは IPv6 プロトコルにアップグレード中です。

IPv6 アドレスを処理するように更新されていない IP アドレスフィルタリングポリシーは、クライアントが AWS Marketplace ウェブサイト上のリソースにアクセスできなくなる可能性があります。

IPv4 から IPv6 に移行する際、影響を受けるお客様

デュアルアドレス指定を使用しているお客様は、このアップグレードの影響を受けます。デュアルアドレス指定とは、ネットワークが IPv4 と IPv6 の両方をサポートすることを意味します。

デュアルアドレス指定を使用している場合は、現在 IPv4 形式のアドレスで構成されている IAM ポリシーを、IPv6 形式のアドレスを含むように更新する必要があります。

アクセスに関する問題については、[サポート](#) にお問い合わせください。

Note

次のお客様は、アップグレードの影響を受けません。

- IPv4 ネットワークのみを利用しているお客様。
- IPv6 ネットワークのみを利用しているお客様。

IPv6 とは

IPv6 は、最終的に IPv4 を IPv6 に置き換えることを意図した次世代の IP 規格です。以前のバージョンの IPv4 は、32 ビットのアドレス指定方式を使用して 43 億台のデバイスをサポートしていました。IPv6 は代わりに 128 ビットのアドレス指定を使用して、約 340 兆 x1 兆倍 x1 兆倍 (つまり 2 の 128 乗) のデバイスをサポートします。

```
2001:cdba:0000:0000:0000:0000:3257:9652
2001:cdba:0:0:0:0:3257:9652
2001:cdba::3257:965
```

IPv6 用の IAM ポリシーを更新する

現在、IAM ポリシーは、aws:SourceIp フィルターを使用して IP アドレスの許容範囲を設定するために使用されています。

デュアルアドレス指定では、IPv4 と IPv6 の両方のトラフィックをサポートしています。ネットワークでデュアルアドレス指定を使用している場合、IP アドレスフィルタリングに使用されている IAM ポリシーが、IPv6 のアドレス範囲を含むように更新されていることを確認する必要があります。

例えば、この IAM アイデンティティベースのポリシーは、Condition 要素で許可された IPv4 アドレス CIDR 範囲 192.0.2.0/24 と 203.0.113.0/24 を識別します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": {
    "Effect": "Deny",
    "Action": "*",
    "Resource": "*",
    "Condition": {
      "NotIpAddress": {
        "aws:SourceIp": [
          "192.0.2.0/24",
          "203.0.113.0/24"
        ]
      },
      "Bool": {
        "aws:ViaAWSService": "false"
      }
    }
  }
}
```

IAM アイデンティティベースのポリシーの例の詳細については、「AWS Identity and Access Management ユーザーガイド」の[AWS「: ソース IP AWS に基づいて へのアクセスを拒否する」](#)を参照してください。

このポリシーを更新するには、Condition 要素を IPv6 アドレス範囲の 2001:DB8:1234:5678::/64 と 2001:cdba:3257:8593::/64 を含むように更新します。

Note

既存の IPv4 アドレスは下位互換性のために必要なため、削除しないでください。

```
"Condition": {
  "NotIpAddress": {
    "aws:SourceIp": [
      "192.0.2.0/24", <<DO NOT remove existing IPv4 address>>
      "203.0.113.0/24", <<DO NOT remove existing IPv4 address>>
      "2001:DB8:1234:5678::/64", <<New IPv6 IP address>>
      "2001:cdba:3257:8593::/64" <<New IPv6 IP address>>
    ]
  },
  "Bool": {
    "aws:ViaAWSService": "false"
  }
}
```

IAM によるアクセス許可の管理の詳細については、「AWS Identity and Access Management ユーザーガイド」の「[マネージドポリシーとインラインポリシー](#)」を参照してください。

IPv4 から IPv6 に更新した後のネットワークのテスト

IAM ポリシーを IPv6 形式に更新した後、ネットワークが IPv6 エンドポイントと AWS Marketplace ウェブサイト機能にアクセスしているかどうかをテストできます。

トピック

- [Linux/UNIX または Mac OS X を使用したネットワークのテスト](#)
- [Windows 7 または Windows 10 でネットワークをテストする](#)
- [AWS Marketplace ウェブサイトのテスト](#)

Linux/UNIX または Mac OS X を使用したネットワークのテスト

Linux/Unix または Mac OS X を使用している場合、次の curl コマンドを使用して、ネットワークが IPv6 エンドポイントにアクセスしているかどうかをテストできます。

```
curl -v -s -o /dev/null http://ipv6.ec2-reachability.amazonaws.com/
```

例えば、IPv6 で接続している場合、接続されている IP アドレスには、次の情報が表示されます。

```
* About to connect() to aws.amazon.com port 443 (#0)
* Trying IPv6 address... connected
* Connected to aws.amazon.com (IPv6 address) port 443 (#0)
> GET / HTTP/1.1
> User-Agent: curl/7.18.1 (x86_64-unknown-linux-gnu) libcurl/7.18.1 OpenSSL/1.0.1t
  zlib/1.2.3
> Host: aws.amazon.com
```

Windows 7 または Windows 10 でネットワークをテストする

Windows 7 または Windows 10 を使用している場合、ネットワークが IPv6 または IPv4 でデュアルスタックのエンドポイントにアクセスできるかどうかをテストできます。次の例に示すように ping コマンドを使用します。

```
ping aws.amazon.com
```

IPv6 経由でエンドポイントにアクセスしている場合、このコマンドは IPv6 アドレスを返します。

AWS Marketplace ウェブサイトのテスト

更新後の AWS Marketplace ウェブサイト機能のテストは、主にポリシーの記述方法と使用目的によって異なります。一般的には、ポリシーで指定されている機能が意図したとおりに動作することを確認する必要があります。

以下のシナリオは、AWS Marketplace ウェブサイト機能のテストを開始するのに役立ちます。

AWS Marketplace ウェブサイトの購入者として、次のタスクを実行できるかどうかをテストします。

- AWS Marketplace 製品をサブスクライブします。
- AWS Marketplace 製品を設定します。
- AWS Marketplace 製品を起動または実行します。

AWS Marketplace ウェブサイトの販売者として、次のタスクを実行できるかどうかをテストします。

- 既存の AWS Marketplace 製品を管理します。

- AWS Marketplace 製品を作成します。

AWS Marketplace サブスクリプションへのアクセスのコントロール

AWS IAM Identity Center は、ワークフォース ID を安全に作成または接続し、AWS アカウント およびアプリケーション間で一元的にアクセスを管理するのに役立ちます。IAM Identity Center は、規模や種類を問わず、AWS で従業員の認証と認可を行うために推奨されるアプローチです。その他の設定ガイダンスについては、[AWS「セキュリティリファレンスアーキテクチャ」](#)を参照してください。

IAM Identity Center には、ユーザーが自分に割り当てられている AWS アカウント、ロール、クラウドアプリケーション、カスタムアプリケーションを一元的に検索してアクセスできるユーザーポータルが含まれます。IAM Identity Center は、接続先ディレクトリのユーザーとグループにシングルサインオンアクセスを割り当て、ユーザーはアクセス権許可セットを使用してアクセスレベルを決定します。これにより、一時的なセキュリティ認証情報を有効にします。AWS 組織全体の AWS Marketplace サブスクリプションの管理を委任 AWS Marketplace するためのアクセスに特定の AWS マネージドロールを割り当てることで、アクセスのレベルを定義できます。

例えば、顧客 A は、そのロールにアタッチされた ManagedMarketplace_ViewOnly ポリシーとのフェデレーションによってロールを引き受けます。つまり、顧客 A は AWS Marketplace のサブスクリプションのみを表示できるということになります。サブスクリプションを閲覧するアクセス許可を持つ IAM ロールを作成し、顧客 A に[このロールを引き受ける](#)権限を付与できます。

AWS Marketplace アクセスの IAM ロールの作成

IAM ロールを使用して、AWS リソースへのアクセスを委任できます。

アクセス AWS Marketplace 許可を割り当てる IAM ロールを作成するには

1. [IAM コンソール](#)を開きます。
2. 左側のナビゲーションペインから、[Roles] (ロール) を選択してから、[Create role] (ロールの作成) をクリックします。
3. を選択します AWS アカウント。
4. [アクセス許可を追加] から、次のポリシーのいずれかを選択します。
 - サブスクリプションを表示するのみ (変更はできない) のアクセス許可を付与するには、[AWSMarketplaceRead-only] を選択します。

- サブスクリプションやサブスクリプション解除のアクセス許可を付与するには、[AWSMarketplaceManageSubscriptions] を選択します。
 - サブスクリプションの完全な統制を許可するには、[AWSMarketplaceFullAccess] を選択します。
5. [Next (次へ)] を選択します。
 6. [ロール名] に、ロールの名前を入力します。例えば、*[MarketplaceReadOnly]* や *[MarketplaceFullAccess]* などです。次に、[Create role (ロールの作成)] を選択します。詳細については、「[IAM ロールの作成](#)」を参照してください。

Note

指定したアカウントの管理者は、そのアカウントのすべてのユーザーに、このロールを引き受けるアクセス許可を付与できます。

前述のステップを繰り返し、異なるアクセス許可セットを持つロールを追加で作成し、各ユーザーのペルソナが、カスタマイズされたアクセス許可を持つ IAM ロールを使用できるようにします。

ここで説明する AWS 管理ポリシーのアクセス許可に制限はありません。IAM を使用して、カスタムアクセス許可を持つポリシーを作成し、そのポリシーを IAM ロールに追加できます。詳細については、「[IAM ユーザーガイド](#)」の「[IAM ポリシーの管理](#)」および「[IAM ID アクセス許可の追加](#)」を参照してください。

AWS の マネージドポリシー AWS Marketplace

AWS 管理ポリシーを使用して、基本的な AWS Marketplace アクセス許可を付与できます。次に、任意のシナリオで独自のポリシーを作成し、シナリオ用の特定の要件を持つロールに適用できます。次の基本的な AWS Marketplace 管理ポリシーを使用して、どのユーザーがどのアクセス許可を持っているかを制御できます。

次のリンクから、[AWS マネージドポリシーリファレンス](#)に移動します。

- [AWSMarketplaceRead-only](#)
- [AWSMarketplaceManageSubscriptions](#)
- [AWSPrivateMarketplaceRequests](#)
- [AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess](#)
- [AWSMarketplaceFullAccess](#)

AWS Marketplace は、特定のシナリオに特化した マネージドポリシーも提供します。AWS Marketplace 購入者向けの AWS マネージドポリシーの完全なリストと、購入者が提供するアクセス許可の説明については、[AWS 購入者向けの AWS Marketplace 管理ポリシー](#)このセクションの「」を参照してください。

License Manager で使用するアクセス許可

AWS Marketplace は と統合 AWS License Manager して、組織内のアカウント間でサブスクライブする製品のライセンスを管理および共有します。でサブスクリプションの詳細をすべて表示するには AWS Marketplace、ユーザーがライセンス情報を一覧表示できる必要があります AWS License Manager。

AWS Marketplace 製品とサブスクリプションに関するすべてのデータを表示するために必要なアクセス許可がユーザーに付与されていることを確認するには、次のアクセス許可を追加します。

- `license-manager:ListReceivedLicenses`

アクセス許可の設定の詳細については、「[IAM ユーザーガイド](#)」の「IAM ポリシーの管理」を参照してください。

追加リソース

IAM ロールの詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM アイデンティティ \(ユーザー、ユーザーグループ、ロール\)](#)」を参照してください。

IAM アクセス許可とポリシーの管理の詳細については、IAM ユーザーガイドの「[ポリシーを使用した AWS リソースへのアクセスの制御](#)」を参照してください。

AWS Data Exchange のデータ製品の IAM アクセス許可とポリシーの管理の詳細については、「AWS Data Exchange ユーザーガイド」の「[AWS Data Exchange でのアイデンティティとアクセス管理](#)」を参照してください。

AWS 購入者向けの AWS Marketplace 管理ポリシー

AWS 管理ポリシーは、によって作成および管理されるスタンドアロンポリシーです AWS。AWS 管理ポリシーは、ユーザー、グループ、ロールにアクセス許可の割り当てを開始できるように、多くの一般的なユースケースにアクセス許可を付与するように設計されています。

AWS 管理ポリシーは、すべての AWS お客様が使用できるため、特定のユースケースに対して最小特権のアクセス許可を付与しない場合があります。ユースケースに固有の[カスタマー管理ポリシー](#)を定義して、アクセス許可を絞り込むことをお勧めします。

AWS 管理ポリシーで定義されているアクセス許可は変更できません。が AWS マネージドポリシーで定義されたアクセス許可 AWS を更新すると、ポリシーがアタッチされているすべてのプリンシパル ID (ユーザー、グループ、ロール) に影響します。AWS は、新しい が起動されるか、新しい API オペレーション AWS のサービス が既存のサービスで使えるようになったときに、AWS マネージドポリシーを更新する可能性が最も高くなります。

詳細については「IAM ユーザーガイド」の「[AWS マネージドポリシー](#)」を参照してください。

このセクションには、購入者の AWS Marketplace へのアクセスを管理するために使用される各ポリシーが記載されています。販売者ポリシーの詳細については、「[AWS Marketplace 販売者ガイド](#)」の「[販売者の管理ポリシー](#)」を参照してください。AWS Marketplace

トピック

- [AWS 管理ポリシー: AWSMarketplaceDeploymentServiceRolePolicy](#)
- [AWS 管理ポリシー: AWSMarketplaceFullAccess](#)
- [AWS マネージドポリシー: AWSMarketplaceImageBuildFullAccess \(廃止\)](#)
- [AWS 管理ポリシー: AWSMarketplaceLicenseManagementServiceRolePolicy](#)
- [AWS 管理ポリシー: AWSMarketplaceManageSubscriptions](#)
- [AWS 管理ポリシー: AWSMarketplaceProcurementSystemAdminFullAccess](#)
- [AWS 管理ポリシー: AWSMarketplaceRead-only](#)
- [AWS マネージドポリシー: AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess](#)
- [AWS 管理ポリシー: AWSPrivateMarketplaceRequests](#)
- [AWS 管理ポリシー: AWSServiceRoleForPrivateMarketplaceAdminPolicy](#)
- [AWS 管理ポリシー: AWSVendorInsightsAssessorFullAccess](#)
- [AWS 管理ポリシー: AWSVendorInsightsAssessorReadOnly](#)
- [AWS 管理ポリシー: AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy](#)
- [AWS マネージドポリシーに関するAWS Marketplace の更新](#)

AWS 管理ポリシー: AWSMarketplaceDeploymentServiceRolePolicy

IAM エンティティに AWSMarketplaceDeploymentServiceRolePolicy をアタッチすることはできません。このポリシーは、ユーザーに代わって AWS Marketplace がアクションを実行することを許可する、サービスにリンクされたロールにアタッチされます。詳細については、「[AWS Marketplaceのサービスにリンクされたロールの使用](#)」を参照してください。

このポリシーは、AWS Marketplace が[AWS Secrets Manager](#)ユーザーに代わってシークレットとして保存されるデプロイ関連のパラメータを管理できるようにする寄稿者アクセス許可を付与します。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSMarketplaceDeploymentServiceRolePolicy](#)」を参照してください。

AWS 管理ポリシー: AWSMarketplaceFullAccess

AWSMarketplaceFullAccess ポリシーを IAM アイデンティティにアタッチできます。

このポリシーは、購入者および販売者として、AWS Marketplace および関連サービスへのフルアクセスを許可する管理アクセス許可を付与します。これらのアクセス許可には、AWS Marketplace ソフトウェアのサブスクライブとサブスクライブ解除、からの AWS Marketplace ソフトウェアインスタンスの管理 AWS Marketplace、アカウントでのプライベートマーケットプレイスの作成と管理、Amazon EC2 AWS CloudFormation、および Amazon EC2 Systems Manager へのアクセスが含まれます。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSMarketplaceFullAccess](#)」を参照してください。

AWS マネージドポリシー: AWSMarketplaceImageBuildFullAccess (廃止)

このポリシーは、AWS Marketplace プライベートイメージビルド機能へのフルアクセスを許可する寄稿者アクセス許可を付与しました。プライベートイメージの作成に加えて、イメージにタグを追加し、Amazon EC2 インスタンスを起動および終了するアクセス許可も付与されました。

詳細については、「[AWS 管理ポリシーリファレンスガイド](#)」の「[非推奨の AWS 管理ポリシー](#)」を参照してください。

AWS 管理ポリシー:

AWSMarketplaceLicenseManagementServiceRolePolicy

IAM エンティティに AWSMarketplaceLicenseManagementServiceRolePolicy をアタッチすることはできません。このポリシーは、 がユーザーに代わってアクションを実行できるようにするサービスにリンクされたロール AWS Marketplace にアタッチされます。詳細については、「[AWS Marketplaceのサービスにリンクされたロールの使用](#)」を参照してください。

このポリシーは、 がユーザーに代わってライセンスを管理 AWS Marketplace できるようにする寄稿者アクセス許可を付与します。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSMarketplaceLicenseManagementServiceRolePolicy](#)」を参照してください。

AWS 管理ポリシー: AWSMarketplaceManageSubscriptions

AWSMarketplaceManageSubscriptions ポリシーを IAM アイデンティティにアタッチできます。

このポリシーは、寄稿者に AWS Marketplace 製品のサブスクリプションとサブスクリプション解除を許可するアクセス許可を付与します。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSMarketplaceManageSubscriptions](#)」を参照してください。

AWS 管理ポリシー: AWSMarketplaceProcurementSystemAdminFullAccess

AWSMarketplaceProcurementSystemAdminFullAccess ポリシーを IAM アイデンティティにアタッチできます。

このポリシーは、組織内のアカウントの一覧表示など、AWS Marketplace eProcurement の統合のあらゆる側面を管理できる管理者権限を付与します。eProcurement 統合の詳細については、「[AWS Marketplace 調達システムとの統合](#)」を参照してください。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSMarketplaceProcurementSystemAdminFullAccess](#)」を参照してください。

AWS 管理ポリシー: AWSMarketplaceRead-only

AWSMarketplaceRead-only ポリシーを IAM アイデンティティにアタッチできます。

このポリシーは、アカウントの製品、プライベートオファー、サブスクリプションの表示 AWS Marketplace、アカウントの Amazon EC2 AWS Identity and Access Management、および Amazon SNS リソースの表示を許可する読み取り専用アクセス許可を付与します。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSMarketplaceRead-only](#)」を参照してください。

AWS マネージドポリシー: AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess

AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess ポリシーを IAM アイデンティティにアタッチできます。

このアイデンティティベースのポリシーにより、管理者は AWS Private Marketplace の設定と関連する組織コントロールを管理できます。このポリシーには、IAM と Organizations のアクセス許可が含まれます。これにより、次のアクションを実行するアクセス許可が付与されます。

1. Private Marketplace のサービスにリンクされたロール (SLR) を管理します。
 - a. のロール情報を取得しますAWSServiceRoleForPrivateMarketplaceAdmin。
 - b. Private Marketplace 管理のサービスにリンクされたロールを作成します。
2. 組織の委任された管理を処理します。
 - a. Private Marketplace の委任管理者を登録および登録解除します。
 - b. Organizations 内で Private Marketplace AWS のサービスアクセスを有効にします。
3. Private Marketplace の製品とリクエストを管理します。
 - a. Private Marketplace との製品の関連付けと関連付け解除。
 - b. Private Marketplace リクエストを一覧表示して記述します。
 - c. カタログオペレーション (エンティティの一覧表示、エンティティの説明、変更セットの管理) を実行します。
 - d. リソースの AWS Marketplace リソースタグ付けを処理します。
4. Organizations 情報にアクセスします。
 - a. 組織の詳細、組織単位、アカウントを表示します。
 - b. 組織階層情報を一覧表示します。
 - c. AWS サービスアクセスと委任された管理者をモニタリングします。

このポリシーは、Organizations 構造全体で Private Marketplace を設定および管理し、これらの関数へのコンソールとプログラムによるアクセスの両方を付与する必要がある管理者向けに設計されています。

このポリシーには、Private Marketplace サービスプリンシパルの検証と、IAM ロールと組織管理のための適切なリソースレベルのアクセス許可を確保するための特定の条件が含まれています。複数の管理者を使用する方法の詳細については、「[プライベートマーケットプレイス管理者向けのポリシー例](#)」を参照してください。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess](#)」を参照してください。

AWS 管理ポリシー: AWSPrivateMarketplaceRequests

AWSPrivateMarketplaceRequests ポリシーを IAM アイデンティティにアタッチできます。

このポリシーでは、プライベートマーケットプレイスへの製品の追加をリクエストしたり、それらのリクエストを閲覧したりするためのアクセス許可を寄稿者に付与します。これらのリクエストは、プライベートマーケットプレイスの管理者によって承認または拒否される必要があります。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSPrivateMarketplaceRequests](#)」を参照してください。

AWS 管理ポリシー: AWSServiceRoleForPrivateMarketplaceAdminPolicy

IAM エンティティに AWSServiceRoleForPrivateMarketplaceAdminPolicy をアタッチすることはできません。このポリシーは、ユーザーに代わって AWS Marketplace がアクションを実行することを許可する、サービスにリンクされたロールにアタッチされます。詳細については、「[AWS Marketplaceのサービスにリンクされたロールの使用](#)」を参照してください。

このポリシーは、が Private Marketplace リソースを記述および更新し、記述 AWS Marketplace することを許可する寄稿者アクセス許可を付与します AWS Organizations。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSServiceRoleForPrivateMarketplaceAdminPolicy](#)」を参照してください。

AWS 管理ポリシー: AWSVendorInsightsAssessorFullAccess

AWSVendorInsightsAssessorFullAccess ポリシーを IAM アイデンティティにアタッチできます。

このポリシーは、資格のある AWS Marketplace Vendor Insights リソースを表示し、AWS Marketplace Vendor Insights サブスクリプションを管理するためのフルアクセスを許可します。これらのリクエストは、管理者によって承認または拒否される必要があります。これにより、サードパーティーのレポートへの読み取り専用アクセスが許可され AWS Artifact ます。

AWS Marketplace Vendor Insights は、評価者が購入者と等しく、ベンダーが販売者と等しいことを示します。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSVendorInsightsAssessorFullAccess](#)」を参照してください。

AWS 管理ポリシー: AWSVendorInsightsAssessorReadOnly

AWSVendorInsightsAssessorReadOnly ポリシーを IAM アイデンティティにアタッチできます。

このポリシーは、権限のある AWS Marketplace Vendor Insights リソースを表示するための読み取り専用アクセスを許可します。これらのリクエストは、管理者によって承認または拒否される必要があります。これにより、 のレポートへの読み取り専用アクセスが許可されます AWS Artifact。

リクエストは、管理者によって承認または拒否される必要があります。これにより、サードパーティーのレポートへの読み取り専用アクセスが許可され AWS Artifact ます。

AWS Marketplace Vendor Insights は、このガイドの目的上、評価者を購入者として識別し、ベンダーは販売者と等しくなります。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSVendorInsightsAssessorReadOnly](#)」を参照してください。

AWS 管理ポリシー: AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy

AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy ポリシーを IAM アイデンティティにアタッチできます。

このポリシーは、AWS 組織内のリソースデータAWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicyへのアクセスを許可します。AWS Marketplace は、データを使用して[調達インサイトダッシュボード](#)にデータを入力します。ダッシュボードを使用すると、管理アカウントを持つ購入者は、組織内のすべてのアカウントにわたるすべての契約を表示できます。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy](#)」を参照してください。

AWS マネージドポリシーに関するAWS Marketplace の更新

このサービスがこれらの変更の追跡を開始 AWS Marketplace してからの AWS の管理ポリシーの更新に関する詳細を表示します。このページの変更に関する自動アラートについては、の RSS フィードにサブスクライブしてください。AWS Marketplace [AWS Marketplace 購入者ガイドのドキュメント履歴](#)

Note

AWS Marketplace Vendor Insights では、このガイドの目的上、評価者は購入者と等しく、ベンダーは販売者と等しくなります。

変更	説明	日付
AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess — 既存のポリシーの更新	AWS Marketplace Private Marketplace 管理者のサービスにリンクされたロールと Organizations 統合アクセス許可が追加されました。	2025 年 6 月 5 日
AWSMarketplaceRead および AWSMarketplaceFullAccess — 既存のポリシーの更新	AWS Marketplace は既存のポリシーを更新し、廃止されたプライベートイメージビルド配信方法に関連するポリシーを削除しました。	2025 年 5 月 7 日
AWSMarketplaceRead および AWSMarketplaceManageSubscriptions — 既存のポリシーの更新	AWS Marketplace は、AWS Marketplace コンソールでの契約料金の一覧表示と発注書の更新をサポートするように既存のポリシーを更新しました。	2024 年 11 月 21 日

変更	説明	日付
AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy を追加しました。	AWS Marketplace は、Organizations のデータにアクセスして記述するための新しいポリシーを追加しました。はデータ AWS Marketplace を使用して 調達インサイトダッシュボード にデータを入力します。	2024 年 10 月 3 日
レガシーAWSMarketplaceImageBuildFullAccess AWS Marketplace ポリシーを廃止しました	AWS Marketplace はプライベートイメージビルドの配信方法を中止したため、AWSMarketplaceImageBuildFullAccess ポリシーも中止されました。	2024 年 5 月 30 日
AWSServiceRoleForPrivateMarketplaceAdminPolicy — 新機能のポリシーを追加 AWS Marketplace	AWS Marketplace Private Marketplace リソースの管理と説明をサポートする新しいポリシーが追加されました AWS Organizations。	2024 年 2 月 16 日
AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess — 既存のポリシーの更新	AWS Marketplace は、データの読み取り AWS Organizations をサポートするようにポリシーを更新しました。	2024 年 2 月 16 日
AWSMarketplaceDeploymentServiceRolePolicy — 新機能のポリシーを追加 AWS Marketplace	AWS Marketplace は、デプロイ関連のパラメータの管理をサポートする新しいポリシーを追加しました。	2023 年 11 月 29 日
AWSMarketplaceRead および AWSMarketplaceManageSubscriptions — 既存のポリシーの更新	AWS Marketplace は、プライベートオファページへのアクセスを許可するように既存のポリシーを更新しました。	2023 年 1 月 19 日

変更	説明	日付
AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess — 既存のポリシーの更新	AWS Marketplace により新しいタグベースの認可機能のポリシーが更新されました。	2022 年 12 月 9 日
AWSVendorInsightsAssessorReadOnly AWS Marketplace が更新されました AWSVendorInsightsAssessorReadOnly	AWS Marketplace が更新されAWSVendorInsightsAssessorReadOnly 、AWS Artifact サードパーティーレポート (プレビュー) のレポートへの読み取り専用アクセスが追加されました。	2022 年 11 月 30 日
AWSVendorInsightsAssessorFullAccess AWS Marketplace が更新されました AWSVendorInsightsAssessorFullAccess	AWS Marketplace が更新されAWSVendorInsightsAssessorFullAccess 、AWS Artifact サードパーティーレポート (プレビュー) に契約検索と読み取り専用アクセスが追加されました。	2022 年 11 月 30 日
AWSVendorInsightsAssessorFullAccess および AWSVendorInsightsAssessorReadOnly — で新機能のポリシーを追加 AWS Marketplace	AWS Marketplace AWS Marketplace Vendor Insights の新しい機能のポリシーが追加されました。 AWSVendorInsightsAssessorFullAccess AWSVendorInsightsAssessorReadOnly	2022 年 7 月 26 日
AWSMarketplaceFullAccess および AWSMarketplaceImageBuildFullAccess — 既存のポリシーの更新	AWS Marketplace セキュリティを向上させるために、が不要なアクセス許可を削除しました。	2022 年 3 月 4 日

変更	説明	日付
AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess — 既存のポリシーの更新	AWS Marketplace は、未使用のアクセス許可をAWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess ポリシーから削除しました。	2021 年 8 月 27 日
AWSMarketplaceFullAccess — 既存のポリシーの更新	AWS Marketplace はAWSMarketplaceFullAccess ポリシーから重複するec2:DescribeAccountAttributes アクセス許可を削除しました。	2021 年 7 月 20 日
AWS Marketplace が変更の追跡を開始しました	AWS Marketplace は、AWS 管理ポリシーの変更の追跡を開始しました。	2021 年 4 月 20 日

AWS Marketplaceのサービスにリンクされたロールの使用

AWS Marketplace は AWS Identity and Access Management (IAM) [サービスにリンクされたロール](#)を使用します。サービスにリンクされたロールは、直接リンクされた一意のタイプの IAM ロールです AWS Marketplace。サービスリンクロールは、AWS Marketplace による事前定義済みのロールであり、ユーザーに代わってサービスから他の AWS のサービスを呼び出すために必要なすべてのアクセス許可を備えています。

サービスにリンクされたロールを使用すると、必要なアクセス許可を手動で追加する必要がなくなるため、の設定 AWS Marketplace が簡単になります。は、サービスにリンクされたロールのアクセス許可 AWS Marketplace を定義し、特に定義されている場合を除き、のみがそのロールを引き受け AWS Marketplace ることができます。定義された許可には、信頼ポリシーと許可ポリシーが含まれます。この許可ポリシーを他の IAM エンティティにアタッチすることはできません。

サービスにリンクされたロールをサポートする他のサービスについては、「[IAM と連動するAWS サービス](#)」を参照し、[サービスにリンクされたロール] の列内で [はい] と表記されたサービスを探してください。サービスにリンクされたロールに関するドキュメントをサービスで表示するには、[はい] を選択します。

のサービスにリンクされたロールの作成 AWS Marketplace

AWS Marketplace との統合を設定すると、 によってサービスにリンクされたロールが作成されます AWS License Manager。

組織内のすべてのアカウントにサービスにリンクされたロールを一度に AWS Marketplace 作成するように指定することも、一度に 1 つのアカウントにサービスにリンクされたロールを作成することもできます。すべてのアカウントでサービスにリンクされたロールを作成するオプションは、組織で [すべての機能] が有効になっている場合にのみ使用できます。詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の「[組織内のすべての機能の有効化](#)」を参照してください。

すべてのアカウントでサービスにリンクされたロールを作成するには

1. [AWS Marketplace コンソール](#)でサインインし、[設定] を選択します。
2. AWS Marketplace 調達インサイト統合セクションで、設定の詳細の表示を選択します。
3. AWS Marketplace 調達インサイト統合の作成ページで、組織全体で信頼されたアクセスを有効にするを選択し、統合の作成を選択します。

Note

この設定により、内の信頼が有効になります AWS Organizations。その結果、現在のアクションに加えて、今後組織に追加されるアカウントには、サービスにリンクされたロールが自動的に追加されます。

現在のアカウントにサービスにリンクされたロールを作成するには

1. [AWS Marketplace コンソール](#)でサインインし、[設定] を選択します。
2. AWS License Manager の統合セクションで、設定の詳細の表示を選択します。
3. AWS 「License Manager 統合の作成」ページの AWS Organizations 「アカウントのライセンスの管理を有効にする AWS Marketplace 」で、AWS Marketplace このアカウントのライセンス管理サービスにリンクされたロールを選択し、「統合の作成」を選択します。

Important

現在のアカウントに対してのみサービスにリンクされたロールを作成する場合は、組織全体で信頼されたアクセスを有効にせず、ライセンスを共有 (付与または受信) するアカウントご

とにこの手順を繰り返す必要があります AWS Marketplace。これには、今後のすべてのアカウントが含まれます。

AWS Marketplace のサービスにリンクされたロールの編集

AWS Marketplace では、このサービスリンクロールを編集することはできません。サービスリンクロールを作成した後は、多くのエンティティによってロールが参照される可能性があるため、ロール名を変更することはできません。ただし、IAM を使用したロールの説明の編集はできます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「サービスリンクロールの編集」を参照してください。

AWS Marketplace のサービスリンクロールの削除

サービスリンクロールが必要な機能またはサービスが不要になった場合には、そのロールを削除することをお勧めします。そうすることで、積極的にモニタリングまたは保守されていない未使用のエンティティを排除できます。ただし、手動で削除する前に、サービスにリンクされたロールのリソースをクリーンアップする必要があります。

Note

リソースを削除する際に、AWS Marketplace のサービスでロールが使用されている場合、削除は失敗することがあります。その場合は、数分待ってからオペレーションを再試行してください。

IAM を使用してサービスリンクロールを手動で削除するには

IAM コンソール、AWS CLI、または AWS API を使用し

て、AWSServiceRoleForMarketplaceLicenseManagement サービスリンクロールを削除します。詳細については、IAM ユーザーガイドの「[サービスにリンクされたロールの削除](#)」を参照してください。

AWS Marketplace のサービスにリンクされたロールをサポートするリージョン

AWS Marketplace は、サービスが利用可能なすべての AWS リージョン でサービスにリンクされたロールの使用をサポートします。詳細については、「[AWS Marketplace リージョンとエンドポイント](#)」を参照してください。

の使用権限を共有するサービスにリンクされたロール AWS Marketplace

AWS 組織内の他のアカウントに AWS Marketplace サブスクリプションを と共有するには AWS License Manager、共有するアカウントごとに アクセス AWS Marketplace 許可を付与する必要があります。これを行うには、AWSServiceRoleForMarketplaceLicenseManagement ロールを使用します。このロールは、サブスクライブする製品のライセンスを AWS License Manager で作成および管理するためのアクセス許可 AWS Marketplace を に付与します AWS Marketplace。

AWSServiceRoleForMarketplaceLicenseManagement のサービスにリンクされたロールは、お客様に代わって License Manager でアクションを実行するために、次のサービスを信頼します。

- `license-management.marketplace.amazonaws.com`

AWS Marketplace は、指定したリソースで以下のアクションを実行することを `AWSMarketplaceLicenseManagementServiceRolePolicy` に許可します。

- アクション:
 - `"organizations:DescribeOrganization"`
 - `"license-manager:ListReceivedGrants"`
 - `"license-manager:ListDistributedGrants"`
 - `"license-manager:GetGrant"`
 - `"license-manager:CreateGrant"`
 - `"license-manager:CreateGrantVersion"`
 - `"license-manager>DeleteGrant"`
 - `"license-manager:AcceptGrant"`
- リソース:
 - すべてのリソース ("`*`")

サービスリンクロールの作成、編集、削除を IAM エンティティ (ユーザー、グループ、ロールなど) に許可するには、アクセス許可を設定する必要があります。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[サービスリンクされたロールのアクセス許可](#)」を参照してください。

で製品を設定および起動するためのサービスにリンクされたロール AWS Marketplace

AWS Marketplace は、 という名前のサービスにリンクされたロールを使用し、`AWSServiceRoleForMarketplaceDeployment`、[AWS Secrets Manager](#) AWS Marketplace がユーザーに代わって シークレットとして保存されるデプロイ関連のパラメータを管理できるようにします。これらのシークレットは、AWS CloudFormation テンプレートで販売者が参照できます。テンプレートは、 でクイック起動が有効になっている製品を設定するときに起動できます AWS Marketplace。

`AWSServiceRoleForMarketplaceDeployment` サービスリンクロールは、以下のサービスを信頼してロールを引き受けます。

- `deployment.marketplace.amazonaws.com`

`AWSMarketplaceDeploymentServiceRolePolicy` は、リソースで以下のアクションを実行することを AWS Marketplace に許可します。

Note

AWS Marketplace 管理ポリシーの詳細については、「」を参照してください[AWS 購入者向けの AWS Marketplace 管理ポリシー](#)。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "ManageMarketplaceDeploymentSecrets",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "secretsmanager:CreateSecret",
        "secretsmanager:PutSecretValue",
        "secretsmanager:DescribeSecret",
        "secretsmanager>DeleteSecret",
        "secretsmanager:RemoveRegionsFromReplication"
      ]
    }
  ],
```

```
"Resource": [
  "arn:aws:secretsmanager:*:secret:marketplace-deployment*!*"
],
"Condition": {
  "StringEquals": {
    "aws:ResourceAccount": "${aws:PrincipalAccount}"
  }
},
{
  "Sid": "ListSecrets",
  "Effect": "Allow",
  "Action": [
    "secretsmanager:ListSecrets"
  ],
  "Resource": [
    "*"
  ]
},
{
  "Sid": "TagMarketplaceDeploymentSecrets",
  "Effect": "Allow",
  "Action": [
    "secretsmanager:TagResource"
  ],
  "Resource": "arn:aws:secretsmanager:*:secret:marketplace-deployment!*",
  "Condition": {
    "Null": {
      "aws:RequestTag/expirationDate": "false"
    },
    "ForAllValues:StringEquals": {
      "aws:TagKeys": [
        "expirationDate"
      ]
    },
    "StringEquals": {
      "aws:ResourceAccount": "${aws:PrincipalAccount}"
    }
  }
}
]
```

ユーザー、グループ、またはロールにサービスリンクロールの作成、編集、または削除を許可するには、アクセス許可を設定する必要があります。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[Service-linked role permissions](#)」を参照してください。

で Private Marketplace を設定するサービスにリンクされたロール AWS Marketplace

AWS Marketplace は、という名前のサービスにリンクされたロール `AWSServiceRoleForPrivateMarketplaceAdmin` を使用して Private Marketplace リソースを記述および更新し、記述します AWS Organizations。

`AWSServiceRoleForPrivateMarketplaceAdmin` サービスリンクロールは、以下のサービスを信頼してロールを引き受けます。

- `private-marketplace.marketplace.amazonaws.com`

`AWSServiceRoleForPrivateMarketplaceAdminPolicy` ポリシーを使用すると、AWS Marketplace は、指定リソースで次のアクションを実行できます。

Note

AWS Marketplace 管理ポリシーの詳細については、このガイド [AWS 購入者向けの AWS Marketplace 管理ポリシー](#) の「」を参照してください。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "PrivateMarketplaceCatalogDescribePermissions",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-marketplace:DescribeEntity"
      ],
      "Resource": [
        "arn:aws:aws-marketplace:::AWSMarketplace/Experience/*",
        "arn:aws:aws-marketplace:::AWSMarketplace/Audience/*",

```

```

        "arn:aws:aws-marketplace:*:*:AWSMarketplace/ProcurementPolicy/*",
        "arn:aws:aws-marketplace:*:*:AWSMarketplace/BrandingSettings/*"
    ]
},
{
    "Sid": "PrivateMarketplaceCatalogDescribeChangeSetPermissions",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
        "aws-marketplace:DescribeChangeSet"
    ],
    "Resource": "*"
},
{
    "Sid": "PrivateMarketplaceCatalogListPermissions",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
        "aws-marketplace:ListEntities",
        "aws-marketplace:ListChangeSets"
    ],
    "Resource": "*"
},
{
    "Sid": "PrivateMarketplaceStartChangeSetPermissions",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
        "aws-marketplace:StartChangeSet"
    ],
    "Condition": {
        "StringEquals": {
            "catalog:ChangeType": [
                "AssociateAudience",
                "DisassociateAudience"
            ]
        }
    },
    "Resource": [
        "arn:aws:aws-marketplace:*:*:AWSMarketplace/Experience/*",
        "arn:aws:aws-marketplace:*:*:AWSMarketplace/ChangeSet/*"
    ]
},
{
    "Sid": "PrivateMarketplaceOrganizationPermissions",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [

```

```
        "organizations:DescribeAccount",
        "organizations:DescribeOrganizationalUnit",
        "organizations:ListDelegatedAdministrators",
        "organizations:ListChildren"
    ],
    "Resource": [
        "*"
    ]
}
}
```

ユーザー、グループ、またはロールにサービスリンクロールの作成、編集、または削除を許可するには、アクセス許可を設定する必要があります。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[Service-linked role permissions](#)」を参照してください。

調達データを共有するサービスにリンクされたロール

AWS Marketplace は、AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy サービスにリンクされたロールを使用して、AWS 組織内のデータにアクセスして記述します。[\[調達インサイトダッシュボード\]](#) を使用するには、このロールを作成する必要があります。

AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy サービスリンクロールは、以下のサービスを信頼してロールを引き受けます。

- `procurement-insights.marketplace.amazonaws.com`

AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy を使用すると、AWS Marketplace は、指定リソースで次のアクションを実行できるようになります。

Note

AWS Marketplace 管理ポリシーの詳細については、「」を参照してください [AWS 購入者向けの AWS Marketplace 管理ポリシー](#)。

JSON

```
{
```

```
"Version": "2012-10-17",
"Statement": [
  {
    "Sid": "ProcurementInsightsPermissions",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "organizations:DescribeAccount",
      "organizations:DescribeOrganization",
      "organizations:ListAccounts"
    ],
    "Resource": [
      "*"
    ]
  }
]
```

ユーザー、グループ、またはロールにサービスリンクロールの作成、編集、または削除を許可するには、アクセス許可を設定する必要があります。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[Service-linked role permissions](#)」を参照してください。

プライベートマーケットプレイスの管理者の作成

会社の[プライベートマーケットプレイス](#)設定を管理するために、IT 管理者グループを作成できます。組織に対してプライベートマーケットプレイスが有効化されたら、プライベートマーケットプレイスの管理者は、次を含むさまざまなタスクを実行できます。

- エクスペリエンスとオーディエンスを表示して作成します。
- プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスに製品を追加します。
- プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスから製品を削除します。
- プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスのユーザーインターフェイスを設定します。
- プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスを有効または無効にします。
- を呼び出し AWS Marketplace Catalog API で、プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスをプログラムで管理します。

組織では、各管理者がタスクのサブセットに限定されている複数のプライベートマーケットプレイス管理者を作成するには、[the section called “プライベートマーケットプレイス管理者向けのポリシー例”](#)を参照してください。

Note

プライベートマーケットプレイスの有効化は、管理アカウントから実行する必要がある 1 回限りのアクションです。詳細については、「[プライベートマーケットプレイスの開始方法](#)」を参照してください。

ユーザー、グループ、またはロールに [the section called “AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess”](#) をアタッチすることで、プライベートマーケットプレイスを管理するアクセス許可を AWS Identity and Access Management (IAM) に付与します。グループまたはロールを使用することをお勧めします。ポリシーのアタッチについては、「IAM ユーザーガイド」の「[Attaching a policy to a user group](#)」を参照してください。

AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess ポリシーのアクセス許可の詳細については、「[the section called “AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess”](#)」を参照してください。他のポリシーの使用については AWS Marketplace、にサインインし AWS Management Console、[IAM ポリシーページ](#)を参照してください。検索ボックスに「**Marketplace**」と入力して、AWS Marketplaceに関連するすべてのポリシーを検索します。

プライベートマーケットプレイス管理者向けのポリシー例

組織では、各管理者によってタスクのサブセットに限定された複数のプライベートマーケットプレイス管理者を作成できます。AWS Identity and Access Management (IAM) ポリシーを調整して、Catalog のアクション、リソース、および条件キーにリストされている AWS Marketplace Catalog API アクションの条件キーとリソースを指定できます。[AWS Marketplace](#) AWS Marketplace Catalog API 変更タイプとリソースを使用して IAM ポリシーを調整する一般的なメカニズムについては、[AWS Marketplace Catalog API ガイド](#)を参照してください。プライベートで使用可能なすべての変更タイプのリストについては AWS Marketplace、「[プライベートマーケットプレイスの使用](#)」を参照してください。

カスタマー管理ポリシーの作成方法については、「[IAM ポリシーの作成](#)」を参照してください。次の例は、プライベートマーケットプレイスから商品を追加または削除することのみが可能な管理者を作成するために使用できるポリシー JSON です。

JSON

```
{  
  "Version": "2012-10-17",
```

```

    "Statement": [
      {
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
          "aws-marketplace:AssociateProductsWithPrivateMarketplace",
          "aws-marketplace:DisassociateProductsFromPrivateMarketplace",
          "aws-marketplace:ListPrivateMarketplaceRequests",
          "aws-marketplace:DescribePrivateMarketplaceRequests"
        ],
        "Resource": [
          "*"
        ]
      },
      {
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
          "aws-marketplace:DescribeEntity",
          "aws-marketplace:ListEntities",
          "aws-marketplace:ListChangeSets",
          "aws-marketplace:DescribeChangeSet",
          "aws-marketplace:CancelChangeSet"
        ],
        "Resource": "*"
      },
      {
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
          "aws-marketplace:StartChangeSet"
        ],
        "Condition": {
          "StringEquals": {
            "catalog:ChangeType": [
              "AllowProductProcurement",
              "DenyProductProcurement"
            ]
          }
        },
        "Resource": "*"
      }
    ]
  }
}

```

ポリシーをプライベートマーケットプレイスのリソースの一部だけを管理するように制限することもできます。次の例は、特定のプライベートマーケットプレイスエクスペリエンスのみを管理できる管理者を作成するために使用できるポリシー JSON です。この例では、Experience 識別子として exp-1234example のリソース文字列を使用しています。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-marketplace:AssociateProductsWithPrivateMarketplace",
        "aws-marketplace:DisassociateProductsFromPrivateMarketplace",
        "aws-marketplace:ListPrivateMarketplaceRequests",
        "aws-marketplace:DescribePrivateMarketplaceRequests"
      ],
      "Resource": [
        "*"
      ]
    },
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-marketplace:ListEntities",
        "aws-marketplace:DescribeEntity",
        "aws-marketplace:ListChangeSets",
        "aws-marketplace:DescribeChangeSet",
        "aws-marketplace:CancelChangeSet"
      ],
      "Resource": "*"
    },
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-marketplace:StartChangeSet"
      ],
      "Resource": [
        "arn:aws:aws-marketplace:*:*:AWSMarketplace/Experience/
exp-1234example"
      ]
    }
  ]
}
```

```
}  
]  
}
```

エンティティ識別子の取得方法とプライベートマーケットプレイスのリソースセットの表示方法について詳しくは、「[プライベートマーケットプレイスの操作](#)」を参照してください。

AWS Marketplace 購入者ガイドのドキュメント履歴

以下の表は、本リリースのAWS Marketplace 購入者ガイドのドキュメントを説明するものです。

このドキュメントの更新に関する通知については、RSS フィードにサブスクライブできます。

変更	説明	日付
マネージドポリシーの更新	AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess を更新し、Private Marketplace 管理者のサービスにリンクされたロールと Organizations 統合アクセス許可を追加しました。	2025 年 6 月 11 日
Private Marketplace 機能の更新	Private Marketplace に更新して、AWS Marketplace コンソールでの Private Marketplace 機能の使用を文書化します。	2025 年 6 月 11 日
クイック起動の更新	SaaS およびコンテナ製品でのクイック起動の使用 の手順とその他の内容を更新しました。	2025 年 5 月 8 日
マネージドポリシーの更新	AWSMarketplaceFull Access と AWSMarketplaceRead-only を更新し、廃止されたプライベートイメージビルド配信方法に関連するポリシーを削除しました。	2025 年 2 月 28 日
新しい Buy with AWS 機能のドキュメントを追加しました	で購入 AWSすると、購入者は販売者のウェブサイトやマーケットプレイス、シンプルな埋め込み CTA (call-to-action) ボタンなど、任意の選択肢が	2024 年 12 月 4 日

ら AWS Marketplace 出品を購入できます。お客様は、パートナーウェブサイトで「で利用可能 AWS Marketplace」製品を調べたり、デモをリクエストしたり、無料トライアルにアクセスしたり、カスタム料金を要求したりできます。

[発注書と管理ポリシーの更新。](#)

[AWS Marketplace トランザクションと管理ポリシーの発注書](#)に加えられた変更 — [AWSMarketplaceRead-only](#) および [AWSMarketplaceManageSubscriptions](#)。

2024 年 11 月 21 日

[調達用にサービスにリンクされた新規ロール](#)

AWS Marketplace は、Organizations のデータにアクセスして記述するためのサービスにリンクされたロールを提供するようになりました。はデータ AWS Marketplace を使用して[調達インサイトダッシュボード](#)に入力します。

2024 年 10 月 3 日

[ドキュメント構造を更新する](#)

このガイドを再構築して、ページビューやその他のデータを使用して、重要なトピックを見つけやすくしました。ナビゲーションが更新され、全体的な深度が削減されました。関連するトピックが統合され、ブックマークが更新された場所にアクセスできるようにリダイレクトが追加されました。

2024 年 8 月 16 日

[Amazon マシンイメージ \(AMI\) の年間契約変更オプションの更新](#)

購入者はサブスクリプションを変更することで、AMI インスタンスタイプを追加または切り替えることができるようになりました。

2024 年 5 月 30 日

[AWSMarketplaceImageBuildFullAccessポリシーを廃止しました](#)

AWS Marketplace はプライベートイメージビルドの配信方法を中止したため、AWSMarketplaceImageBuildFullAccess ポリシーも中止されました。

2024 年 5 月 30 日

[の新しいデモおよびプライベートオファースポション AWS Marketplace](#)

AWS Marketplace では、一部の製品の製品詳細ページで[デモ](#)および[プライベートオファースポション](#)のリクエストオプションがサポートされるようになりました。

2024 年 4 月 1 日

[AWS Organizations サポートに関するポリシーの更新](#)

マネージドポリシーを更新し、AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess として、AWS Organizations データの読み取りへのアクセスを許可しました。

2024 年 2 月 16 日

[での製品の新しいサービスにリンクされたロール AWS Marketplace](#)

AWS Marketplace は、Private Marketplace リソースを記述および更新し、記述するためのサービスにリンクされたロールを提供するようになりました AWS Organizations。

2024 年 2 月 16 日

[での新しいプライベートマーケットプレイスエクスペリエンス AWS Marketplace](#)

AWS Marketplace は、この統合 AWS Organizations をサポートし、委任された管理者を登録してプライベートマーケットプレイスエクスペリエンスを管理する機能をサポートするようになりました。

2024 年 2 月 16 日

[での将来の日付の契約の一般提供 AWS Marketplace](#)

すべての SaaS ISVs とチャネルパートナーの将来の日付の契約機能が一般公開されました AWS Marketplace。お客様は、将来の日付の契約を使用して、同じ製品出品で既存の製品を購入した場合に、取引を事前に予約したり、更新を設定したりできるため、運用上の労力を軽減できます。

2024 年 1 月 16 日

[カナダ西部 \(カルガリー\) リージョンでのサポート](#)

AWS Marketplace では、AWS リージョンカナダ西部 (カルガリー) がサポートされるようになりました。

2023 年 12 月 20 日

[での製品の新しいサービスにリンクされたロール AWS Marketplace](#)

AWS Marketplace は、購入者 AWS Secrets Manager に代わってシークレットとして保存されるデプロイ関連のパラメータを管理するサービスにリンクされたロールを提供するようになりました。

2023 年 11 月 29 日

[購入者向けの新しいクイック 起動デプロイオプション](#)

購入者は、AWS Marketplace での、該当する Software as a Service (SaaS) 製品の設定、展開、および発売に必要な時間、リソース、手順を削減できるようになりました。

2023 年 11 月 29 日

[プライベートオファー用の Flexible Payment Schedule が 利用可能に](#)

プライベートオファー用の Flexible Payment Schedule (FPS) が AWS Marketplace のすべてのお客様に利用可能になりました。

2023 年 11 月 17 日

[Amazon EKS のサードパー ティーアドオン](#)

お客様は、Amazon EKS コンソールからサードパーティー製アドオンを AWS Marketplace にリダイレクトされずにサブスクライブできるようになりました。

2023 年 10 月 18 日

[Amazon EventBridge のサポー ト](#)

AWS Marketplace は、以前は Amazon CloudWatch Events と呼ばれていた Amazon EventBridge と統合されました。

2023 年 9 月 6 日

[イスラエル \(テルアビブ\) リー ジョンのサポート](#)

AWS Marketplace は AWS リージョン、イスラエル (テルアビブ) をサポートするようになりました。

2023 年 8 月 1 日

[AMI 年間契約の発注書サポー ト](#)

AWS Marketplace は、Amazon Machine Image (AMI) 年間契約の発注書機能をサポートするようになりました。

2023 年 6 月 29 日

[AWS Billing コンソールでの発注書の可用性](#)

購入者は AWS Billing 、コンソールですべての発注書を管理し、out-of-cycle SaaS 契約 PDF 請求書に対応する発注書と簡単に照合できるようになりました。

2023 年 2 月 3 日

[アジアパシフィック \(メルボルン\) リージョンのサポート](#)

AWS Marketplace では、AWS リージョンアジアパシフィック (メルボルン) がサポートされるようになりました。

2023 年 1 月 24 日

[プライベートオファーページのポリシーを更新しました](#)

[プライベートオファー] ページへのアクセスを許可するようにマネージドポリシー `AWSMarketplaceRead-only` と `AWSMarketplaceManageSubscriptions` を更新しました。

2023 年 1 月 19 日

[プライベートオファーページ](#)

認証された購入者は、AWS Marketplace プライベートオファーページでに拡張された AWS アカウント プライベートオファーを表示できるようになりました。

2023 年 1 月 19 日

[購入者へのメール通知が更新されました](#)

プライベートオファーが公開されると購入者に通知されるようになりました。

2022 年 12 月 22 日

[AWS Marketplaceの購入者は、サブスクリプションのSaaS 無料トライアルを利用できるようになりました](#)

購入者は、サブスクリプション SaaS 製品の無料トライアルにサブスクライブできるようになりました。

2022 年 12 月 16 日

[購入者は SaaS プライベート
オファー、アップグレード、
または更新を受け入れること
ができます](#)

販売者が以前の SaaS プライベートオファーをアップグレードまたは更新した場合、購入者は既存の契約をキャンセルしなくても新しいプライベートオファーを受け入れることができます。

2022 年 12 月 13 日

[AWS Marketplace がプライ
ベートマーケットプレイスエ
クスペリエンスのアーカイブ
をサポート](#)

購入者はプライベートマーケットプレイス体験を AWS Marketplace でアーカイブして再アクティブ化できるようになりました。

2022 年 12 月 12 日

[AWS Marketplace タグベース
の認可機能のポリシーを更新](#)

AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess でタグベースの認可をサポートするように AWS Marketplace ポリシーを更新しました。

2022 年 12 月 9 日

[サブスクリプションのキャン
セル方法に関する情報を提供
する新しいトピックを追加し
ました](#)

AWS Marketplace で AMI、ML、SaaS 製品のサブスクリプションをキャンセルする方法についての情報を追加しました。また、SaaS 契約の自動更新のキャンセルに関する情報を追加しました。

2022 年 12 月 8 日

[AWS Marketplace Vendor
Insights で購入者のポリシーを
更新](#)

AWS Marketplace Vendor Insights 購入者AWSVendorInsightsAssessorReadOnly の管理ポリシーAWSVendorInsightsAssessorFullAccess とを更新しました。

2022 年 11 月 30 日

AWS Marketplace Vendor Insights で購入者のアクセスを制御する	AWS Marketplace Vendor Insights に新しいトピックを追加し、購入者が利用できるアクションとアクセス許可について説明しました。	2022 年 11 月 30 日
アジアパシフィック (ハイデラバード) リージョンのサポート	AWS Marketplace では、AWS リージョンアジアパシフィック (ハイデラバード) がサポートされるようになりました。	2022 年 11 月 22 日
欧州 (スペイン) リージョンのサポート	AWS Marketplace では AWS リージョン、欧州 (スペイン) がサポートされるようになりました。	2022 年 11 月 16 日
欧州 (チューリッヒ) リージョンのサポート	AWS Marketplace では AWS リージョン、欧州 (チューリッヒ) がサポートされるようになりました。	2022 年 11 月 9 日
AWS Marketplace ウェブサイトを 2022 年 12 月までに IPv6 にアップグレード	現在 IAM ポリシーで IPv4 形式のアドレスを使用している購入者は、2022 年 12 月 15 日の前に IAM ポリシーを IPv6 形式のアドレスに更新することをお勧めします。	2022 年 9 月 29 日
AWS Marketplace プライベートマーケットプレイスの詳細なアクセス許可	購入者は、プライベートマーケットプレイスのエクスペリエンスを管理するためのより詳細なアクセス許可を持つようになりました。	2022 年 9 月 8 日

AWS Marketplace Vendor Insights に 2 つのポリシーを追加しました。	Vendor AWS Marketplace Insights AWSVendor InsightsAssessorReadOnly にソフトウェアリスク評価を提供する 2 つのポリシーAWSVendorInsightsAssessorFullAccess とを追加	2022 年 7 月 26 日
AWS Marketplace Vendor Insights	AWS Marketplace Vendor Insights は、ソフトウェアリスク評価を提供する機能です。	2022 年 7 月 26 日
支払い方法の更新	AWS 請求コンソールでの支払い方法の変更方法を明確にするためのドキュメントのみの更新。	2022 年 6 月 1 日
契約用の SaaS 無料トライアル	購入者は、SaaS 無料トライアルに登録して、有料トライアルに移行する前に製品を確認できるようになりました。	2022 年 5 月 31 日
AMI、コンテナ、SaaS 製品にベンダー計測タグが追加されました	ベンダーが提供するメトリクス全体で AWS Marketplace のリソース使用量をお客様が理解できるようにタグを提供する新機能。	2022 年 5 月 27 日
購入者の取引にメール通知が追加されました	購入者にメールで通知し、AWS Marketplaceで作成される契約書を確認する新機能。	2022 年 5 月 23 日
eProcurement のお客様向けの無料/BYOL 製品の自動承認が有効になりました	eProcurement のお客様向けの無料/BYOL 製品の新しい自動承認により、お客様は製品をすぐに使用できます。	2022 年 5 月 2 日

[AMI およびコンテナ製品契約の購入者の契約変更が可能になりました](#)

AMI およびコンテナ製品契約を変更して、追加のエンタイトルメントを購入したり、サブスクリプションの自動更新オプションを有効にしたりできます。

2022 年 4 月 6 日

[ライセンス使用状況を追跡する機能](#)

購入者は、を使用して AMI および SaaS 製品の使用状況ベースのライセンスメトリクスを追跡できるようになりました AWS License Manager。

2022 年 3 月 28 日

[Helm CLI バージョンへの更新](#)

Helm CLI バージョンが 3.7.0 から 3.7.1 に変更されたことに関してコンテナ製品のドキュメントを更新しました。現時点で互換性のあるバージョンは、このバージョンだけです。

2022 年 3 月 8 日

[既存のマネージドポリシーの更新](#)

不要になったアクセス許可は、次のポリシー、AWSMarketplaceFullAccess と AWSMarketplaceImageBuildFullAccess から削除されました。

2022 年 3 月 4 日

[EMEA に拠点を置く購入者が Amazon Web Services EMEA SARL を通じて製品を購入できます](#)

AWS Marketplace トルコと南アフリカを除く欧州、中東、アフリカ (EMEA) の国と地域に拠点を置く 購入者 AWS アカウント は、EMEA 対象販売者からの購入について、Amazon Web Services EMEA SARL を通じて AWS Marketplace 請求書を受け取ることができるようになりました。

2022 年 1 月 7 日

[アジアパシフィック \(ジャカルタ\) リージョンのサポート](#)

AWS Marketplace では、AWS リージョンアジアパシフィック (ジャカルタ) がサポートされるようになりました。

2021 年 12 月 13 日

[コンテナベースの製品の Helm チャート配送方法](#)

購入者は起動環境に Helm チャートをインストールすることにより、コンテナベースの製品を起動できるようになりました。

2021 年 11 月 29 日

[コンテナベースの製品ドキュメントの全般的な更新と再編成](#)

コンテナベースの製品ドキュメントを更新し、コンテナベースの製品の検出結果、購読、発売に関する情報を増やし、わかりやすくしました。

2021 年 11 月 29 日

クイック起動に関するドキュメントを追加しました

購入者は、Helm チャート配信方法でコンテナベースの製品を起動するときにクイック起動を使用できるようになりました。クイック起動は、を活用して新しい Amazon EKS クラスター AWS CloudFormation をすばやく作成し、コンテナベースのアプリケーションを起動 AWS Marketplace する の機能です。

2021 年 11 月 29 日

AMI ベースの製品およびコンテナベースの製品の契約料金

購入者は AMI ベースの製品またはコンテナベースの製品を前払い価格で購入できるようになりました。

2021 年 11 月 17 日

SaaS 製品の注文書のサポート

AWS Marketplace では、Software as a Service (SaaS) 契約の購入に発注書番号を追加することができます。

2021 年 10 月 28 日

SAP Ariba 統合のサポート

AWS Marketplace は、SAP Ariba 調達システムとの統合をサポートしています。

2021 年 10 月 13 日

AMI エイリアスのサポート

AWS Marketplace は、リージョン間で使用できる AMI IDs のエイリアスの使用をサポートしています。

2021 年 9 月 8 日

管理ポリシーから未使用のアクセス許可を削除しました

AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess AWS 管理ポリシーから未使用のアクセス許可が削除されました。

2021 年 8 月 27 日

を通じてライセンスを共有するためのサポート AWS License Manager	AWS 組織内の他のアカウントと購入した製品にライセンスを共有できます。	2020 年 12 月 3 日
AWS Marketplace がプロフェッショナルサービスをサポート	AWS Marketplace は、プロフェッショナルサービスの購入をサポートするようになりました。	2020 年 12 月 3 日
希望通貨のサポート	任意の通貨を使用して AWS Marketplace 購入に対して支払うことができます。	2020 年 7 月 27 日
プライベートオファ어의アップグレードや更新を確認して承諾できます	販売者は、SaaS 契約製品および従量課金制の SaaS 契約製品のアップグレードや更新のプライベートオファ어를提供する場合があり、これを既存の契約中に確認して承諾できます。	2020 年 5 月 28 日
AWS Marketplace が AWS Data Exchange を通じてデータ製品をサポート	AWS Marketplaceで AWS Data Exchange データ製品にサブスクライブできるようになりました。	2019 年 11 月 13 日
AWS Marketplace が有料の時間単位コンテナをサポート	AWS Marketplace は、Amazon Elastic Kubernetes Service (Amazon EKS) で実行されている有料の時間単位コンテナをサポートするようになりました。	2019 年 9 月 25 日
の更新されたプライベートオファ어 AWS Marketplace	さまざまなタイプのプライベートオファ어의受け入れに関する詳細を提供するためにコンテンツを更新しました。	2019 年 3 月 29 日

[のセキュリティの更新 AWS Marketplace](#)

IAM ポリシー情報を更新し、読みやすくするためにセクションを再構成しました。

2019 年 3 月 25 日

[プライベートマーケットプレイス機能に関するコンテンツを追加しました。](#)

プライベートマーケットプレイスのリリースをサポートするコンテンツを追加しました。

2018 年 11 月 27 日

[購入者向けユーザーガイドの初回リリース。](#)

AWS Marketplace 購入者ガイドの初回リリース。

2018 年 11 月 16 日

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。